

深谷市民まちづくりアンケート

調査報告書

令和7年8月

深谷市

目次

1.	I. アンケート調査結果の概要.....	2
1.	アンケート調査の実施方法.....	2
2.	アンケート調査結果の信頼度.....	3
3.	アンケート調査結果の概要.....	4
4.	市全体、地区別の調査結果の分析.....	8
2.	II. アンケート調査結果の詳細.....	18
1.	回答者属性.....	18
2.	深谷市のまちづくりについて.....	20
3.	深谷市の施策について.....	155
4.	自由記入欄（まちづくり全般について）.....	179
3.	III. アンケート調査結果の単純集計結果.....	184
1.	深谷市のまちづくりについて.....	186
2.	深谷市の施策について.....	190
3.	自由記入欄（まちづくり全般について）.....	194
4.	最後に、あなた自身のことについておたずねします。.....	194

1. I. アンケート調査結果の概要

1. アンケート調査の実施方法

(1) 目的

「第2次深谷市総合計画・前期基本計画」に基づき、施策を推進するにあたり、「深谷市民まちづくりアンケート」を実施することで、今後のまちづくりの参考にするための、現在の深谷市の姿および市民の意向や市民ニーズを把握することを目的としています。

(2) アンケートの方法

- ①調査対象：深谷市に居住する18歳以上の市民2,000人を住民基本台帳から無作為抽出しました。
- ②調査方法：アンケート票を郵送により配布・回収しました。
- ③調査期間：令和7年5月1日から同年5月16日に実施しました。

注意：

- ◆ 図表の数値は回答率を表しています。
- ◆ 図表の数値は小数点第1位未満を四捨五入しており、合計が100%にならない場合があります。
- ◆ 複数回答の設問では、合計が100%を超える場合があります。
- ◆ 「Ⅲ-2 深谷市の施策」について
 - ・ 重要度：「重要である」2点、「まあ重要である」1点、「あまり重要でない」-1点、「まったく重要でない」-2点と重要度に応じて得点を設定し、この得点に各々の回答者数を乗じて総得点を算出した上、その総得点を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で除した数値です。数値が大きいほど重要度が高く、小さいほど重要度が低いことを表します。
 - ・ 満足度：「満足である」2点、「まあ満足である」1点、「やや不満である」-1点、「不満である」-2点と満足度に応じて得点を設定し、重要度と同様に算出した数値です。数値が大きいほど満足度が高く、小さいほど満足度が低いことを表します。
- ◆ 調査報告書上の重要度・満足度の値、およびその時系列比較の結果は、小数点第3位を四捨五入した値を記載していますが、時系列比較の計算過程においては、四捨五入を行う前の値を使用しているため、紙面上の計算結果と異なる場合があります。

2. アンケート調査結果の信頼度

無作為抽出によるアンケート調査実施にあたり、一般的に統計資料として信頼できる調査結果（信頼度±95%）を確保するために必要な回収票数を、以下の計算式により算出しました。各記号の説明および設定値は下表のとおりです。

・ 計算式

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{K(\alpha)}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

・ 各記号の説明と設定値

記号	説明	設定値
n	必要なサンプル数	
N	母数	令和7年4月1日時点の住民基本台帳人口（18歳以上）の総数（121,288人）とする
ε	信頼度の誤差範囲	±5%とする
$K(\alpha)$	信頼度に基づく定数（※）	信頼度95%設定により、1.96とする
P	母比率	安全性の確保を考慮し、50%と設定する

以上より、必要な回収票数は以下のように算出され、

$$n = \frac{121,288}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \times \frac{121,288-1}{0.5 \times (1-0.5)} + 1} \approx 383$$

深谷市においては、383票回収すれば信頼度95%±5%の調査結果を得ることができることが分かります。

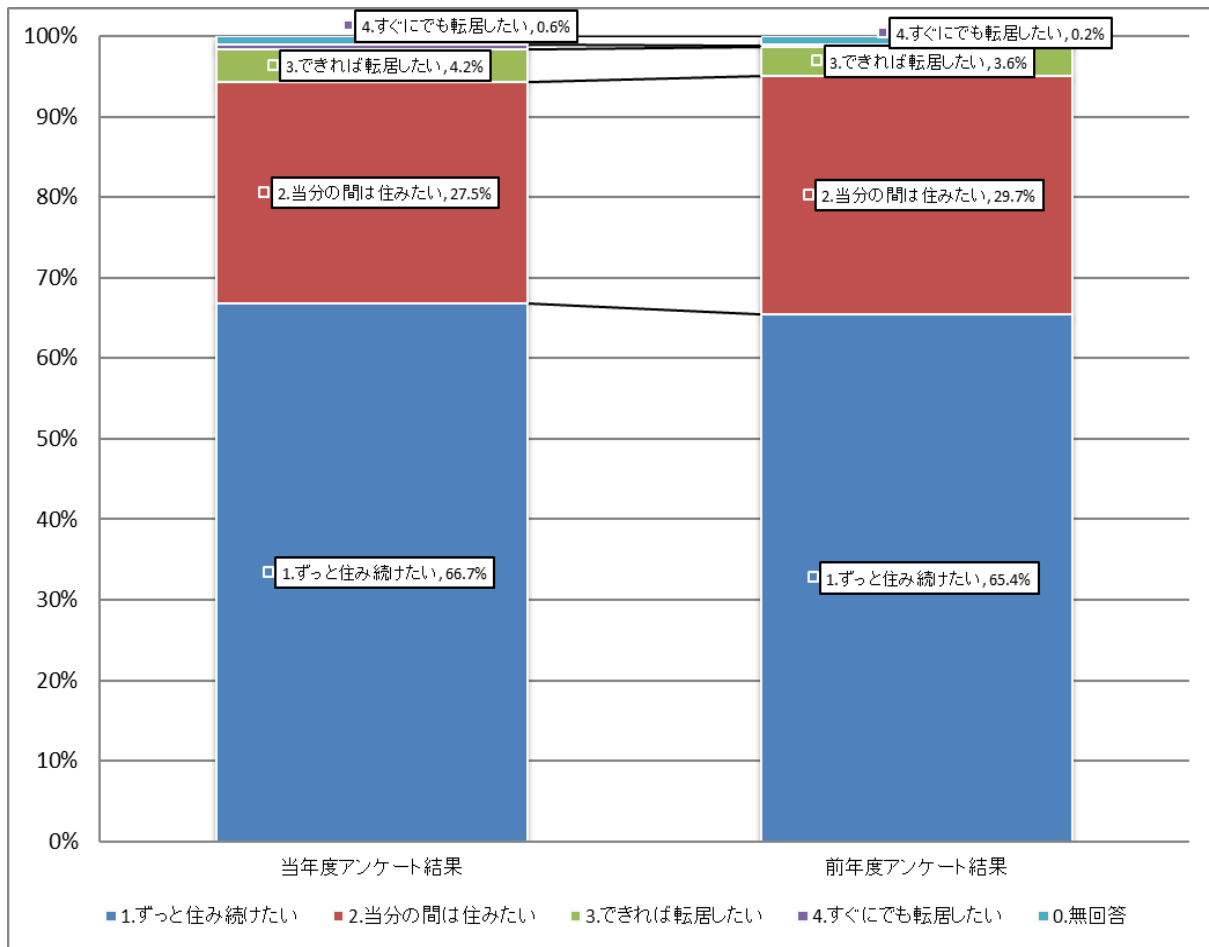
今回の調査では818票の有効回答が回収されたため、調査結果は統計的に信頼できるものと考えられます。

3. アンケート調査結果の概要

(1)「深谷市民まちづくりアンケート」について

後期基本計画に基づき、施策を推進するにあたり、市民の市の施策に対する重要度、満足度などを把握するために、令和7年5月1日から同年5月16日までの期間にアンケート調査を実施しました。アンケート調査の対象は無作為に抽出した深谷市在住の満18歳以上の男女2,000人であり、アンケート票の有効回答数は、818人（40.9%）でした。

(2) 深谷市への定住意識について

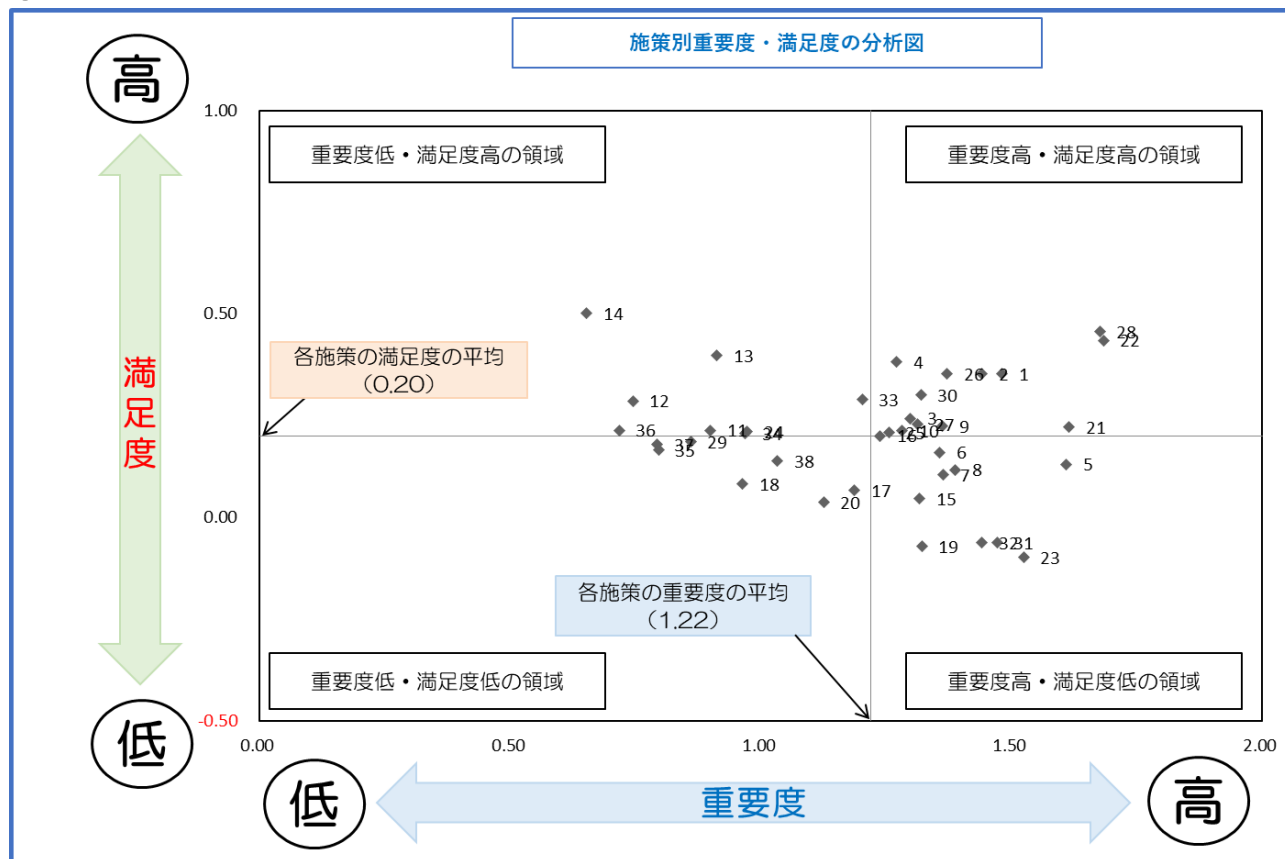


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が 66.7%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が 27.5%となっています。合計は 94.2%と 9 割を超えており、前年度に引き続き、深谷市民の定住意識が高いことがうかがえます。

(3) 深谷市の施策の重要度・満足度について

深谷市が実施している施策について、重要度・満足度に関する調査を行いました。

① 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
24	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
34	男女共同参画の実現	16	農畜産物の販売流通体制の充実
36	市民との協働・交流の推進	21	災害に強い防災体制の推進
		22	消防・救急体制の充実
		25	自然・生活環境の保全
		26	環境衛生の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
17	商工業の振興	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	6	地域福祉の推進
20	産業価値の創出	7	高齢者福祉の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	8	障害者福祉の推進
35	移住・定住の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
37	行政デジタル化の推進	19	就労環境の整備
38	行財政運営の推進	23	防犯・空き家対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞

重要度が高く、満足度も高い領域には「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育環境の充実」、「3. 青少年の健全育成の推進」、「4. 健康づくりの推進」、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「10. 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上」、「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「25. 自然・生活環境の保全」、「26. 環境衛生の推進」、「27. 良好な市街地・住環境形成の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「30. 治水対策の推進」の14施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

＜重要度高・満足度低＞

重要度が高く、満足度が低い領域には、「5. 地域医療体制の充実」、「6. 地域福祉の推進」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「19. 就労環境の整備」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」の9施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

＜重要度低・満足度高＞

重要度が低く、満足度が高い領域には、「11. 生涯学習の推進」、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「13. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、「24. 地域コミュニティの推進」、「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、「34. 男女共同参画の実現」、「36. 市民との協働・交流の推進」の8施策が該当します。

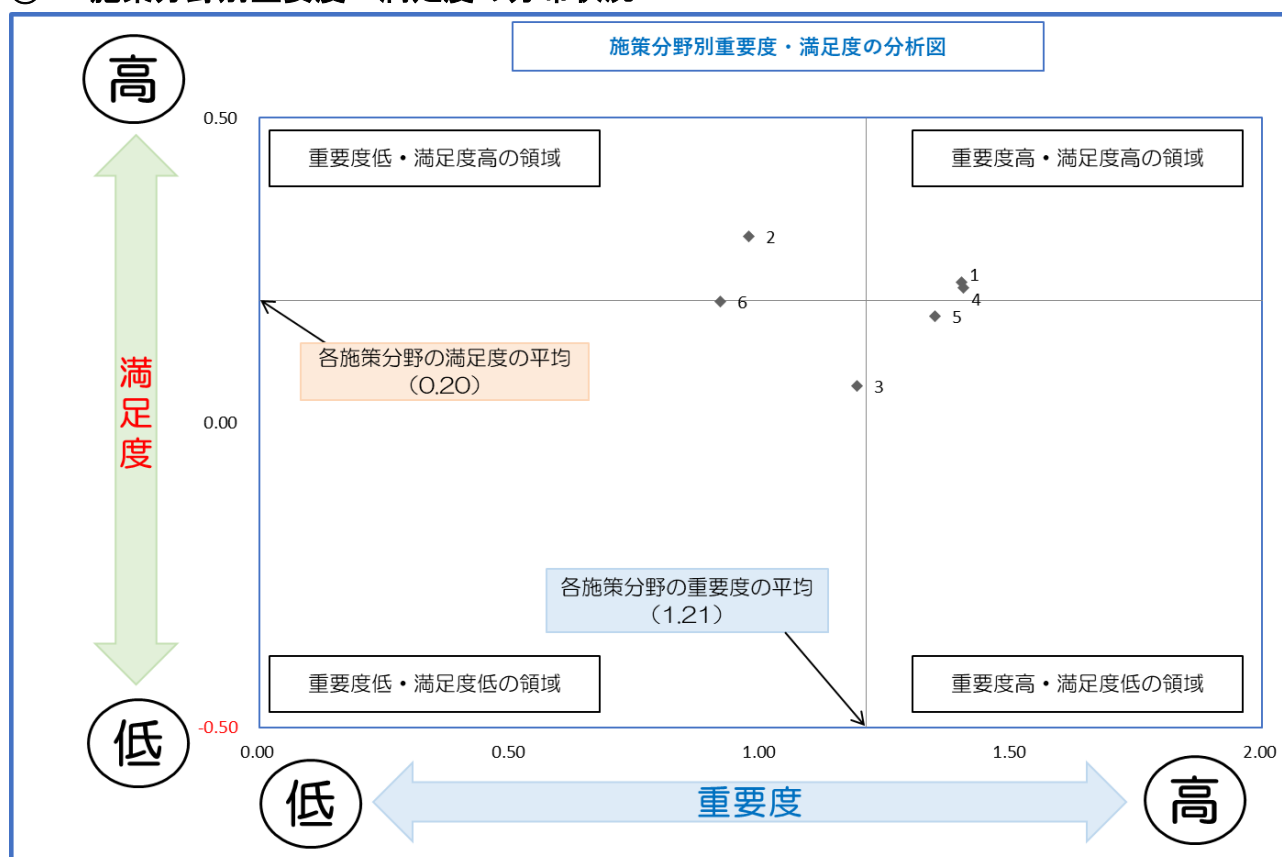
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないか確認する必要があります。

＜重要度低・満足度低＞

重要度が低く、満足度も低い領域には、「17. 商工業の振興」、「18. 観光資源の整備と活用」、「20. 産業価値の創出」、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」、「38. 行財政運営の推進」の7施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、住民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

② 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

	＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
6	協働・行政経営	4	暮らし・環境
	＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞
3	産業振興	5	都市・生活基礎

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞に分類される施策分野は、「1. 子育て・保健・福祉」、「4. 暮らし・環境」の2分野であり、＜重要度高・満足度低＞に分類される施策分野は、「5. 都市・生活基礎」の1分野となっています。

また、＜重要度低・満足度高＞に分類される施策分野は、「2. 教育・文化」、「6. 協働・行政経営」の2分野であり、＜重要度低・満足度低＞に分類される施策分野は、「3. 産業振興」の1分野となっています。

今年度のアンケートで＜重要度高・満足度低＞に分類された「5. 都市・生活基礎」は、他の施策分野と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことがうかがえます。この領域の施策分野については、施策分野のあり方を見直す必要性が高い施策分野であるといえます。

4. 市全体、地区別の調査結果の分析

アンケート調査の結果を分析し、その分析結果を市全体、地区ごとに分類すると、以下のとおりです。

(1) 調査からわかったこと（市全体）

➤ 市への定住意識

- ・「令和 6 年度深谷市民まちづくりアンケート（以下、「前年度アンケート」）」の結果から大きな変化は見られず、高い割合を維持しています。
- ・これからも深谷市に「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は、ほとんどの地区で 9 割前後と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少数であることがうかがえます。

➤ 子育て・保健・福祉について

- ・地域で子どもを育む活動に「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は約 2 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。世代によって差があることがうかがえます。
- ・小学生以下（小学校 6 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は約 7 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。
- ・中学生以下（中学校 3 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、深谷市が子育てのしやすいまちだと「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに減少しています。
- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。男女や、世代によって差があることがうかがえます。
- ・定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを「受けている」と回答した人の割合は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。

- ・ かかりつけのお医者さんが「いる」と回答した人の割合は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。世代によって差があることがうかがえます。
- ・ 健康的な食生活に「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに減少しています。
- ・ 悩みごとを相談できる人（家族や友人など）が「いる」と回答した人の割合は約 9 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。
- ・ 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）が「いる」と回答した人の割合は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。世代（男性）や、地区によって差があることがうかがえます。

➤ 教育・文化について

- ・ 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は約 4 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。世代（男性）によって差があることがうかがえます。
- ・ この 1 年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会が「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は約 3 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。
- ・ スポーツやレクリエーション活動を「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。男女によって差があることがうかがえます。

➤ 産業振興について

- ・ 市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。男女や、地区によって差があることがうかがえます。
- ・ 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに減少しています。男女や、世代によって差があることがうかがえます。

- ・ご自身またはご家族の仕事と生活は「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計は約 7 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。

➤ 暮らし・環境について

- ・ハザードマップで自宅等の災害の危険性（自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど）について「確認した」と回答した人の割合は約 7 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。
- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）が「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。
- ・この 1 年間で消費者トラブルに巻き込まれたことが「ある」と回答した人の割合は 1 割未満であるものの、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。
- ・日ごろ、防犯対策を「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに減少しています。
- ・地域活動（自治会での活動など）へ「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は約 4 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。男女や、世代、地区によって差があることがうかがえます。
- ・環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。地区によって差があることがうかがえます。
- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。世代によって差があることがうかがえます。
- ・普段からごみの減量化やリサイクルを「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに減少しています。世代によって差があることがうかがえます。

➤ 都市・生活基盤について

- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和が「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。地区によって差があることがうかがえます。
- ・お住まい周辺の住環境に「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は約 7 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。地区によって差があることがうかがえます。
- ・あなたの身近に、自然に親しむことができる環境が「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。地区によって差があることがうかがえます。
- ・市内に魅力的なまち並みや景観が「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。男女や、地区によって差があることがうかがえます。
- ・水害に対して安心した生活を送ることが「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。世代（女性）や、地区によって差があることがうかがえます。
- ・市内の道路を普段利用する際に、特に不便を「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。世代によって差があることがうかがえます。
- ・市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。

➤ 協働・行政経営について

- ・深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。世代によって差があることがうかがえます。
- ・この 1 年間に自分の人権が侵害されたと思ったことが「ある」と回答した人の割合は約 1 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。

- ・ お互いの人権について「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。
- ・ 市内で、外国人とのトラブルなどを「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は約 1 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。
- ・ 性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。男女によって差があることがうかがえます。
- ・ 男女共同参画について「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は約 3 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。男女によって差があることがうかがえます。
- ・ 配偶者などによる「電話、メール等の細かい監視」「生活費を渡さない」などの行為が「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。
- ・ 市役所における窓口対応について「とても満足である」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は約 9 割であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。
- ・ 市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 6 割であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。地区によって差があることがうかがえます。
- ・ 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを「知っている」と回答した人の割合は約 4 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。男女や、世代、地区によって差があることがうかがえます。
- ・ 花と緑をいかしたまちづくり活動に「興味がある」と回答した人の割合は約 7 割であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。男女や、地区によって差があることがうかがえます。
- ・ 花と緑をいかしたまちづくり活動に「参加したい」と回答した人の割合は約 4 割であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。地区によって差があることがうかがえます。

- ・市のオンラインサービスを「利用したことがある」と回答した人の割合は約４割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。世代によって差があることがうかがえます。
- ・「SDGs」という言葉を「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計は約９割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して僅かに増加しています。

（２）調査からわかったこと（地区別）

➤ 深谷地区

- ・小学生以下（小学校６年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを両立できていると思う、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・悩みごとを相談できる人（家族や友人など）がいる、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいる、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じない、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 藤沢地区

- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいる、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・健康的な食生活に気をつけている、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・スポーツやレクリエーション活動を行っている、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じない、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

- ・ かかりつけのお医者さんがいる、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 地域活動（自治会での活動など）へ参加している、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことがある、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 「SDGs」という言葉を知っている、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 明戸地区

- ・ この 1 年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があった、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがある、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けている、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っている、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 大寄地区

- ・ 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいる、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 水害に対して安心した生活を送ることができている、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思う、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市のオンラインサービスを利用したことがある、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 八基地区

- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがある、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・地域活動（自治会での活動など）へ参加している、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思う、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・お住まい周辺の住環境に満足している、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 豊里地区

- ・日ごろ、防犯対策を行っている、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っている、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思う、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・配偶者などによる「電話、メール等の細かい監視」「生活費を渡さない」などの行為が暴力であると思う、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 上柴地区

- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいる、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・スポーツやレクリエーション活動を行っている、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思う、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・あなたの身近に、自然に親しむことができる環境がある、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 南地区

- ・ ハザードマップで自宅等の災害の危険性（自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど）について確認した、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）がある、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ お互いの人権について意識をして生活をしている、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っている、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 岡部地区

- ・ 小学生以下（小学校 6 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを両立できていると思う、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 中学生以下（中学校 3 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思う、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになった、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市のオンラインサービスを利用したことがある、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 川本地区

- ・ 中学生以下（中学校 3 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思う、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 普段からごみの減量化やリサイクルを心がけている、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ この 1 年間に自分の人権が侵害されたと思ったことがある、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

- ・ お互いの人権について意識をして生活をしている、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

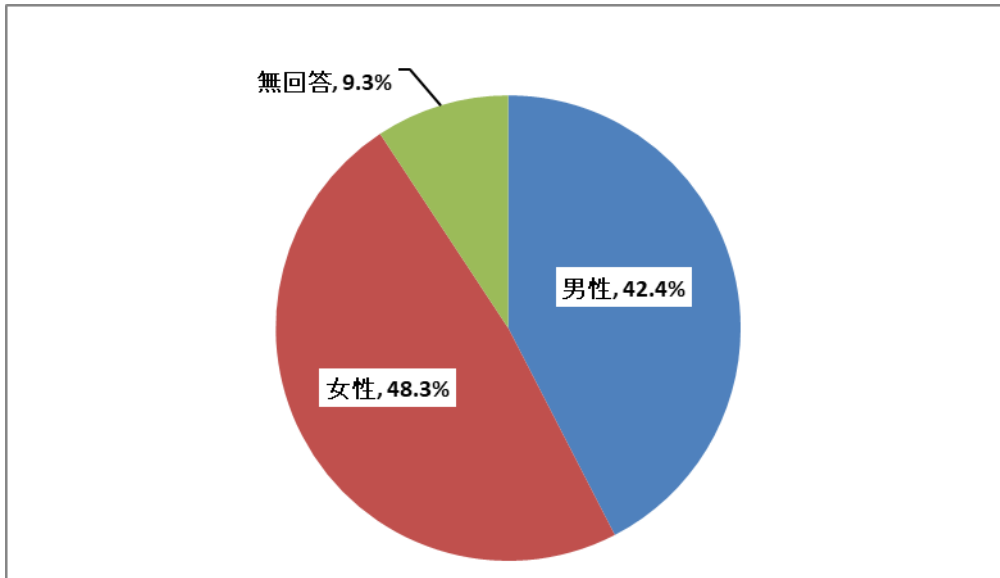
➤ 花園地区

- ・ かかりつけのお医者さんがいる、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ ハザードマップで自宅等の災害の危険性（自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど）について確認した、と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ お住まい周辺の住環境に満足している、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 水害に対して安心した生活を送ることができている、と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

2. II. アンケート調査結果の詳細

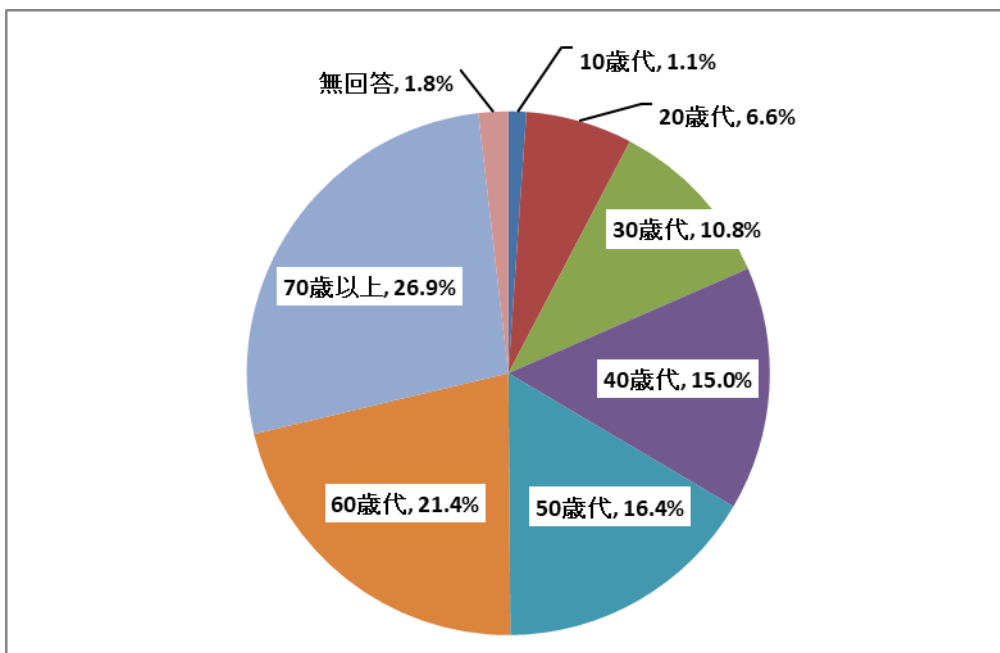
1. 回答者属性

(1) 性別



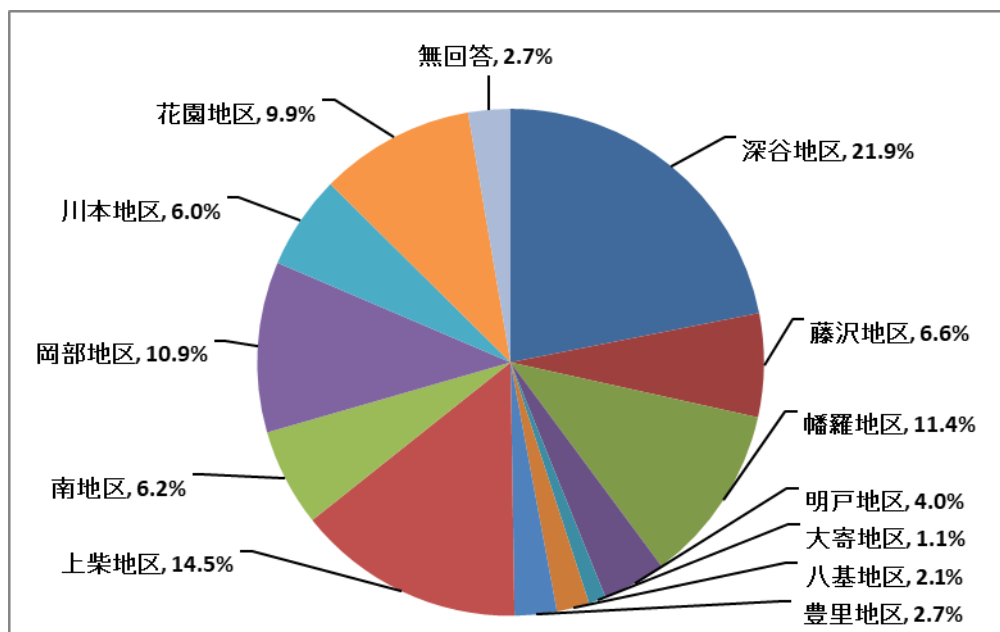
男性が 42.4%、女性が 48.3%と、回答者は女性の割合が多くなっています。

(2) 年齢



年齢では、70歳以上が最も多く、26.9%となっています。次いで、60歳代 21.4%、50歳代 16.4%、40歳代 15.0%となっており、最も少ないのは10歳代で 1.1%となっています。

(3) 居住地区

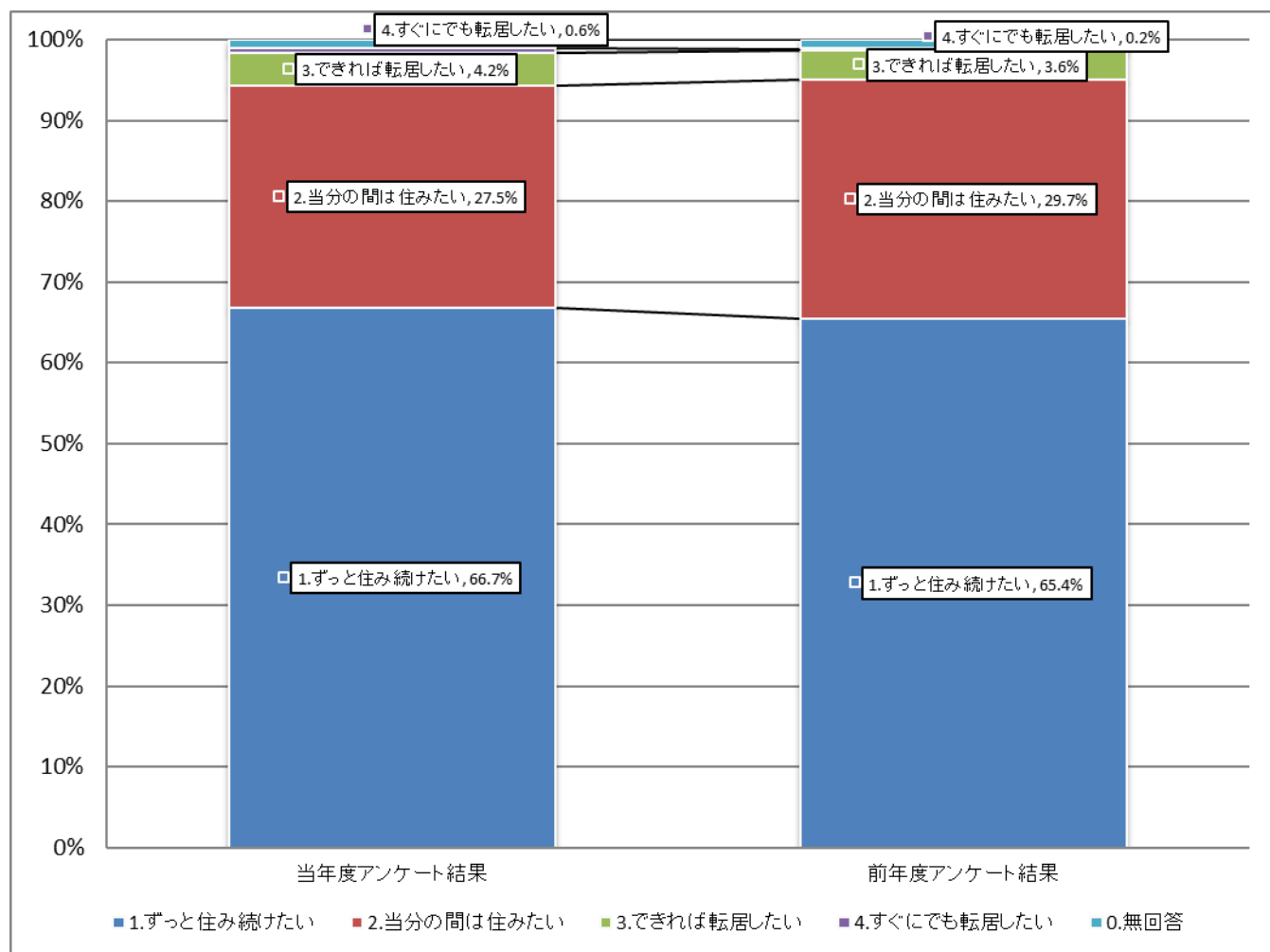


深谷地区が最も多く 21.9%となっています。次いで、上柴地区で 14.5%、幡羅地区で 11.4%となっています。最も少ないのは大寄地区であり、1.1%となっています。

2. 深谷市のまちづくりについて

(1) 深谷市のまち全体の印象について（1. 問1）

これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

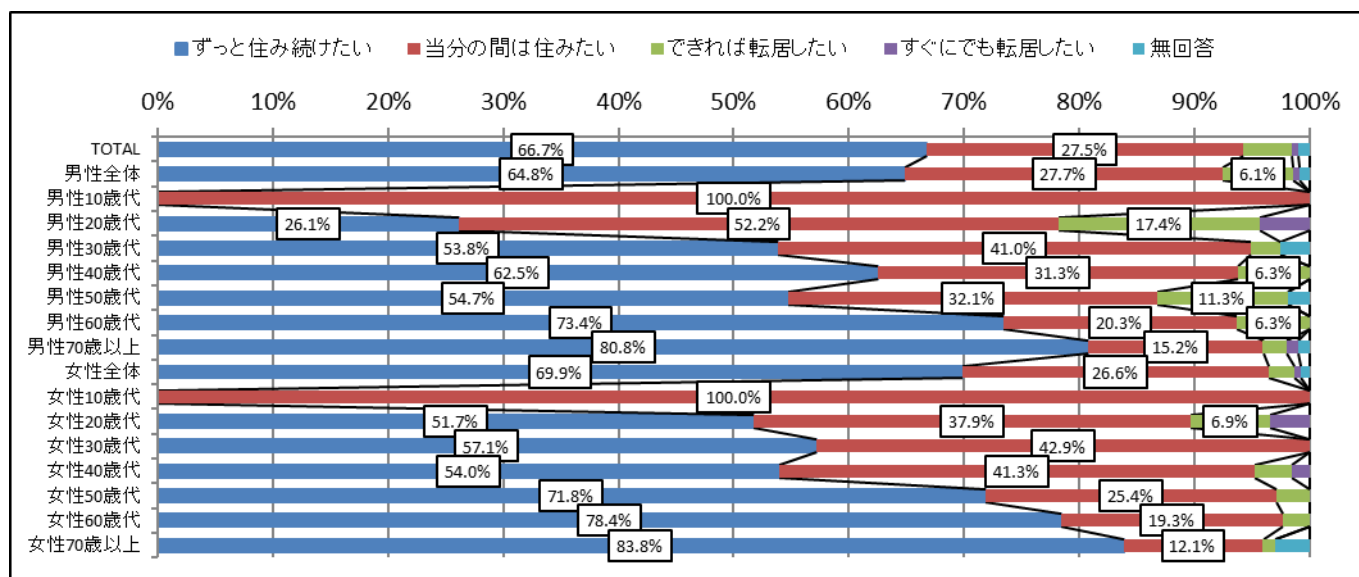


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が 66.7%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が 27.5%となっており、2つの合計は 94.2%と 9 割を超えていることから、深谷市民は定住意識が高いことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は 95.1%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		ずっと住み続けたい	当分の間は住みたい	できれば転居したい	すぐにも転居したい	無回答	合計
TOTAL	818	66.7%	27.5%	4.2%	0.6%	1.0%	100.0%
男性全体	347	64.8%	27.7%	6.1%	0.6%	0.9%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	26.1%	52.2%	17.4%	4.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	53.8%	41.0%	2.6%	0.0%	2.6%	100.0%
男性 40 歳代	48	62.5%	31.3%	6.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	54.7%	32.1%	11.3%	0.0%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	79	73.4%	20.3%	6.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	80.8%	15.2%	2.0%	1.0%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	69.9%	26.6%	2.3%	0.5%	0.8%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	51.7%	37.9%	6.9%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	54.0%	41.3%	3.2%	1.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	71.8%	25.4%	2.8%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	78.4%	19.3%	2.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	83.8%	12.1%	1.0%	0.0%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	65.9%	29.6%	3.9%	0.6%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	79.6%	14.8%	1.9%	3.7%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	62.4%	32.3%	5.4%	0.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	78.8%	18.2%	3.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	58.8%	29.4%	5.9%	5.9%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	63.6%	27.3%	4.5%	0.0%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	63.0%	33.6%	3.4%	0.0%	0.0%	100.0%
南地区	51	64.7%	25.5%	7.8%	2.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	67.4%	25.8%	4.5%	0.0%	2.2%	100.0%
川本地区	49	63.3%	30.6%	4.1%	0.0%	2.0%	100.0%
花園地区	81	67.9%	28.4%	1.2%	0.0%	2.5%	100.0%
無回答	22	63.6%	13.6%	13.6%	0.0%	9.1%	100.0%

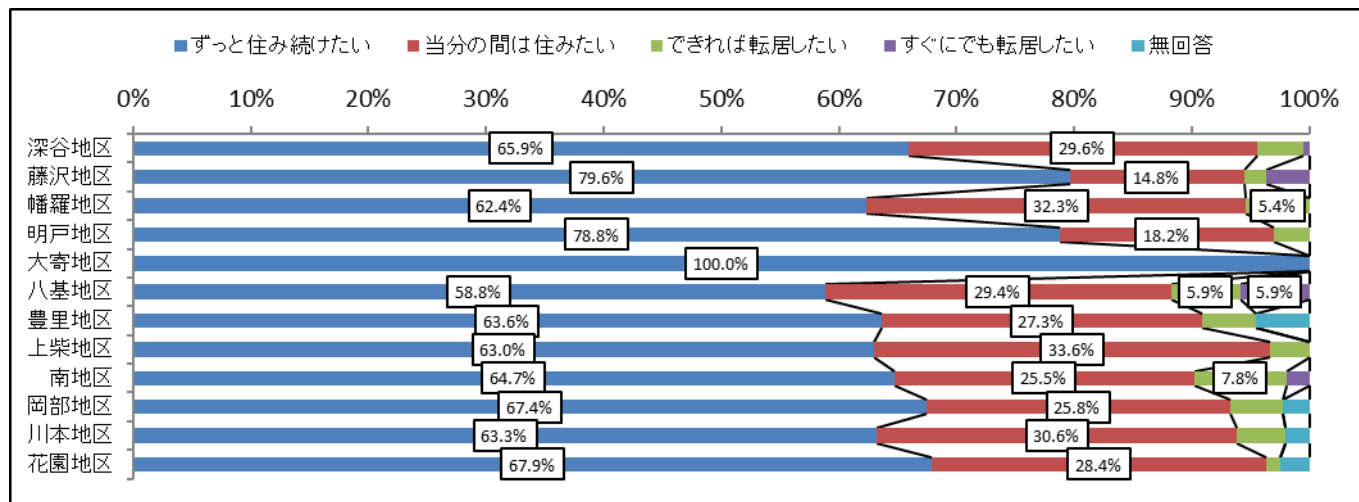
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ずっと住みたい」と回答した人の割合は、男性が 64.8% であるのに対して、女性は 69.9% となっています。男女ともに多くの市民が、住みたいと考えていることがうかがえます。

また、「ずっと住みたい」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 10 歳代 (0.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 70 歳以上 (80.8%)、女性 70 歳以上 (83.8%) となっています。

➤ 地区別



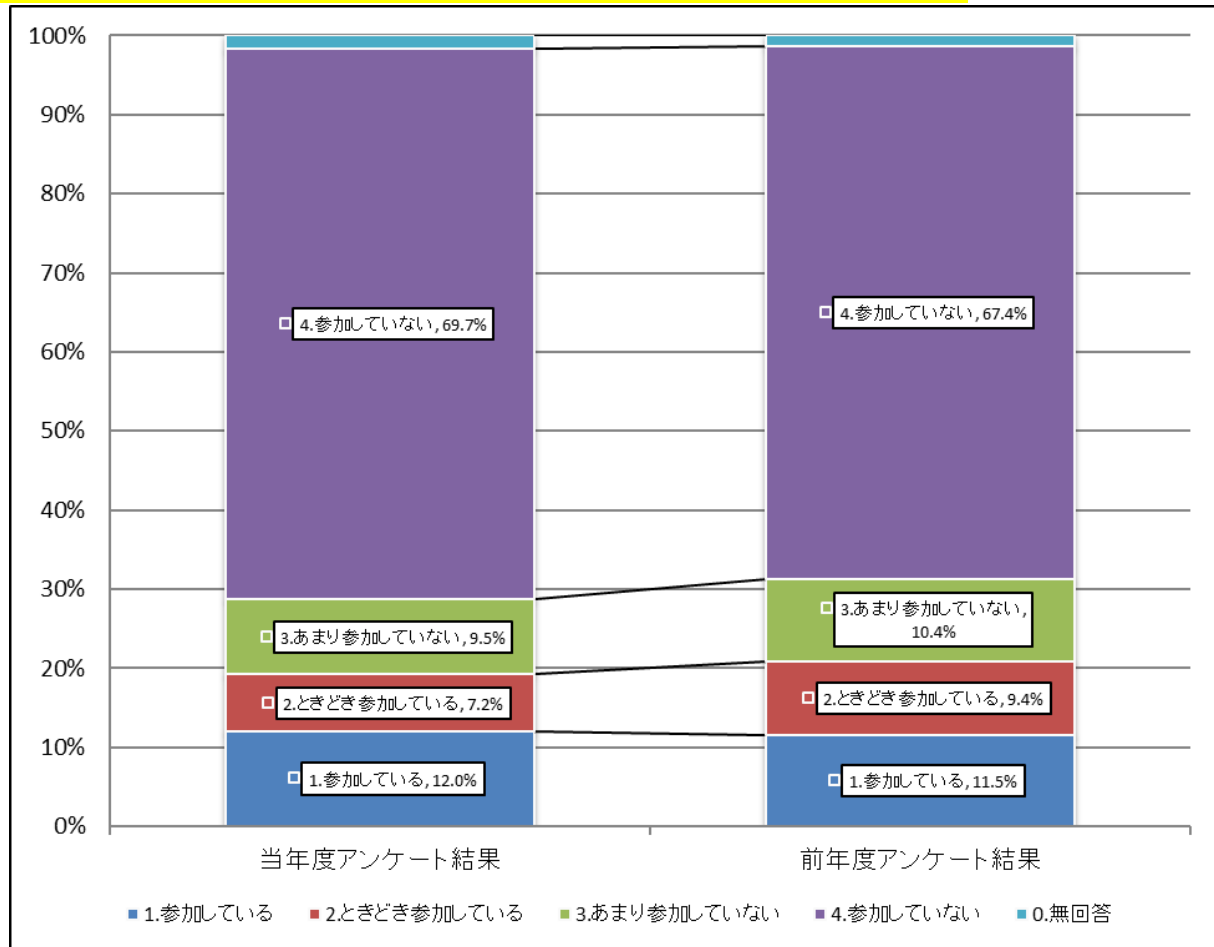
地区別にみると、「ずっと住みたい」と回答した人の割合は、八基地区においては (58.8%) と低い数値になっている一方で、大寄地区においては (100.0%) と高い数値になっています。地区によって意識に差があることがわかります。

ただし、「ずっと住みたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は、ほとんどの地区で 9 割前後と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少数であることがうかがえます。

(2) 子育て・保健・福祉について

① 子育てについて（2. 問1～3）

地域で子どもを育む活動に参加していますか。（例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など）



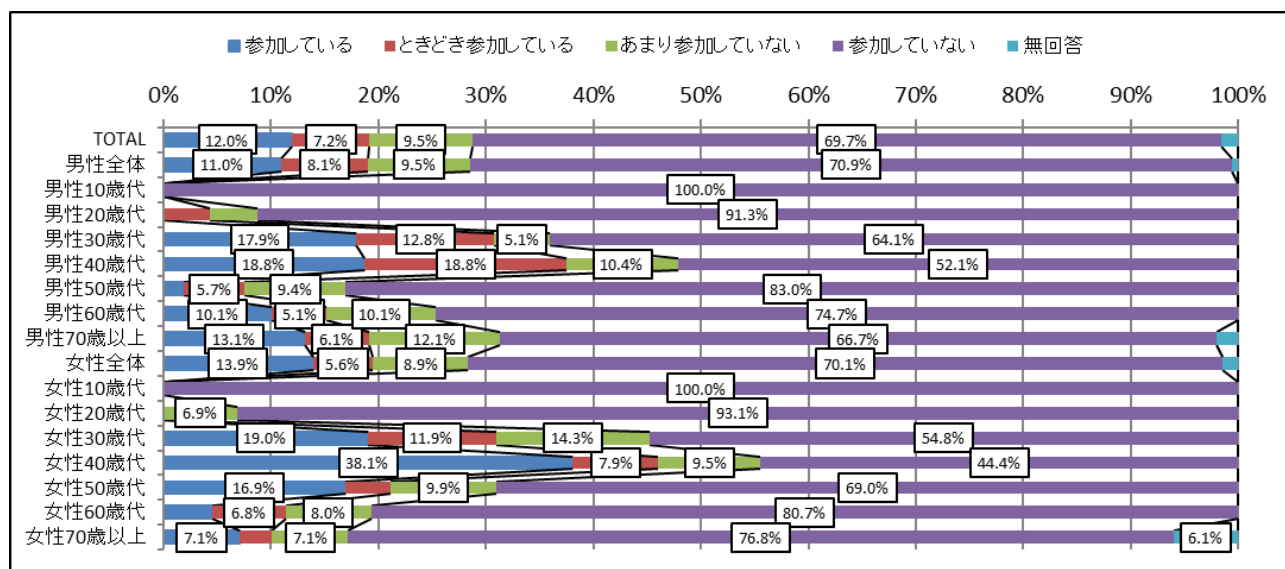
「参加していない」と回答した人の割合が 69.7%と最も多く、次いで「参加している」と回答した人の割合が 12.0%、「あまり参加していない」と回答した人の割合が 9.5%、「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少なく 7.2%となっています。

「参加している」「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 19.2%であり、地域で子どもを育む活動に参加している市民は 2 割未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 20.9%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

母集団		参加している	参加している ときどき	参加していない あまり	参加していない	無回答	合計
TOTAL	818	12.0%	7.2%	9.5%	69.7%	1.6%	100.0%
男性全体	347	11.0%	8.1%	9.5%	70.9%	0.6%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	0.0%	4.3%	4.3%	91.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	17.9%	12.8%	5.1%	64.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	18.8%	18.8%	10.4%	52.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	1.9%	5.7%	9.4%	83.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	10.1%	5.1%	10.1%	74.7%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	13.1%	6.1%	12.1%	66.7%	2.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	13.9%	5.6%	8.9%	70.1%	1.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	0.0%	0.0%	6.9%	93.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	19.0%	11.9%	14.3%	54.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	38.1%	7.9%	9.5%	44.4%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	16.9%	4.2%	9.9%	69.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	4.5%	6.8%	8.0%	80.7%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	7.1%	3.0%	7.1%	76.8%	6.1%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	12.8%	5.6%	8.9%	72.1%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	14.8%	16.7%	0.0%	68.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	7.5%	6.5%	7.5%	78.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	15.2%	12.1%	9.1%	57.6%	6.1%	100.0%
大寄地区	9	0.0%	33.3%	11.1%	55.6%	0.0%	100.0%
八基地区	17	11.8%	5.9%	11.8%	70.6%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	4.5%	13.6%	22.7%	59.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	10.1%	6.7%	11.8%	69.7%	1.7%	100.0%
南地区	51	13.7%	3.9%	9.8%	72.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	12.4%	4.5%	13.5%	66.3%	3.4%	100.0%
川本地区	49	10.2%	4.1%	12.2%	73.5%	0.0%	100.0%
花園地区	81	18.5%	8.6%	7.4%	63.0%	2.5%	100.0%
無回答	22	9.1%	0.0%	4.5%	72.7%	13.6%	100.0%

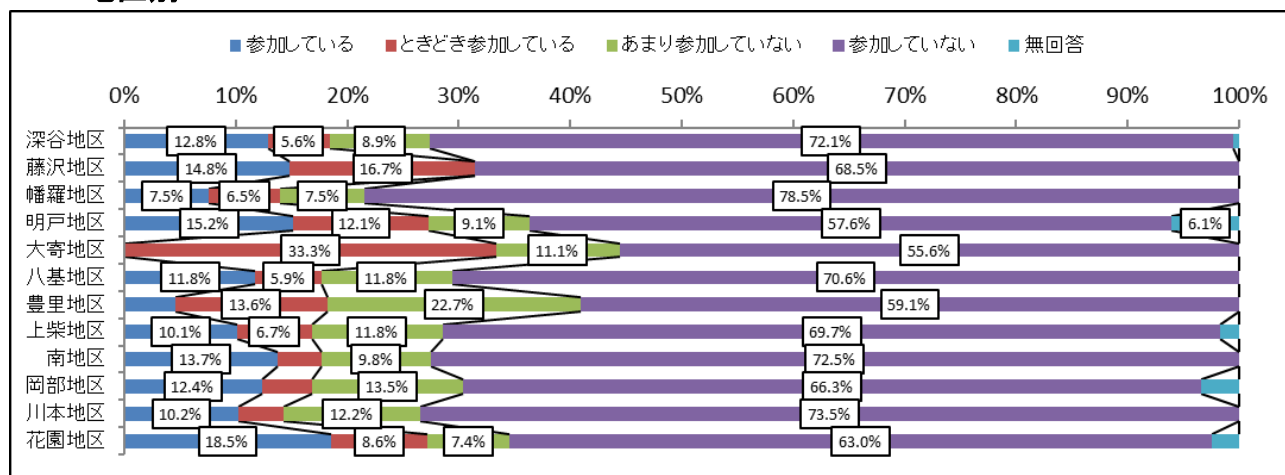
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は、男性が19.1%であるのに対して、女性は19.5%となっています。

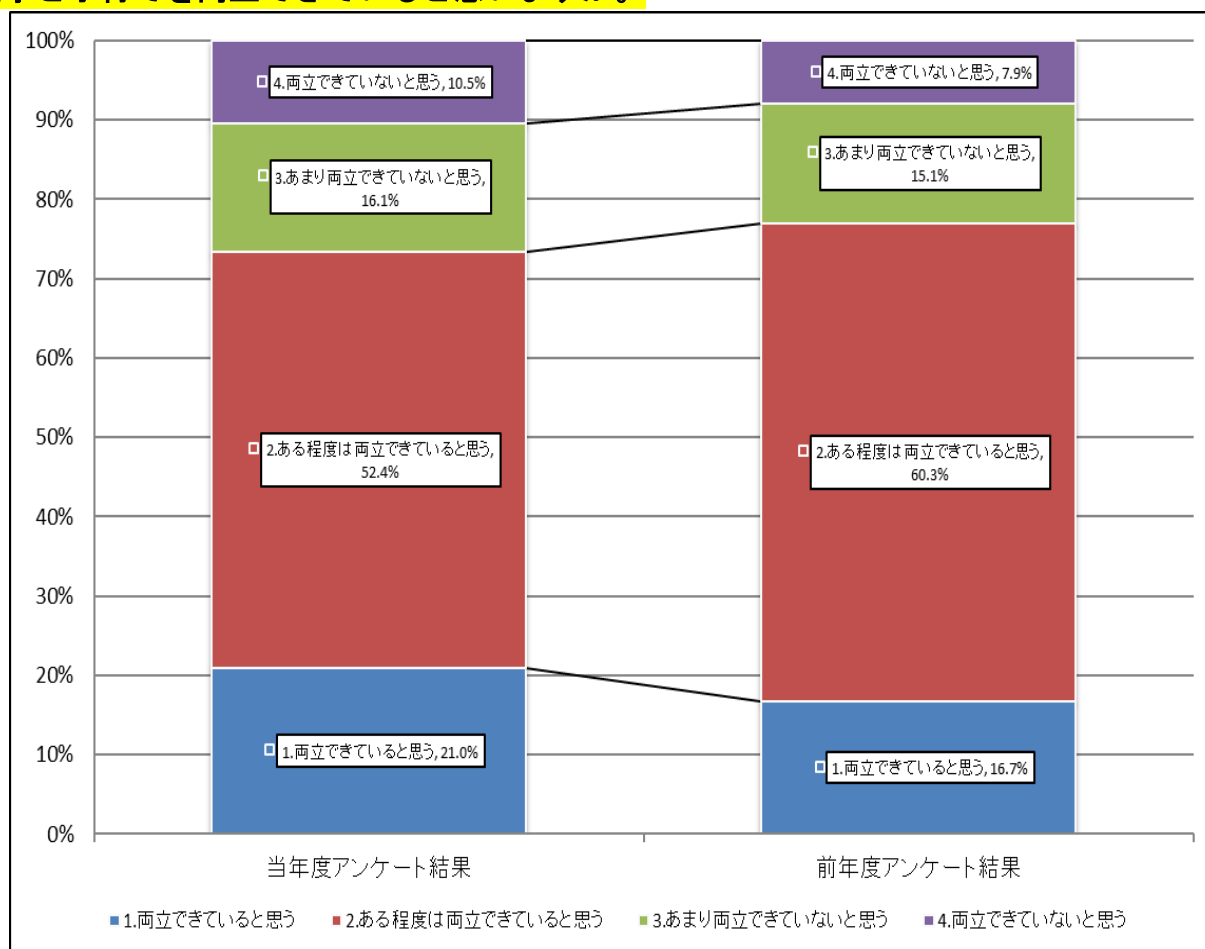
また、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性10歳代（0.0%）、女性10歳代・20歳代ともに（0.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性40歳代（37.6%）、女性40歳代（46.0%）となっています。世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、幡羅地区（14.0%）であり、次いで川本地区（14.3%）となっています。最も多い地区は、大寄地区（33.3%）であり、次いで藤沢地区（31.5%）となっています。

小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。
仕事と子育てを両立できていると思いますか。



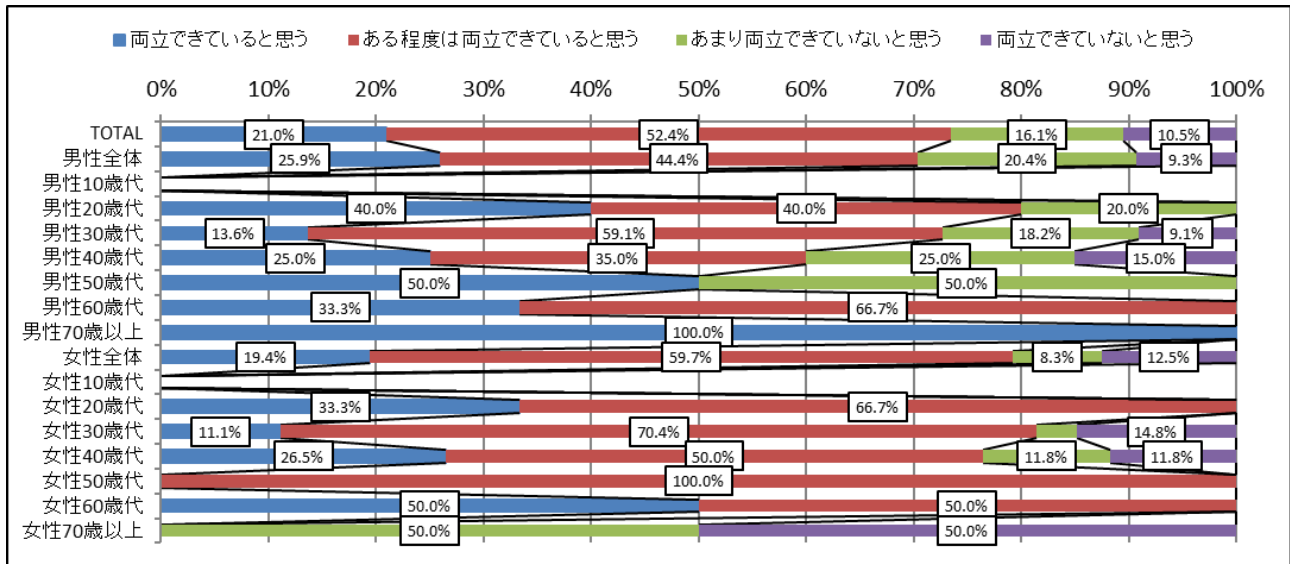
「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合が 52.4%と最も多く、次いで「両立できていると思う」と回答した人の割合が 21.0%、「あまり両立できていないと思う」と回答した人の割合 16.1%、「両立できていないと思う」と回答した人の割合が最も少なく 10.5%となっています。

「両立できていると思う」「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は 73.4%であり、小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち 7割以上が、仕事と子育ての両立ができていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は 77.0%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

母集団		両立できていると思う	ある程度は両立できていると思う	あまり両立できていないと思う	両立できていないと思う	無回答	合計
TOTAL	143	21.0%	52.4%	16.1%	10.5%	0.0%	100.0%
男性全体	54	25.9%	44.4%	20.4%	9.3%	0.0%	100.0%
男性 10 歳代	0	—	—	—	—	—	—
男性 20 歳代	5	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	22	13.6%	59.1%	18.2%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	20	25.0%	35.0%	25.0%	15.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	72	19.4%	59.7%	8.3%	12.5%	0.0%	100.0%
女性 10 歳代	0	—	—	—	—	—	—
女性 20 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	27	11.1%	70.4%	3.7%	14.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	34	26.5%	50.0%	11.8%	11.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	33	30.3%	51.5%	15.2%	3.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	15	20.0%	46.7%	20.0%	13.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	17	5.9%	47.1%	17.6%	29.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	19	10.5%	63.2%	10.5%	15.8%	0.0%	100.0%
南地区	9	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	11	18.2%	27.3%	36.4%	18.2%	0.0%	100.0%
川本地区	9	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	22	13.6%	54.5%	22.7%	9.1%	0.0%	100.0%
無回答	4	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別

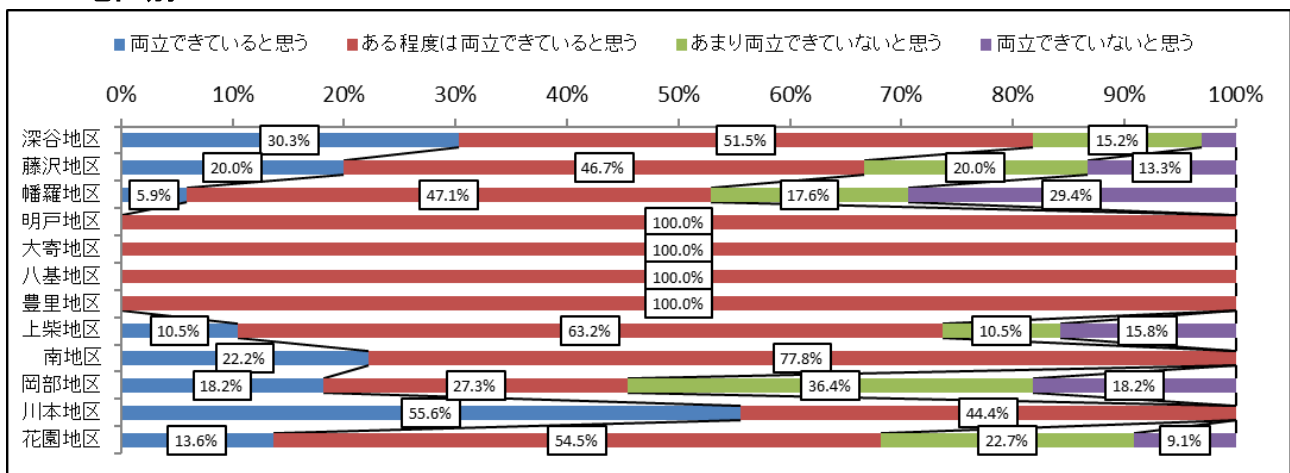


性別・世代別にみると、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は、男性が 70.3%であるのに対して、女性は 79.1%となっています。

30 歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は、男性 72.7%、女性 81.5%であり、女性の方が両立できていると思うと回答している人の割合が高くなっています。

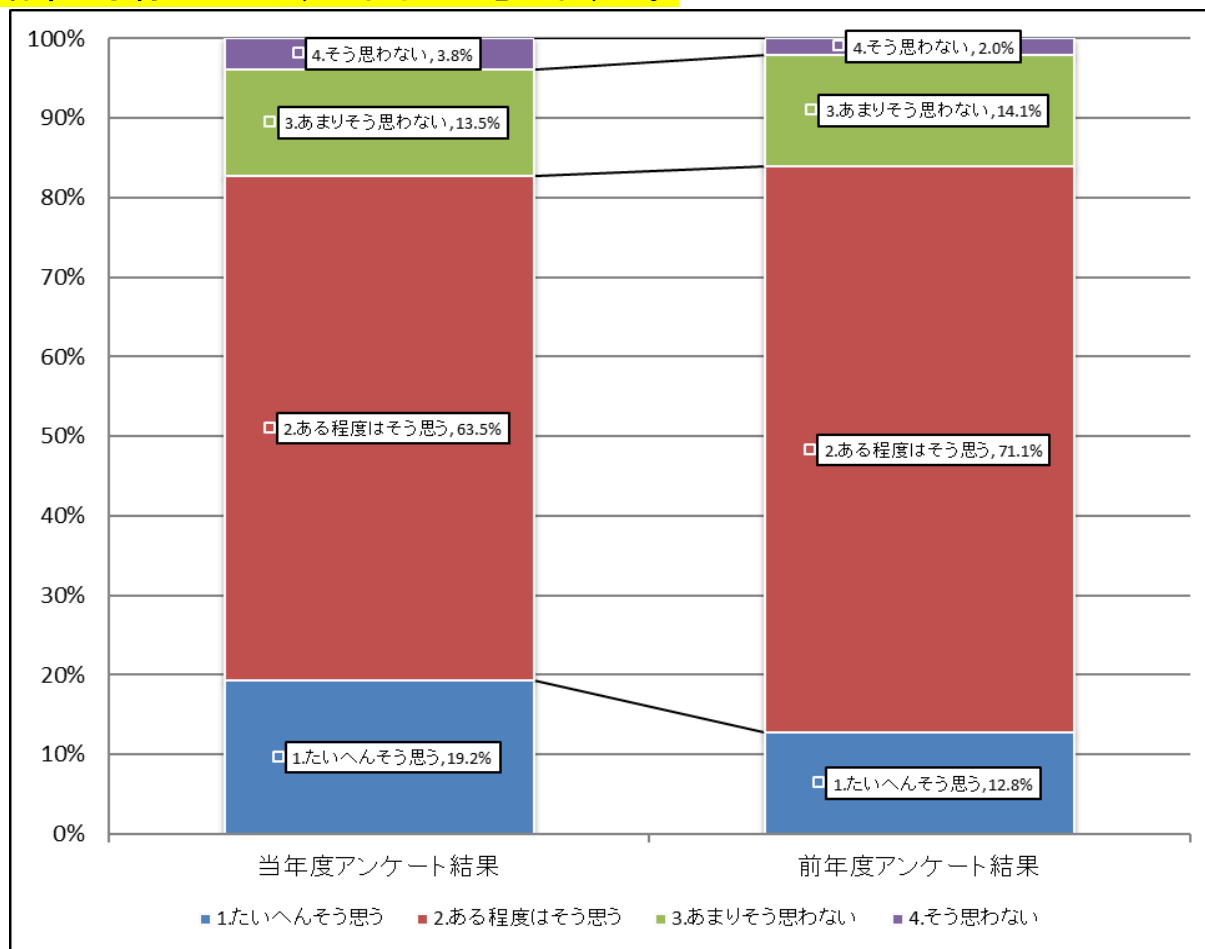
40 歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は、男性 60.0%、女性 76.5%であり、世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、10 人以上が回答し、かつ、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、岡部地区 (45.5%) であり、最も多い地区は、深谷地区 (81.8%) となっています。

中学生以下（中学校３年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。
 深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。



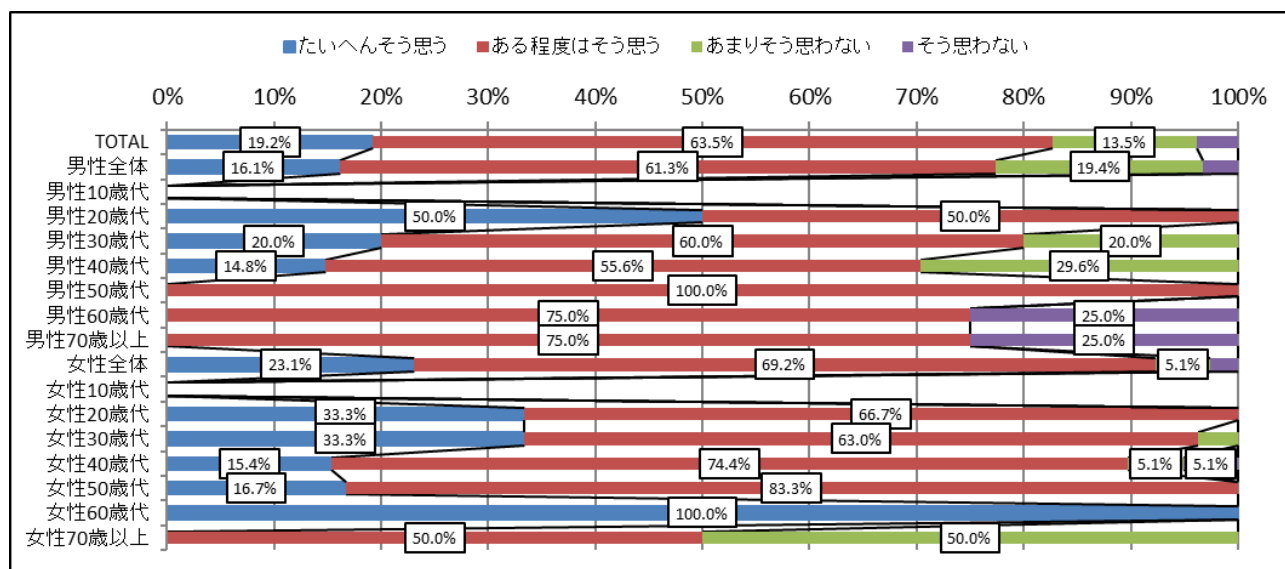
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 63.5%と最も多く、次いで「たいへんそう思う」が 19.2%、「あまりそう思わない」が 13.5%、「そう思わない」と回答した人の割合が最も少なく 3.8%となっています。

「たいへんそう思う」「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 82.7%であり、中学生以下（中学校３年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち 8 割以上が、深谷市は子育てのしやすいまちだと感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 83.9%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		たいへん そう思う	ある程度は そう思う	そう 思わない あまり	そう 思わない	無回答	合計
TOTAL	156	19.2%	63.5%	13.5%	3.8%	0.0%	100.0%
男性全体	62	16.1%	61.3%	19.4%	3.2%	0.0%	100.0%
男性 10 歳代	0	—	—	—	—	—	—
男性 20 歳代	4	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	20	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	27	14.8%	55.6%	29.6%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	4	0.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	4	0.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	78	23.1%	69.2%	5.1%	2.6%	0.0%	100.0%
女性 10 歳代	0	—	—	—	—	—	—
女性 20 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	27	33.3%	63.0%	3.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	39	15.4%	74.4%	5.1%	5.1%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	6	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	35	28.6%	51.4%	11.4%	8.6%	0.0%	100.0%
藤沢地区	16	12.5%	75.0%	12.5%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	18	22.2%	61.1%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	19	10.5%	78.9%	5.3%	5.3%	0.0%	100.0%
南地区	11	18.2%	63.6%	18.2%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	12	8.3%	66.7%	16.7%	8.3%	0.0%	100.0%
川本地区	10	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	24	25.0%	58.3%	12.5%	4.2%	0.0%	100.0%
無回答	4	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別

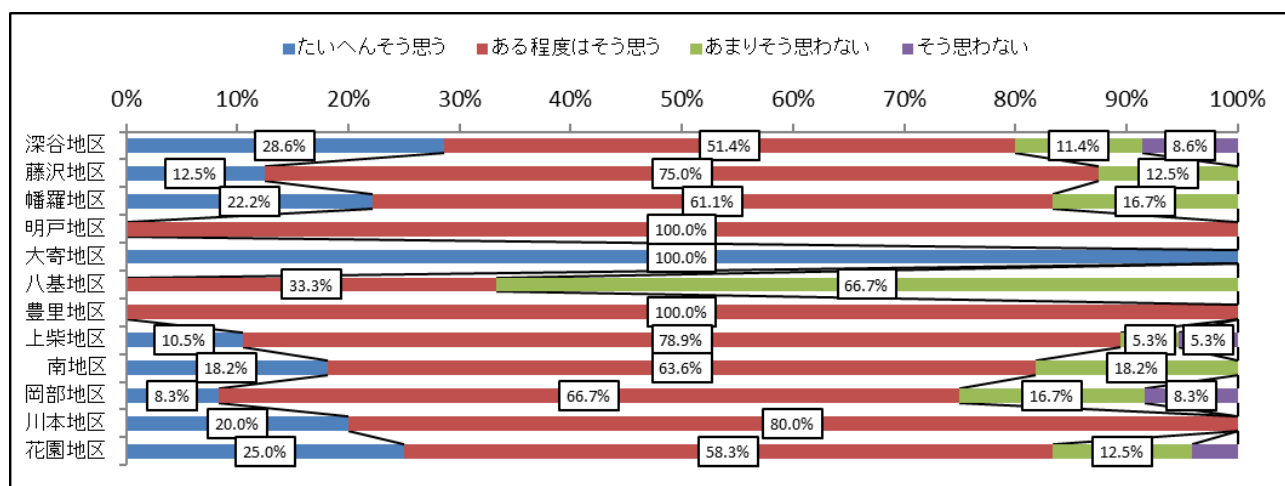


性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性が77.4%であるのに対して、女性は92.3%となっています。

30歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性80.0%、女性96.3%であり、女性の方が子育てのしやすいまちだと思っていると回答している人の割合が高くなっています。

40歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性70.4%、女性89.8%であり、世代によって差があることがうかがえます。

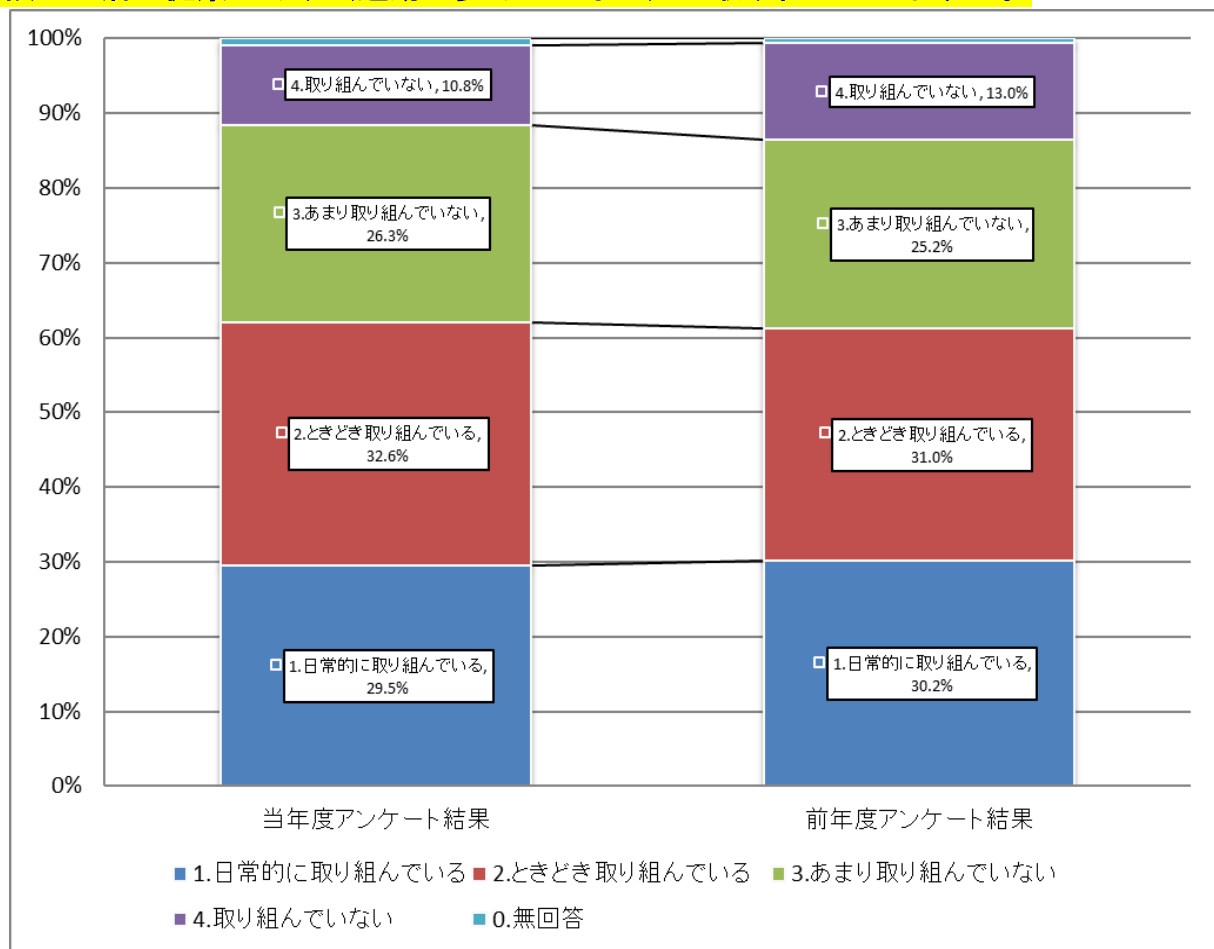
➤ 地区別



地区別にみると、10人以上が回答し、かつ、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、岡部地区（75.0%）であり、最も多い地区は、川本地区（100.0%）となっています。

② 保健について（2. 問4～7）

普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。



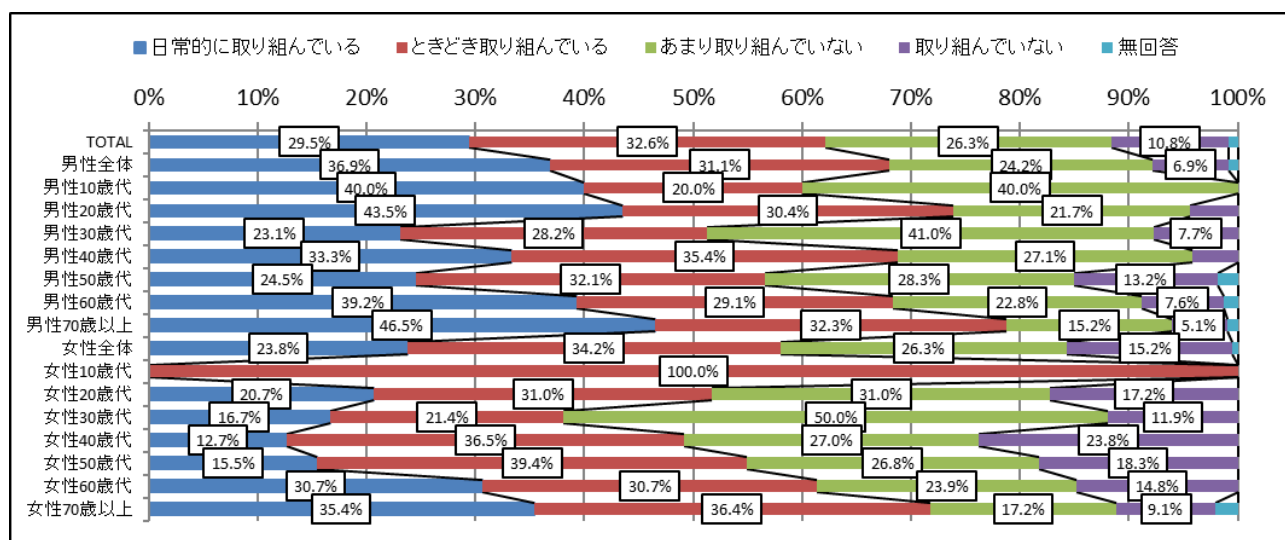
「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が 32.6%と最も多く、次いで「日常的に取り組んでいる」と回答した人の割合が 29.5%、「あまり取り組んでいない」と回答した人の割合が 26.3%、「取り組んでいない」と回答した人の割合が最も少なく 10.8%となっています。

「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は 62.1%であり、6 割以上の市民が普段の生活で健康づくりに取り組んでいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は 61.2%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		日常的に取り組んでいる	ときどき取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	無回答	合計
TOTAL	818	29.5%	32.6%	26.3%	10.8%	0.9%	100.0%
男性全体	347	36.9%	31.1%	24.2%	6.9%	0.9%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	43.5%	30.4%	21.7%	4.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	23.1%	28.2%	41.0%	7.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	33.3%	35.4%	27.1%	4.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	24.5%	32.1%	28.3%	13.2%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	79	39.2%	29.1%	22.8%	7.6%	1.3%	100.0%
男性 70 歳以上	99	46.5%	32.3%	15.2%	5.1%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	23.8%	34.2%	26.3%	15.2%	0.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	20.7%	31.0%	31.0%	17.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	16.7%	21.4%	50.0%	11.9%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	12.7%	36.5%	27.0%	23.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	15.5%	39.4%	26.8%	18.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	30.7%	30.7%	23.9%	14.8%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	35.4%	36.4%	17.2%	9.1%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	28.5%	32.4%	27.4%	11.2%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	20.4%	33.3%	35.2%	11.1%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	24.7%	32.3%	26.9%	16.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	24.2%	39.4%	33.3%	3.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	33.3%	33.3%	22.2%	11.1%	0.0%	100.0%
八基地区	17	47.1%	29.4%	11.8%	5.9%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	40.9%	18.2%	31.8%	9.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	38.7%	34.5%	19.3%	7.6%	0.0%	100.0%
南地区	51	27.5%	35.3%	27.5%	9.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	33.7%	31.5%	20.2%	12.4%	2.2%	100.0%
川本地区	49	30.6%	24.5%	34.7%	10.2%	0.0%	100.0%
花園地区	81	23.5%	40.7%	24.7%	9.9%	1.2%	100.0%
無回答	22	18.2%	18.2%	36.4%	18.2%	9.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

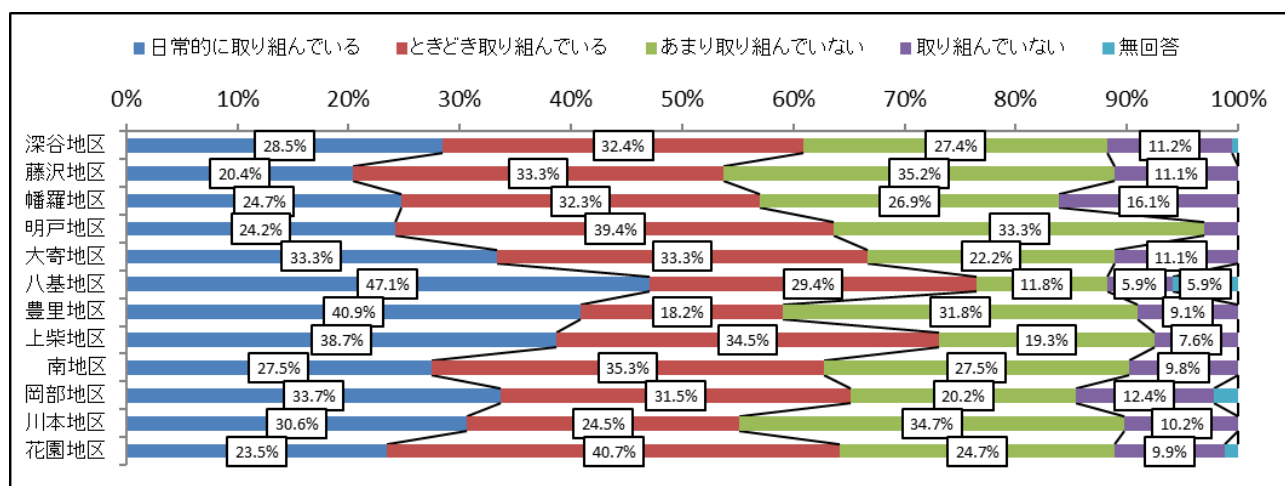


性別・世代別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は、男性が 68.0%であるのに対して、女性は 58.0%となっています。

また、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (51.3%)、女性 30 歳代 (38.1%) であり、一方で最も多い世代は、男性 70 歳以上 (78.8%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

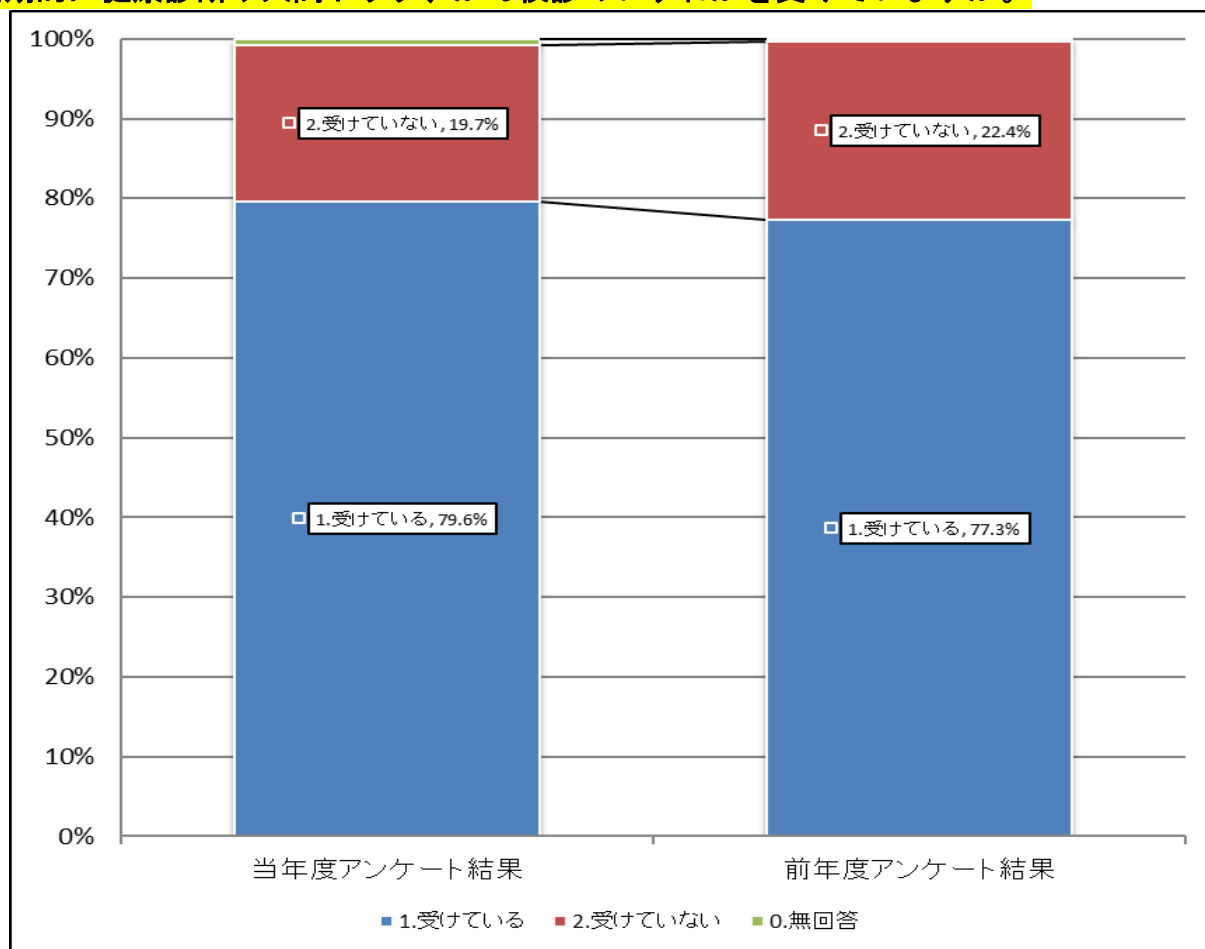
男女や、世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、藤沢地区 (53.7%) であり、次いで川本地区 (55.1%) となっています。最も多い地区は、八基地区 (76.5%) であり、次いで上柴地区 (73.2%) となっています。

定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。



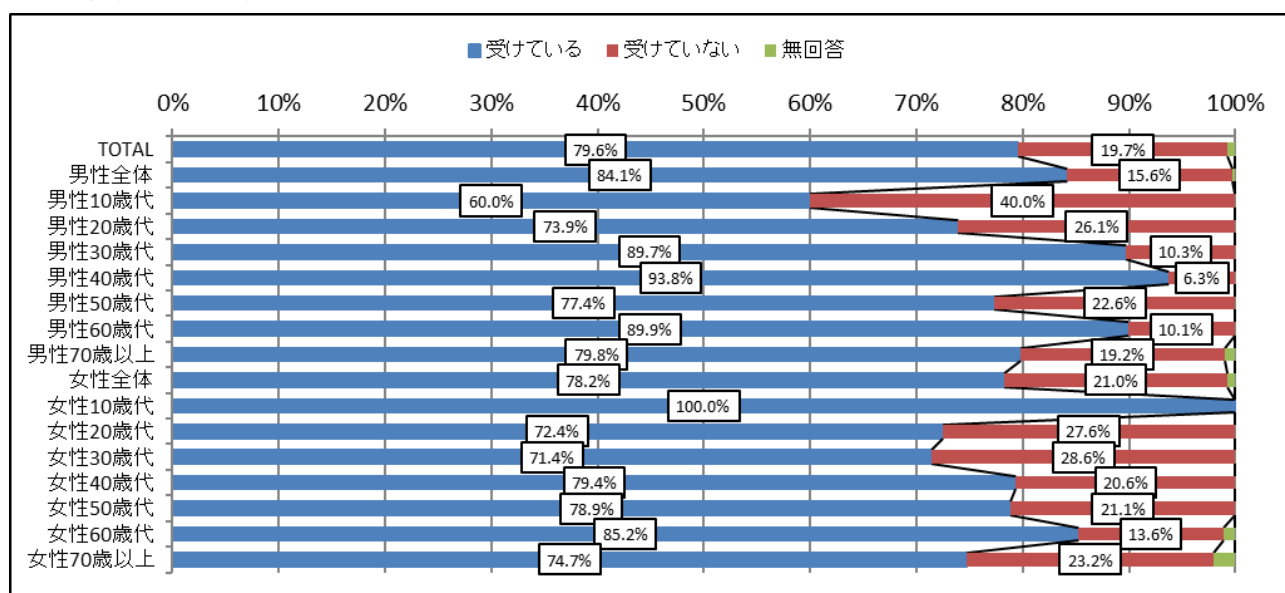
「受けている」と回答した人の割合は 79.6%、「受けていない」と回答した人の割合は 19.7%となっています。

8 割近くの市民が定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「受けている」と回答した人の割合は 77.3%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		受けている	受けていない	無回答	合計
TOTAL	818	79.6%	19.7%	0.7%	100.0%
男性全体	347	84.1%	15.6%	0.3%	100.0%
男性 10 歳代	5	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	73.9%	26.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	89.7%	10.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	93.8%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	77.4%	22.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	89.9%	10.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	79.8%	19.2%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	78.2%	21.0%	0.8%	100.0%
女性 10 歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	72.4%	27.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	79.4%	20.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	78.9%	21.1%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	85.2%	13.6%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	99	74.7%	23.2%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—
深谷地区	179	78.2%	21.2%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	81.5%	18.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	79.6%	20.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	75.8%	24.2%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	88.9%	11.1%	0.0%	100.0%
八基地区	17	70.6%	29.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	77.3%	22.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	81.5%	18.5%	0.0%	100.0%
南地区	51	82.4%	17.6%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	80.9%	16.9%	2.2%	100.0%
川本地区	49	79.6%	20.4%	0.0%	100.0%
花園地区	81	80.2%	18.5%	1.2%	100.0%
無回答	22	72.7%	18.2%	9.1%	100.0%

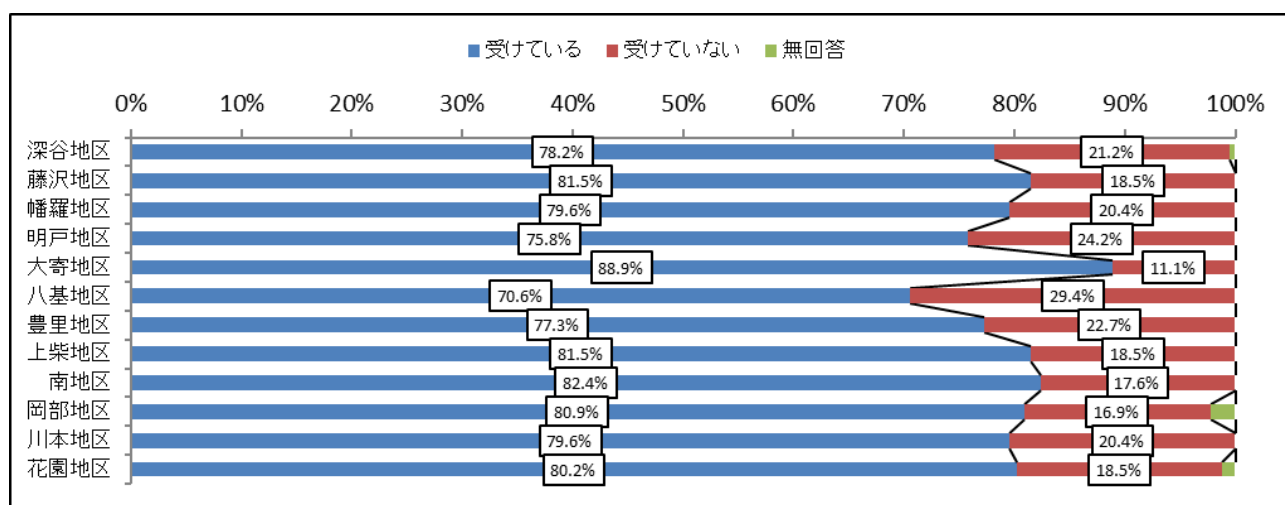
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「受けている」と回答した人の割合は、男性が 84.1%であるのに対して、女性は 78.2%となっています。

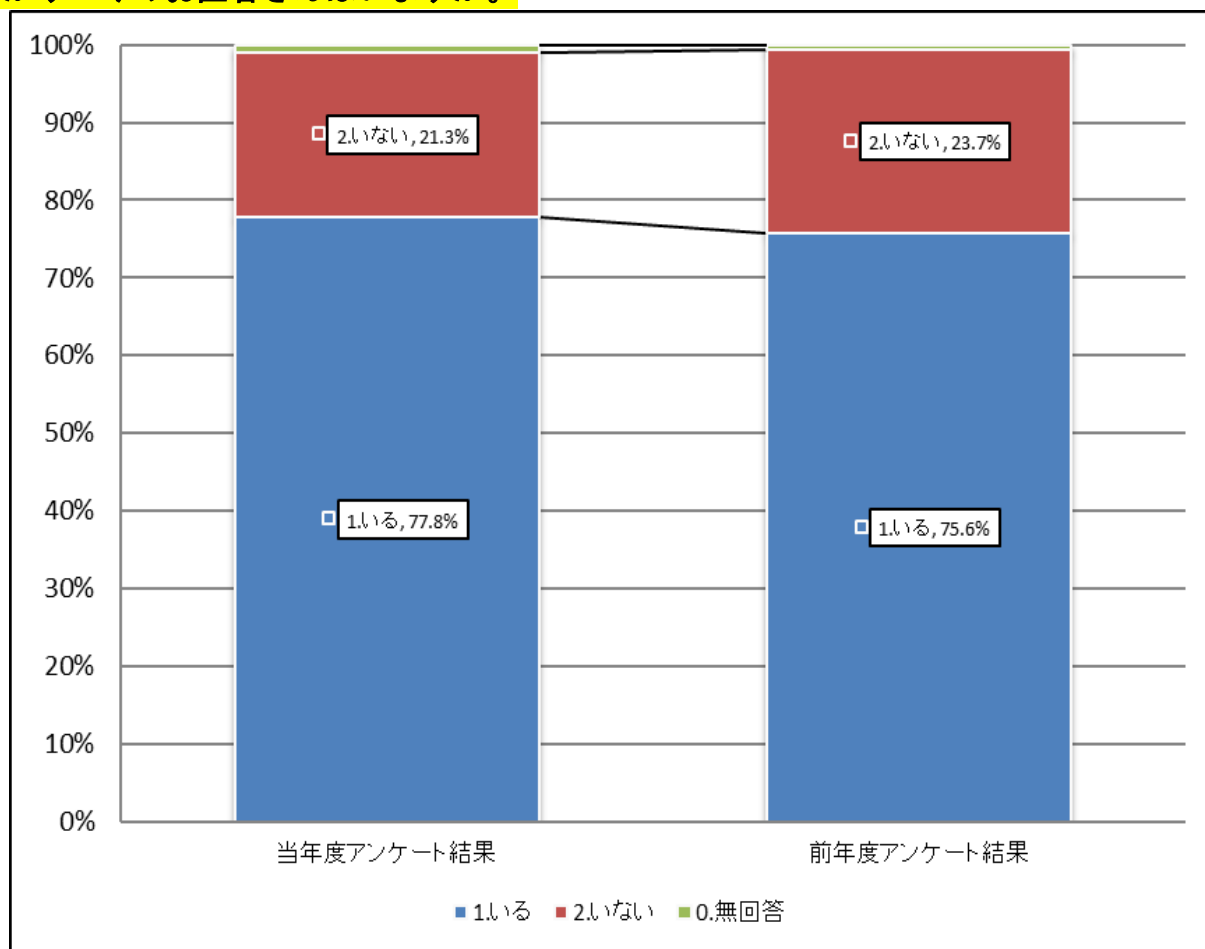
また、「受けている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (60.0%)、女性 30 歳代 (71.4%) であり、一方で最も多い世代は、男性 40 歳代 (93.8%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「受けている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区 (70.6%) であり、次いで明戸地区 (75.8%) となっています。最も多い地区は、大寄地区 (88.9%) であり、次いで南地区 (82.4%) となっています。

かかりつけのお医者さんはいますか。



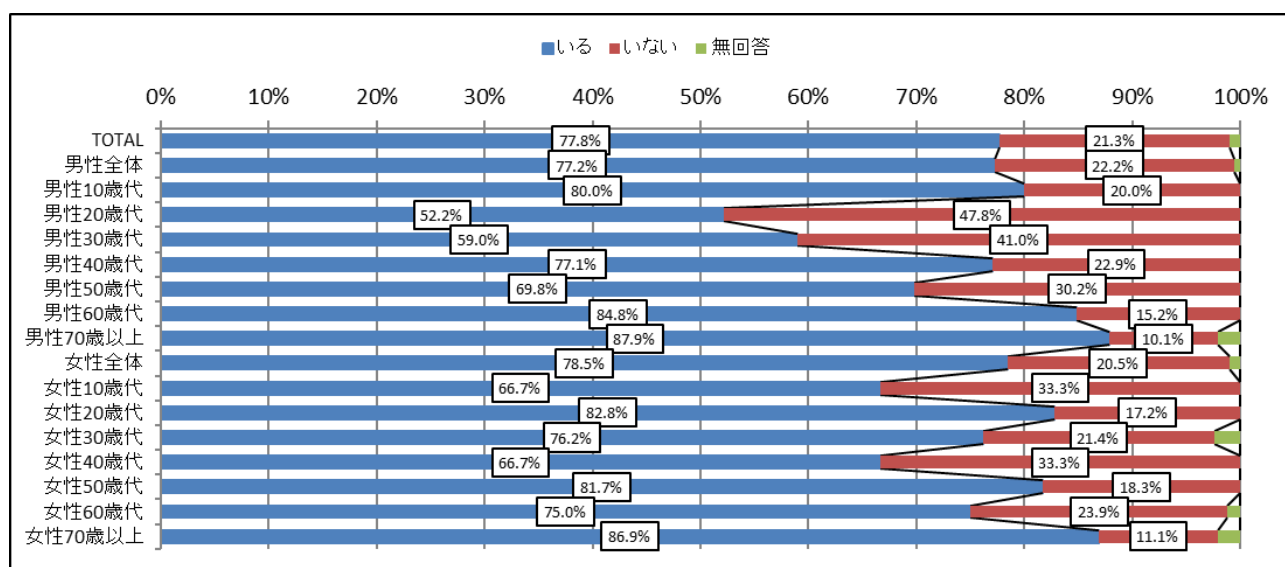
「いる」と回答した人の割合は 77.8%、「いない」と回答した人の割合は 21.3%となっています。

多くの市民にかかりつけ医がいる一方、約 5 人に 1 人はかかりつけ医がいないという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合は 75.6%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	818	77.8%	21.3%	1.0%	100.0%
男性全体	347	77.2%	22.2%	0.6%	100.0%
男性 10 歳代	5	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	52.2%	47.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	59.0%	41.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	77.1%	22.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	69.8%	30.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	84.8%	15.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	87.9%	10.1%	2.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	78.5%	20.5%	1.0%	100.0%
女性 10 歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	82.8%	17.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	76.2%	21.4%	2.4%	100.0%
女性 40 歳代	63	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	81.7%	18.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	75.0%	23.9%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	99	86.9%	11.1%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—
深谷地区	179	71.5%	27.9%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	79.6%	20.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	69.9%	30.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	87.9%	12.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%
八基地区	17	70.6%	29.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	86.4%	13.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	77.3%	21.8%	0.8%	100.0%
南地区	51	74.5%	25.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	85.4%	12.4%	2.2%	100.0%
川本地区	49	81.6%	16.3%	2.0%	100.0%
花園地区	81	90.1%	8.6%	1.2%	100.0%
無回答	22	63.6%	27.3%	9.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

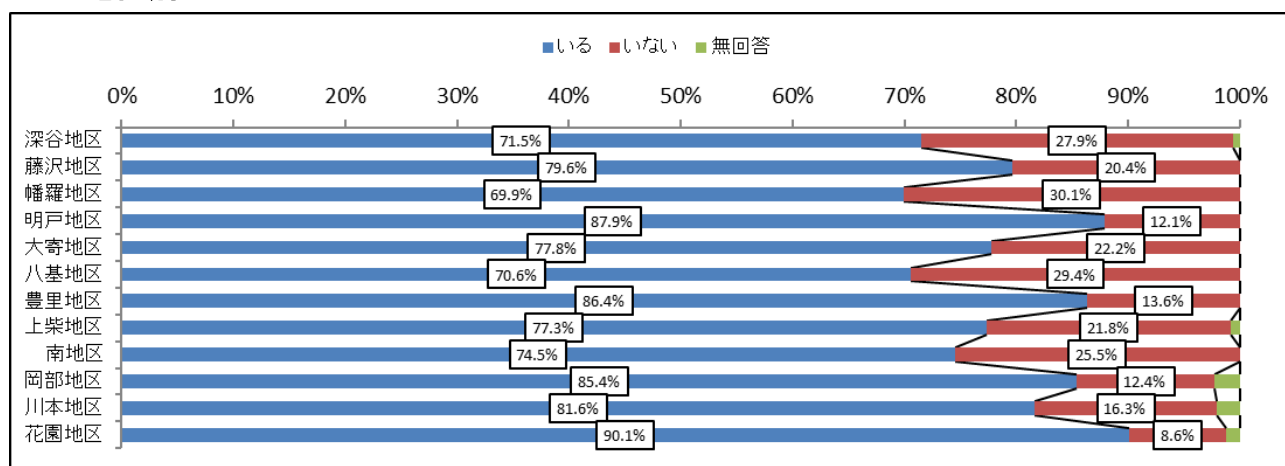


性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は、男性が 77.2%であるのに対して、女性は 78.5%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 20 歳代 (52.2%)、女性 10 歳代・40 歳代ともに (66.7%) であり、一方で最も多い世代は、男性 70 歳以上 (87.9%)、女性 70 歳以上 (86.9%) となっています。

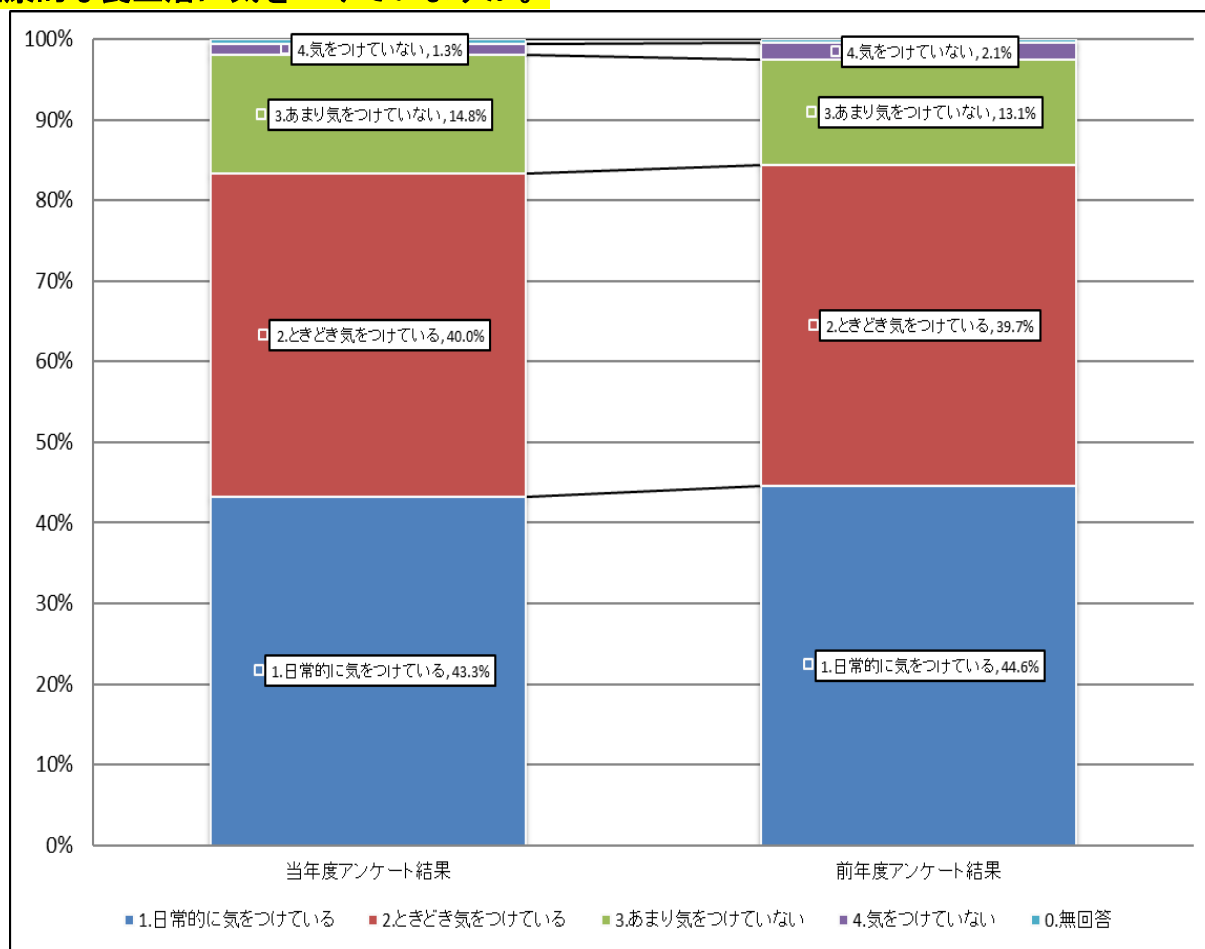
世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、幡羅地区 (69.9%) であり、次いで八基地区 (70.6%) となっています。最も多い地区は、花園地区 (90.1%) であり、次いで明戸地区 (87.9%) となっています。

健康的な食生活に気をつけていますか。



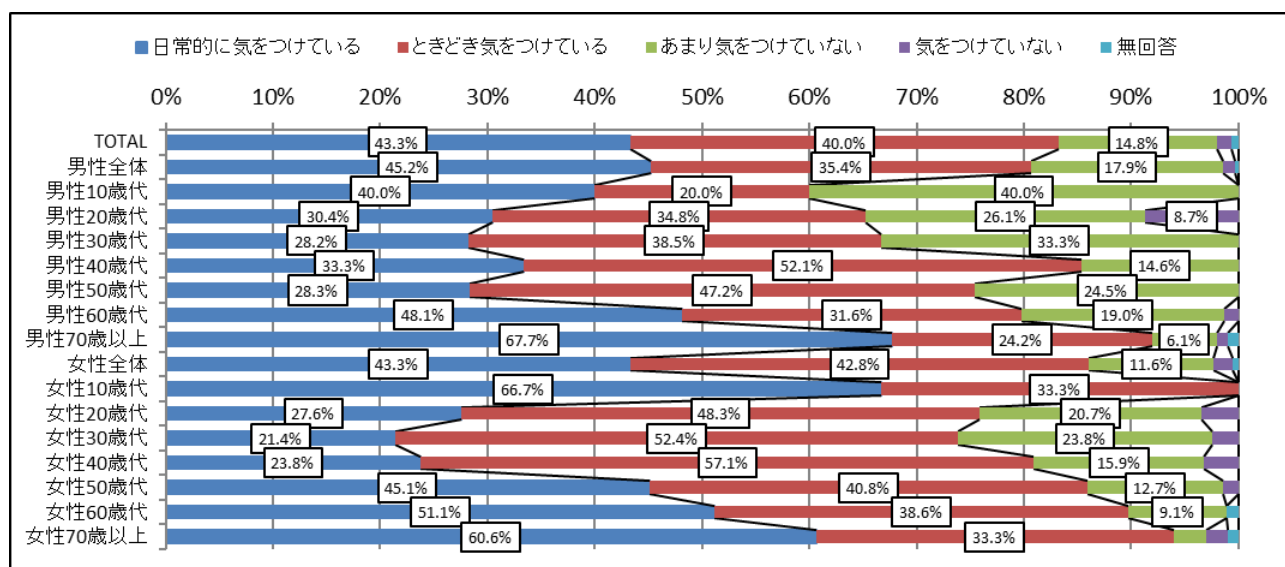
「日常的に気をつけている」と回答した人の割合が 43.3%と最も多く、次いで「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が 40.0%、「あまり気をつけていない」と回答した人の割合が 14.8%、「気をつけていない」と回答した人の割合が最も少なく 1.3%となっています。

「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は、83.3%であり、8 割以上の市民が健康的な食生活に気をつけていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は 84.3%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		日常的に 気をつけている	ときどき 気をつけている	あまり 気をつけていない	気をつけていない	無回答	合計
TOTAL	818	43.3%	40.0%	14.8%	1.3%	0.6%	100.0%
男性全体	347	45.2%	35.4%	17.9%	1.2%	0.3%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	30.4%	34.8%	26.1%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	28.2%	38.5%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	33.3%	52.1%	14.6%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	28.3%	47.2%	24.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	48.1%	31.6%	19.0%	1.3%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	67.7%	24.2%	6.1%	1.0%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	43.3%	42.8%	11.6%	1.8%	0.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	27.6%	48.3%	20.7%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	21.4%	52.4%	23.8%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	23.8%	57.1%	15.9%	3.2%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	45.1%	40.8%	12.7%	1.4%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	51.1%	38.6%	9.1%	0.0%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	99	60.6%	33.3%	3.0%	2.0%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	40.8%	38.5%	16.8%	3.4%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	33.3%	42.6%	24.1%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	43.0%	39.8%	15.1%	2.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	48.5%	45.5%	6.1%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	33.3%	55.6%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	52.9%	35.3%	11.8%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	50.0%	36.4%	13.6%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	42.9%	42.9%	12.6%	1.7%	0.0%	100.0%
南地区	51	41.2%	45.1%	13.7%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	49.4%	39.3%	10.1%	0.0%	1.1%	100.0%
川本地区	49	46.9%	30.6%	22.4%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	81	50.6%	34.6%	12.3%	1.2%	1.2%	100.0%
無回答	22	18.2%	54.5%	18.2%	0.0%	9.1%	100.0%

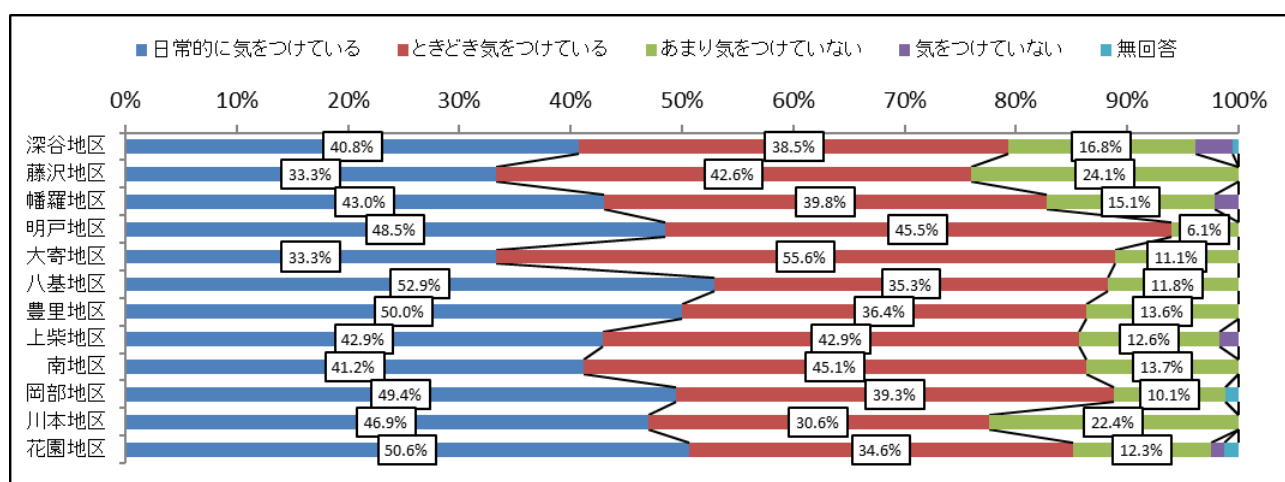
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は、男性が 80.6%であるのに対して、女性は 86.1%となっています。

また、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (60.0%)、女性 30 歳代 (73.8%) であり、一方で最も多い世代は、男性 70 歳以上 (91.9%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

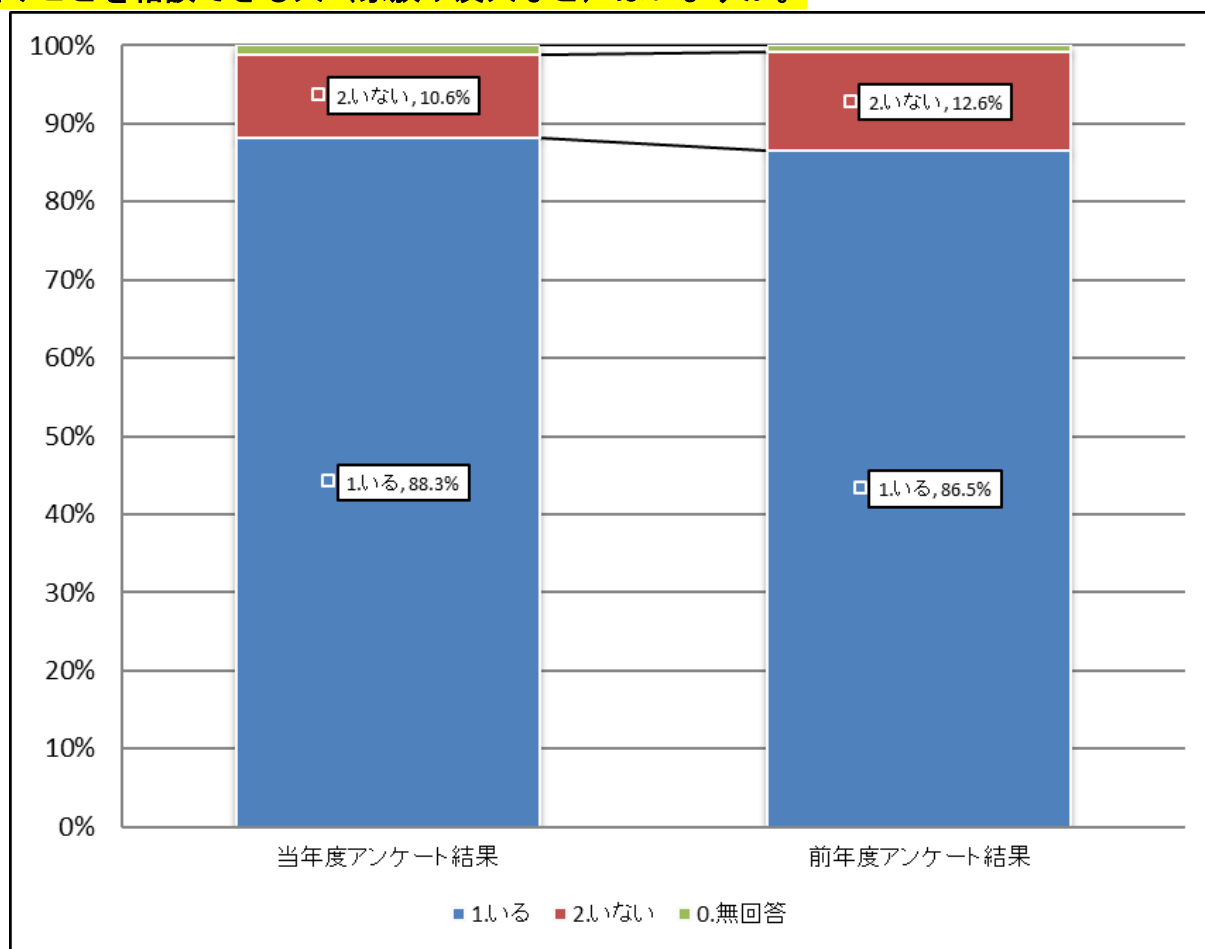
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、藤沢地区 (75.9%) であり、次いで川本地区 (77.5%) となっています。最も多い地区は、明戸地区 (94.0%) であり、次いで大寄地区 (88.9%) となっています。

③ 福祉について（2. 問8～9）

悩みごとを相談できる人（家族や友人など）はいますか。



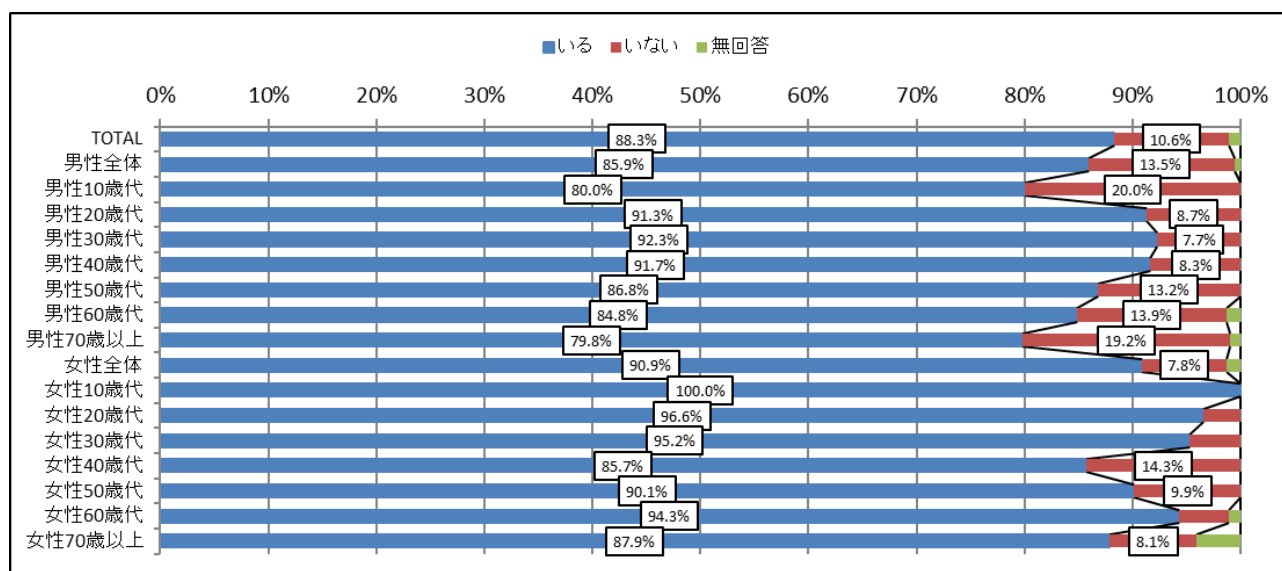
「いる」と回答した人の割合は88.3%、「いない」と回答した人の割合は10.6%となっています。

9割近くの市民に悩みごとを相談できる人がいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合は86.5%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	818	88.3%	10.6%	1.1%	100.0%
男性全体	347	85.9%	13.5%	0.6%	100.0%
男性 10 歳代	5	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	91.3%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	92.3%	7.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	91.7%	8.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	86.8%	13.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	84.8%	13.9%	1.3%	100.0%
男性 70 歳以上	99	79.8%	19.2%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	90.9%	7.8%	1.3%	100.0%
女性 10 歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	96.6%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	95.2%	4.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	85.7%	14.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	90.1%	9.9%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	94.3%	4.5%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	99	87.9%	8.1%	4.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—
深谷地区	179	83.8%	15.6%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	90.7%	9.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	84.9%	15.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	84.8%	15.2%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	90.9%	9.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	90.8%	9.2%	0.0%	100.0%
南地区	51	96.1%	3.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	89.9%	6.7%	3.4%	100.0%
川本地区	49	91.8%	6.1%	2.0%	100.0%
花園地区	81	90.1%	8.6%	1.2%	100.0%
無回答	22	68.2%	18.2%	13.6%	100.0%

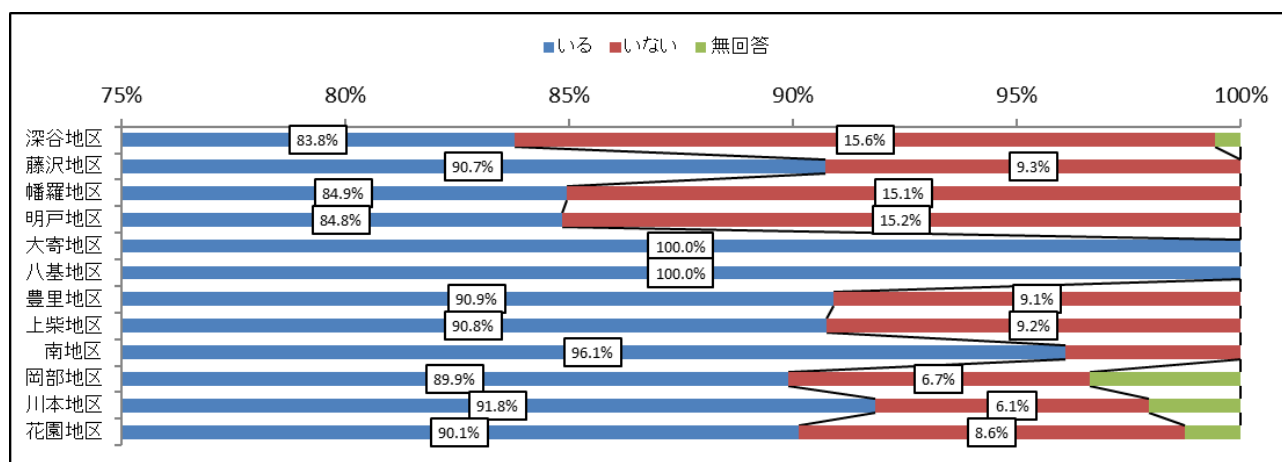
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は、男性が 85.9%であるのに対して、女性は 90.9%となっています。

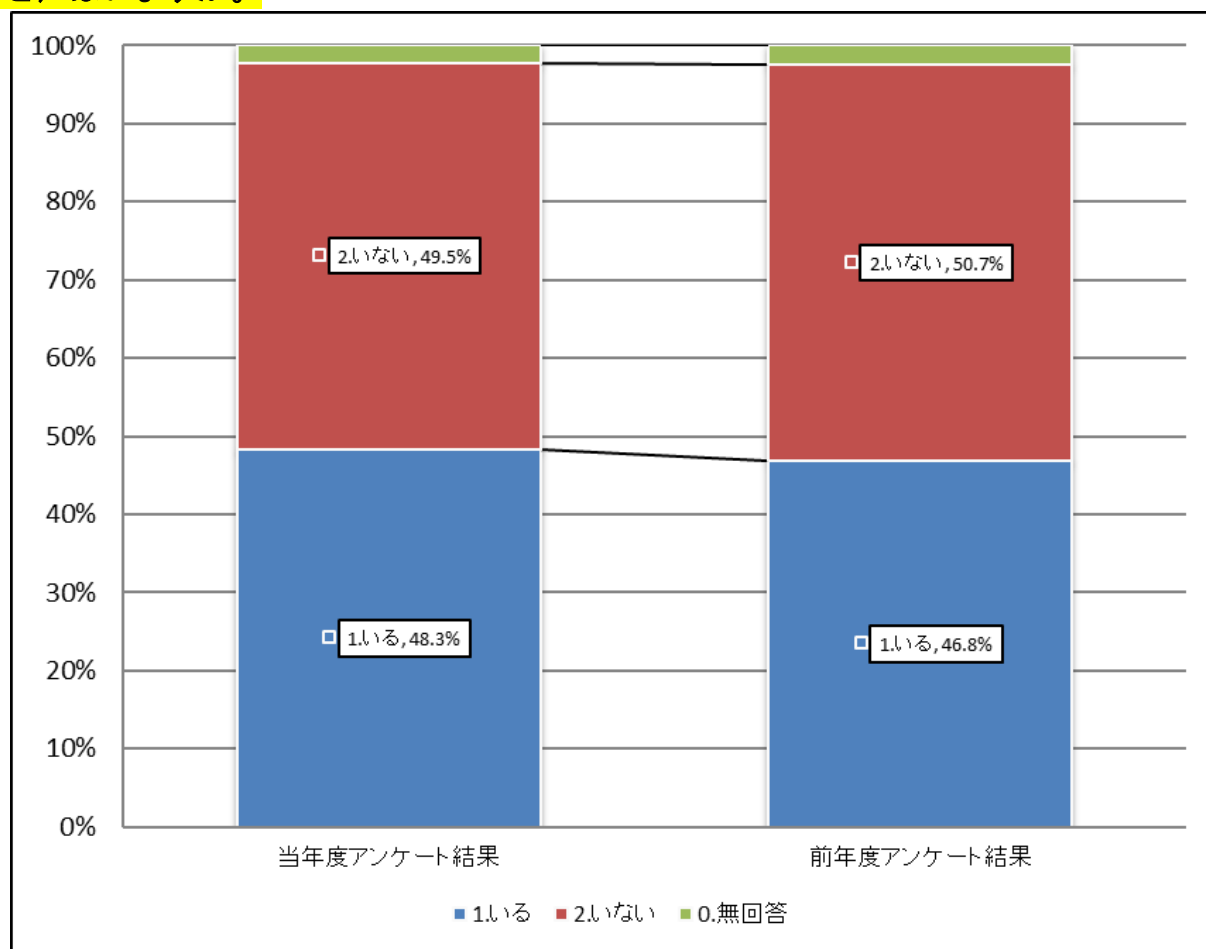
また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 70 歳以上 (79.8%)、女性 40 歳代 (85.7%) であり、一方で最も割合の多い世代は、男性 30 歳代 (92.3%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、深谷地区 (83.8%) であり、次いで明戸地区 (84.8%) となっています。最も多い地区は、大寄地区・八基地区ともに (100.0%) であり、次いで南地区 (96.1%) となっています。

日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。



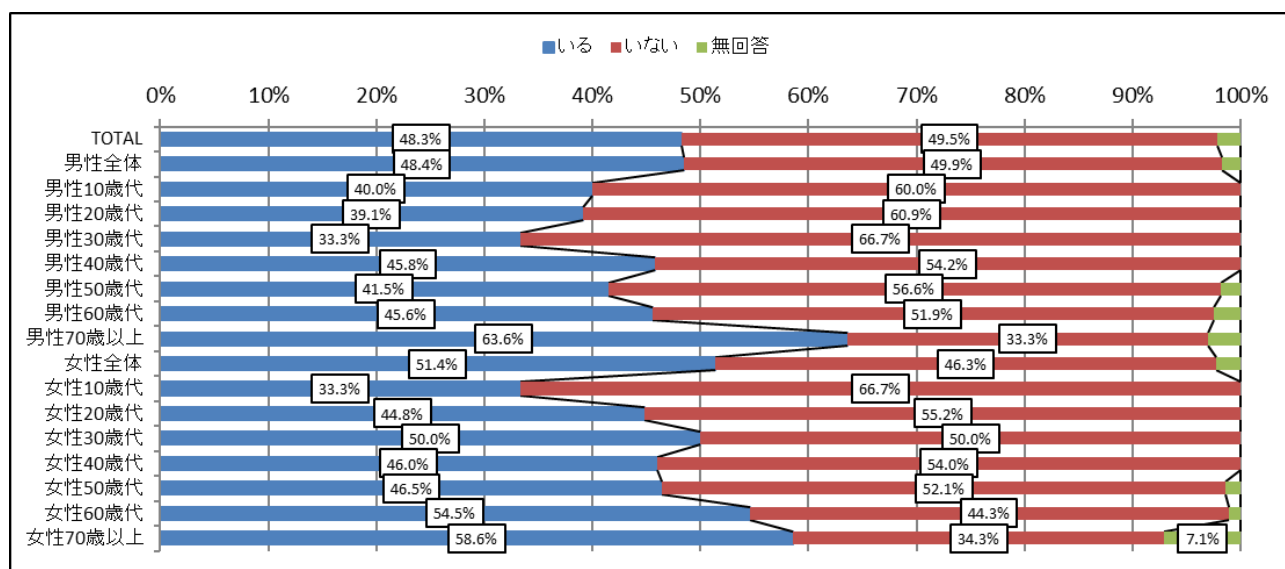
「いる」と回答した人の割合は48.3%、「いない」と回答した人の割合は49.5%となっています。

日常生活に困ったことがあった時に、手助けしてくれる人が「いる」市民は半数未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合は46.8%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	818	48.3%	49.5%	2.2%	100.0%
男性全体	347	48.4%	49.9%	1.7%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	39.1%	60.9%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	45.8%	54.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	41.5%	56.6%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	79	45.6%	51.9%	2.5%	100.0%
男性 70 歳以上	99	63.6%	33.3%	3.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	51.4%	46.3%	2.3%	100.0%
女性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	44.8%	55.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	46.0%	54.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	46.5%	52.1%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	88	54.5%	44.3%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	99	58.6%	34.3%	7.1%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—
深谷地区	179	41.9%	56.4%	1.7%	100.0%
藤沢地区	54	48.1%	51.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	43.0%	55.9%	1.1%	100.0%
明戸地区	33	57.6%	42.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	88.9%	11.1%	0.0%	100.0%
八基地区	17	88.2%	11.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	72.7%	27.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	42.0%	57.1%	0.8%	100.0%
南地区	51	45.1%	52.9%	2.0%	100.0%
岡部地区	89	52.8%	43.8%	3.4%	100.0%
川本地区	49	42.9%	49.0%	8.2%	100.0%
花園地区	81	61.7%	35.8%	2.5%	100.0%
無回答	22	22.7%	63.6%	13.6%	100.0%

➤ 性別・世代別

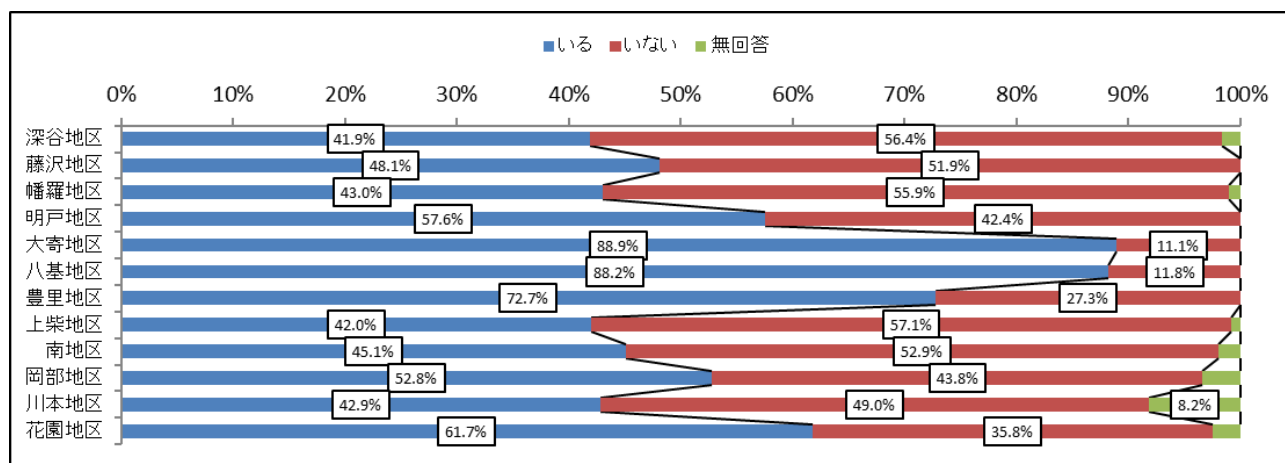


性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は、男性が 48.4%であるのに対して、女性は 51.4%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (33.3%)、女性 10 歳代 (33.3%) であり、一方で最も多い世代は、男性 70 歳以上 (63.6%)、女性 70 歳以上 (58.6%) となっています。

男性は世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



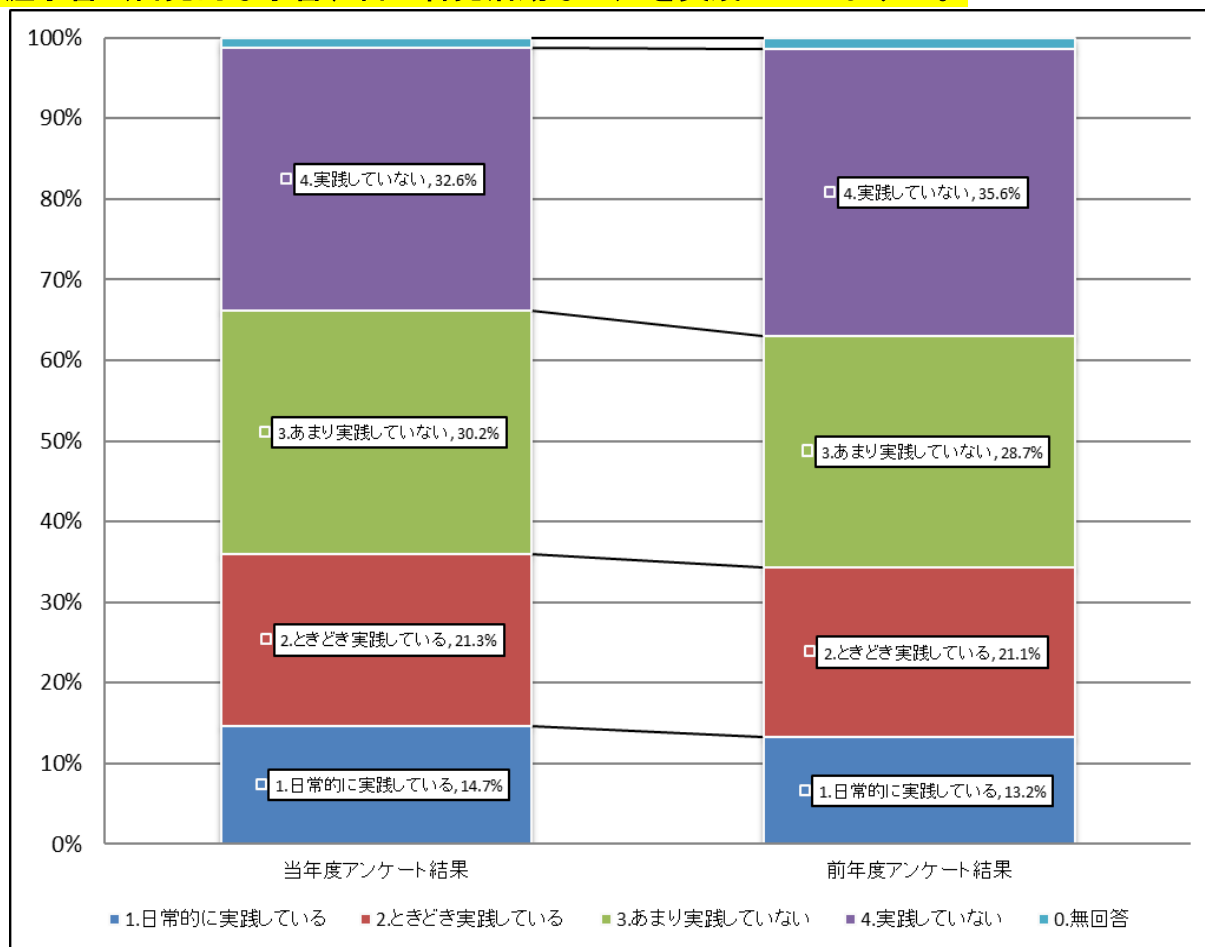
地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、深谷地区 (41.9%) であり、次いで上柴地区 (42.0%) となっています。最も多い地区は、大寄地区 (88.9%) であり、次いで八基地区 (88.2%) となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

(3) 教育・文化について

① 生涯学習の振興（3. 問1）

生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。



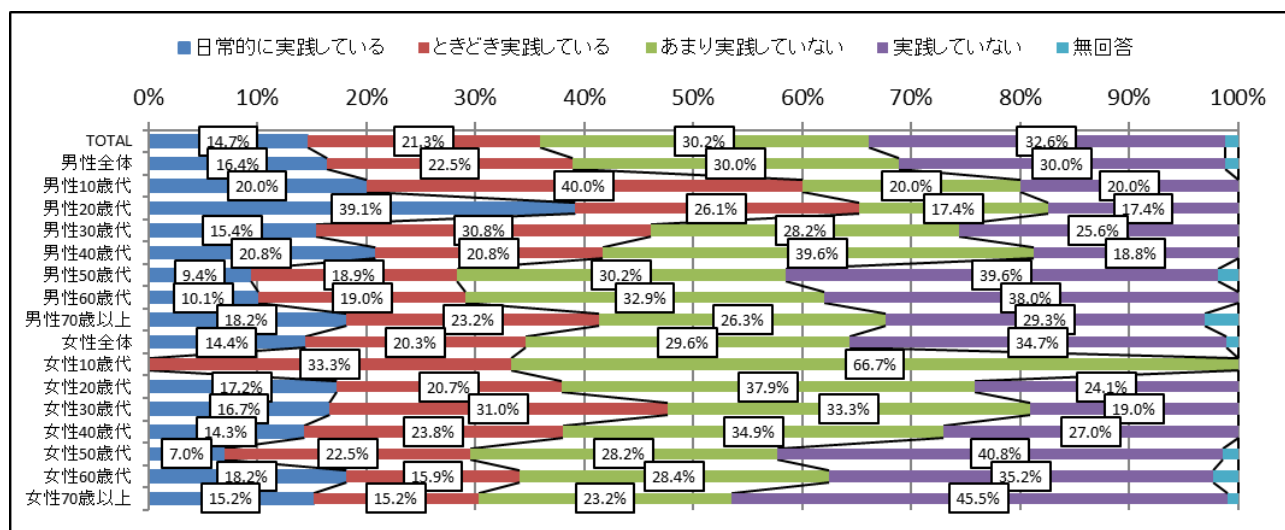
「実践していない」と回答した人の割合が 32.6%と最も多く、次いで「あまり実践していない」と回答した人の割合が 30.2%、「ときどき実践している」と回答した人の割合が 21.3%、「日常的に実践している」と回答した人の割合が最も少なく 14.7%となっています。

「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は 36.0%であり、生涯学習を実践している市民は 4 割未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は 34.3%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		日常的に実践している	ときどき実践している	あまり実践していない	実践していない	無回答	合計
TOTAL	818	14.7%	21.3%	30.2%	32.6%	1.2%	100.0%
男性全体	347	16.4%	22.5%	30.0%	30.0%	1.2%	100.0%
男性 10 歳代	5	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	39.1%	26.1%	17.4%	17.4%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	15.4%	30.8%	28.2%	25.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	20.8%	20.8%	39.6%	18.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	9.4%	18.9%	30.2%	39.6%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	79	10.1%	19.0%	32.9%	38.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	18.2%	23.2%	26.3%	29.3%	3.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	14.4%	20.3%	29.6%	34.7%	1.0%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	17.2%	20.7%	37.9%	24.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	16.7%	31.0%	33.3%	19.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	14.3%	23.8%	34.9%	27.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	7.0%	22.5%	28.2%	40.8%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	88	18.2%	15.9%	28.4%	35.2%	2.3%	100.0%
女性 70 歳以上	99	15.2%	15.2%	23.2%	45.5%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	14.5%	19.6%	30.7%	34.1%	1.1%	100.0%
藤沢地区	54	14.8%	18.5%	25.9%	38.9%	1.9%	100.0%
幡羅地区	93	12.9%	18.3%	29.0%	39.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	9.1%	21.2%	24.2%	45.5%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	22.2%	22.2%	22.2%	33.3%	0.0%	100.0%
八基地区	17	11.8%	5.9%	58.8%	23.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	13.6%	22.7%	31.8%	31.8%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	16.0%	28.6%	25.2%	30.3%	0.0%	100.0%
南地区	51	7.8%	25.5%	39.2%	25.5%	2.0%	100.0%
岡部地区	89	15.7%	20.2%	32.6%	30.3%	1.1%	100.0%
川本地区	49	26.5%	12.2%	24.5%	34.7%	2.0%	100.0%
花園地区	81	17.3%	29.6%	30.9%	19.8%	2.5%	100.0%
無回答	22	0.0%	9.1%	36.4%	45.5%	9.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

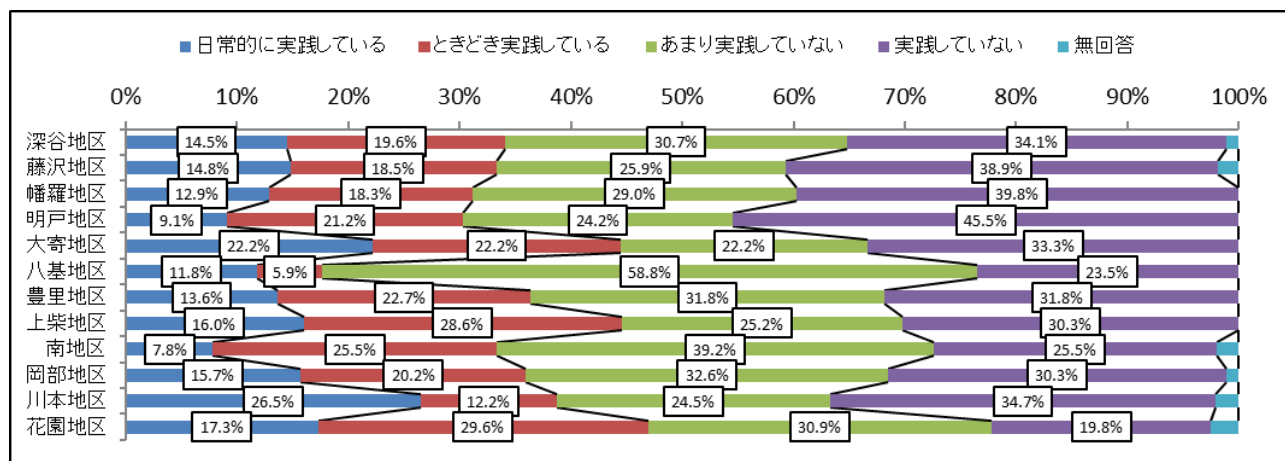


性別・世代別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は、男性が 38.9%であるのに対して、女性は 34.7%となっています。

また、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 50 歳代 (28.3%)、女性 50 歳代 (29.5%) であり、一方で最も多い世代は、男性 20 歳代 (65.2%)、女性 30 歳代 (47.7%) となっています。

男性は世代によって差があることがうかがえます。

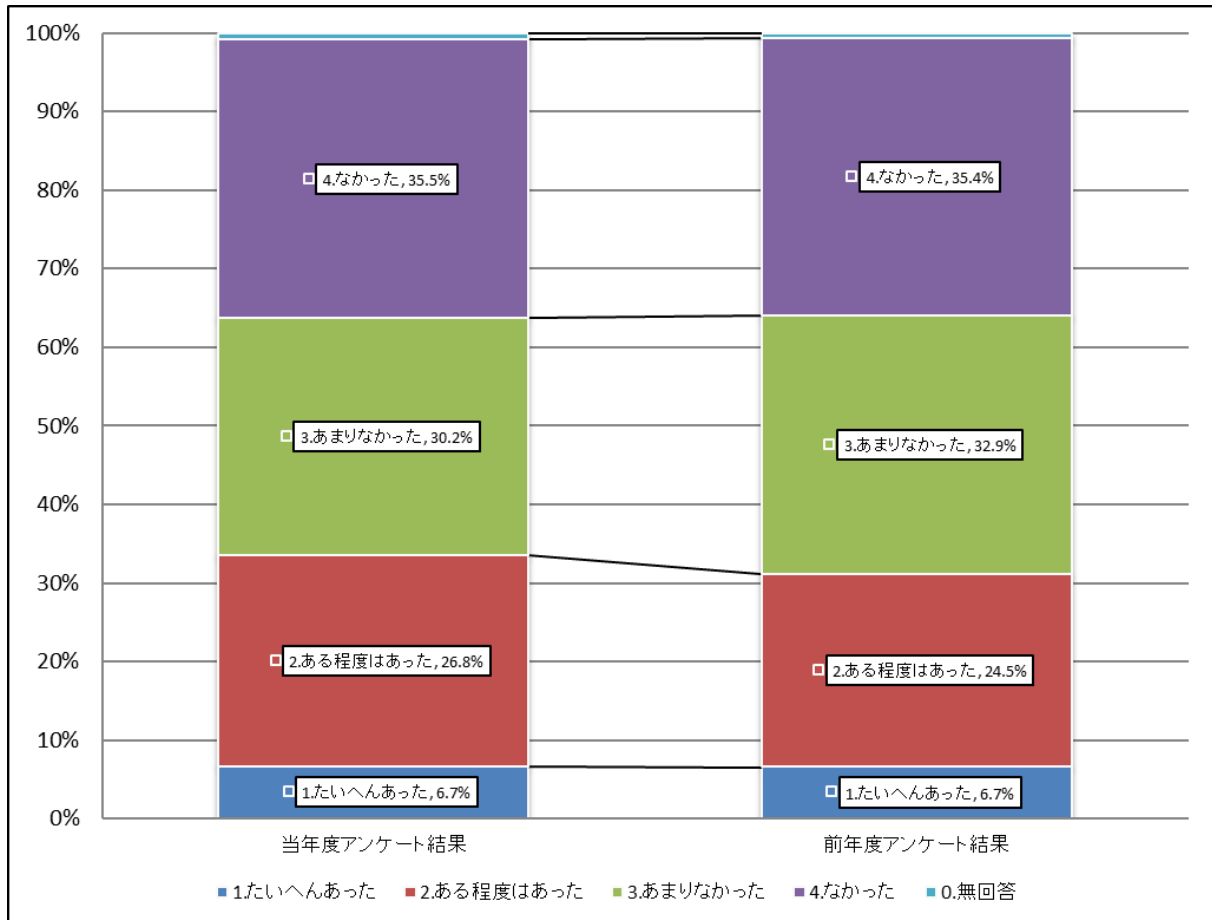
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区 (17.7%) であり、次いで明戸地区 (30.3%) となっています。最も多いのは、花園地区 (46.9%) であり、次いで上柴地区 (44.6%) となっています。

② 文化の振興（３．問２）

この１年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。



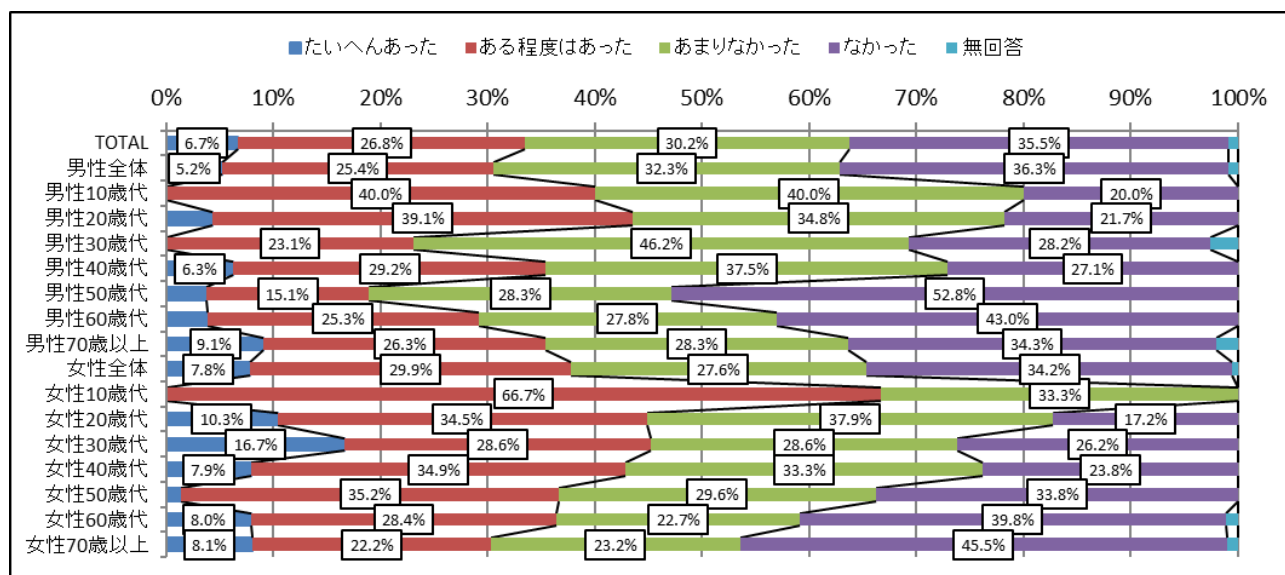
「なかった」と回答した人の割合が 35.5%と最も多く、次いで「あまりなかった」と回答した人の割合が 30.2%、「ある程度はあった」と回答した人の割合が 26.8%、「たいへんあった」と回答した人の割合が最も少なく 6.7%となっています。

「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は 33.5%であり、この１年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があった市民は約３割にとどまっているという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は 31.2%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		たいへんあった	ある程度はあった	あまりなかった	なかった	無回答	合計
TOTAL	818	6.7%	26.8%	30.2%	35.5%	0.9%	100.0%
男性全体	347	5.2%	25.4%	32.3%	36.3%	0.9%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	4.3%	39.1%	34.8%	21.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	0.0%	23.1%	46.2%	28.2%	2.6%	100.0%
男性 40 歳代	48	6.3%	29.2%	37.5%	27.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	3.8%	15.1%	28.3%	52.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	3.8%	25.3%	27.8%	43.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	9.1%	26.3%	28.3%	34.3%	2.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	7.8%	29.9%	27.6%	34.2%	0.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	10.3%	34.5%	37.9%	17.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	16.7%	28.6%	28.6%	26.2%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	7.9%	34.9%	33.3%	23.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	1.4%	35.2%	29.6%	33.8%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	8.0%	28.4%	22.7%	39.8%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	99	8.1%	22.2%	23.2%	45.5%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	6.1%	26.3%	27.4%	39.1%	1.1%	100.0%
藤沢地区	54	7.4%	33.3%	25.9%	33.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	6.5%	24.7%	24.7%	44.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	9.1%	12.1%	36.4%	42.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	11.1%	22.2%	44.4%	22.2%	0.0%	100.0%
八基地区	17	5.9%	17.6%	41.2%	35.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	9.1%	18.2%	36.4%	36.4%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	9.2%	27.7%	31.9%	31.1%	0.0%	100.0%
南地区	51	9.8%	29.4%	31.4%	29.4%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	7.9%	27.0%	29.2%	34.8%	1.1%	100.0%
川本地区	49	2.0%	30.6%	22.4%	44.9%	0.0%	100.0%
花園地区	81	3.7%	33.3%	40.7%	19.8%	2.5%	100.0%
無回答	22	0.0%	18.2%	27.3%	45.5%	9.1%	100.0%

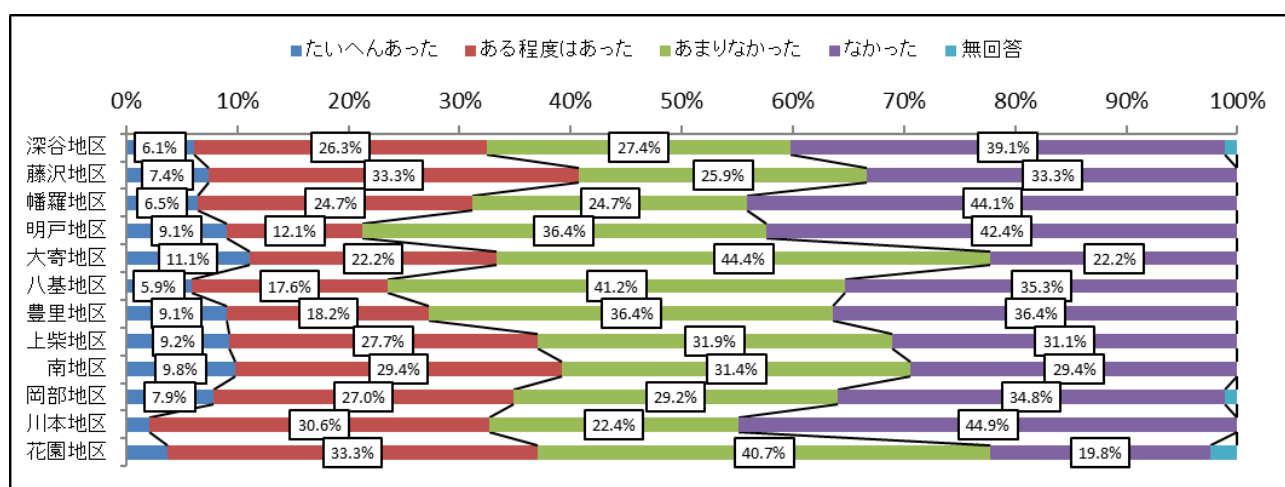
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は、男性が30.6%であるのに対して、女性は37.7%となっています。

また、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性50歳代（18.9%）、女性70歳以上（30.3%）であり、一方で最も多い世代は、男性20歳代（43.4%）、女性10歳代（66.7%）となっています。

➤ 地区別



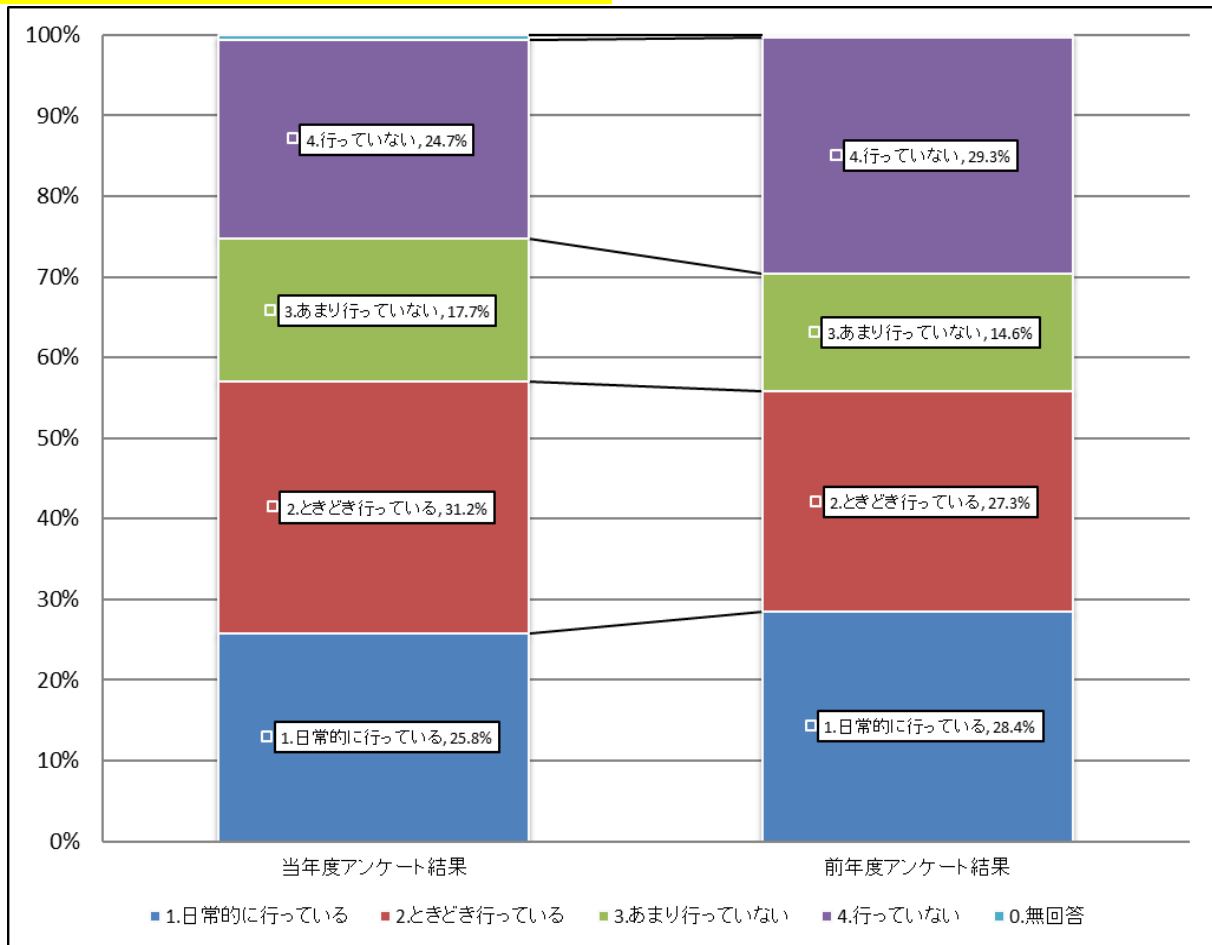
地区別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、明戸地区（21.2%）であり、次いで八基地区（23.5%）となっています。最も多いのは、藤沢地区（40.7%）であり、次いで南地区（39.2%）となっています。

③ スポーツの振興（3. 問3）

スポーツやレクリエーションをどの程度行っていますか。

※スポーツ・レクリエーション活動は、以下のような活動も含まれます。

散歩・ウォーキング、ジョギング・ランニング、軽い体操、筋力トレーニング、ヨガ、ゲートボール、フォークダンス、民謡踊りなど



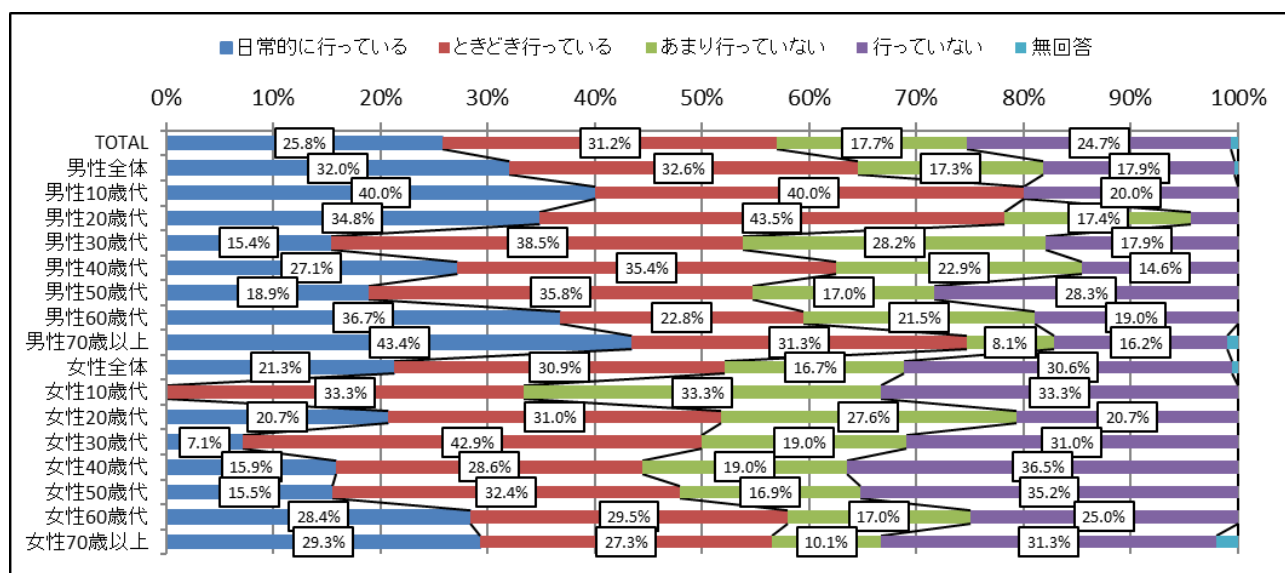
「ときどき行っている」と回答した人の割合が 31.2%と最も多く、次いで、「日常的に行っている」と回答した人の割合が 25.8%、「行っていない」と回答した人の割合が 24.7%、「あまり行っていない」と回答した人の割合が最も少なく 17.7%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」とした人の割合の合計は 57.0%であり、6 割近くの市民がスポーツやレクリエーション活動を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」とした人の割合の合計は 55.7%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	818	25.8%	31.2%	17.7%	24.7%	0.6%	100.0%
男性全体	347	32.0%	32.6%	17.3%	17.9%	0.3%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	34.8%	43.5%	17.4%	4.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	15.4%	38.5%	28.2%	17.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	27.1%	35.4%	22.9%	14.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	18.9%	35.8%	17.0%	28.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	36.7%	22.8%	21.5%	19.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	43.4%	31.3%	8.1%	16.2%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	21.3%	30.9%	16.7%	30.6%	0.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	20.7%	31.0%	27.6%	20.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	7.1%	42.9%	19.0%	31.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	15.9%	28.6%	19.0%	36.5%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	15.5%	32.4%	16.9%	35.2%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	28.4%	29.5%	17.0%	25.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	29.3%	27.3%	10.1%	31.3%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	24.6%	28.5%	21.8%	25.1%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	16.7%	31.5%	16.7%	35.2%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	17.2%	34.4%	21.5%	26.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	27.3%	33.3%	15.2%	24.2%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	33.3%	22.2%	22.2%	22.2%	0.0%	100.0%
八基地区	17	29.4%	23.5%	23.5%	23.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	13.6%	36.4%	22.7%	27.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	33.6%	35.3%	12.6%	18.5%	0.0%	100.0%
南地区	51	33.3%	27.5%	11.8%	27.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	29.2%	32.6%	15.7%	21.3%	1.1%	100.0%
川本地区	49	24.5%	30.6%	18.4%	26.5%	0.0%	100.0%
花園地区	81	29.6%	32.1%	13.6%	23.5%	1.2%	100.0%
無回答	22	13.6%	18.2%	27.3%	27.3%	13.6%	100.0%

➤ 性別・世代別

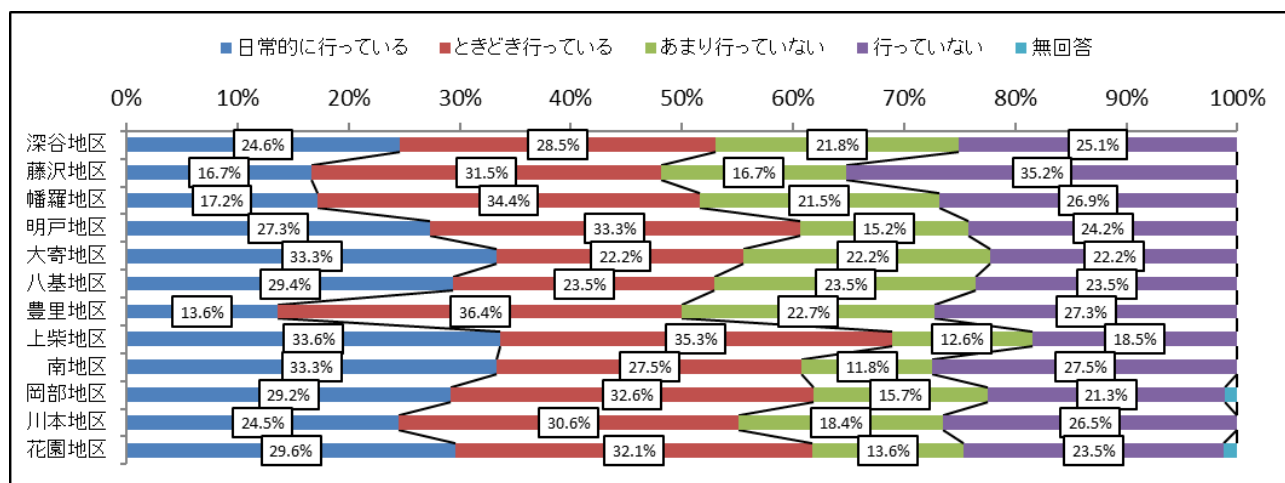


性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、男性が64.6%であるのに対して、女性は52.2%となっています。

また、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性30歳代（53.9%）、女性10歳代（33.3%）であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代（80.0%）、女性60歳代（57.9%）となっています。

男女によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別

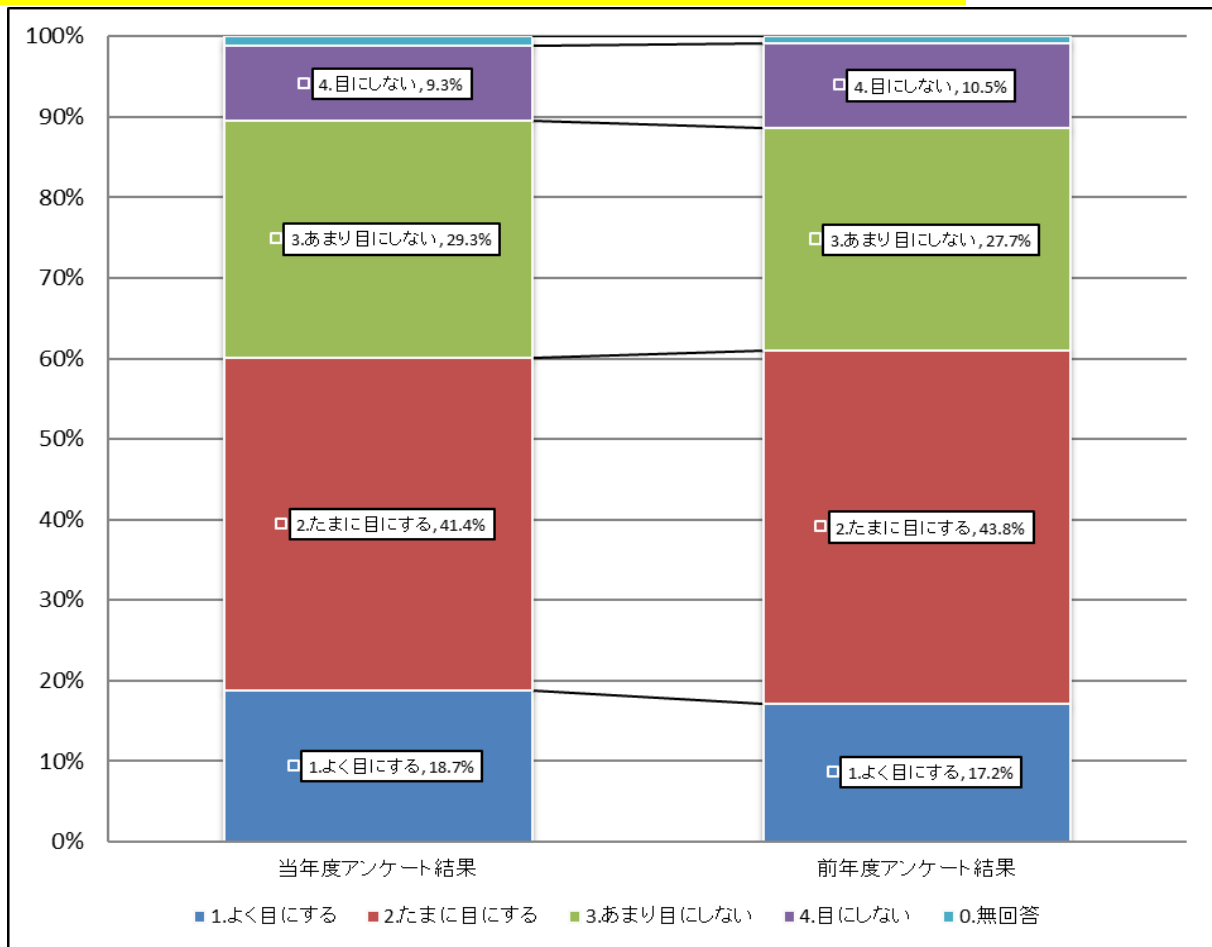


地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、藤沢地区（48.2%）であり、次いで豊里地区（50.0%）となっています。最も多い地区は、上柴地区（68.9%）であり、次いで岡部地区（61.8%）となっています。

(4) 産業振興について

① 全国に誇る農業の振興（4. 問1～2）

市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。



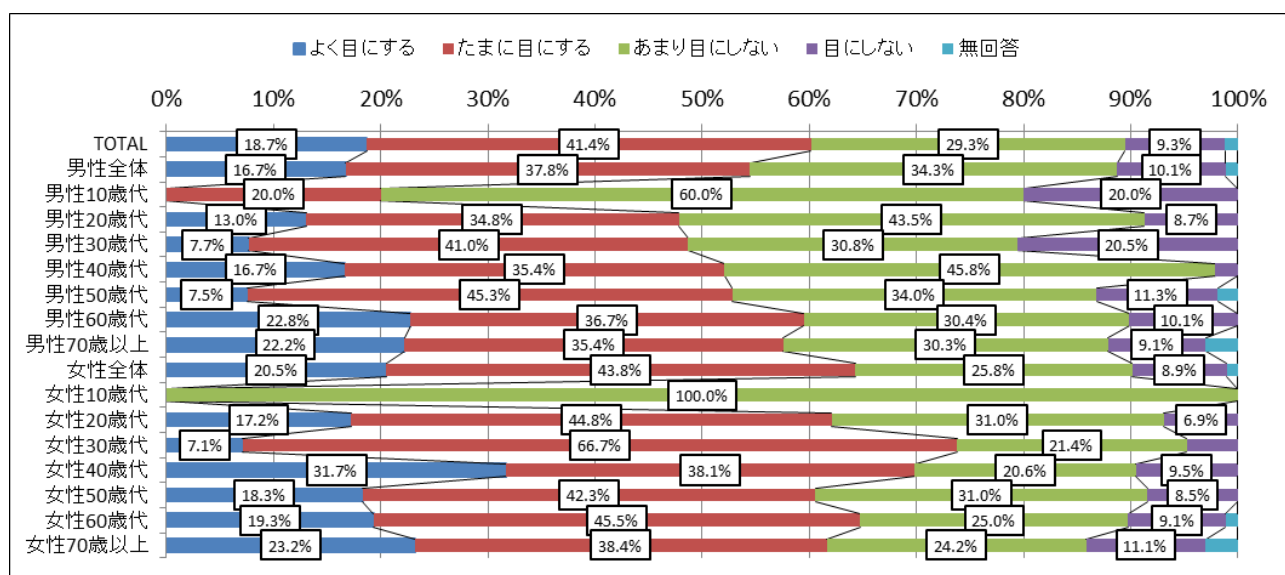
「たまに目にする」と回答した人の割合が 41.4%と最も多く、次いで「あまり目にしない」と回答した人の割合が 29.3%、「よく目にする」と回答した人の割合が 18.7%、「目にしない」と回答した人の割合が最も少なく 9.3%となっています。

「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は 60.1%であり、6 割の市民が市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にしていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は 61.0%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		よく目にする	たまに目にする	あまり目に見えない	目にしない	無回答	合計
TOTAL	818	18.7%	41.4%	29.3%	9.3%	1.2%	100.0%
男性全体	347	16.7%	37.8%	34.3%	10.1%	1.2%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	13.0%	34.8%	43.5%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	7.7%	41.0%	30.8%	20.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	16.7%	35.4%	45.8%	2.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	7.5%	45.3%	34.0%	11.3%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	79	22.8%	36.7%	30.4%	10.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	22.2%	35.4%	30.3%	9.1%	3.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	20.5%	43.8%	25.8%	8.9%	1.0%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	17.2%	44.8%	31.0%	6.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	7.1%	66.7%	21.4%	4.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	31.7%	38.1%	20.6%	9.5%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	18.3%	42.3%	31.0%	8.5%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	19.3%	45.5%	25.0%	9.1%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	99	23.2%	38.4%	24.2%	11.1%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	21.2%	38.0%	29.6%	10.1%	1.1%	100.0%
藤沢地区	54	16.7%	29.6%	46.3%	7.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	8.6%	55.9%	26.9%	8.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	15.2%	63.6%	15.2%	6.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	22.2%	55.6%	11.1%	11.1%	0.0%	100.0%
八基地区	17	11.8%	11.8%	52.9%	17.6%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	18.2%	36.4%	36.4%	9.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	21.8%	40.3%	26.9%	10.9%	0.0%	100.0%
南地区	51	21.6%	51.0%	13.7%	9.8%	3.9%	100.0%
岡部地区	89	18.0%	48.3%	21.3%	11.2%	1.1%	100.0%
川本地区	49	18.4%	32.7%	38.8%	10.2%	0.0%	100.0%
花園地区	81	24.7%	32.1%	37.0%	4.9%	1.2%	100.0%
無回答	22	13.6%	36.4%	31.8%	4.5%	13.6%	100.0%

➤ 性別・世代別

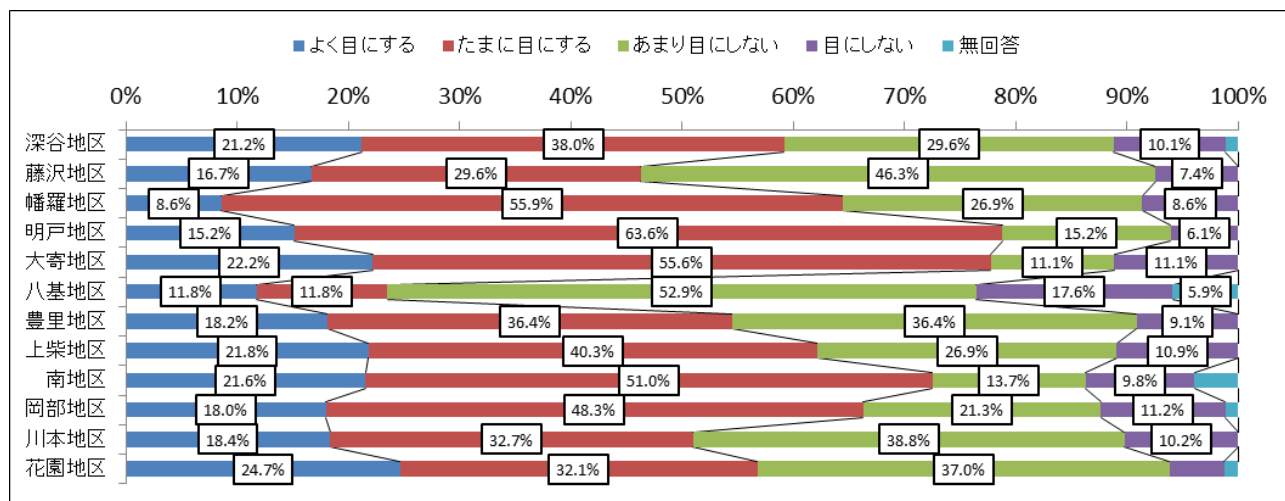


性別・世代別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は、男性が54.5%であるのに対して、女性は64.3%となっています。

また、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性10歳代（20.0%）、女性10歳代（0.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性60歳代（59.5%）、女性30歳代（73.8%）となっています。

男女によって差があることがうかがえます。

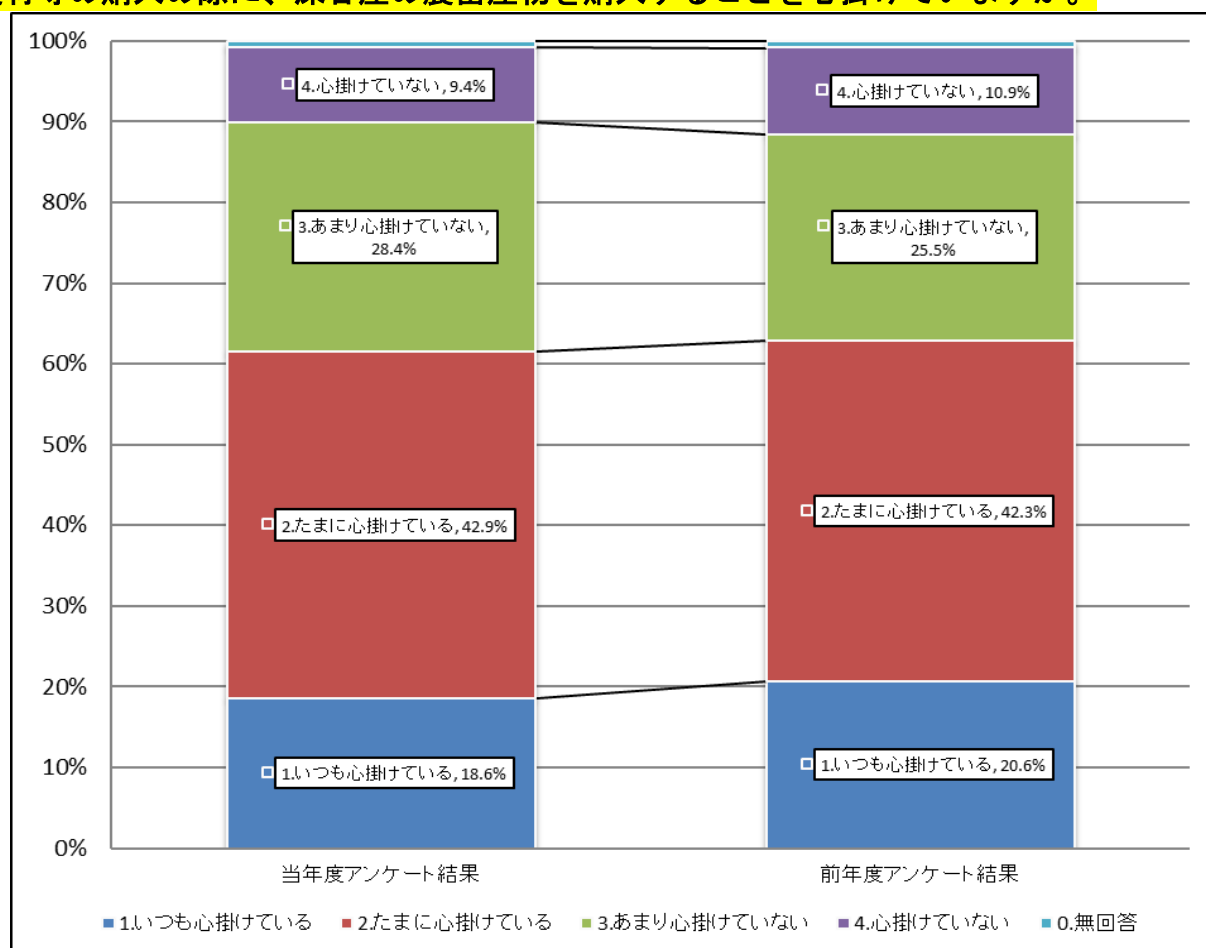
➤ 地区別



地区別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区（23.6%）であり、次いで藤沢地区（46.3%）となっています。最も多いのは明戸地区（78.8%）であり、次いで大寄地区（77.8%）となっています。

地区によって大きな差があることがうかがえます。

食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。



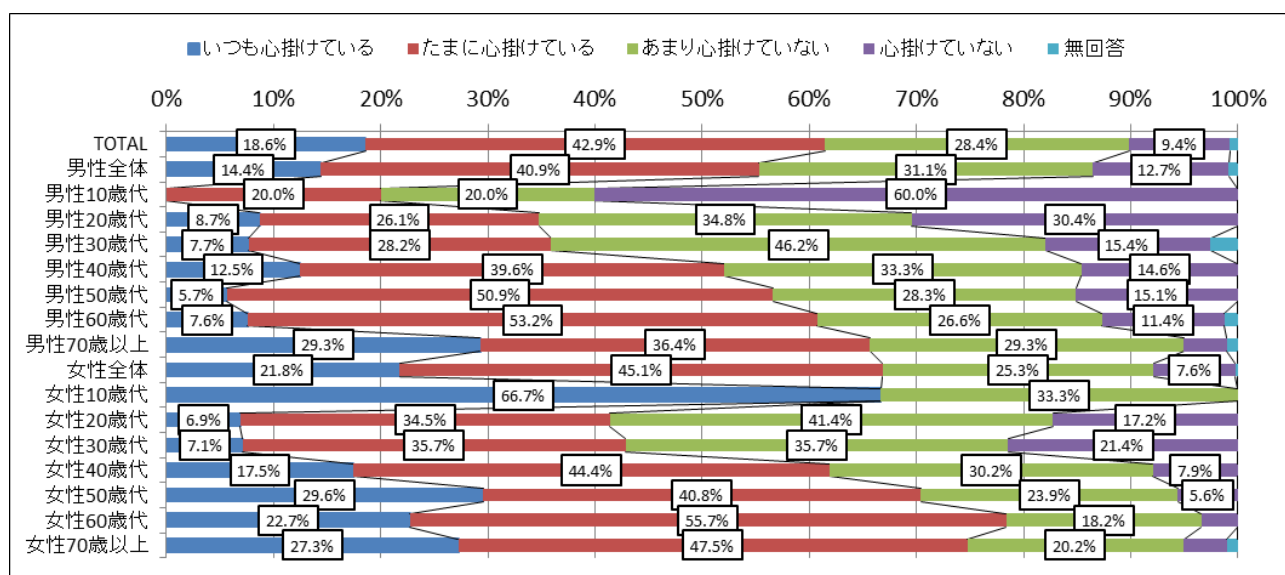
「たまに心掛けています」と回答した人の割合が 42.9%と最も多く、次いで「あまり心掛けていない」と回答した人の割合が 28.4%、「いつも心掛けています」と回答した人の割合が 18.6%、「心掛けていない」と回答した人の割合が最も少なく 9.4%となっています。

「いつも心掛けています」または「たまに心掛けています」と回答した人の割合の合計は 61.5%であり、6 割以上の市民が食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いつも心掛けています」または「たまに心掛けています」と回答した人の割合の合計は 62.9%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		いつも心掛けている	たまに心掛けている	あまり心掛けていない	心掛けていない	無回答	合計
TOTAL	818	18.6%	42.9%	28.4%	9.4%	0.7%	100.0%
男性全体	347	14.4%	40.9%	31.1%	12.7%	0.9%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	8.7%	26.1%	34.8%	30.4%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	7.7%	28.2%	46.2%	15.4%	2.6%	100.0%
男性 40 歳代	48	12.5%	39.6%	33.3%	14.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	5.7%	50.9%	28.3%	15.1%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	7.6%	53.2%	26.6%	11.4%	1.3%	100.0%
男性 70 歳以上	99	29.3%	36.4%	29.3%	4.0%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	21.8%	45.1%	25.3%	7.6%	0.3%	100.0%
女性 10 歳代	3	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	6.9%	34.5%	41.4%	17.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	7.1%	35.7%	35.7%	21.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	17.5%	44.4%	30.2%	7.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	29.6%	40.8%	23.9%	5.6%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	22.7%	55.7%	18.2%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	27.3%	47.5%	20.2%	4.0%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	21.2%	39.1%	28.5%	11.2%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	18.5%	48.1%	27.8%	5.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	12.9%	38.7%	33.3%	15.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	24.2%	57.6%	15.2%	3.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	33.3%	33.3%	11.1%	22.2%	0.0%	100.0%
八基地区	17	17.6%	35.3%	29.4%	17.6%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	18.2%	31.8%	31.8%	18.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	16.8%	49.6%	22.7%	10.9%	0.0%	100.0%
南地区	51	29.4%	41.2%	29.4%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	14.6%	51.7%	23.6%	7.9%	2.2%	100.0%
川本地区	49	16.3%	38.8%	32.7%	12.2%	0.0%	100.0%
花園地区	81	16.0%	40.7%	37.0%	3.7%	2.5%	100.0%
無回答	22	22.7%	27.3%	36.4%	4.5%	9.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

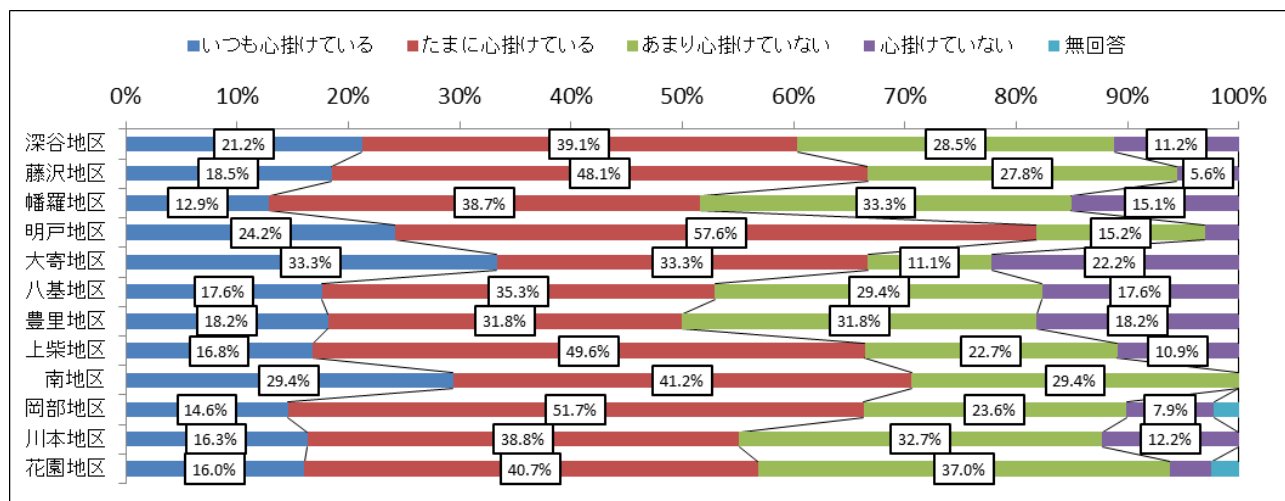


性別・世代別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は、男性が55.3%であるのに対して、女性は66.9%となっています。

また、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性10歳代（20.0%）、女性20歳代（41.4%）であり、一方で最も多い世代は、男性70歳以上（65.7%）、女性60歳代（78.4%）となっています。

男女や、世代によって差があることがうかがえます。

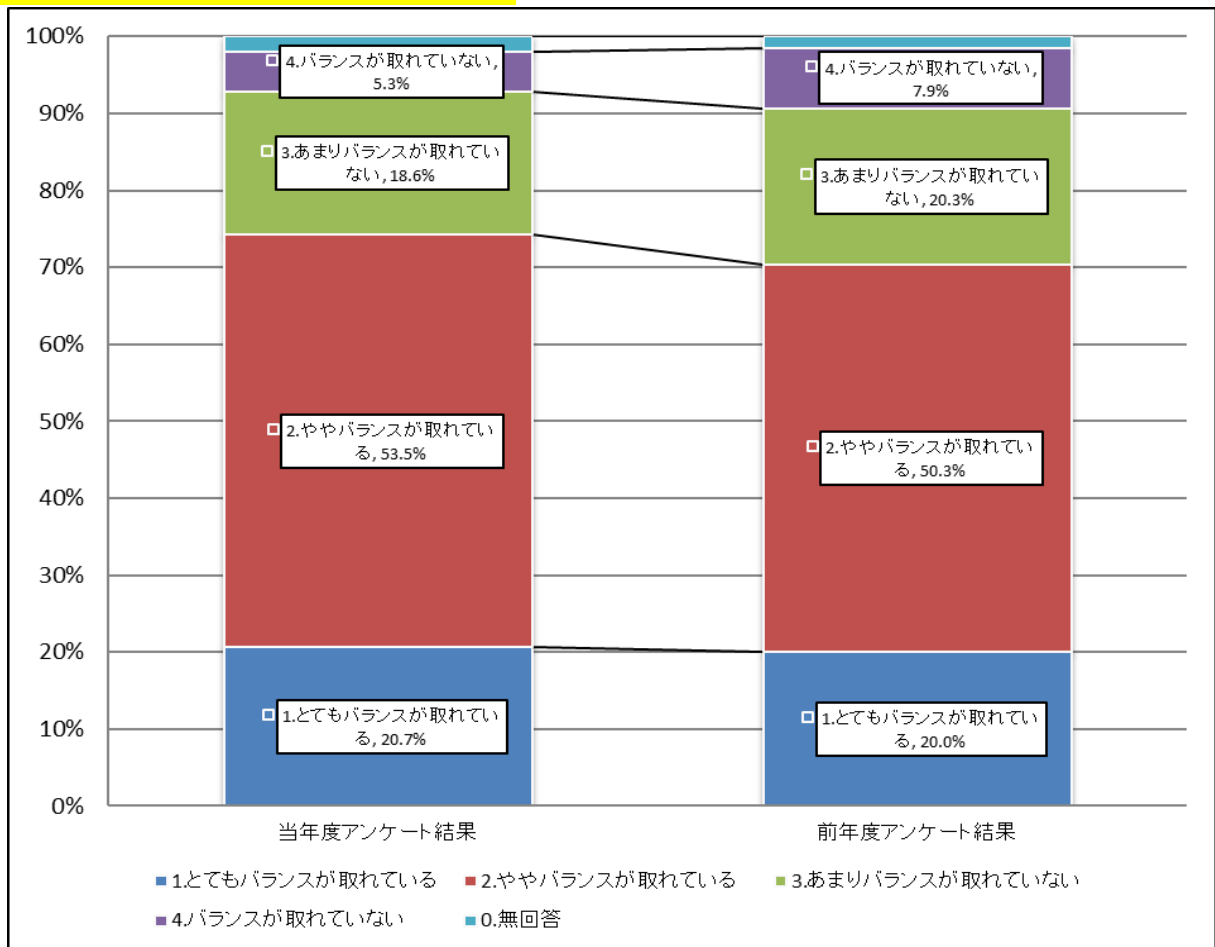
➤ 地区別



地区別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、豊里地区（50.0%）であり、次いで幡羅地区（51.6%）となっています。最も多いのは明戸地区（81.8%）であり、次いで南地区（70.6%）となっています。

② 雇用の創出・安定と勤労者への支援（4. 問3）

ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか）。



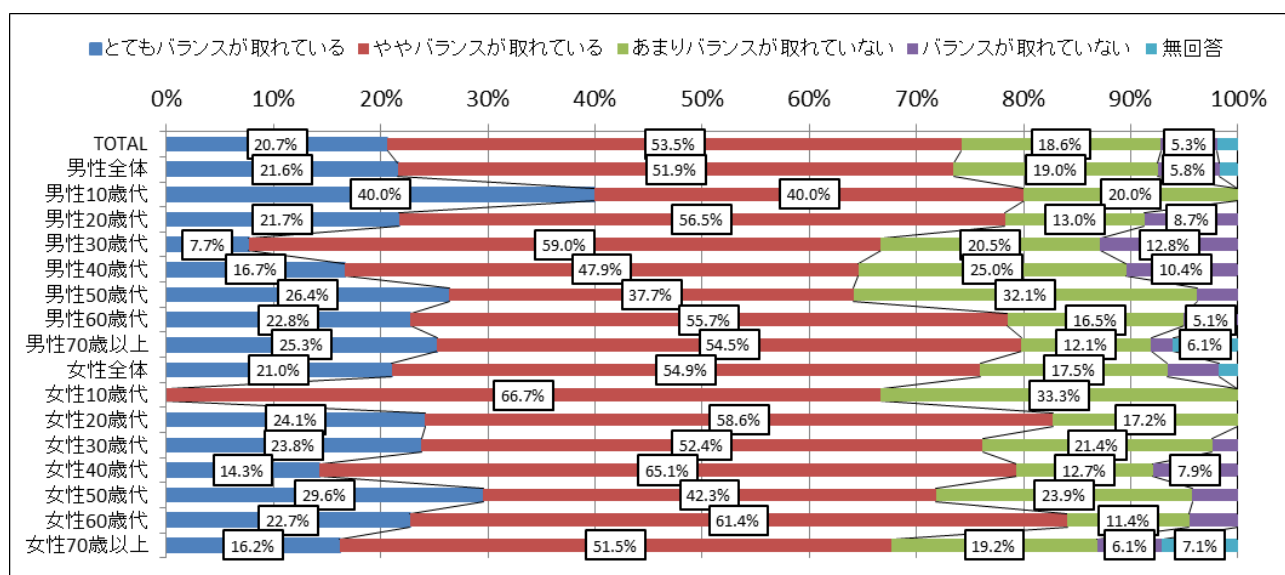
「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が 53.5%と最も多く、次いで「とてもバランスが取れている」と回答した人の割合が 20.7%、「あまりバランスが取れていない」と回答した人の割合が 18.6%、「バランスが取れていない」と回答した人の割合が最も少なく 5.3%となっています。

「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計は 74.2%であり、7 割以上の市民が、ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスが取れていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計は 70.3%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		とても バランスが 取れている	やや バランスが 取れている	あまり バランスが 取れていない	バランスが 取れていない	無回答	合計
TOTAL	818	20.7%	53.5%	18.6%	5.3%	2.0%	100.0%
男性全体	347	21.6%	51.9%	19.0%	5.8%	1.7%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	21.7%	56.5%	13.0%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	7.7%	59.0%	20.5%	12.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	16.7%	47.9%	25.0%	10.4%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	26.4%	37.7%	32.1%	3.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	22.8%	55.7%	16.5%	5.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	25.3%	54.5%	12.1%	2.0%	6.1%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	21.0%	54.9%	17.5%	4.8%	1.8%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	24.1%	58.6%	17.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	23.8%	52.4%	21.4%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	14.3%	65.1%	12.7%	7.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	29.6%	42.3%	23.9%	4.2%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	22.7%	61.4%	11.4%	4.5%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	16.2%	51.5%	19.2%	6.1%	7.1%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	22.3%	53.6%	16.2%	6.1%	1.7%	100.0%
藤沢地区	54	20.4%	57.4%	18.5%	1.9%	1.9%	100.0%
幡羅地区	93	15.1%	59.1%	19.4%	6.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	36.4%	42.4%	15.2%	6.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	22.2%	44.4%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	11.8%	41.2%	41.2%	0.0%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	27.3%	50.0%	22.7%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	16.8%	57.1%	21.0%	5.0%	0.0%	100.0%
南地区	51	19.6%	56.9%	19.6%	0.0%	3.9%	100.0%
岡部地区	89	18.0%	57.3%	15.7%	6.7%	2.2%	100.0%
川本地区	49	26.5%	51.0%	10.2%	10.2%	2.0%	100.0%
花園地区	81	24.7%	49.4%	18.5%	2.5%	4.9%	100.0%
無回答	22	13.6%	31.8%	27.3%	18.2%	9.1%	100.0%

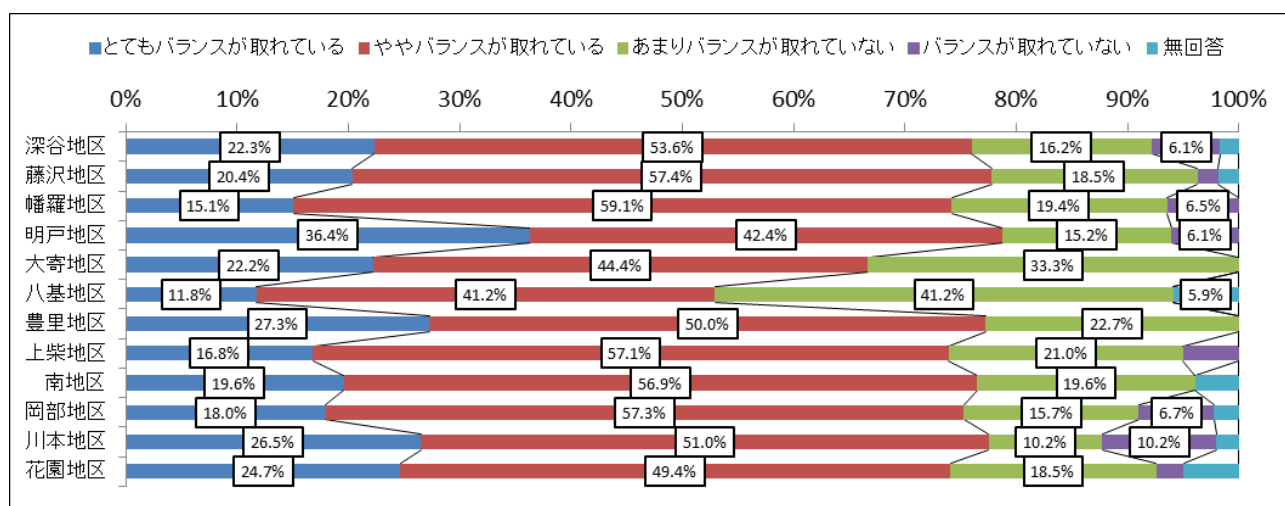
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計は、男性が 73.5%であるのに対して、女性は 75.9%となっています。

また、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 50 歳代 (64.1%)、女性 10 歳代 (66.7%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (80.0%)、女性 60 歳代 (84.1%) となっています。

➤ 地区別

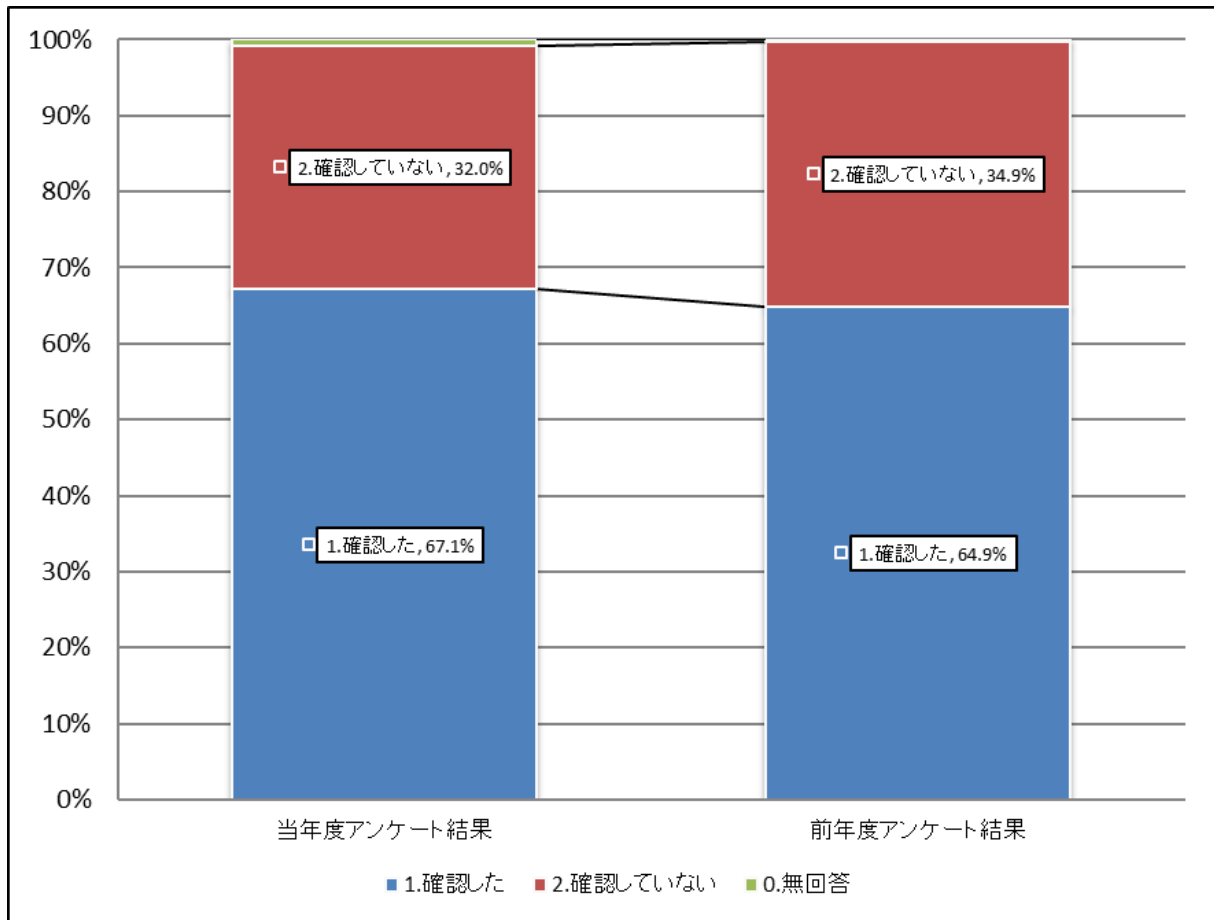


地区別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区 (53.0%) であり、次いで大寄地区 (66.6%) となっています。最も多いのは明戸地区 (78.8%) であり、次いで藤沢地区 (77.8%) となっています。

(5) 暮らし・環境について

① 防災対策の推進（5. 問1～2）

ハザードマップで自宅等の災害の危険性（自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど）について確認しましたか。



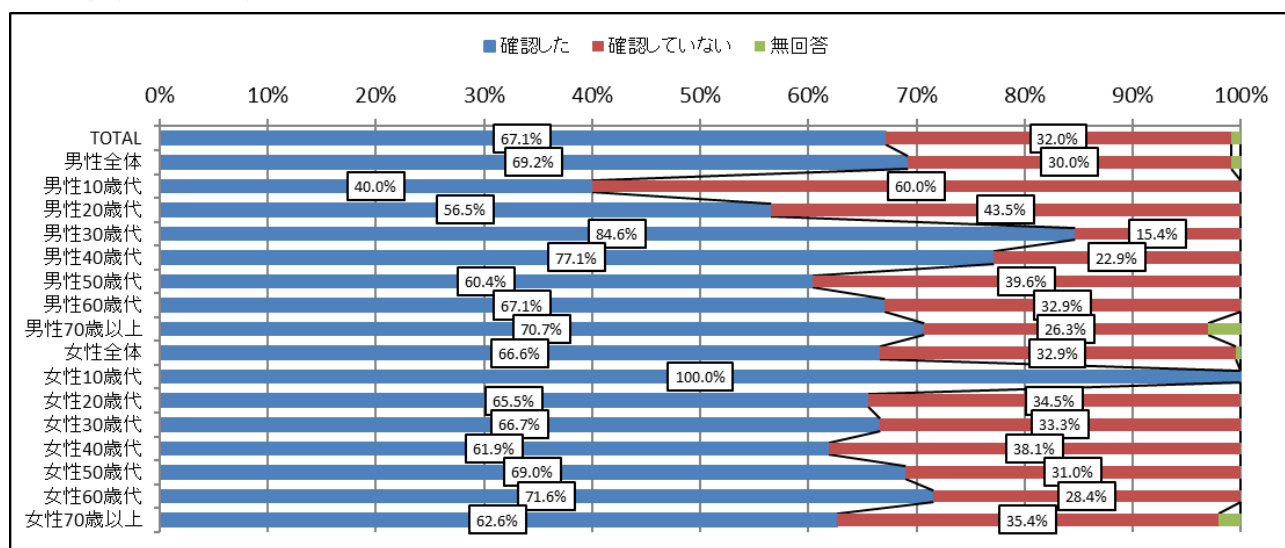
「確認した」と回答した人の割合が 67.1%、「確認していない」と回答した人の割合が 32.0%となっています。

7 割近くの市民がハザードマップで自宅等の災害の危険性を確認している一方、約 3 割の市民は確認していないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「確認した」と回答した人の割合は 64.9%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		確認した	確認していない	無回答	合計
TOTAL	818	67.1%	32.0%	0.9%	100.0%
男性全体	347	69.2%	30.0%	0.9%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	56.5%	43.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	84.6%	15.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	77.1%	22.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	60.4%	39.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	67.1%	32.9%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	70.7%	26.3%	3.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	66.6%	32.9%	0.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	65.5%	34.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	61.9%	38.1%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	69.0%	31.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	71.6%	28.4%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	62.6%	35.4%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—
深谷地区	179	67.0%	33.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	68.8%	31.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
八基地区	17	82.4%	17.6%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	72.7%	27.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	63.0%	37.0%	0.0%	100.0%
南地区	51	82.4%	17.6%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	68.5%	30.3%	1.1%	100.0%
川本地区	49	61.2%	36.7%	2.0%	100.0%
花園地区	81	64.2%	33.3%	2.5%	100.0%
無回答	22	50.0%	36.4%	13.6%	100.0%

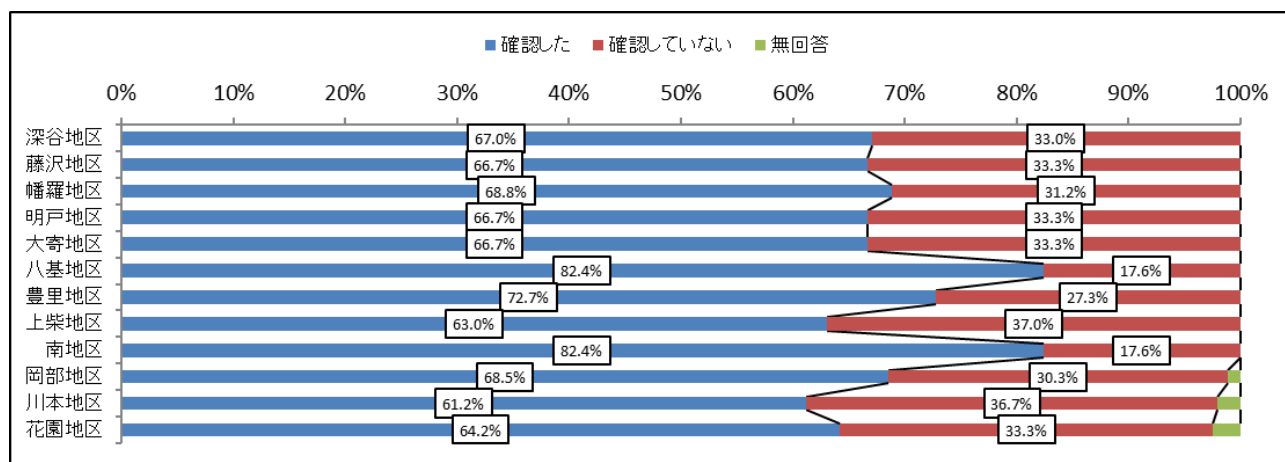
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「確認した」と回答した人の割合は、男性が 69.2%であるのに対して、女性は 66.6%となっています。

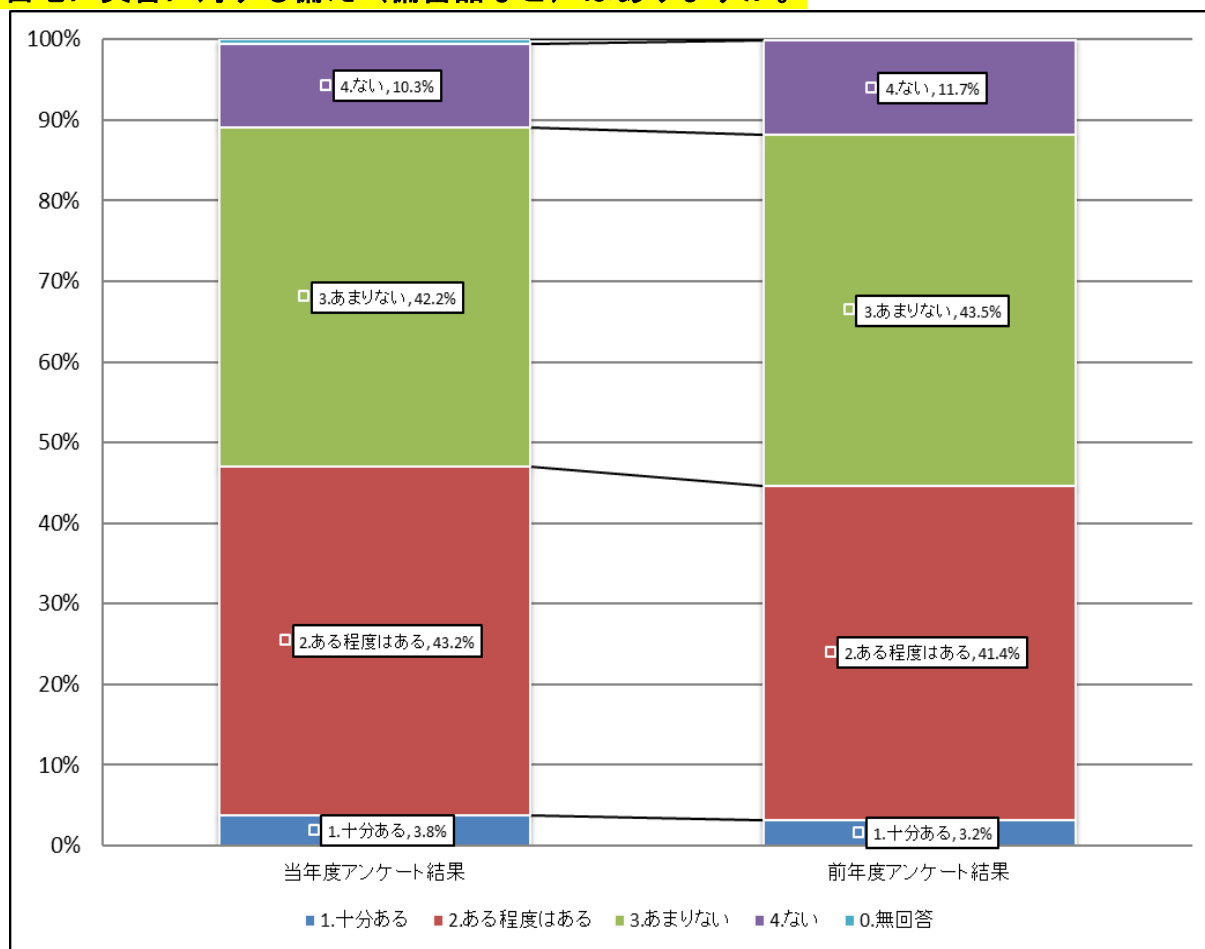
また、「確認した」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (40.0%)、女性 40 歳代 (61.9%) であり、一方で最も多い世代は、男性 30 歳代 (84.6%)、女性 10 歳以上 (100.0%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「確認した」と回答した人の割合が最も少ないのは、川本地区 (61.2%) であり、次いで上柴地区 (63.0%) となっています。最も多いのは八基地区・南地区ともに (82.4%) であり、次いで豊里地区 (72.7%) となっています。

ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はありますか。



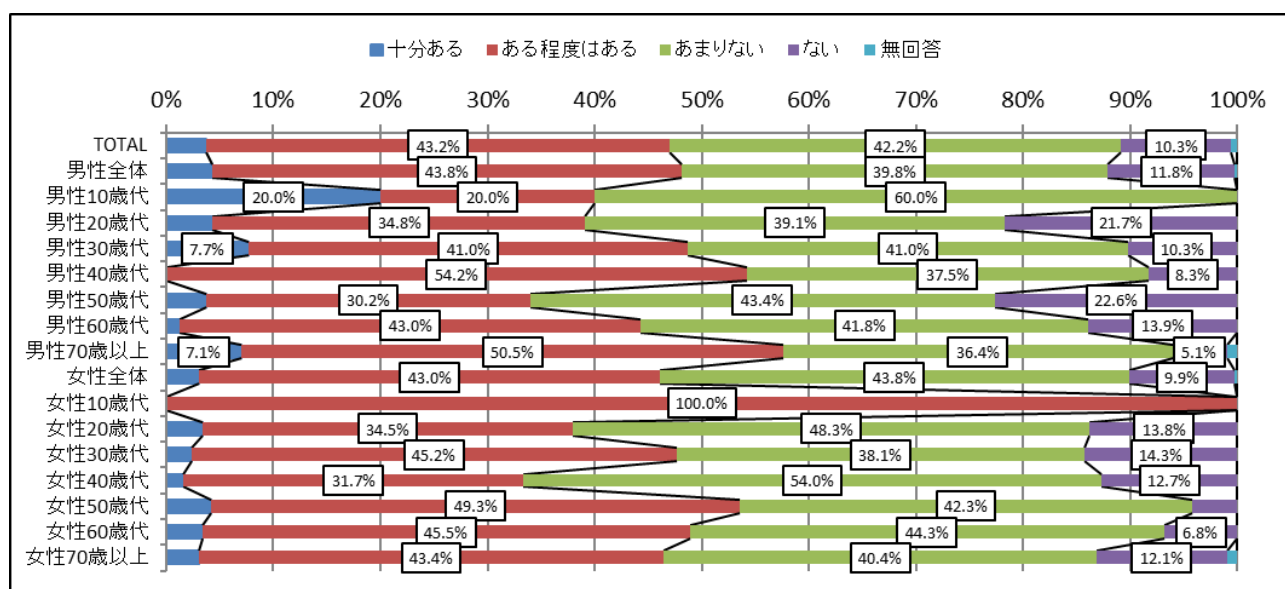
「ある程度はある」と回答した人の割合が 43.2%と最も多く、次いで「あまりない」と回答した人の割合が 42.2%、「ない」と回答した人の割合が 10.3%、「十分ある」と回答した人の割合が最も少なく 3.8%となっています。

「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 47.0%であり、ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）が「ある」市民は、半数にも満たないという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 44.6%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		十分ある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	818	3.8%	43.2%	42.2%	10.3%	0.6%	100.0%
男性全体	347	4.3%	43.8%	39.8%	11.8%	0.3%	100.0%
男性 10 歳代	5	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	4.3%	34.8%	39.1%	21.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	7.7%	41.0%	41.0%	10.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	0.0%	54.2%	37.5%	8.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	3.8%	30.2%	43.4%	22.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	1.3%	43.0%	41.8%	13.9%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	7.1%	50.5%	36.4%	5.1%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	3.0%	43.0%	43.8%	9.9%	0.3%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	3.4%	34.5%	48.3%	13.8%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	2.4%	45.2%	38.1%	14.3%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	1.6%	31.7%	54.0%	12.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	4.2%	49.3%	42.3%	4.2%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	3.4%	45.5%	44.3%	6.8%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	3.0%	43.4%	40.4%	12.1%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	3.9%	45.3%	42.5%	8.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	3.7%	37.0%	44.4%	14.8%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	4.3%	46.2%	36.6%	12.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	0.0%	39.4%	48.5%	12.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	0.0%	44.4%	22.2%	33.3%	0.0%	100.0%
八基地区	17	0.0%	41.2%	58.8%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	13.6%	22.7%	54.5%	9.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	1.7%	43.7%	40.3%	13.4%	0.8%	100.0%
南地区	51	2.0%	52.9%	39.2%	5.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	4.5%	44.9%	39.3%	10.1%	1.1%	100.0%
川本地区	49	4.1%	36.7%	44.9%	14.3%	0.0%	100.0%
花園地区	81	7.4%	46.9%	42.0%	2.5%	1.2%	100.0%
無回答	22	0.0%	22.7%	54.5%	13.6%	9.1%	100.0%

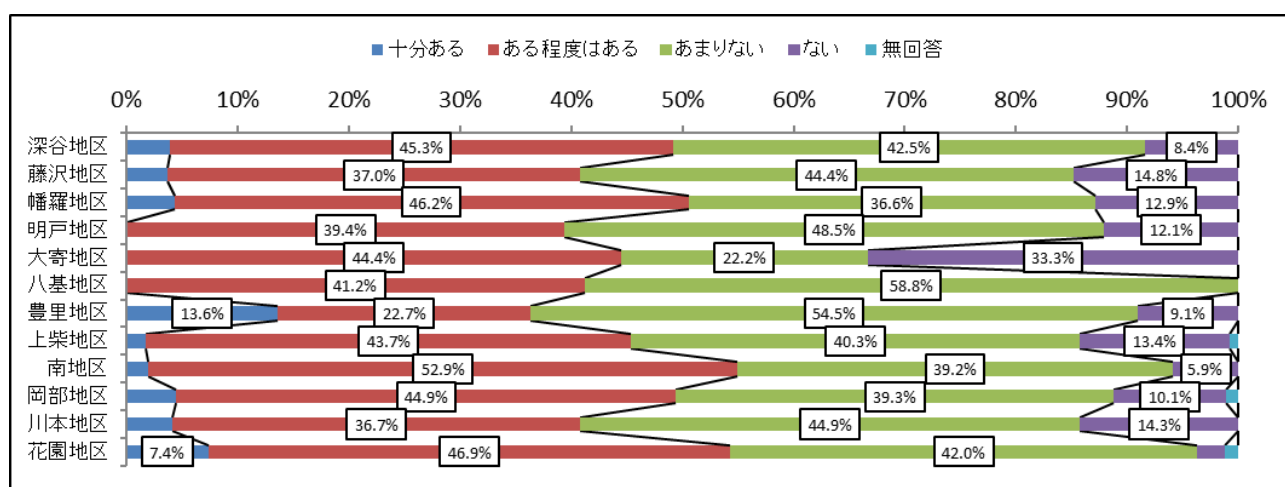
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は、男性が48.1%であるのに対して、女性は46.0%となっています。

また、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性50歳代（34.0%）、女性40歳代（33.3%）であり、一方で最も多い世代は、男性70歳以上（57.6%）、女性10歳代（100.0%）となっています。

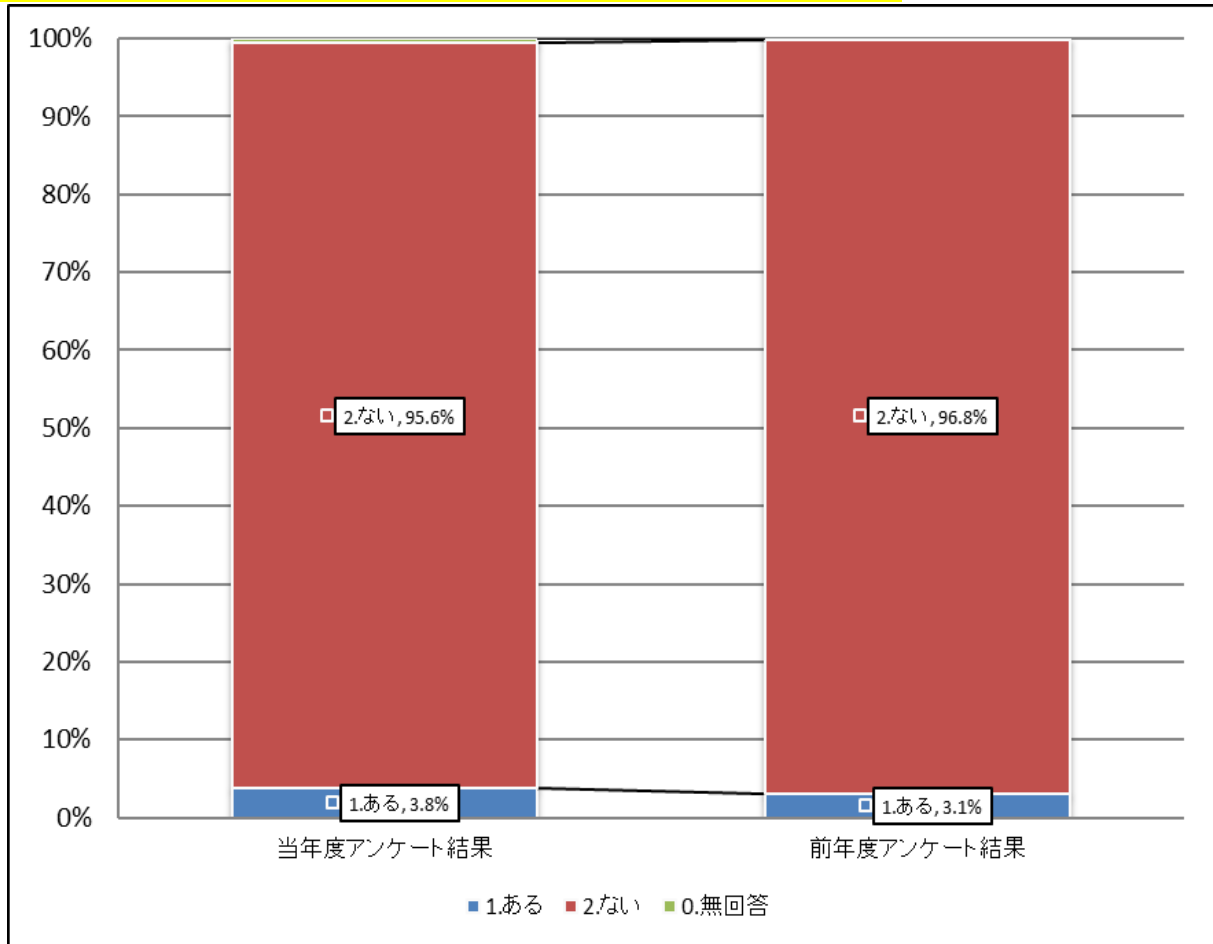
➤ 地区別



地区別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、豊里地区（36.3%）であり、次いで明戸地区（39.4%）となっています。最も多いのは、南地区（54.9%）、次いで花園地区（54.3%）となっています。

② くらしの安全対策の推進（５．問３～４）

この１年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。



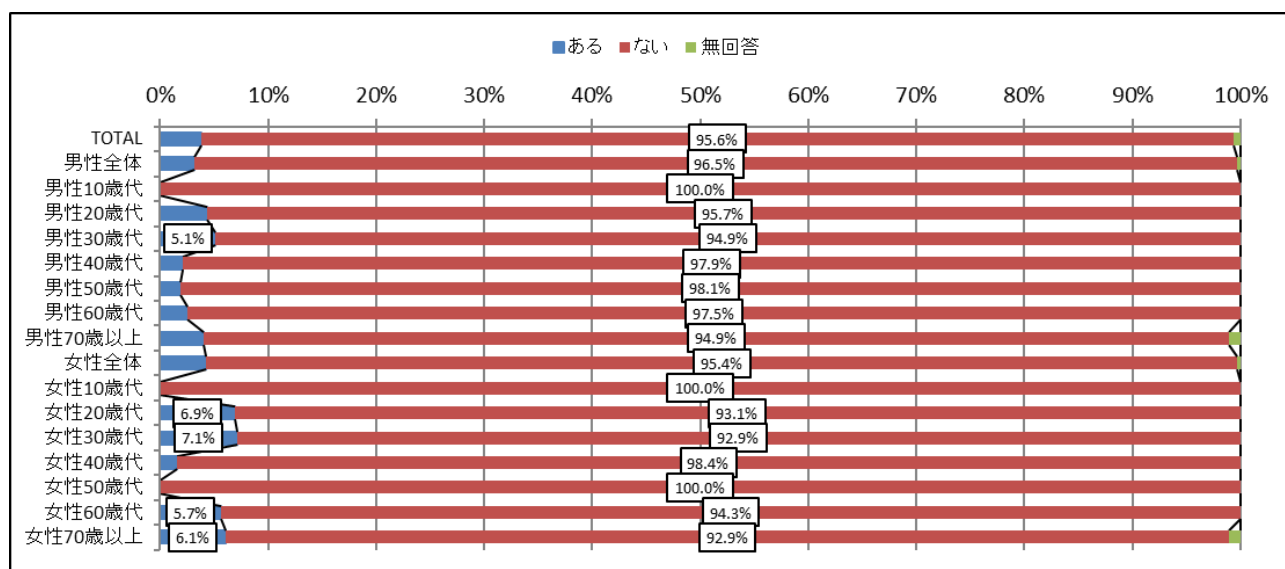
「ある」と回答した人の割合は 3.8%、「ない」と回答した人の割合は 95.6%となっています。

ほとんどの市民が、この１年間で消費者トラブルに巻き込まれたことは「ない」と回答している一方、巻き込まれたことが「ある」市民が少数いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある」と回答した人の割合は 3.1%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	818	3.8%	95.6%	0.6%	100.0%
男性全体	347	3.2%	96.5%	0.3%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	4.3%	95.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	5.1%	94.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	2.1%	97.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	1.9%	98.1%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	2.5%	97.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	4.0%	94.9%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	4.3%	95.4%	0.3%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	6.9%	93.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	7.1%	92.9%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	1.6%	98.4%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	5.7%	94.3%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	6.1%	92.9%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—
深谷地区	179	3.9%	95.5%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	3.7%	96.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	7.5%	92.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	3.0%	97.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	5.9%	94.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	4.5%	95.5%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	5.9%	94.1%	0.0%	100.0%
南地区	51	2.0%	98.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	0.0%	98.9%	1.1%	100.0%
川本地区	49	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
花園地区	81	3.7%	95.1%	1.2%	100.0%
無回答	22	4.5%	86.4%	9.1%	100.0%

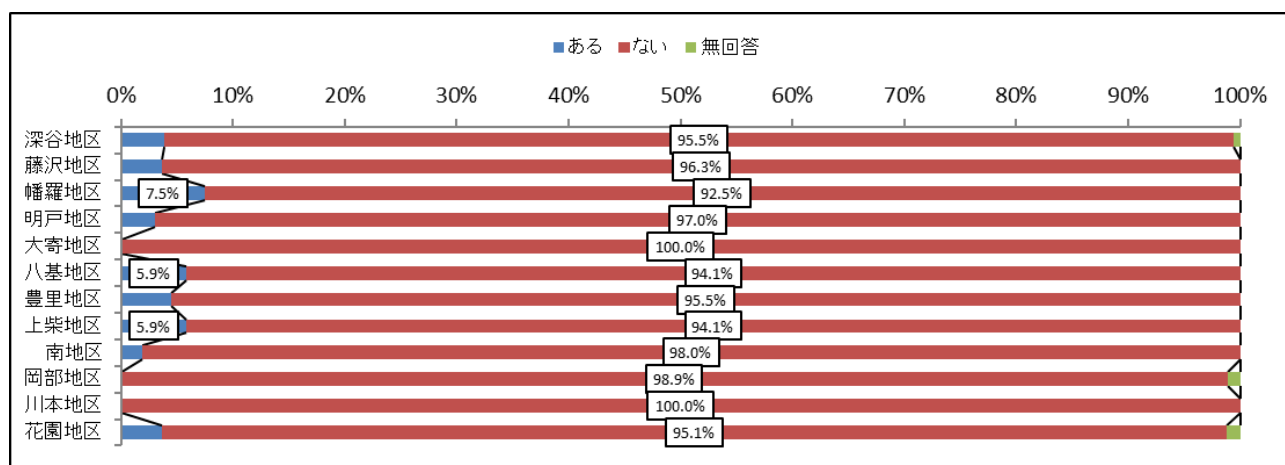
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男性が 3.2%であるのに対して、女性は 4.3%となっています。

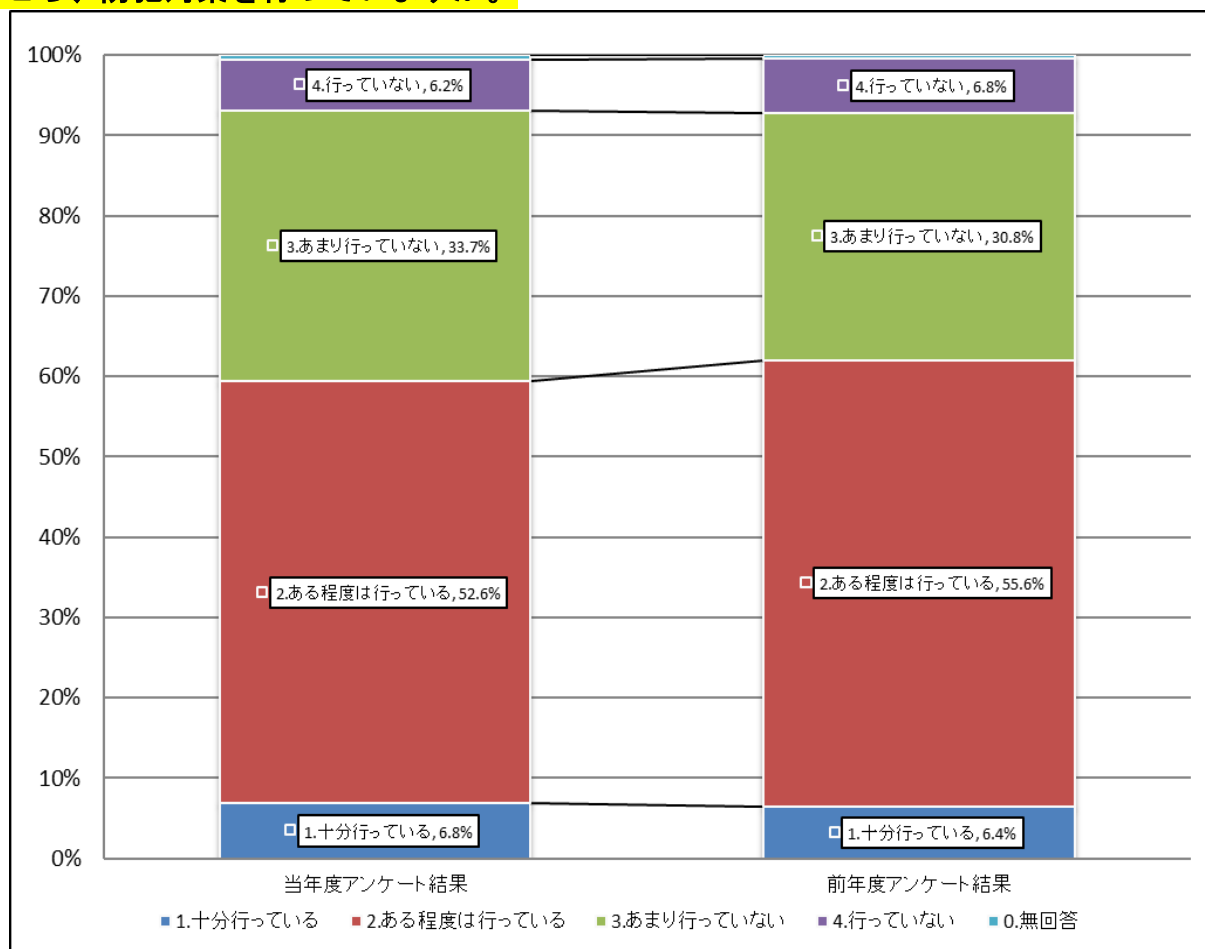
また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 10 歳代・50 歳代ともに (0.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 30 歳代 (5.1%)、女性 30 歳代 (7.1%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区、岡部地区、川本地区の 3 地区 (0.0%) であり、次いで南地区 (2.0%) となっています。最も多いのは、幡羅地区 (7.5%) であり、次いで八基地区・上柴地区ともに (5.9%) となっています。

日ごろ、防犯対策を行っていますか。



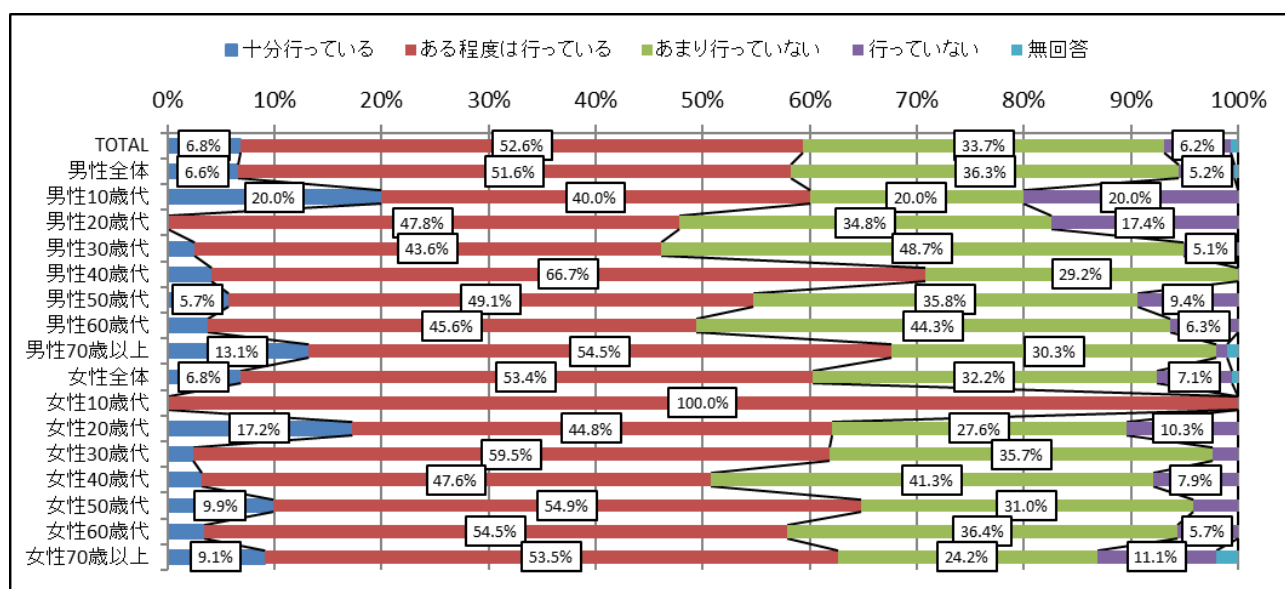
「ある程度は行っている」と回答した人の割合が 52.6%と最も多く、次いで「あまり行っていない」と回答した人の割合が 33.7%、「十分行っている」と回答した人の割合が 6.8%、「行っていない」と回答した人の割合が最も少なく 6.2%となっています。

「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計は 59.4%であり、6 割近くの市民が日ごろから防犯対策を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計は 62.0%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		十分行っている	ある程度は 行っている	行っていない あまり	行っていない	無回答	合計
TOTAL	818	6.8%	52.6%	33.7%	6.2%	0.6%	100.0%
男性全体	347	6.6%	51.6%	36.3%	5.2%	0.3%	100.0%
男性 10 歳代	5	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	0.0%	47.8%	34.8%	17.4%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	2.6%	43.6%	48.7%	5.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	4.2%	66.7%	29.2%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	5.7%	49.1%	35.8%	9.4%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	3.8%	45.6%	44.3%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	13.1%	54.5%	30.3%	1.0%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	6.8%	53.4%	32.2%	7.1%	0.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	17.2%	44.8%	27.6%	10.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	2.4%	59.5%	35.7%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	3.2%	47.6%	41.3%	7.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	9.9%	54.9%	31.0%	4.2%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	3.4%	54.5%	36.4%	5.7%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	9.1%	53.5%	24.2%	11.1%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	5.6%	49.7%	39.7%	5.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	11.1%	44.4%	37.0%	7.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	4.3%	64.5%	24.7%	6.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	3.0%	63.6%	27.3%	6.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	11.1%	55.6%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	5.9%	58.8%	35.3%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	22.7%	50.0%	18.2%	9.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	5.0%	51.3%	36.1%	7.6%	0.0%	100.0%
南地区	51	5.9%	66.7%	23.5%	3.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	9.0%	43.8%	38.2%	6.7%	2.2%	100.0%
川本地区	49	6.1%	44.9%	40.8%	8.2%	0.0%	100.0%
花園地区	81	8.6%	56.8%	27.2%	6.2%	1.2%	100.0%
無回答	22	4.5%	36.4%	40.9%	9.1%	9.1%	100.0%

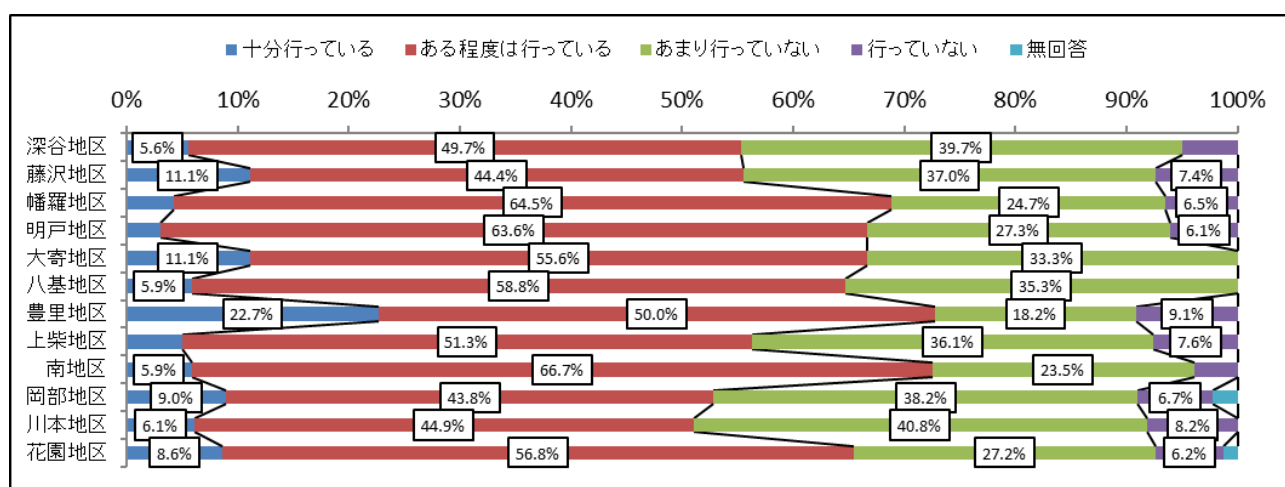
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計は、男性が58.2%であるのに対して、女性は60.2%となっています。

また、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性30歳代（46.2%）、女性40歳代（50.8%）であり、一方で最も多い世代は、男性40歳代（70.9%）、女性10歳代（100.0%）となっています。

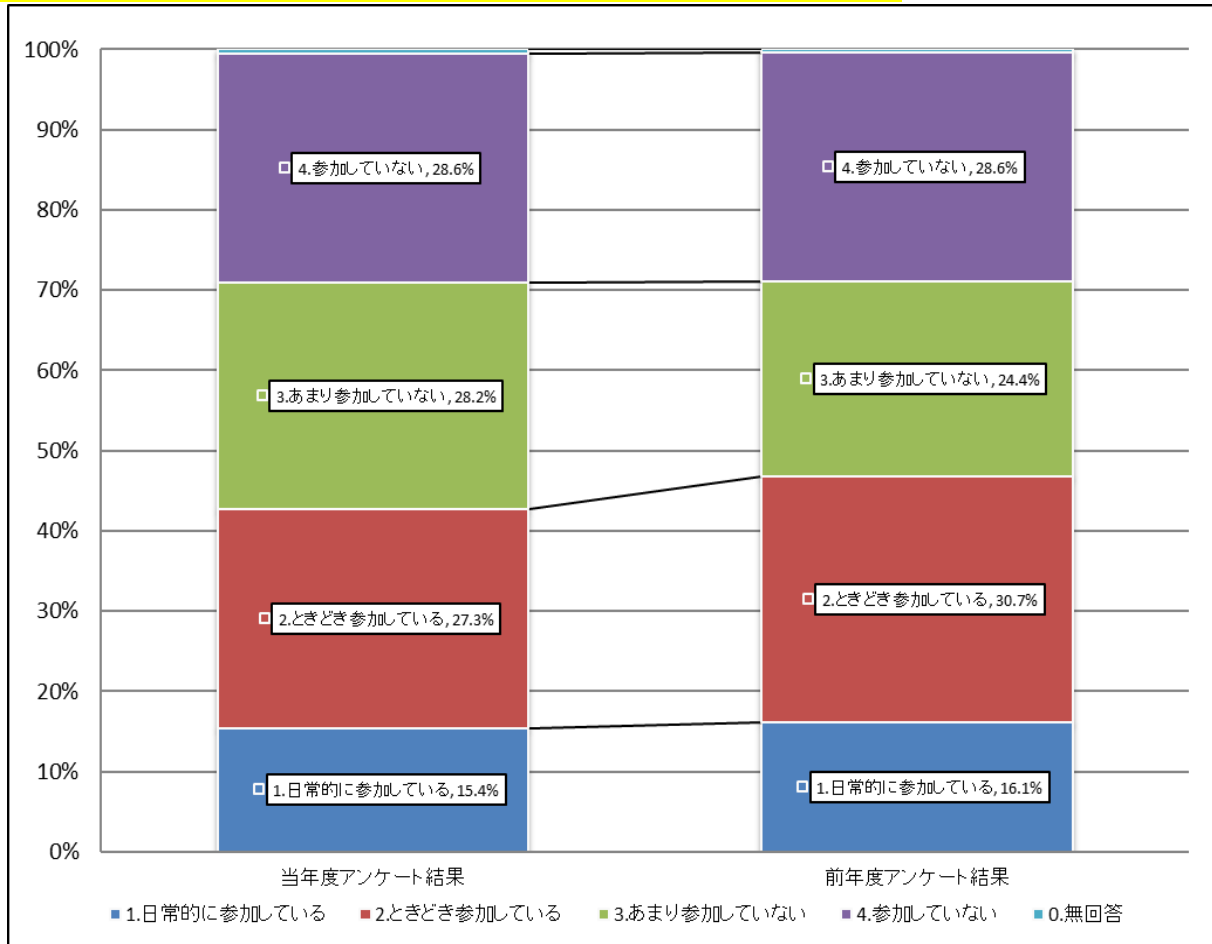
➤ 地区別



地区別にみると、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、川本地区（51.0%）であり、次いで岡部地区（52.8%）となっています。最も多いのは、豊里地区（72.7%）であり、次いで南地区（72.6%）となっています。

③ 絆でつながるひとづくり（5. 問5）

地域活動（自治会での活動など）への程度参加していますか。



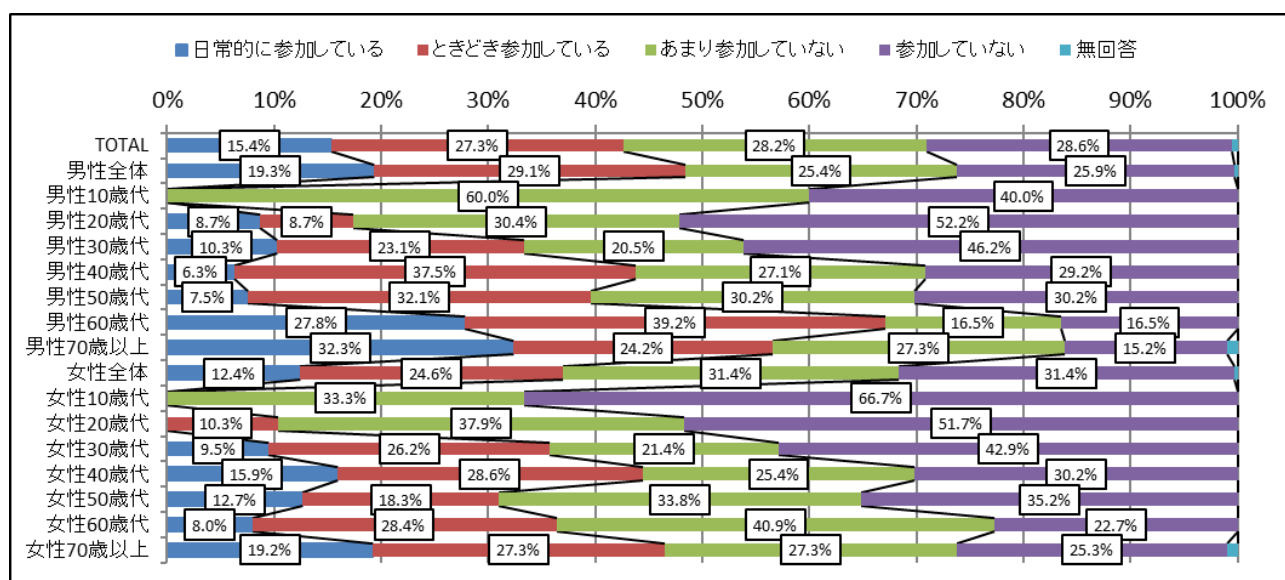
「参加していない」と回答した人の割合が 28.6%と最も多く、次いで「あまり参加していない」と回答した人の割合が 28.2%、「ときどき参加している」と回答した人の割合が 27.3%、「日常的に参加している」と回答した人の割合が最も少なく 15.4%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 42.7%であり、地域活動に参加している市民は半数未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 46.8%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

母集団		日常的に参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	参加していない	無回答	合計
TOTAL	818	15.4%	27.3%	28.2%	28.6%	0.5%	100.0%
男性全体	347	19.3%	29.1%	25.4%	25.9%	0.3%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	8.7%	8.7%	30.4%	52.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	10.3%	23.1%	20.5%	46.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	6.3%	37.5%	27.1%	29.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	7.5%	32.1%	30.2%	30.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	27.8%	39.2%	16.5%	16.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	32.3%	24.2%	27.3%	15.2%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	12.4%	24.6%	31.4%	31.4%	0.3%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	0.0%	10.3%	37.9%	51.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	9.5%	26.2%	21.4%	42.9%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	15.9%	28.6%	25.4%	30.2%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	12.7%	18.3%	33.8%	35.2%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	8.0%	28.4%	40.9%	22.7%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	19.2%	27.3%	27.3%	25.3%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	5.0%	22.9%	35.8%	36.3%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	24.1%	37.0%	24.1%	14.8%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	8.6%	17.2%	31.2%	43.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	24.2%	21.2%	27.3%	27.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	22.2%	33.3%	22.2%	22.2%	0.0%	100.0%
八基地区	17	35.3%	52.9%	11.8%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	40.9%	18.2%	22.7%	18.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	10.1%	28.6%	30.3%	31.1%	0.0%	100.0%
南地区	51	9.8%	29.4%	31.4%	29.4%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	18.0%	32.6%	29.2%	19.1%	1.1%	100.0%
川本地区	49	22.4%	30.6%	18.4%	28.6%	0.0%	100.0%
花園地区	81	29.6%	32.1%	17.3%	19.8%	1.2%	100.0%
無回答	22	13.6%	18.2%	27.3%	31.8%	9.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

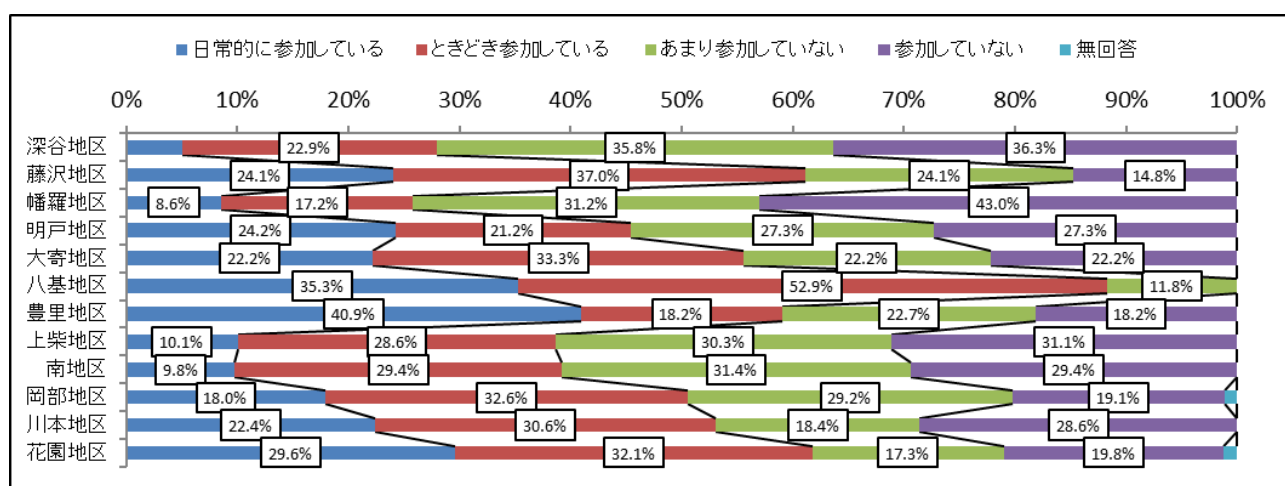


性別・世代別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は、男性が 48.4%であるのに対して、女性は 37.0%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 10 歳代 (0.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 60 歳代 (67.0%)、女性 70 歳以上 (46.5%) となっています。

男女や、世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別

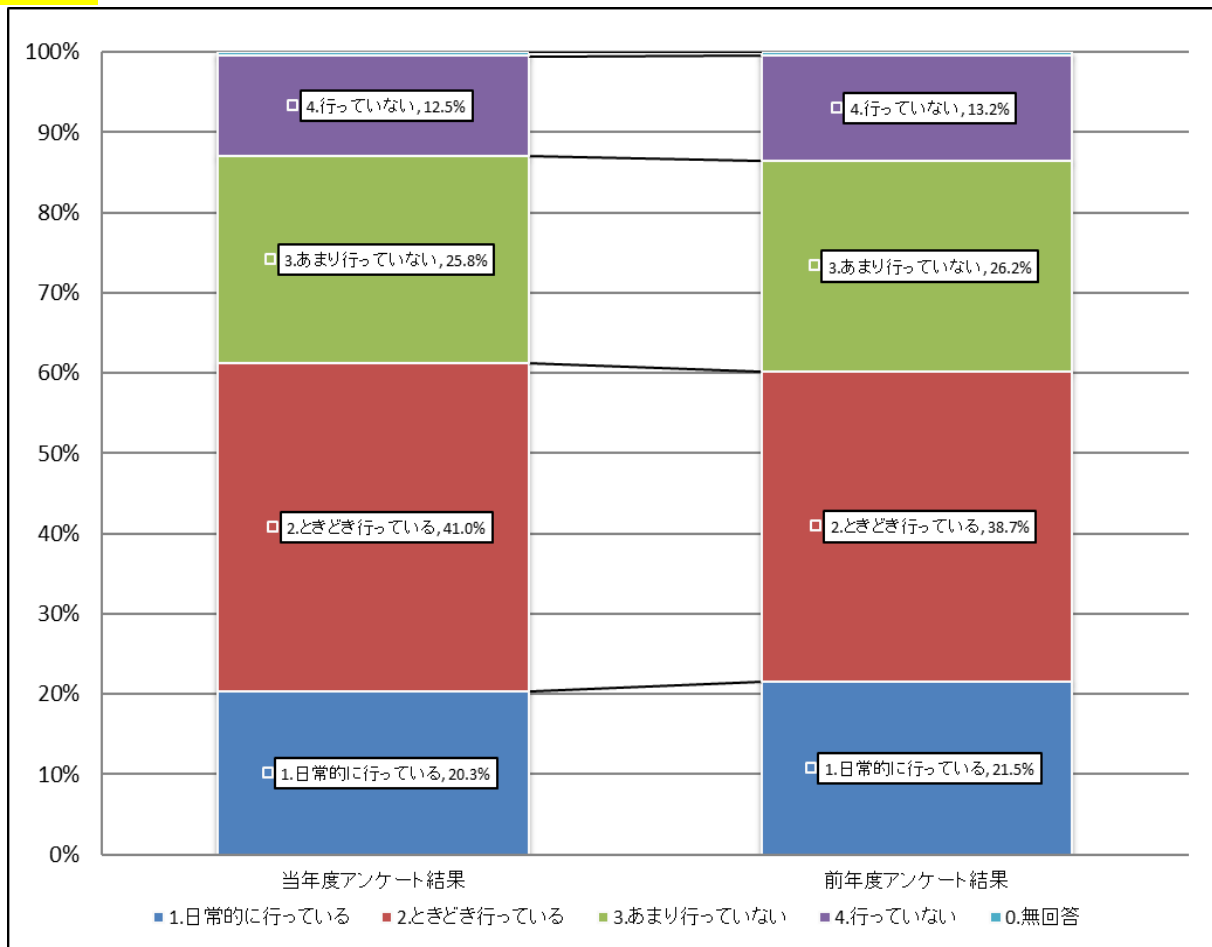


地区別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、幡羅地区 (25.8%) であり、次いで深谷地区 (27.9%) となっています。最も多いのは、八基地区 (88.2%) であり、次いで花園地区 (61.7%) となっています。

地区によって大きな差があることがうかがえます。

④ 生活環境の保全と配慮（５．問６～８）

環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていますか。



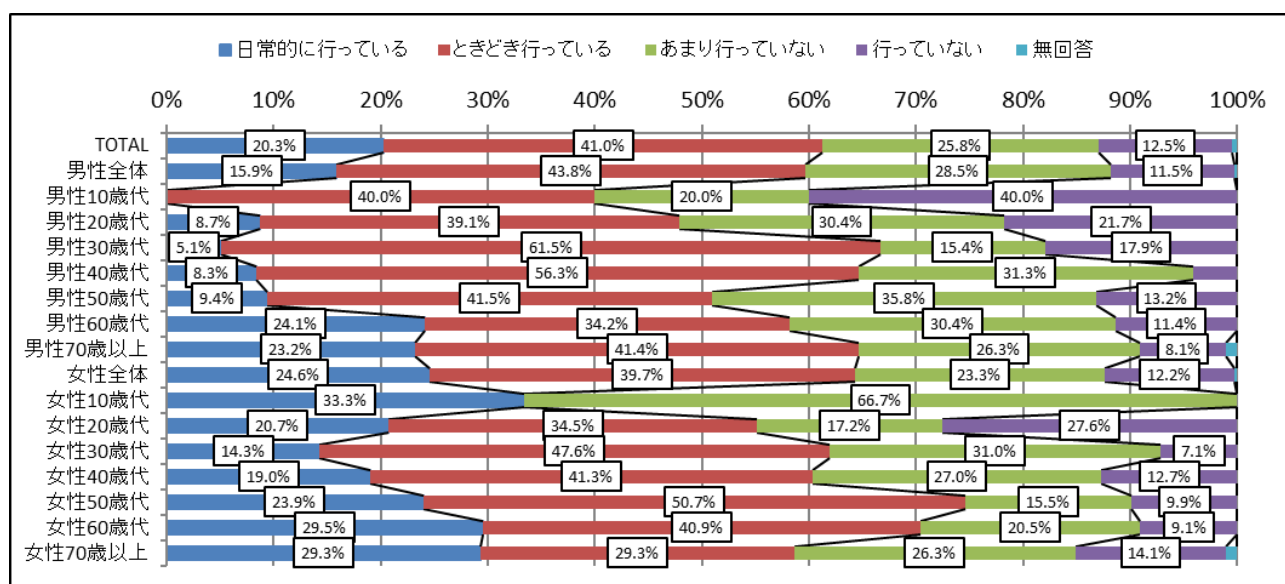
「ときどき行っている」と回答した人の割合が 41.0%と最も多く、次いで「あまり行っていない」と回答した人の割合が 25.8%、「日常的に行っている」と回答した人の割合が 20.3%、「行っていない」と回答した人の割合が最も少なく 12.5%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、61.3%であり、6 割以上の市民が環境に配慮した取組を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、60.2%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	818	20.3%	41.0%	25.8%	12.5%	0.5%	100.0%
男性全体	347	15.9%	43.8%	28.5%	11.5%	0.3%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	8.7%	39.1%	30.4%	21.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	5.1%	61.5%	15.4%	17.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	8.3%	56.3%	31.3%	4.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	9.4%	41.5%	35.8%	13.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	24.1%	34.2%	30.4%	11.4%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	23.2%	41.4%	26.3%	8.1%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	24.6%	39.7%	23.3%	12.2%	0.3%	100.0%
女性 10 歳代	3	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	20.7%	34.5%	17.2%	27.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	14.3%	47.6%	31.0%	7.1%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	19.0%	41.3%	27.0%	12.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	23.9%	50.7%	15.5%	9.9%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	29.5%	40.9%	20.5%	9.1%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	29.3%	29.3%	26.3%	14.1%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	17.3%	40.2%	27.9%	14.5%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	25.9%	44.4%	20.4%	9.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	14.0%	45.2%	21.5%	19.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	30.3%	48.5%	18.2%	3.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	11.1%	55.6%	11.1%	22.2%	0.0%	100.0%
八基地区	17	35.3%	29.4%	29.4%	5.9%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	22.7%	18.2%	36.4%	22.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	22.7%	35.3%	33.6%	8.4%	0.0%	100.0%
南地区	51	13.7%	49.0%	23.5%	13.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	18.0%	42.7%	25.8%	12.4%	1.1%	100.0%
川本地区	49	26.5%	38.8%	16.3%	18.4%	0.0%	100.0%
花園地区	81	24.7%	40.7%	27.2%	6.2%	1.2%	100.0%
無回答	22	13.6%	45.5%	22.7%	9.1%	9.1%	100.0%

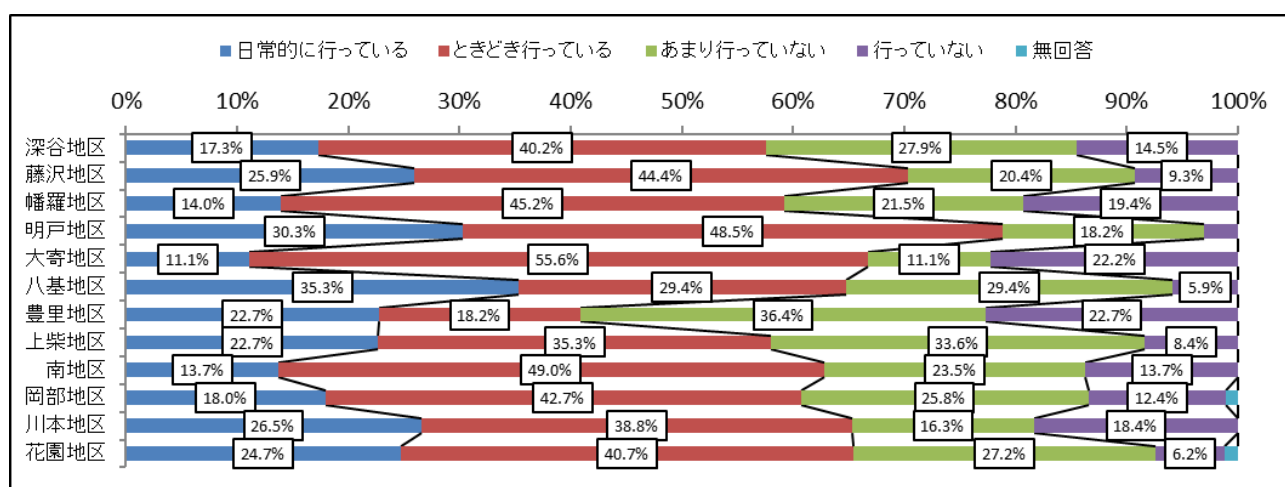
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、男性が59.7%であるのに対して、女性は64.3%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性10歳代（40.0%）、女性10歳代（33.3%）であり、一方で最も多い世代は、男性30歳代（66.6%）、女性50歳代（74.6%）となっています。

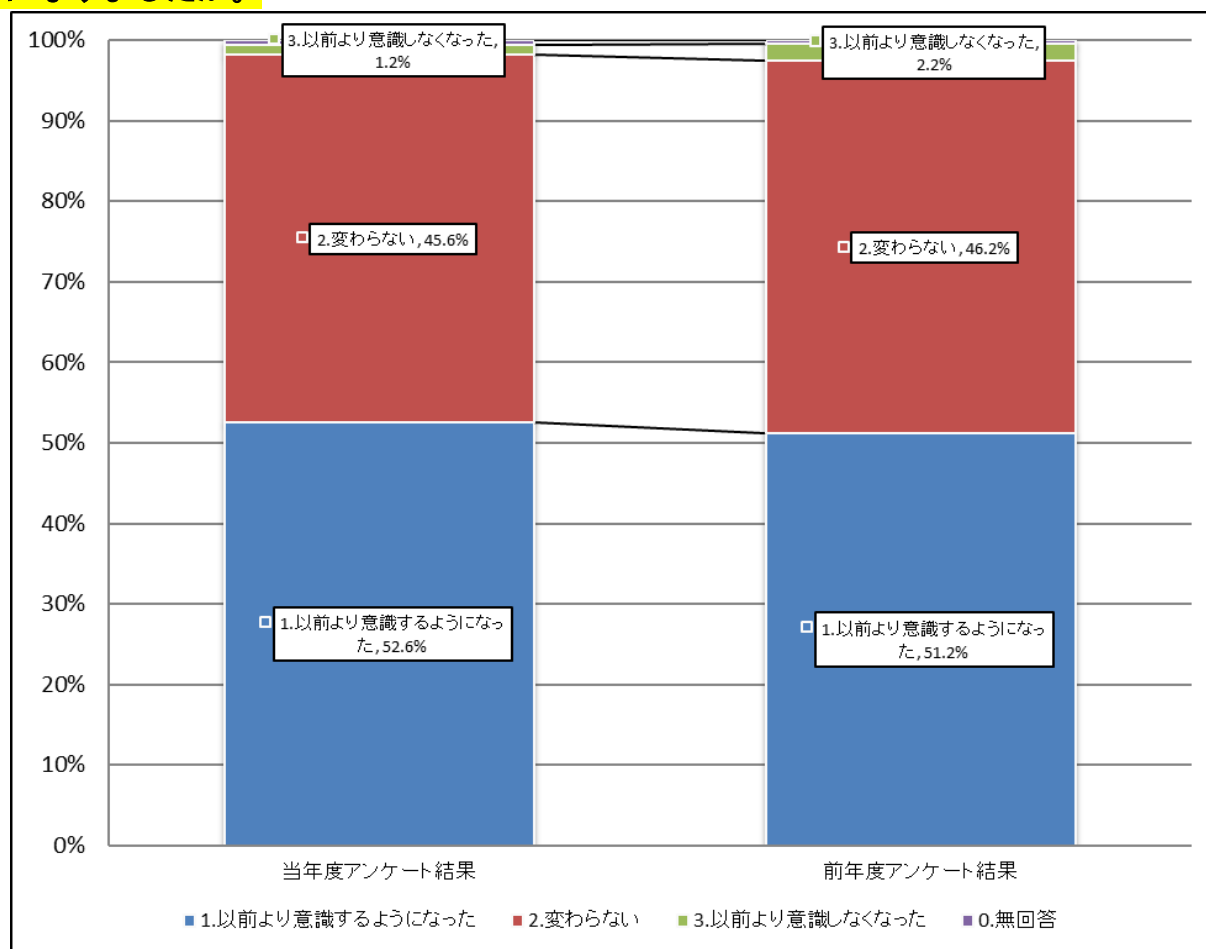
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、豊里地区（40.9%）であり、次いで深谷地区（57.5%）となっています。最も多い地区は、明戸地区（78.8%）であり、次いで藤沢地区（70.3%）となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになりましたか。



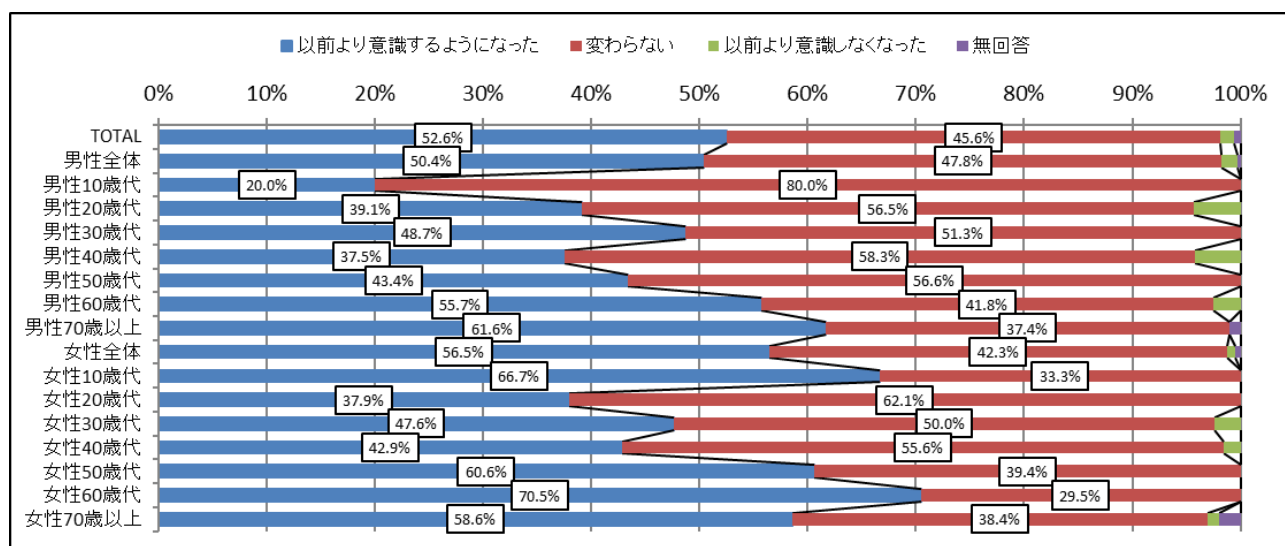
「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 52.6%と最も多く、次いで「変わらない」と回答した人の割合が 45.6%、「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合が最も少なく 1.2%となっています。

5 割以上の市民が環境問題を以前より意識するようになったことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は 51.2%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		意識するようになった 以前より	変わらない	意識しなくなった 以前より	無回答	合計
TOTAL	818	52.6%	45.6%	1.2%	0.6%	100.0%
男性全体	347	50.4%	47.8%	1.4%	0.3%	100.0%
男性 10 歳代	5	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	39.1%	56.5%	4.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	48.7%	51.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	37.5%	58.3%	4.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	43.4%	56.6%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	55.7%	41.8%	2.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	61.6%	37.4%	0.0%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	56.5%	42.3%	0.8%	0.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	37.9%	62.1%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	47.6%	50.0%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	42.9%	55.6%	1.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	60.6%	39.4%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	70.5%	29.5%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	58.6%	38.4%	1.0%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—
深谷地区	179	48.6%	49.2%	1.7%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	53.7%	46.3%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	49.5%	48.4%	2.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	69.7%	27.3%	3.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	41.2%	58.8%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	22	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	119	53.8%	46.2%	0.0%	0.0%	100.0%
南地区	51	52.9%	45.1%	2.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	61.8%	36.0%	1.1%	1.1%	100.0%
川本地区	49	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	81	49.4%	48.1%	1.2%	1.2%	100.0%
無回答	22	31.8%	54.5%	4.5%	9.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

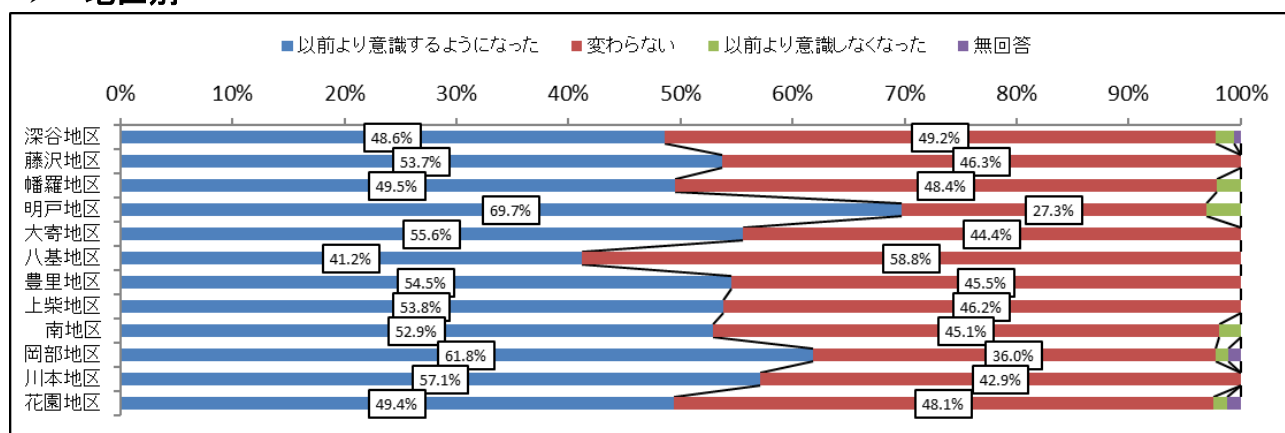


性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は、男性が50.4%であるのに対して、女性は56.5%となっています。

また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性10歳代（20.0%）、女性20歳代（37.9%）であり、一方で最も多い世代は、男性70歳以上（61.6%）、女性60歳代（70.5%）となっています。

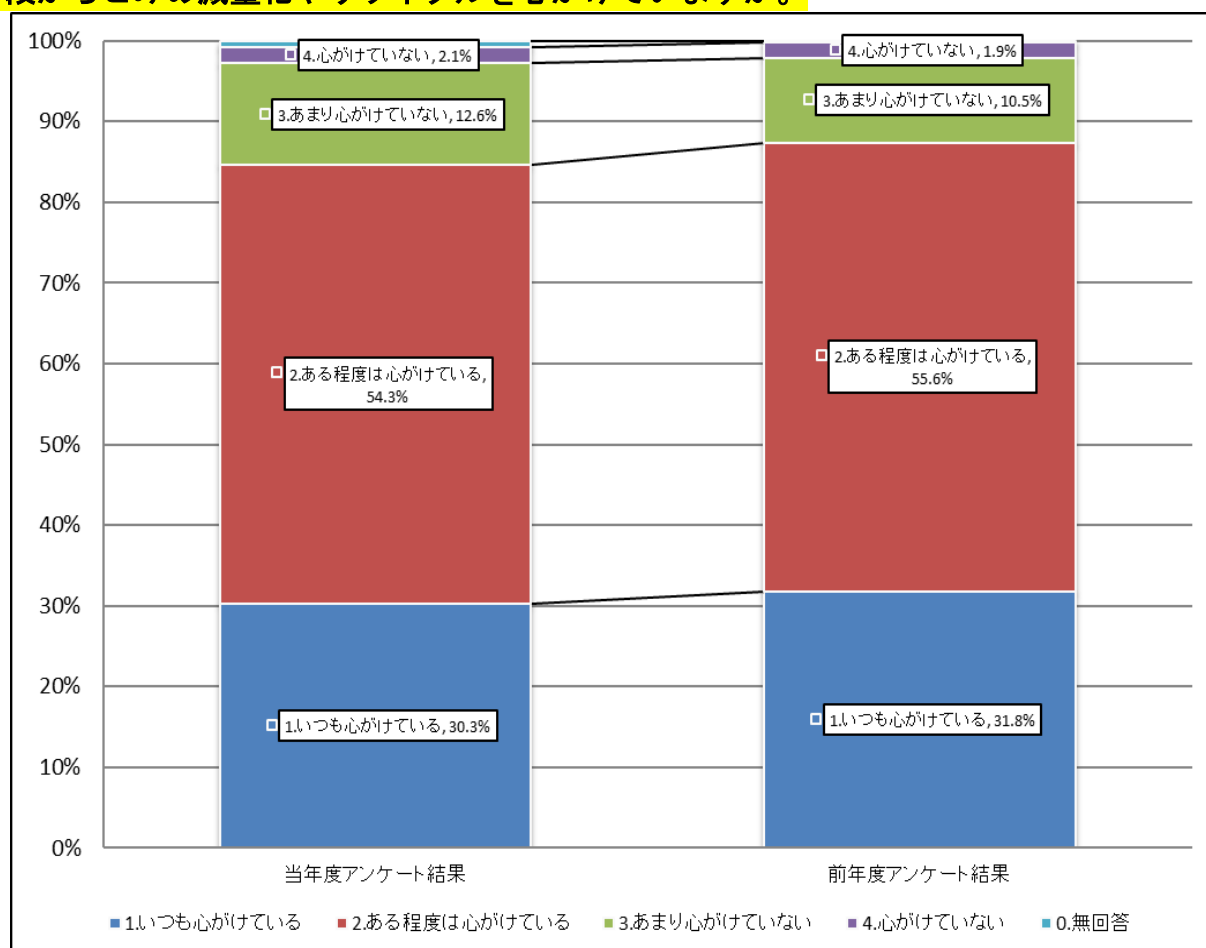
世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区（41.2%）であり、次いで深谷地区（48.6%）となっています。最も多い地区は、明戸地区（69.7%）であり、次いで岡部地区（61.8%）となっています。

普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。



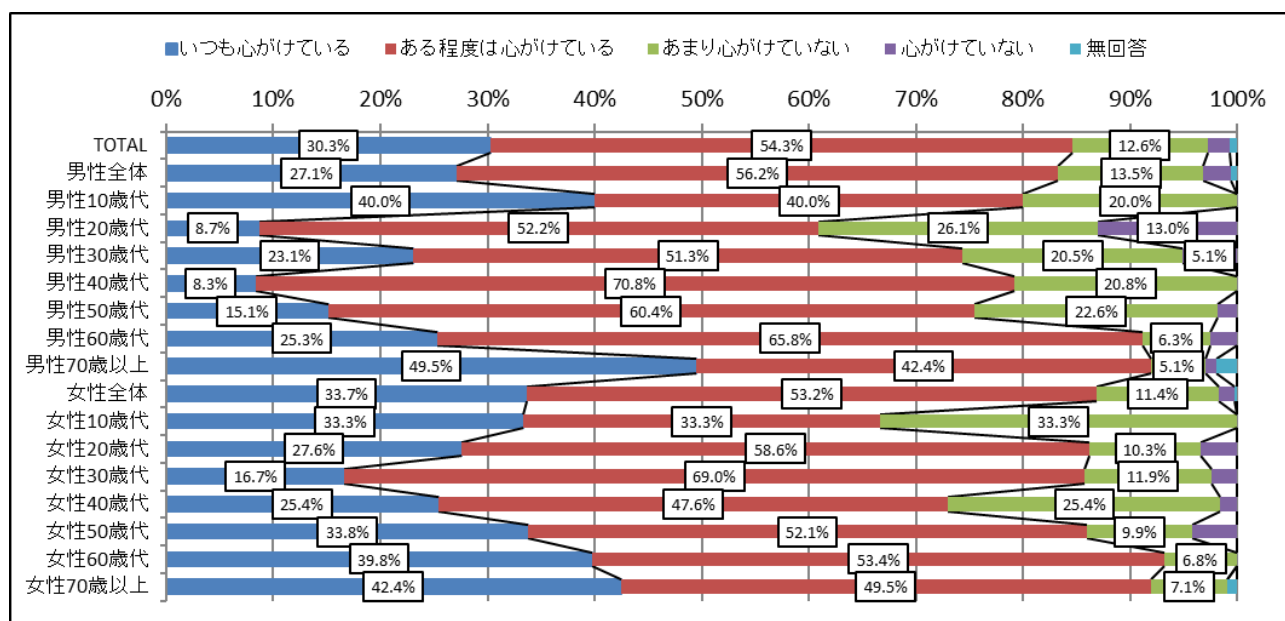
「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が 54.3%と最も多く、次いで、「いつも心がけている」と回答した人の割合が 30.3%、「あまり心がけていない」と回答した人の割合が 12.6%、「心がけていない」と回答した人の割合が最も少なく 2.1%となっています。

「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計は 84.6%であり、8 割以上の市民が普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計は 87.4%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		いつも心がけている	ある程度は心がけている	あまり心がけていない	心がけていない	無回答	合計
TOTAL	818	30.3%	54.3%	12.6%	2.1%	0.7%	100.0%
男性全体	347	27.1%	56.2%	13.5%	2.6%	0.6%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	8.7%	52.2%	26.1%	13.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	23.1%	51.3%	20.5%	5.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	8.3%	70.8%	20.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	15.1%	60.4%	22.6%	1.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	25.3%	65.8%	6.3%	2.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	49.5%	42.4%	5.1%	1.0%	2.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	33.7%	53.2%	11.4%	1.5%	0.3%	100.0%
女性 10 歳代	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	27.6%	58.6%	10.3%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	16.7%	69.0%	11.9%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	25.4%	47.6%	25.4%	1.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	33.8%	52.1%	9.9%	4.2%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	39.8%	53.4%	6.8%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	42.4%	49.5%	7.1%	0.0%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	27.9%	58.1%	12.3%	1.7%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	27.8%	59.3%	11.1%	1.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	29.0%	57.0%	9.7%	4.3%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	42.4%	48.5%	6.1%	3.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	41.2%	52.9%	0.0%	0.0%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	36.4%	36.4%	13.6%	9.1%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	29.4%	52.9%	13.4%	4.2%	0.0%	100.0%
南地区	51	29.4%	52.9%	15.7%	2.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	33.7%	55.1%	9.0%	0.0%	2.2%	100.0%
川本地区	49	30.6%	38.8%	30.6%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	81	29.6%	58.0%	12.3%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	22	27.3%	45.5%	18.2%	0.0%	9.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

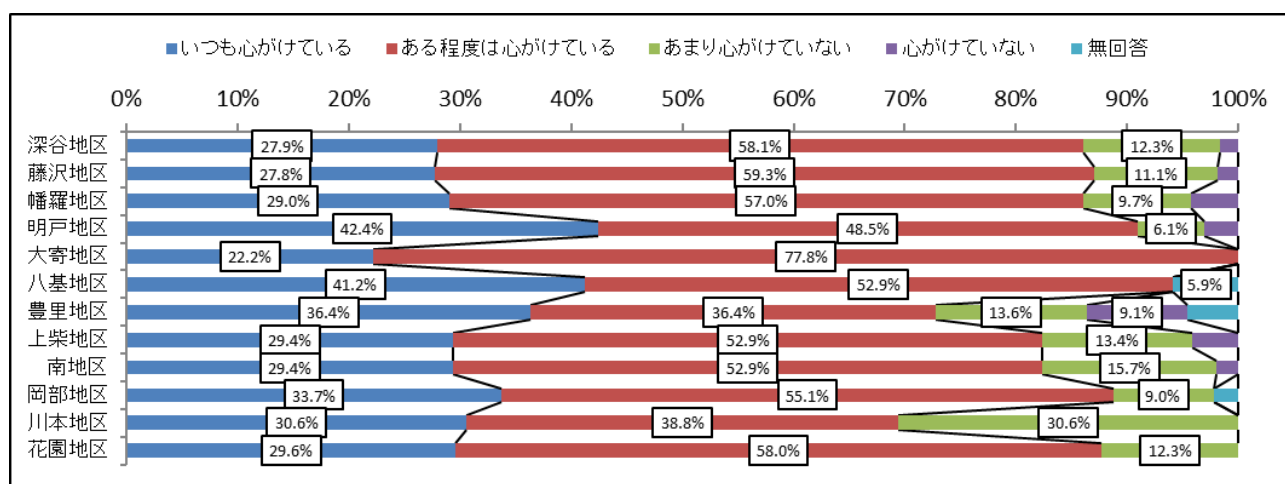


性別・世代別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計は、男性が 83.3%であるのに対して、女性は 86.9%となっています。

また、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 20 歳代 (60.9%)、女性 10 歳代 (66.6%) であり、一方で最も多い世代は、男性 70 歳以上 (91.9%)、女性 60 歳代 (93.2%) となっています。

世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別

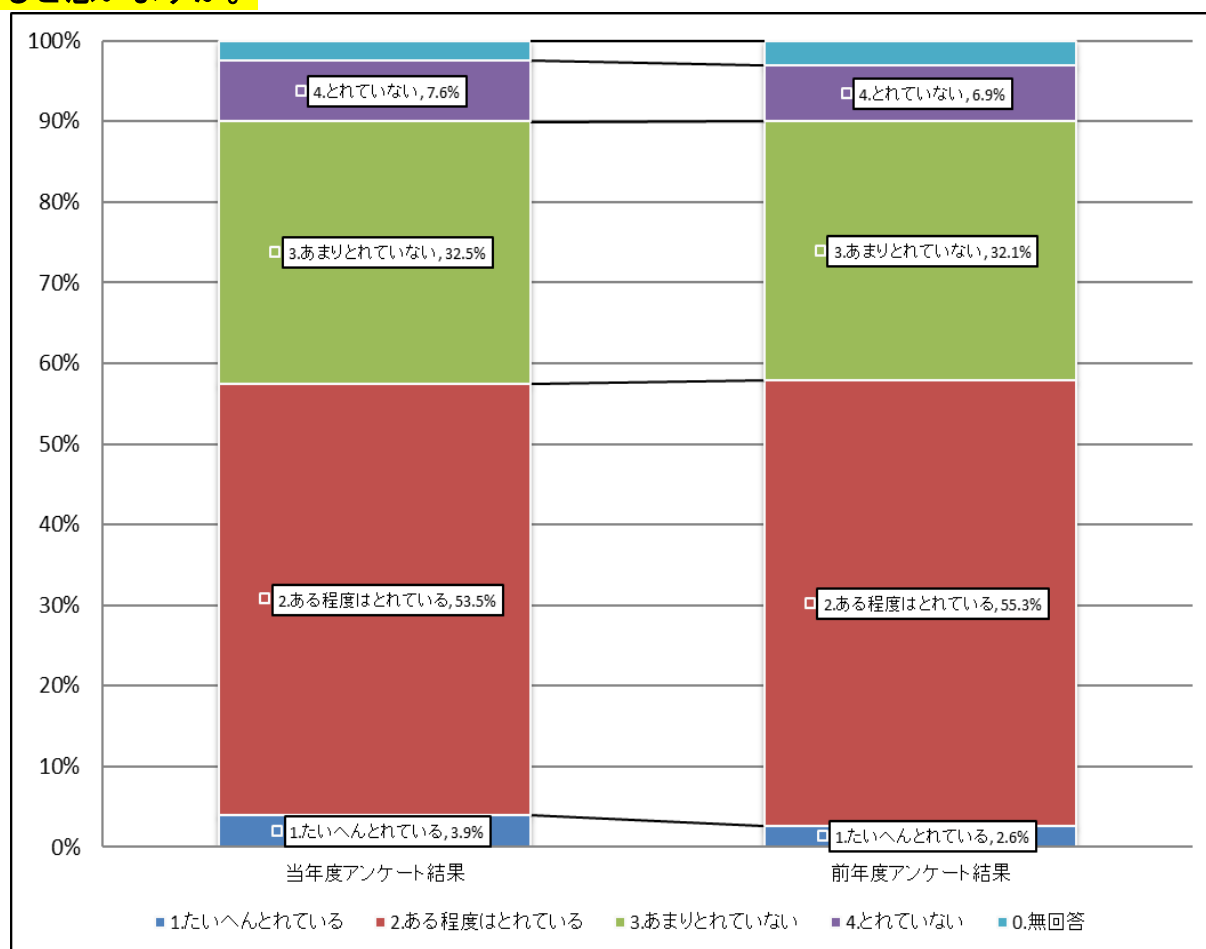


地区別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、川本地区 (69.4%) であり、次いで豊里地区 (72.8%) となっています。最も多い地区は、大寄地区 (100.0%) であり、次いで八基地区 (94.1%) となっています。

(6) 都市・生活基盤について

① 快適な空間と景観づくり (6. 問1～4)

市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。



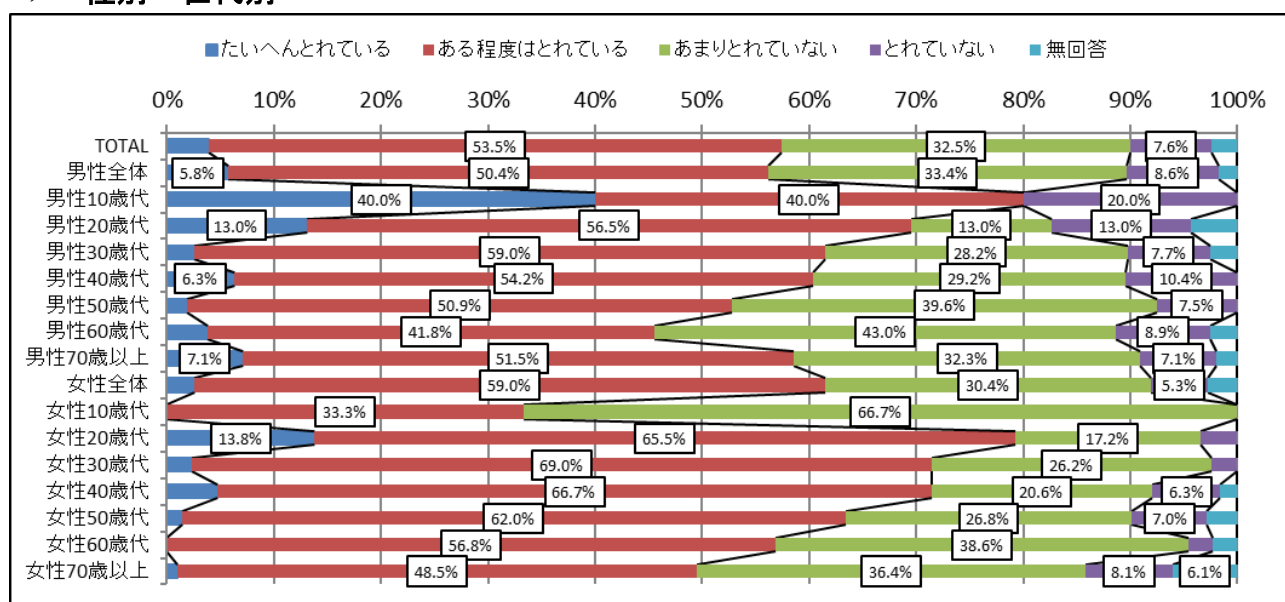
「ある程度はとれている」と回答した人の割合が 53.5%と最も多く、次いで「あまりとれていない」と回答した人の割合が 32.5%、「とれていない」と回答した人の割合が 7.6%、「たいへんとれている」と回答した人の割合が最も少なく 3.9%となっています。

「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計は 57.4%であり、6 割近くの市民が市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計は 57.9%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		たいへんとれている	ある程度はとれている	あまりとれていない	とれていない	無回答	合計
TOTAL	818	3.9%	53.5%	32.5%	7.6%	2.4%	100.0%
男性全体	347	5.8%	50.4%	33.4%	8.6%	1.7%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	13.0%	56.5%	13.0%	13.0%	4.3%	100.0%
男性 30 歳代	39	2.6%	59.0%	28.2%	7.7%	2.6%	100.0%
男性 40 歳代	48	6.3%	54.2%	29.2%	10.4%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	1.9%	50.9%	39.6%	7.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	3.8%	41.8%	43.0%	8.9%	2.5%	100.0%
男性 70 歳以上	99	7.1%	51.5%	32.3%	7.1%	2.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	2.5%	59.0%	30.4%	5.3%	2.8%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	13.8%	65.5%	17.2%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	2.4%	69.0%	26.2%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	4.8%	66.7%	20.6%	6.3%	1.6%	100.0%
女性 50 歳代	71	1.4%	62.0%	26.8%	7.0%	2.8%	100.0%
女性 60 歳代	88	0.0%	56.8%	38.6%	2.3%	2.3%	100.0%
女性 70 歳以上	99	1.0%	48.5%	36.4%	8.1%	6.1%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	5.6%	57.0%	27.9%	8.4%	1.1%	100.0%
藤沢地区	54	0.0%	55.6%	38.9%	5.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	3.2%	59.1%	30.1%	6.5%	1.1%	100.0%
明戸地区	33	0.0%	51.5%	42.4%	6.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	0.0%	66.7%	11.1%	11.1%	11.1%	100.0%
八基地区	17	0.0%	23.5%	52.9%	17.6%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	4.5%	54.5%	27.3%	4.5%	9.1%	100.0%
上柴地区	119	5.0%	62.2%	27.7%	5.0%	0.0%	100.0%
南地区	51	2.0%	52.9%	33.3%	3.9%	7.8%	100.0%
岡部地区	89	3.4%	42.7%	38.2%	12.4%	3.4%	100.0%
川本地区	49	4.1%	42.9%	40.8%	6.1%	6.1%	100.0%
花園地区	81	7.4%	56.8%	32.1%	2.5%	1.2%	100.0%
無回答	22	0.0%	27.3%	31.8%	31.8%	9.1%	100.0%

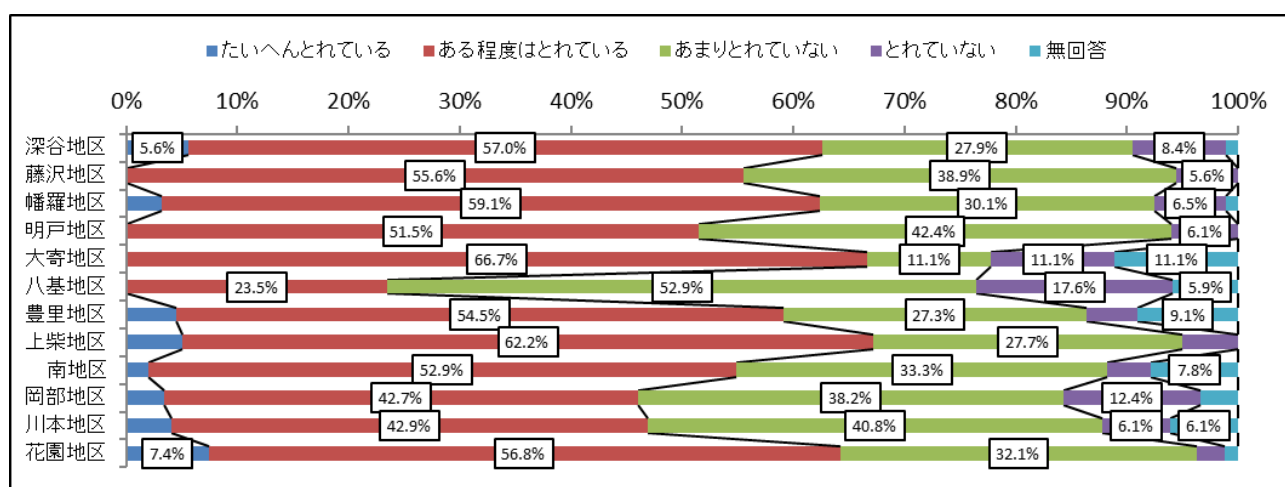
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんとれていて」または「ある程度はとれていて」と回答した人の割合の合計は、男性が 56.2%であるのに対して、女性は 61.5%となっています。

また、「たいへんとれていて」または「ある程度はとれていて」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 60 歳代 (45.6%)、女性 10 歳代 (33.3%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (80.0%)、女性 20 歳代 (79.3%) となっています。

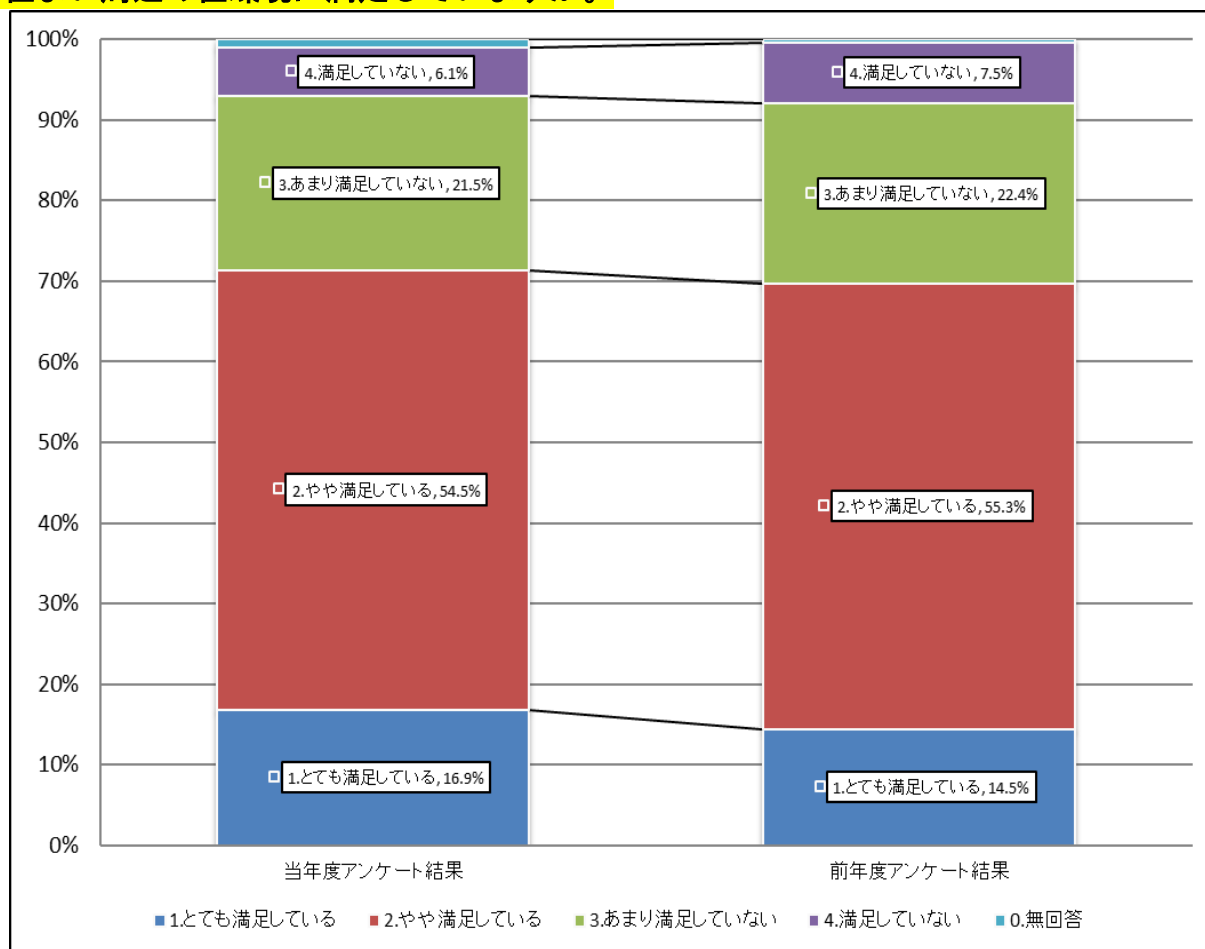
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんとれていて」または「ある程度はとれていて」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区 (23.5%) であり、次いで岡部地区 (46.1%) となっています。最も多いのは、上柴地区 (67.2%) であり、次いで大寄地区 (66.7%) となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

お住まい周辺の住環境に満足していますか。



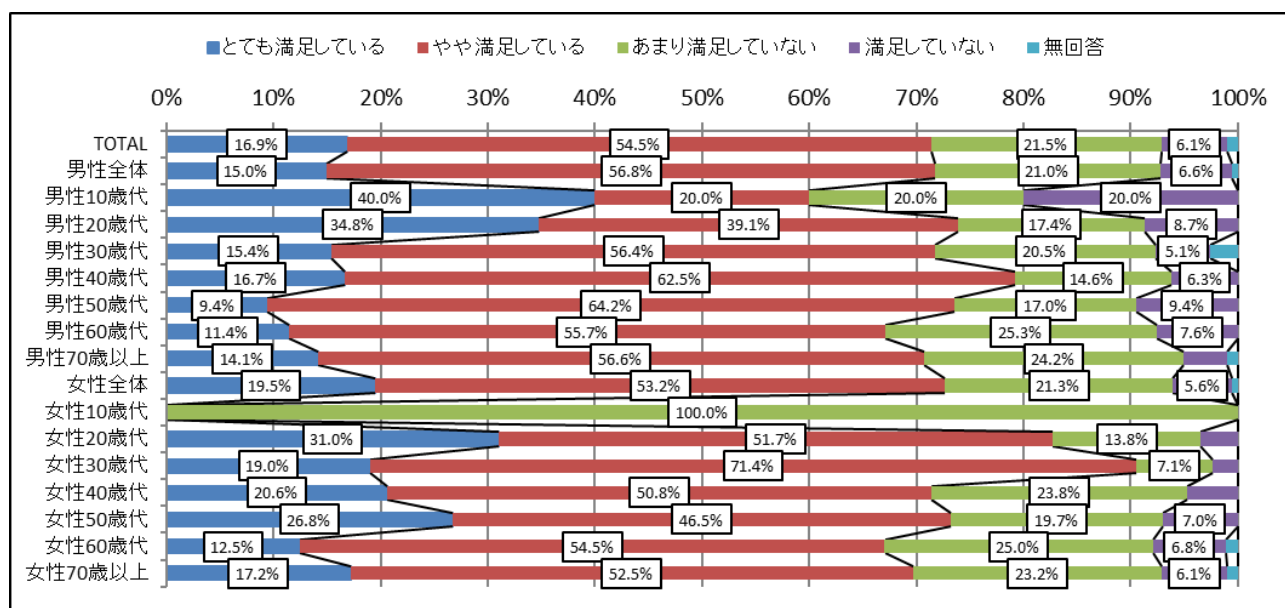
「やや満足している」と回答した人の割合が 54.5%と最も多く、次いで「あまり満足していない」と回答した人の割合が 21.5%、「とても満足している」と回答した人の割合が 16.9%、「満足していない」と回答した人の割合が最も少なく 6.1%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は 71.4%であり、7 割以上の市民がお住まい周辺の住環境に満足していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は 69.8%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		とても満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答	合計
TOTAL	818	16.9%	54.5%	21.5%	6.1%	1.0%	100.0%
男性全体	347	15.0%	56.8%	21.0%	6.6%	0.6%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	34.8%	39.1%	17.4%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	15.4%	56.4%	20.5%	5.1%	2.6%	100.0%
男性 40 歳代	48	16.7%	62.5%	14.6%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	9.4%	64.2%	17.0%	9.4%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	11.4%	55.7%	25.3%	7.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	14.1%	56.6%	24.2%	4.0%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	19.5%	53.2%	21.3%	5.6%	0.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	31.0%	51.7%	13.8%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	19.0%	71.4%	7.1%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	20.6%	50.8%	23.8%	4.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	26.8%	46.5%	19.7%	7.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	12.5%	54.5%	25.0%	6.8%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	99	17.2%	52.5%	23.2%	6.1%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	20.1%	63.1%	11.7%	4.5%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	9.3%	53.7%	29.6%	7.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	19.4%	55.9%	18.3%	6.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	9.1%	36.4%	48.5%	6.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	33.3%	33.3%	22.2%	11.1%	0.0%	100.0%
八基地区	17	5.9%	23.5%	52.9%	11.8%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	13.6%	59.1%	22.7%	0.0%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	25.2%	58.8%	15.1%	0.8%	0.0%	100.0%
南地区	51	9.8%	56.9%	23.5%	9.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	9.0%	44.9%	31.5%	11.2%	3.4%	100.0%
川本地区	49	16.3%	38.8%	32.7%	12.2%	0.0%	100.0%
花園地区	81	19.8%	66.7%	9.9%	3.7%	0.0%	100.0%
無回答	22	9.1%	36.4%	36.4%	9.1%	9.1%	100.0%

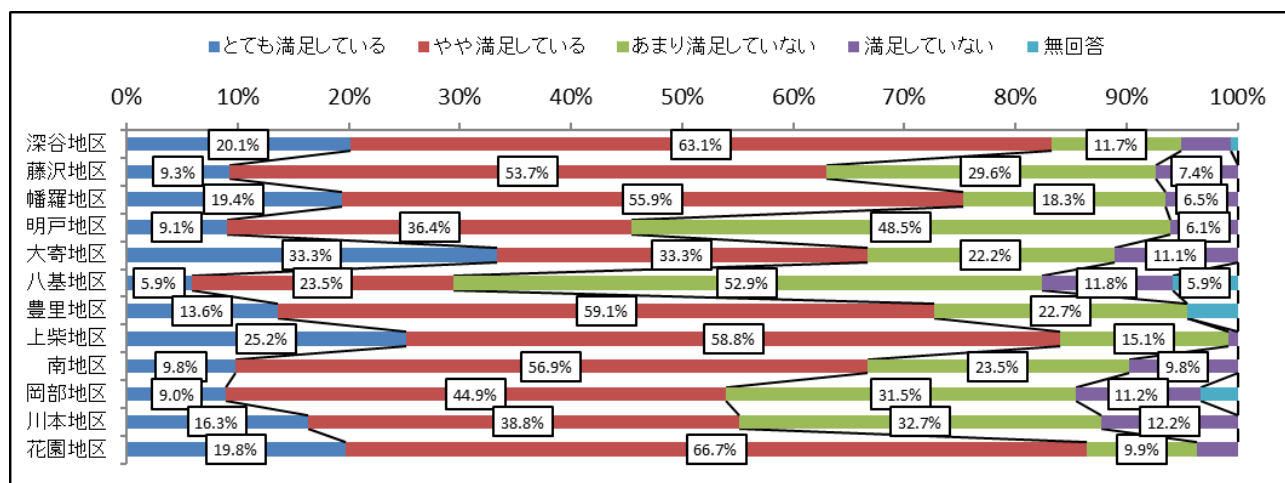
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は、男性が71.8%であるのに対して、女性は72.7%となっています。

また、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性10歳代（60.0%）、女性10歳代（0.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性40歳代（79.2%）、女性30歳代（90.4%）となっています。

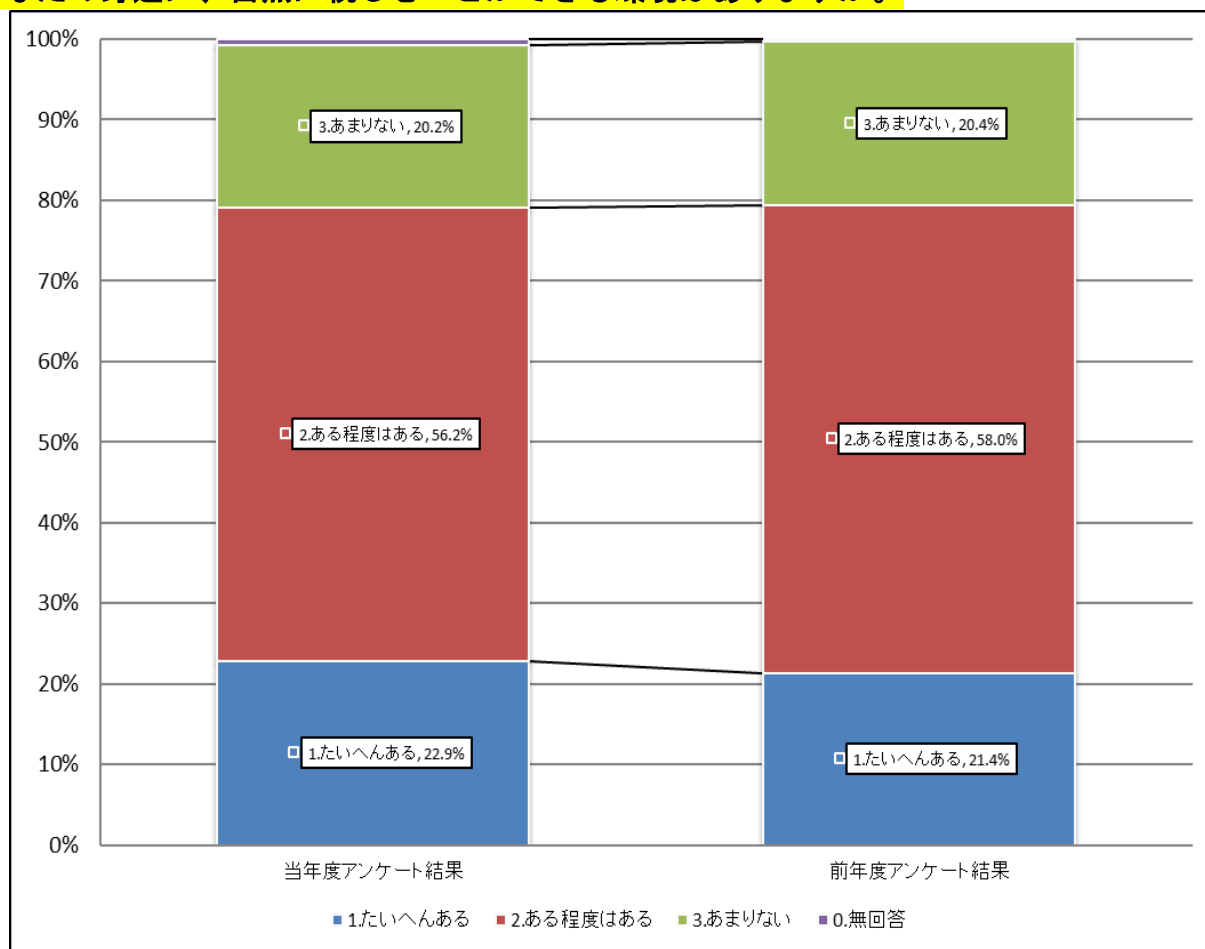
➤ 地区別



地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区（29.4%）であり、次いで明戸地区（45.5%）となっています。最も多いのは、花園地区（86.5%）であり、次いで上柴地区（84.0%）となっています。

地区によって大きな差があることがうかがえます。

あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。



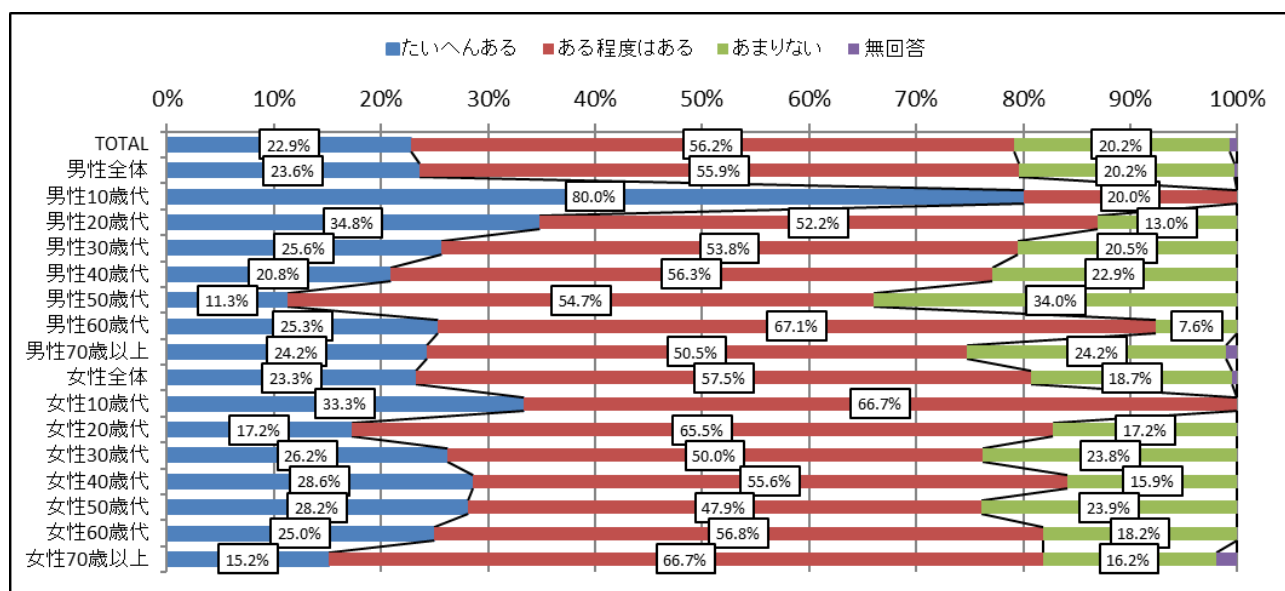
「ある程度はある」と回答した人の割合が 56.2%と最も多く、次いで「たいへんある」が 22.9%、「あまりない」と回答した人の割合が最も少なく 20.2% となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 79.1%であり、8 割近くの市民の身近に、自然に親しむことができる環境があることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 79.4%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		たいへんある	ある程度はある	あまりない	無回答	合計
TOTAL	818	22.9%	56.2%	20.2%	0.7%	100.0%
男性全体	347	23.6%	55.9%	20.2%	0.3%	100.0%
男性 10 歳代	5	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	34.8%	52.2%	13.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	25.6%	53.8%	20.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	20.8%	56.3%	22.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	11.3%	54.7%	34.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	25.3%	67.1%	7.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	24.2%	50.5%	24.2%	1.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	23.3%	57.5%	18.7%	0.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	17.2%	65.5%	17.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	26.2%	50.0%	23.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	28.6%	55.6%	15.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	28.2%	47.9%	23.9%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	25.0%	56.8%	18.2%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	15.2%	66.7%	16.2%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—
深谷地区	179	16.2%	62.0%	21.8%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	37.0%	44.4%	18.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	15.1%	57.0%	28.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	48.5%	45.5%	6.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	22.2%	44.4%	33.3%	0.0%	100.0%
八基地区	17	35.3%	41.2%	17.6%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	45.5%	45.5%	4.5%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	10.1%	56.3%	33.6%	0.0%	100.0%
南地区	51	11.8%	74.5%	13.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	33.7%	46.1%	18.0%	2.2%	100.0%
川本地区	49	22.4%	69.4%	8.2%	0.0%	100.0%
花園地区	81	34.6%	55.6%	9.9%	0.0%	100.0%
無回答	22	13.6%	50.0%	27.3%	9.1%	100.0%

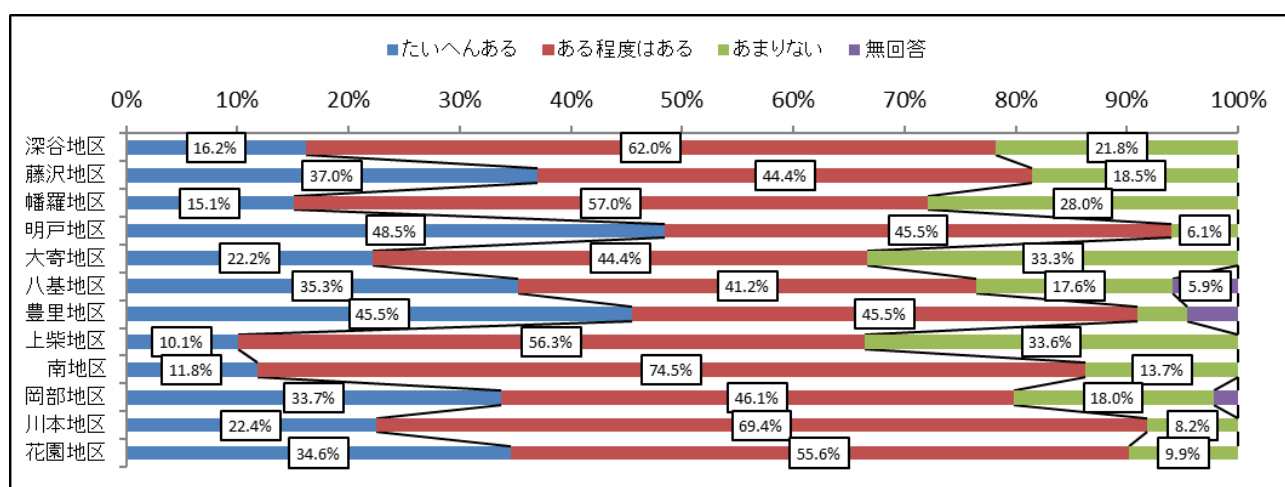
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は、男性が79.5%であるのに対して、女性は80.8%となっています。

また、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性は50歳代（66.0%）、女性は50歳代（76.1%）であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代（100.0%）、女性10歳代（100.0%）となっています。

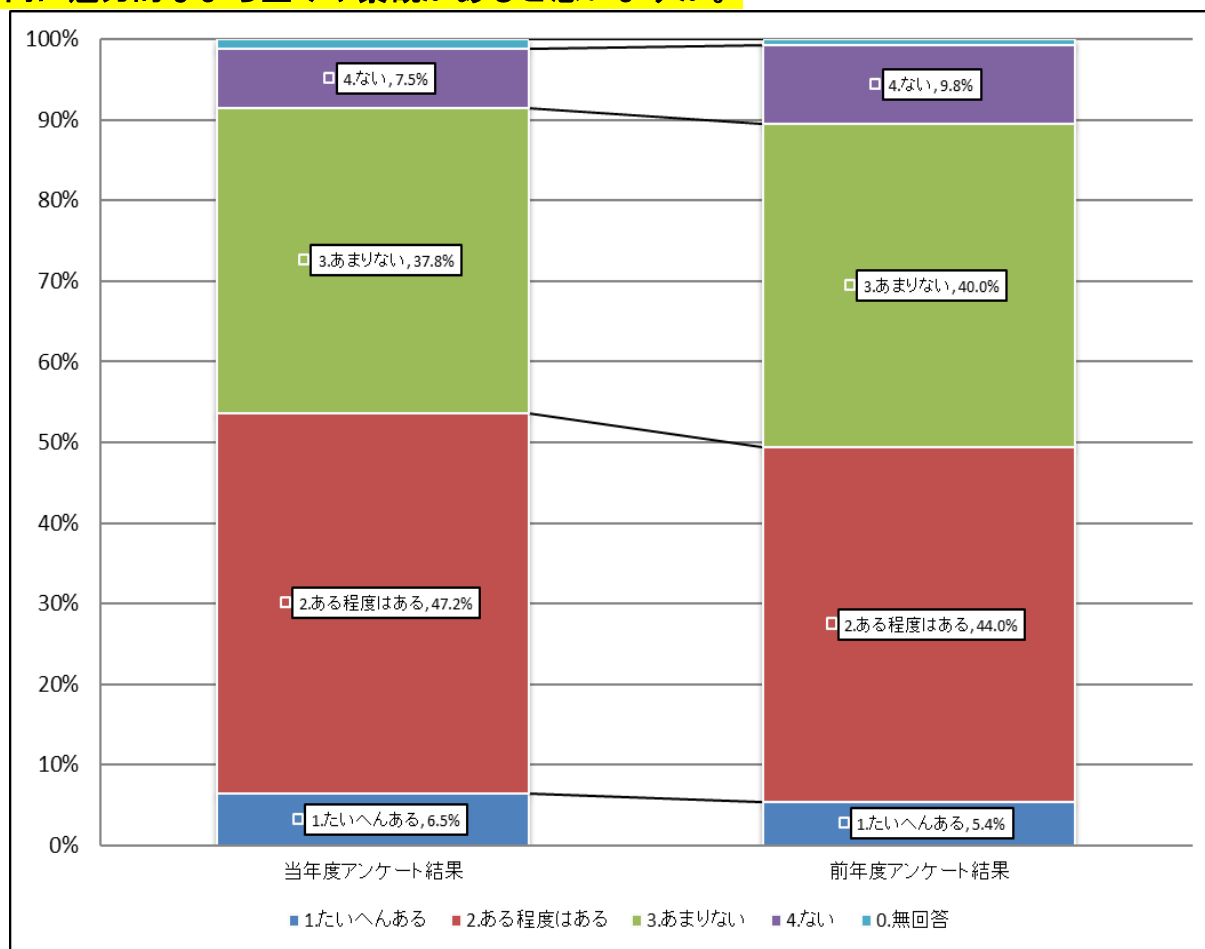
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、上柴地区（66.4%）であり、次いで大寄地区（66.6%）となっています。最も多いのは、明戸地区（94.0%）であり、次いで川本地区（91.8%）となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。



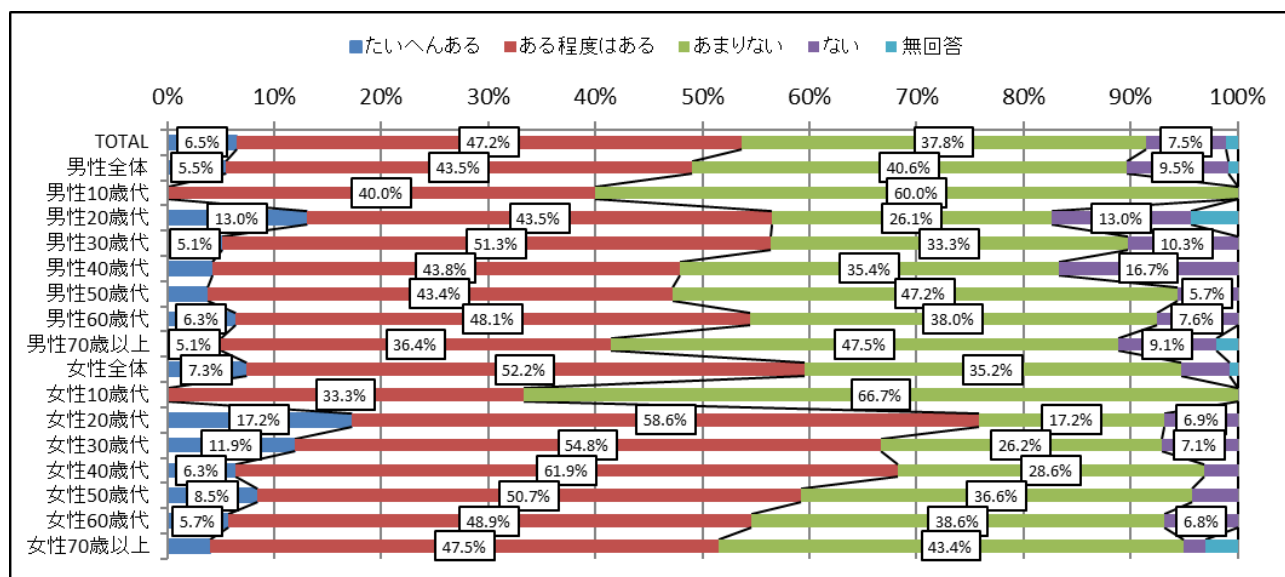
「ある程度はある」と回答した人の割合が 47.2%と最も多く、次いで「あまりない」と回答した人の割合が 37.8%、「ない」と回答した人の割合が 7.5%、「たいへんある」と回答した人の割合が最も少なく 6.5%となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 53.7%であり、5 割以上の市民が市内に魅力的なまち並みや景観があると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 49.4%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		たいへんある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	818	6.5%	47.2%	37.8%	7.5%	1.1%	100.0%
男性全体	347	5.5%	43.5%	40.6%	9.5%	0.9%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	13.0%	43.5%	26.1%	13.0%	4.3%	100.0%
男性 30 歳代	39	5.1%	51.3%	33.3%	10.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	4.2%	43.8%	35.4%	16.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	3.8%	43.4%	47.2%	5.7%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	6.3%	48.1%	38.0%	7.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	5.1%	36.4%	47.5%	9.1%	2.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	7.3%	52.2%	35.2%	4.6%	0.8%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	17.2%	58.6%	17.2%	6.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	11.9%	54.8%	26.2%	7.1%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	6.3%	61.9%	28.6%	3.2%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	8.5%	50.7%	36.6%	4.2%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	5.7%	48.9%	38.6%	6.8%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	4.0%	47.5%	43.4%	2.0%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	7.3%	50.3%	31.3%	11.2%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	3.7%	55.6%	31.5%	9.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	4.3%	49.5%	34.4%	10.8%	1.1%	100.0%
明戸地区	33	9.1%	48.5%	42.4%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	22.2%	44.4%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	0.0%	29.4%	52.9%	11.8%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	22.7%	36.4%	31.8%	4.5%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	4.2%	54.6%	33.6%	7.6%	0.0%	100.0%
南地区	51	7.8%	37.3%	49.0%	5.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	4.5%	39.3%	49.4%	4.5%	2.2%	100.0%
川本地区	49	2.0%	49.0%	40.8%	4.1%	4.1%	100.0%
花園地区	81	12.3%	44.4%	40.7%	2.5%	0.0%	100.0%
無回答	22	0.0%	36.4%	40.9%	13.6%	9.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

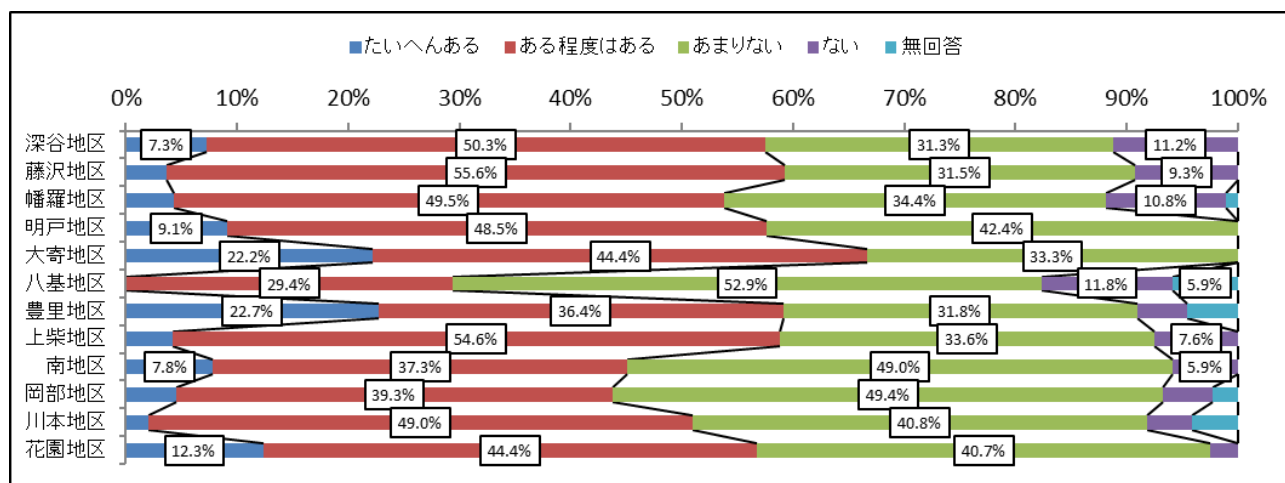


性別・世代別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は、男性が49.0%であるのに対して、女性は59.5%となっています。

また、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性が10歳代（40.0%）、女性が10歳代（33.3%）であり、一方で最も多い世代は、男性20歳代（56.5%）、女性20歳代（75.8%）となっています。

男女によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別

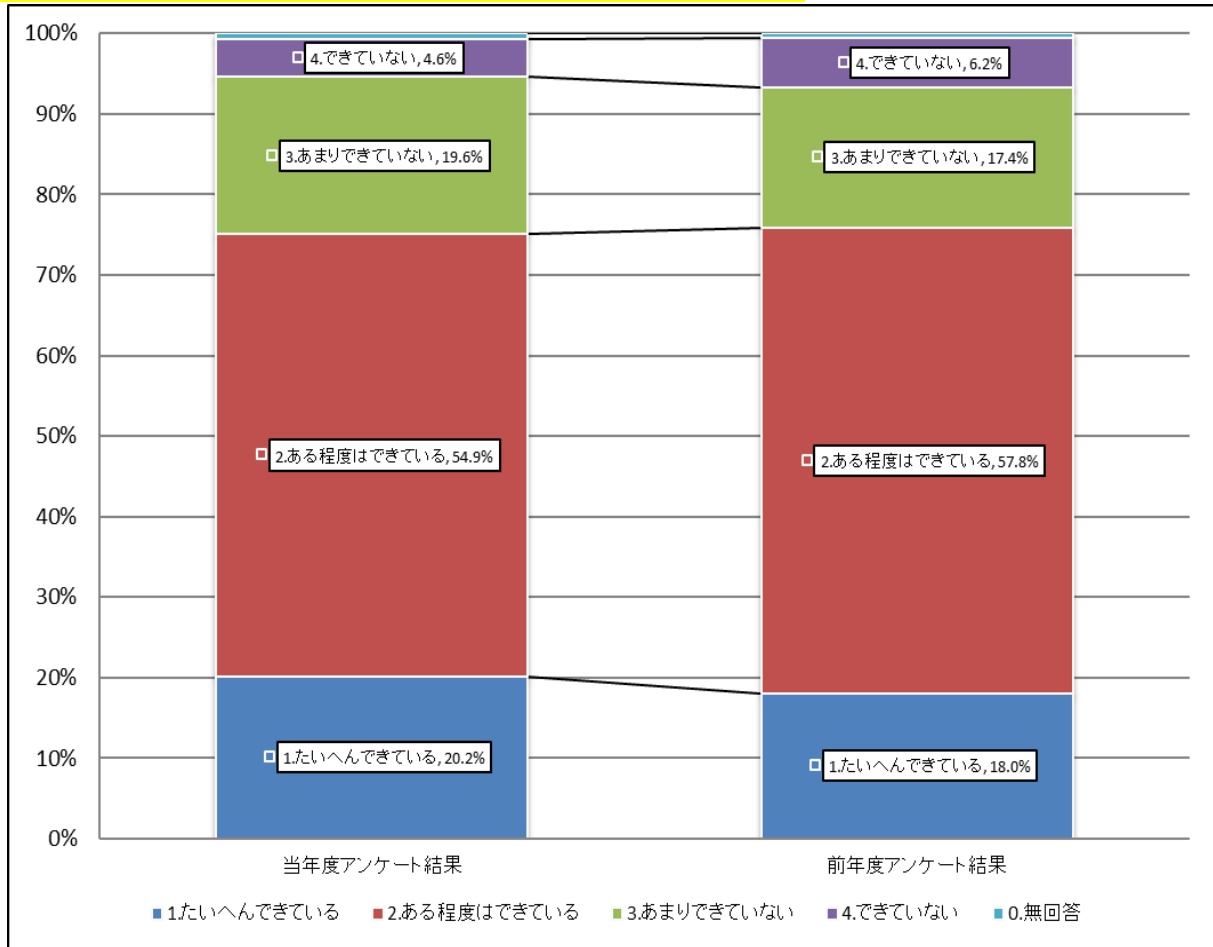


地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区（29.4%）であり、次いで岡部地区（43.8%）となっています。最も多いのは、大寄地区（66.6%）であり、次いで藤沢地区（59.3%）となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

② 良好で快適な都市環境の形成（6. 問5～7）

水害に対して安心した生活を送ることができていますか。



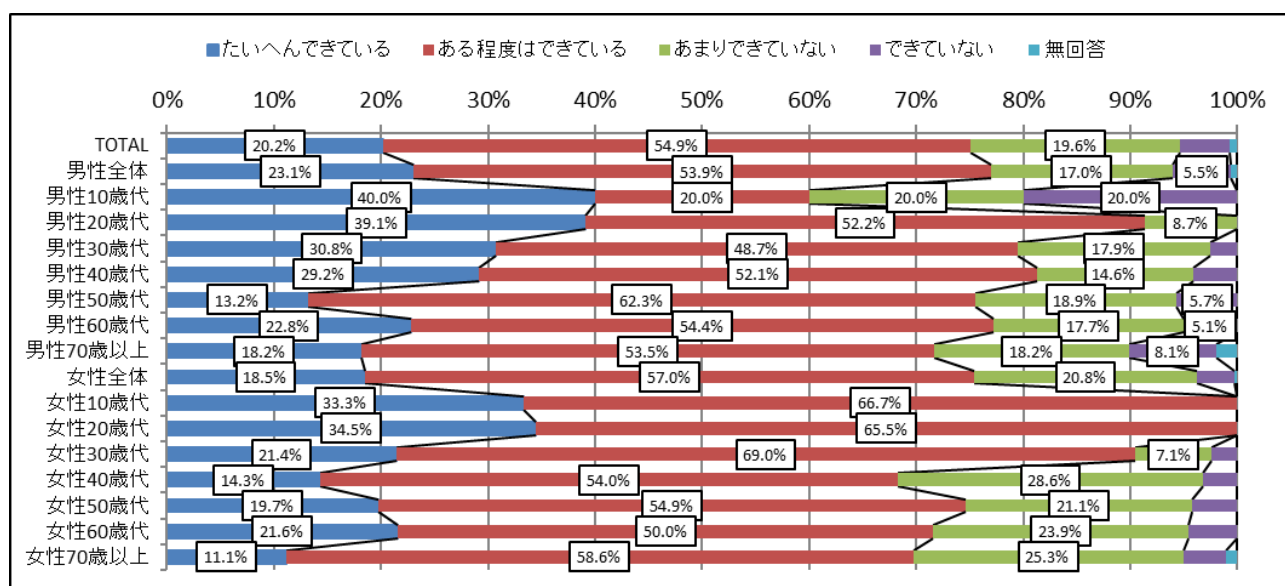
「ある程度はできている」と回答した人の割合が 54.9%と最も多く、次いで「たいへんできている」と回答した人の割合が 20.2%、「あまりできていない」と回答した人の割合が 19.6%、「できていない」と回答した人の割合が最も少なく 4.6%となっています。

「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計は 75.1%であり、8 割近くの市民が水害に対して安心した生活を送れていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計は 75.8%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		たいへんできている	ある程度はできている	あまりできていない	できていない	無回答	合計
TOTAL	818	20.2%	54.9%	19.6%	4.6%	0.7%	100.0%
男性全体	347	23.1%	53.9%	17.0%	5.5%	0.6%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	39.1%	52.2%	8.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	30.8%	48.7%	17.9%	2.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	29.2%	52.1%	14.6%	4.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	13.2%	62.3%	18.9%	5.7%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	22.8%	54.4%	17.7%	5.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	18.2%	53.5%	18.2%	8.1%	2.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	18.5%	57.0%	20.8%	3.5%	0.3%	100.0%
女性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	34.5%	65.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	21.4%	69.0%	7.1%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	14.3%	54.0%	28.6%	3.2%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	19.7%	54.9%	21.1%	4.2%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	21.6%	50.0%	23.9%	4.5%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	11.1%	58.6%	25.3%	4.0%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	17.3%	57.5%	21.2%	3.9%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	27.8%	59.3%	11.1%	1.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	26.9%	47.3%	23.7%	2.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	6.1%	48.5%	39.4%	6.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	11.1%	22.2%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	0.0%	47.1%	29.4%	17.6%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	9.1%	54.5%	13.6%	18.2%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	28.6%	52.1%	18.5%	0.8%	0.0%	100.0%
南地区	51	17.6%	62.7%	13.7%	5.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	18.0%	56.2%	14.6%	10.1%	1.1%	100.0%
川本地区	49	18.4%	55.1%	18.4%	6.1%	2.0%	100.0%
花園地区	81	24.7%	63.0%	11.1%	1.2%	0.0%	100.0%
無回答	22	4.5%	45.5%	31.8%	9.1%	9.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

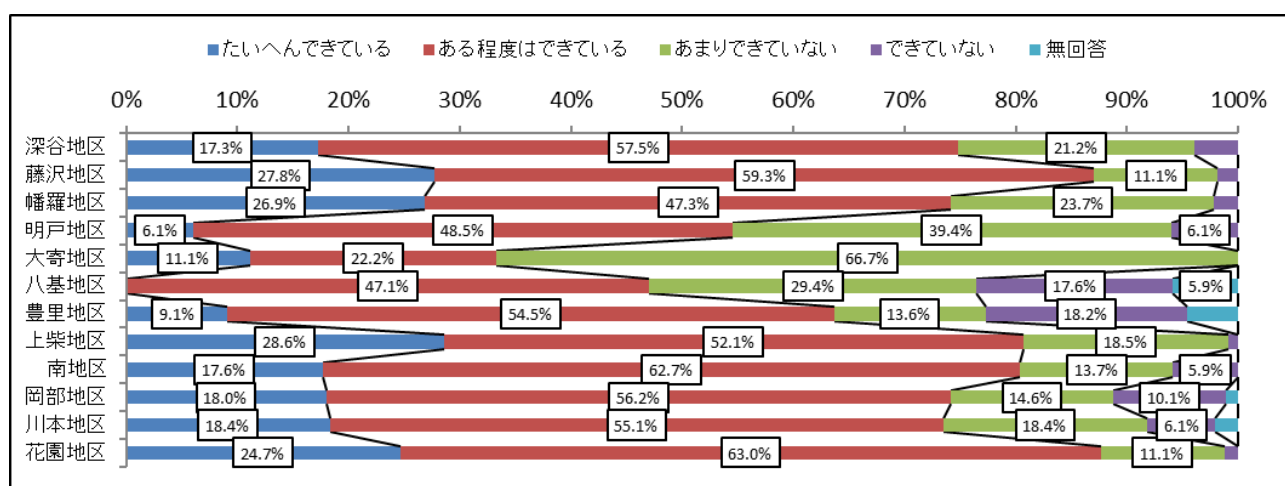


性別・世代別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計は、男性が 77.0%であるのに対して、女性は 75.5%となっています。

また、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (60.0%)、女性 40 歳代 (68.3%) であり、一方で最も多い世代は、男性 20 歳代 (91.3%)、女性 10 歳代・20 歳代ともに (100.0%) となっています。

女性は世代によって差があることがうかがえます。

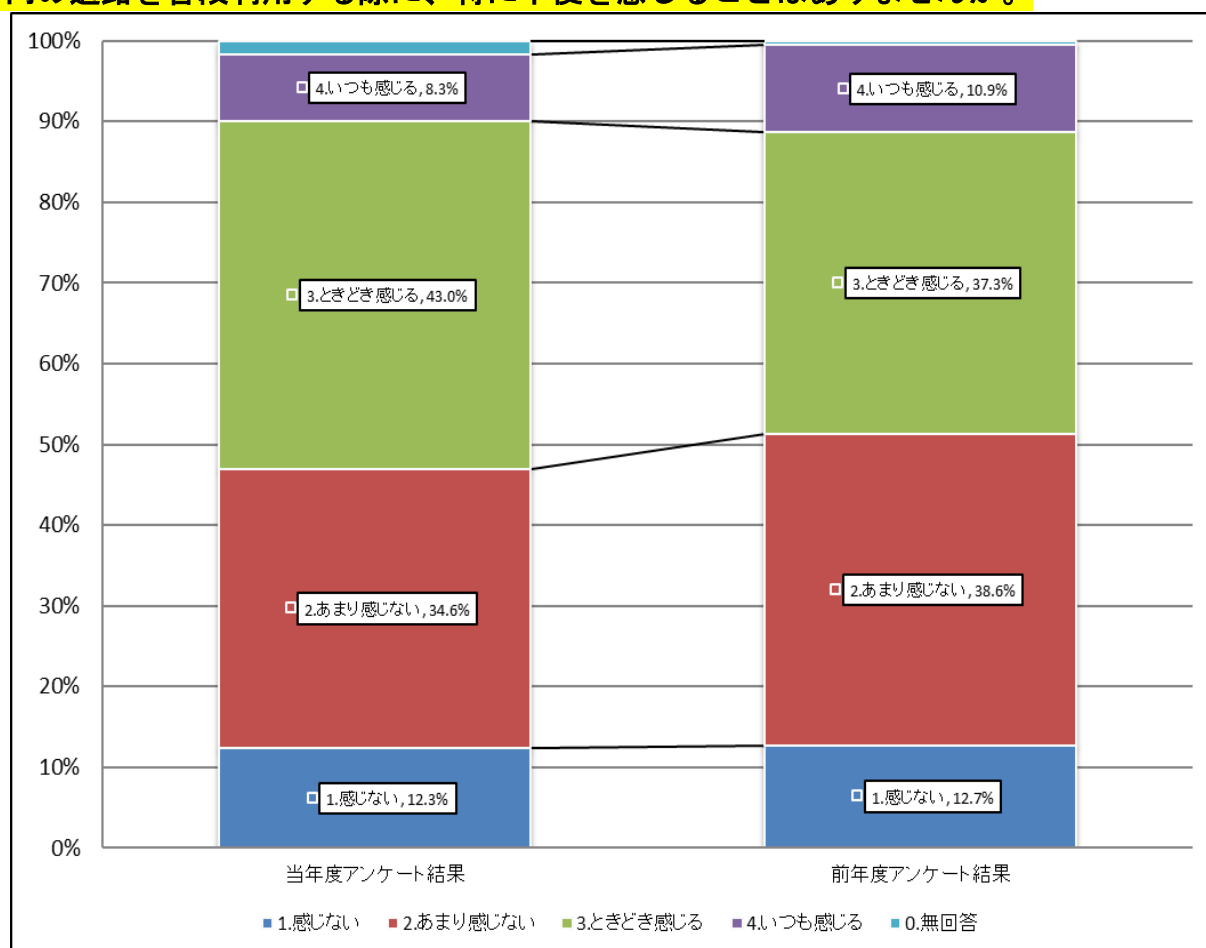
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、大寄地区 (33.3%) であり、次いで八基地区 (47.1%) となっています。最も多いのは、花園地区 (87.7%) であり、次いで藤沢地区 (87.1%) となっています。

地区によって大きな差があることがうかがえます。

市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。



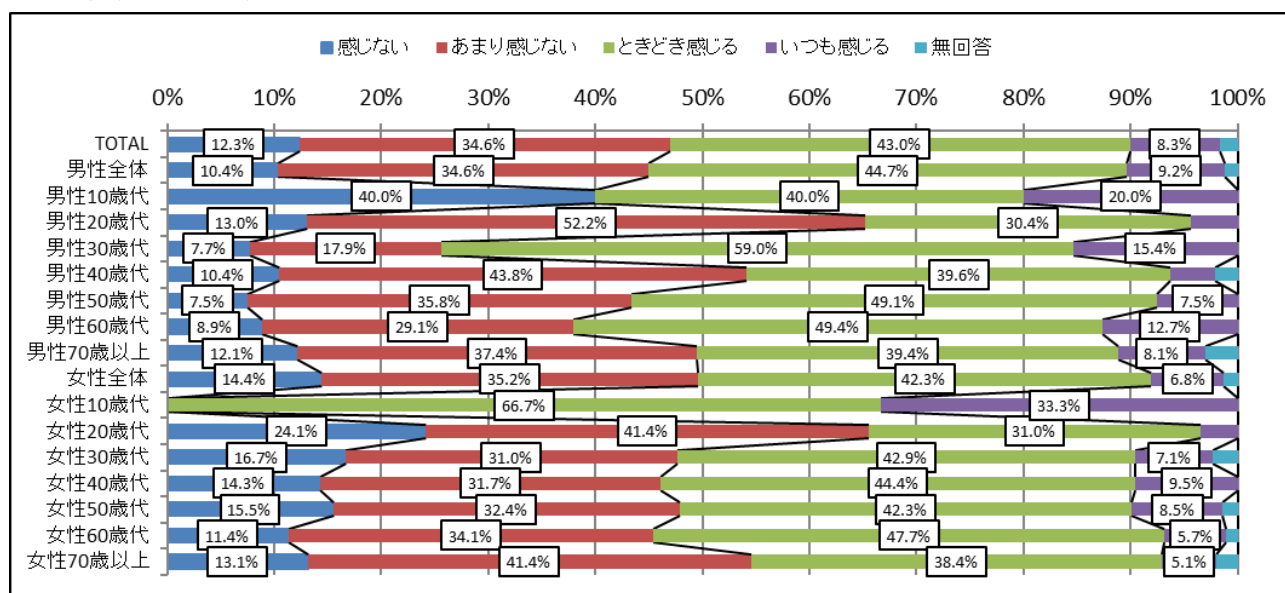
「ときどき感じる」と回答した人の割合が 43.0%と最も多く、次いで「あまり感じない」と回答した人の割合が 34.6%、「感じない」と回答した人の割合が 12.3%、「いつも感じる」と回答した人の割合が最も少なく 8.3%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は 46.9%である一方、半数以上の市民が、市内の道路を普段利用する際に不便を感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は 51.3%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

母集団		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	818	12.3%	34.6%	43.0%	8.3%	1.7%	100.0%
男性全体	347	10.4%	34.6%	44.7%	9.2%	1.2%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	13.0%	52.2%	30.4%	4.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	7.7%	17.9%	59.0%	15.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	10.4%	43.8%	39.6%	4.2%	2.1%	100.0%
男性 50 歳代	53	7.5%	35.8%	49.1%	7.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	8.9%	29.1%	49.4%	12.7%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	12.1%	37.4%	39.4%	8.1%	3.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	14.4%	35.2%	42.3%	6.8%	1.3%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	24.1%	41.4%	31.0%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	16.7%	31.0%	42.9%	7.1%	2.4%	100.0%
女性 40 歳代	63	14.3%	31.7%	44.4%	9.5%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	15.5%	32.4%	42.3%	8.5%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	88	11.4%	34.1%	47.7%	5.7%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	99	13.1%	41.4%	38.4%	5.1%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	11.7%	43.6%	38.5%	5.6%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	18.5%	44.4%	31.5%	5.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	9.7%	37.6%	41.9%	8.6%	2.2%	100.0%
明戸地区	33	12.1%	24.2%	48.5%	15.2%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	33.3%	0.0%	55.6%	11.1%	0.0%	100.0%
八基地区	17	5.9%	23.5%	58.8%	5.9%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	18.2%	18.2%	45.5%	13.6%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	14.3%	34.5%	42.0%	9.2%	0.0%	100.0%
南地区	51	7.8%	27.5%	56.9%	7.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	9.0%	25.8%	49.4%	11.2%	4.5%	100.0%
川本地区	49	14.3%	30.6%	44.9%	6.1%	4.1%	100.0%
花園地区	81	14.8%	39.5%	40.7%	4.9%	0.0%	100.0%
無回答	22	4.5%	22.7%	36.4%	22.7%	13.6%	100.0%

➤ 性別・世代別

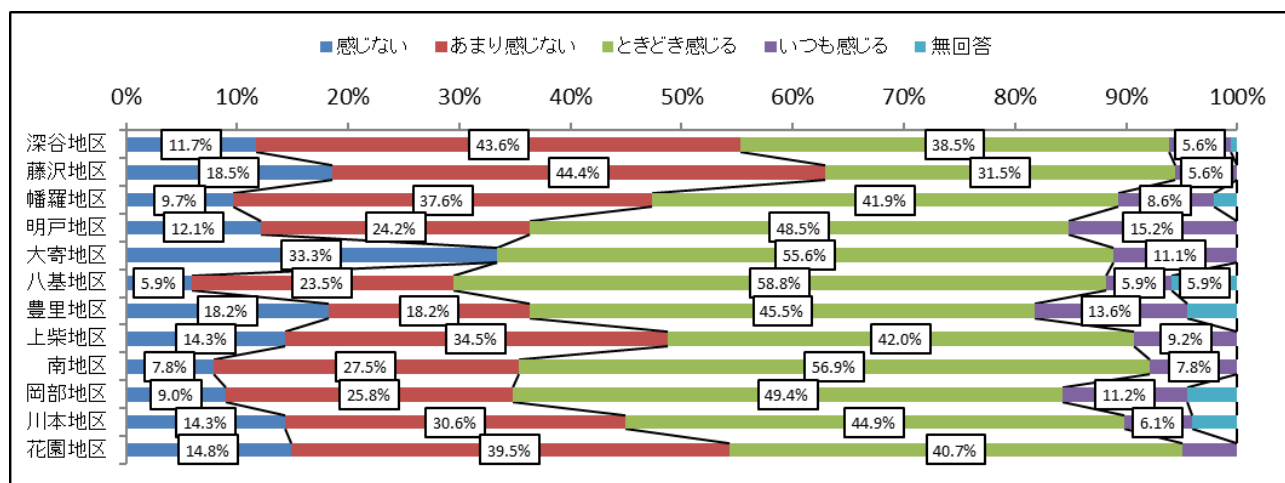


性別・世代別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は、男性が45.0%であるのに対して、女性は49.6%となっています。

また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性が30歳代（25.6%）、女性が10歳代（0.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性20歳代（65.2%）、女性20歳代（65.5%）となっています。

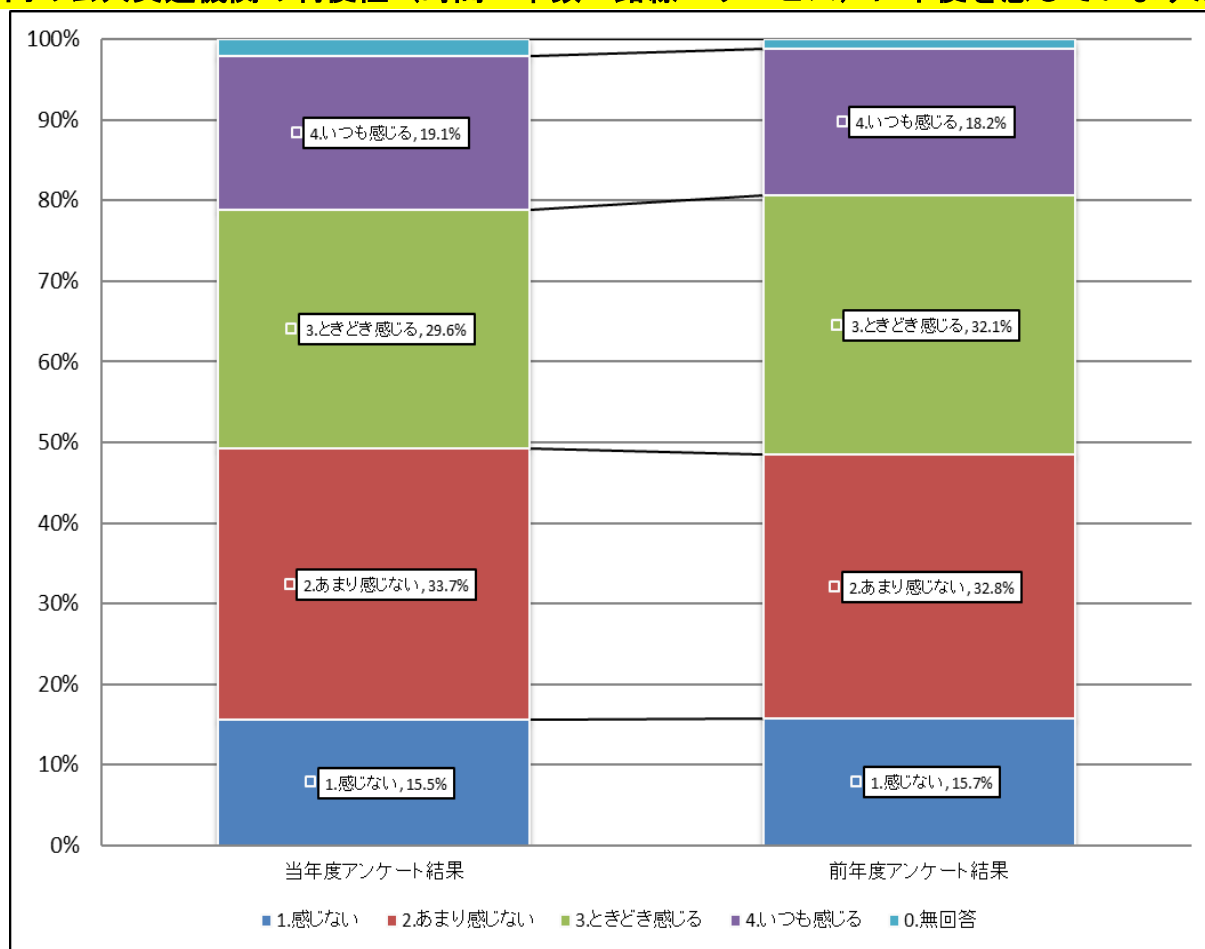
世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区（29.4%）であり、次いで大寄地区（33.3%）となっています。最も多いのは、藤沢地区（62.9%）であり、次いで深谷地区（55.3%）となっています。

市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。



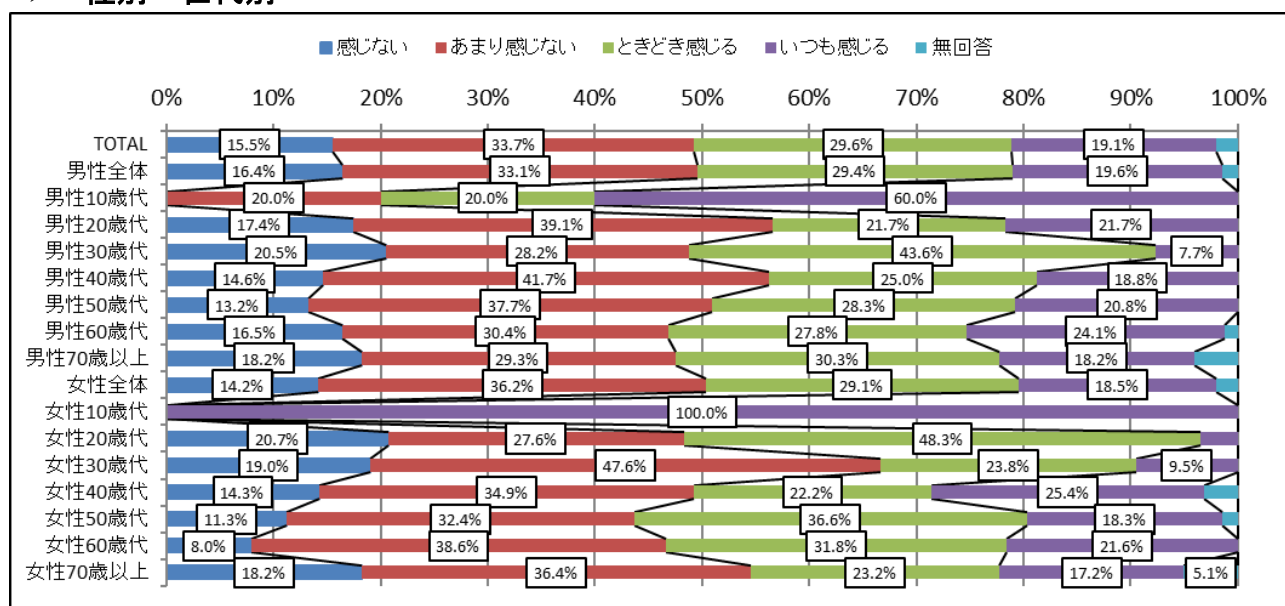
「あまり感じない」と回答した人の割合が 33.7%と最も多く、次いで「ときどき感じる」と回答した人の割合が 29.6%、「いつも感じる」と回答した人の割合が 19.1%、「感じない」と回答した人の割合が最も少なく 15.5%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は 49.2%である一方、半数以上の市民が、市内の公共交通機関の利便性に不便を感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は 48.5%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	818	15.5%	33.7%	29.6%	19.1%	2.1%	100.0%
男性全体	347	16.4%	33.1%	29.4%	19.6%	1.4%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	17.4%	39.1%	21.7%	21.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	20.5%	28.2%	43.6%	7.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	14.6%	41.7%	25.0%	18.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	13.2%	37.7%	28.3%	20.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	16.5%	30.4%	27.8%	24.1%	1.3%	100.0%
男性 70 歳以上	99	18.2%	29.3%	30.3%	18.2%	4.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	14.2%	36.2%	29.1%	18.5%	2.0%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	20.7%	27.6%	48.3%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	19.0%	47.6%	23.8%	9.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	14.3%	34.9%	22.2%	25.4%	3.2%	100.0%
女性 50 歳代	71	11.3%	32.4%	36.6%	18.3%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	88	8.0%	38.6%	31.8%	21.6%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	18.2%	36.4%	23.2%	17.2%	5.1%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	23.5%	35.2%	29.6%	11.2%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	16.7%	35.2%	29.6%	18.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	12.9%	34.4%	22.6%	28.0%	2.2%	100.0%
明戸地区	33	9.1%	30.3%	27.3%	33.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	22.2%	33.3%	33.3%	11.1%	0.0%	100.0%
八基地区	17	11.8%	23.5%	29.4%	23.5%	11.8%	100.0%
豊里地区	22	13.6%	36.4%	13.6%	27.3%	9.1%	100.0%
上柴地区	119	18.5%	31.1%	33.6%	16.8%	0.0%	100.0%
南地区	51	9.8%	41.2%	27.5%	19.6%	2.0%	100.0%
岡部地区	89	13.5%	28.1%	39.3%	15.7%	3.4%	100.0%
川本地区	49	2.0%	36.7%	30.6%	26.5%	4.1%	100.0%
花園地区	81	13.6%	39.5%	28.4%	17.3%	1.2%	100.0%
無回答	22	13.6%	18.2%	22.7%	31.8%	13.6%	100.0%

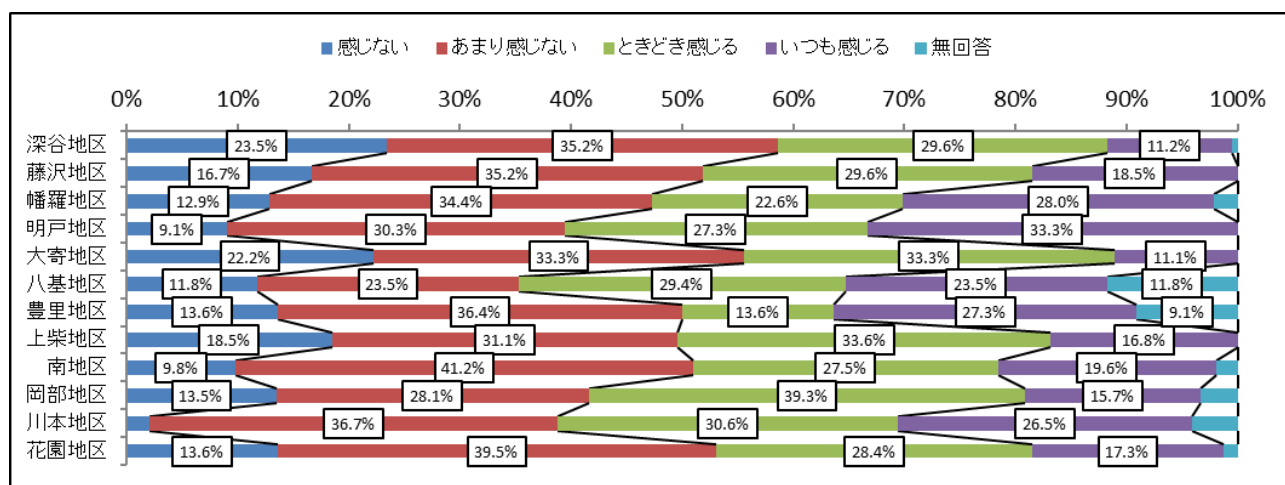
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は、男性が49.5%であるのに対して、女性は50.4%となっています。

また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性10歳代（20.0%）、女性10歳代（0.0%）であり、一方で最も多い世代は、男性20歳代（56.5%）女性30歳代（66.6%）となっています。

➤ 地区別

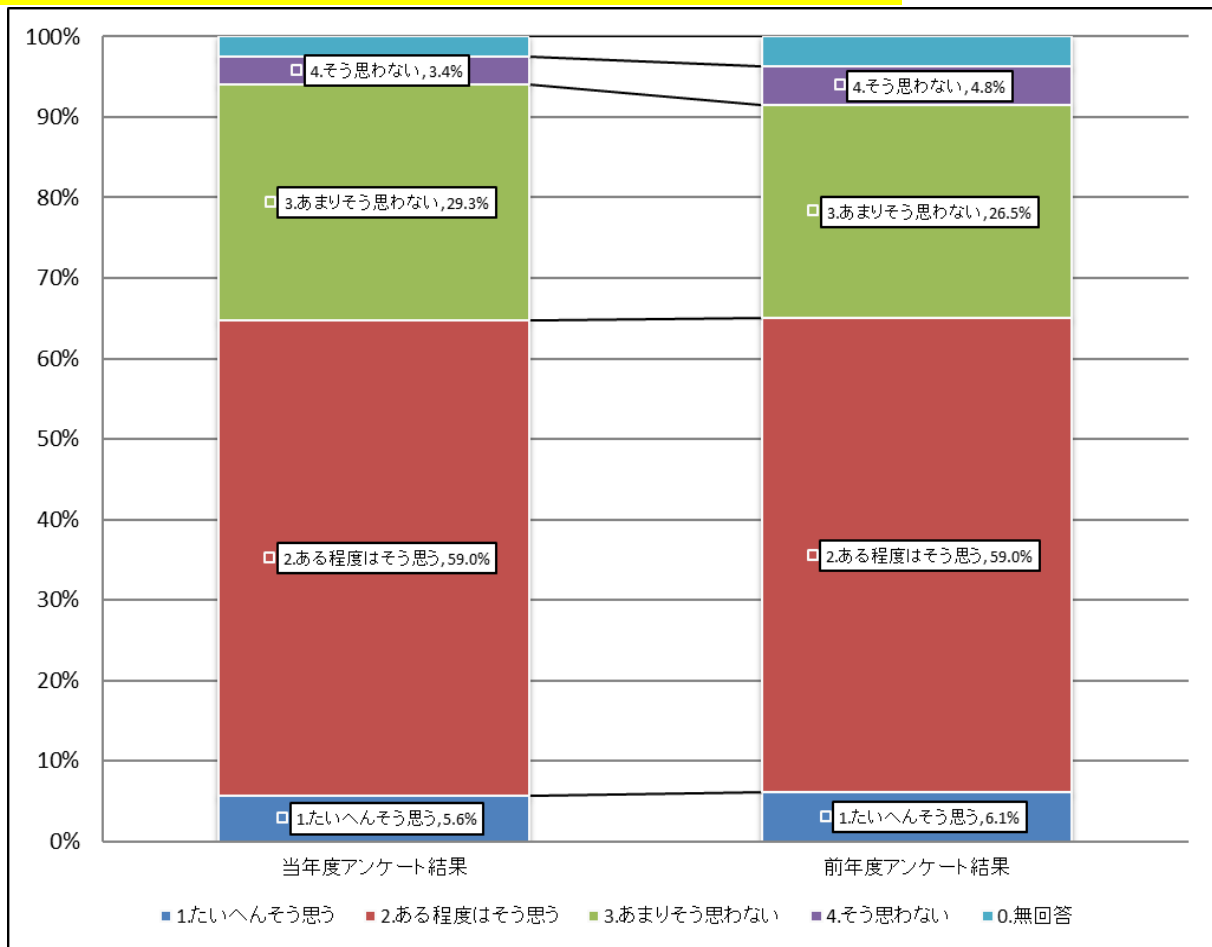


地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区（35.3%）であり、次いで川本地区（38.7%）となっています。最も多いのは、深谷地区（58.7%）であり、次いで大寄地区（55.5%）となっています。

(7) 協働・行政経営について

① 人権を尊重する社会づくり (7. 問1～4)

深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。



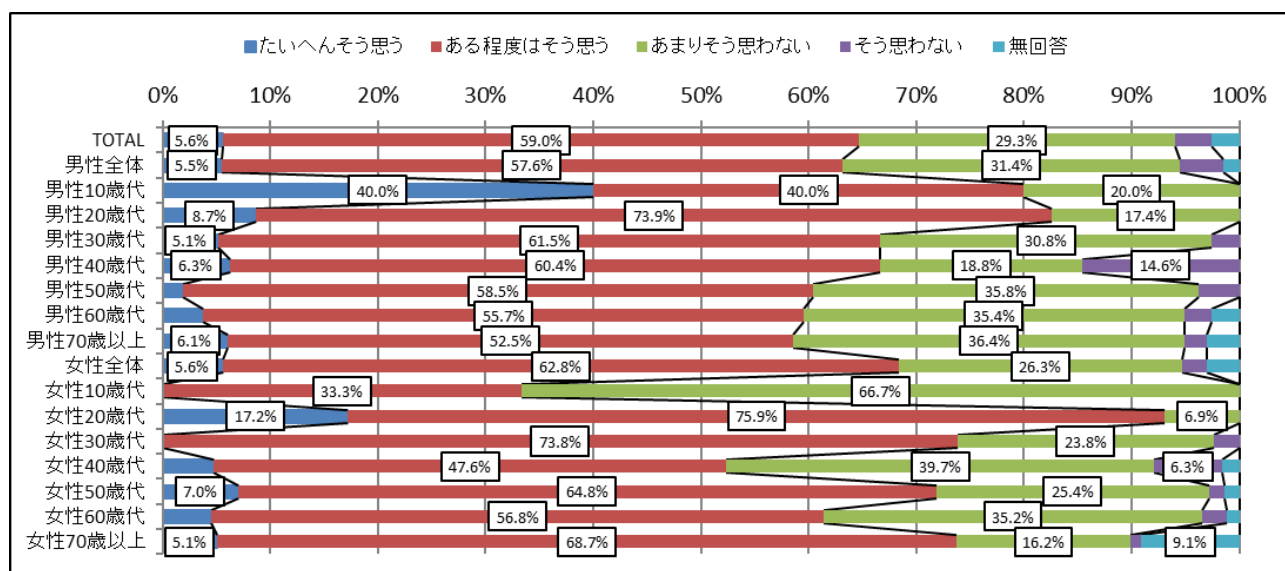
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 59.0%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 29.3%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が 5.6%、「そう思わない」と回答した人の割合が最も少なく 3.4%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 64.6%であり、6 割以上の市民が深谷市は人権と個性の尊重されているまちであると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 65.1%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	818	5.6%	59.0%	29.3%	3.4%	2.6%	100.0%
男性全体	347	5.5%	57.6%	31.4%	4.0%	1.4%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	8.7%	73.9%	17.4%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	5.1%	61.5%	30.8%	2.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	6.3%	60.4%	18.8%	14.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	1.9%	58.5%	35.8%	3.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	3.8%	55.7%	35.4%	2.5%	2.5%	100.0%
男性 70 歳以上	99	6.1%	52.5%	36.4%	2.0%	3.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	5.6%	62.8%	26.3%	2.3%	3.0%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	17.2%	75.9%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	0.0%	73.8%	23.8%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	4.8%	47.6%	39.7%	6.3%	1.6%	100.0%
女性 50 歳代	71	7.0%	64.8%	25.4%	1.4%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	88	4.5%	56.8%	35.2%	2.3%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	99	5.1%	68.7%	16.2%	1.0%	9.1%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	7.8%	59.8%	24.6%	5.6%	2.2%	100.0%
藤沢地区	54	3.7%	72.2%	20.4%	3.7%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	3.2%	59.1%	31.2%	4.3%	2.2%	100.0%
明戸地区	33	3.0%	57.6%	39.4%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	11.1%	66.7%	11.1%	0.0%	11.1%	100.0%
八基地区	17	0.0%	47.1%	41.2%	5.9%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	4.5%	63.6%	22.7%	4.5%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	8.4%	61.3%	26.1%	4.2%	0.0%	100.0%
南地区	51	3.9%	60.8%	29.4%	2.0%	3.9%	100.0%
岡部地区	89	5.6%	47.2%	41.6%	1.1%	4.5%	100.0%
川本地区	49	6.1%	61.2%	28.6%	0.0%	4.1%	100.0%
花園地区	81	3.7%	66.7%	25.9%	2.5%	1.2%	100.0%
無回答	22	4.5%	22.7%	54.5%	4.5%	13.6%	100.0%

➤ 性別・世代別

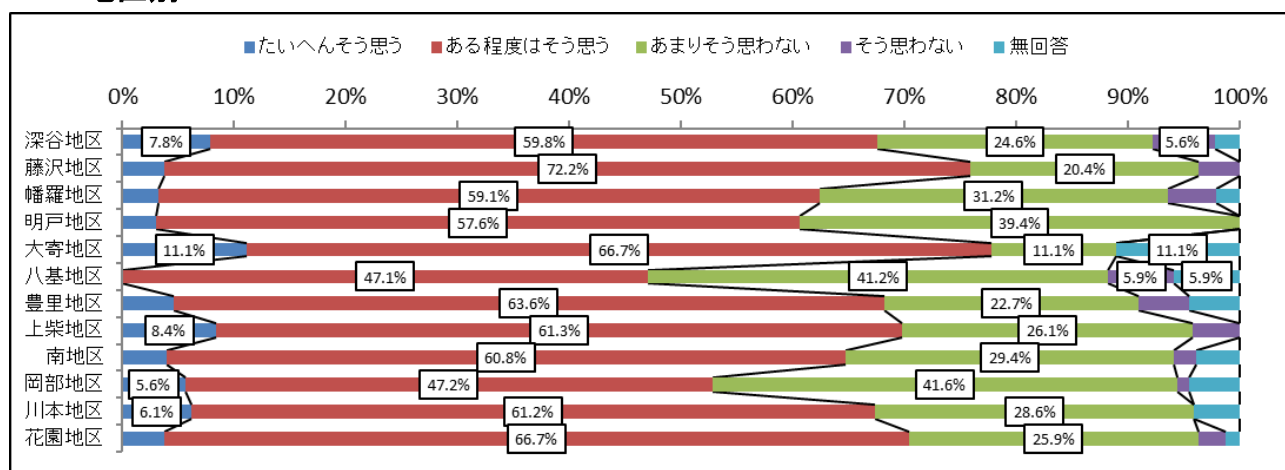


性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性が63.1%であるのに対して、女性は68.4%となっています。

また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性70歳以上（58.6%）、女性10歳代（33.3%）であり、一方で最も多い世代は、男性20歳代（82.6%）、女性20歳代（93.1%）となっています。

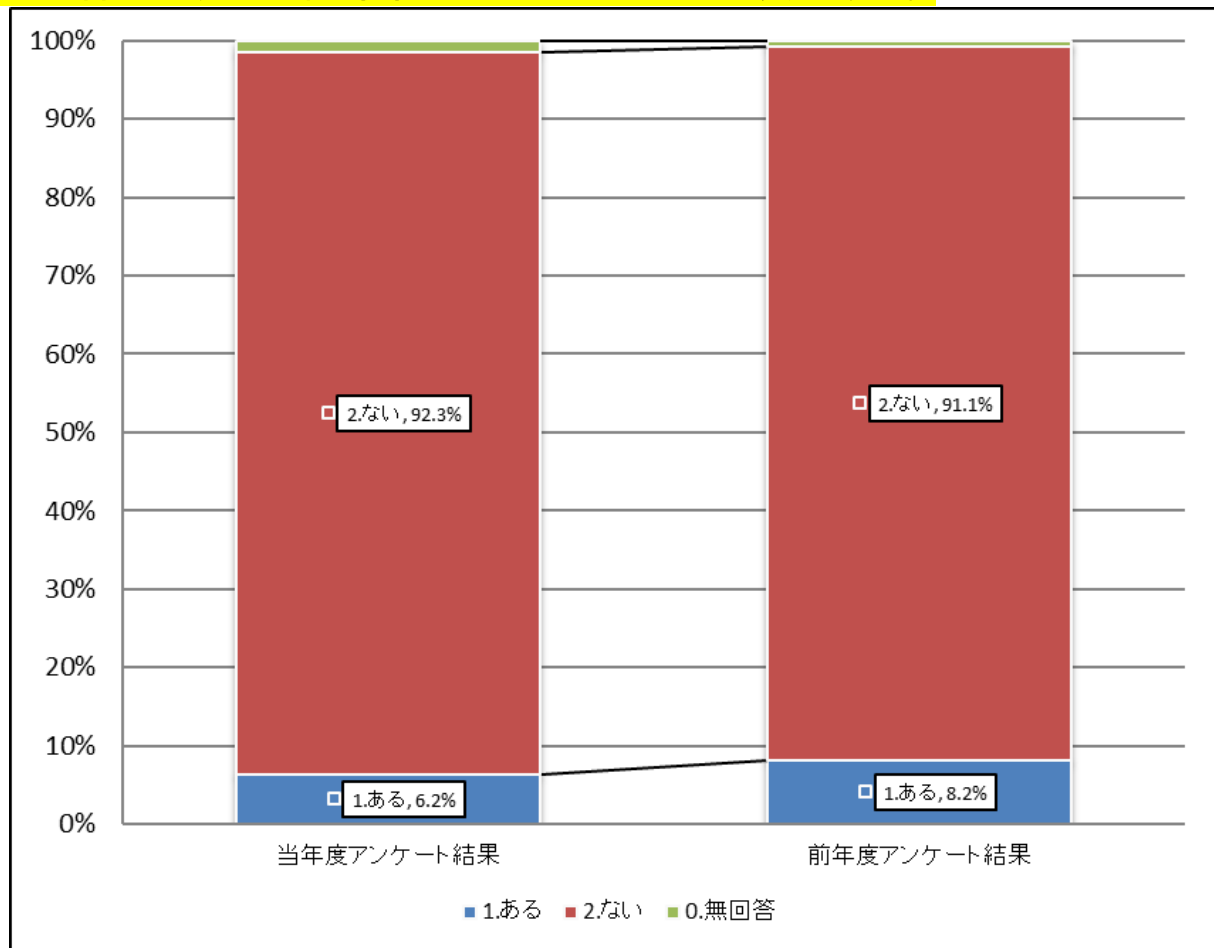
世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区（47.1%）であり、次いで岡部地区（52.8%）となっています。最も多いのは大寄地区（77.8%）であり、次いで藤沢地区（75.9%）となっています。

この１年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。



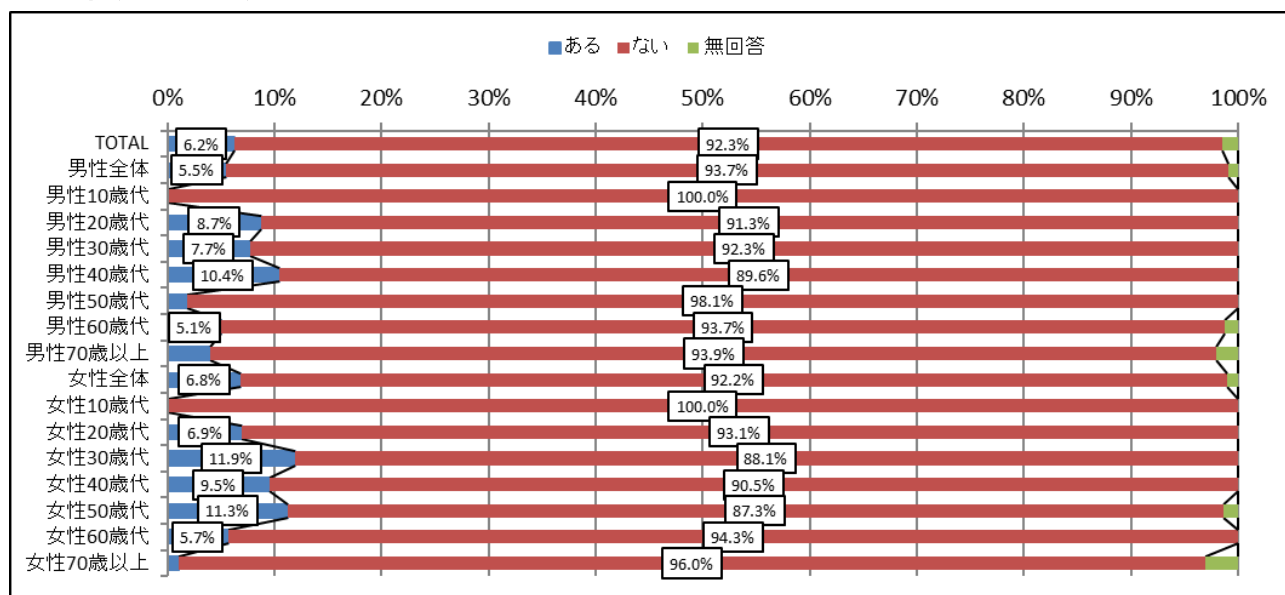
「ある」と回答した人の割合が 6.2%、「ない」と回答した人の割合が 92.3%となっています。

ほとんどの市民が、この１年間に自分の人権が侵害されたと思ったことは「ない」と回答している一方、侵害されたと感じている市民が約 0.6 割いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある」と回答した人の割合は 8.2%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	818	6.2%	92.3%	1.5%	100.0%
男性全体	347	5.5%	93.7%	0.9%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	8.7%	91.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	7.7%	92.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	10.4%	89.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	1.9%	98.1%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	5.1%	93.7%	1.3%	100.0%
男性 70 歳以上	99	4.0%	93.9%	2.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	6.8%	92.2%	1.0%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	6.9%	93.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	11.9%	88.1%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	9.5%	90.5%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	11.3%	87.3%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	88	5.7%	94.3%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	1.0%	96.0%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—
深谷地区	179	8.9%	90.5%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	3.7%	96.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	5.4%	93.5%	1.1%	100.0%
明戸地区	33	9.1%	90.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	5.9%	88.2%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	0.0%	95.5%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	5.9%	93.3%	0.8%	100.0%
南地区	51	2.0%	98.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	7.9%	89.9%	2.2%	100.0%
川本地区	49	0.0%	98.0%	2.0%	100.0%
花園地区	81	4.9%	93.8%	1.2%	100.0%
無回答	22	22.7%	63.6%	13.6%	100.0%

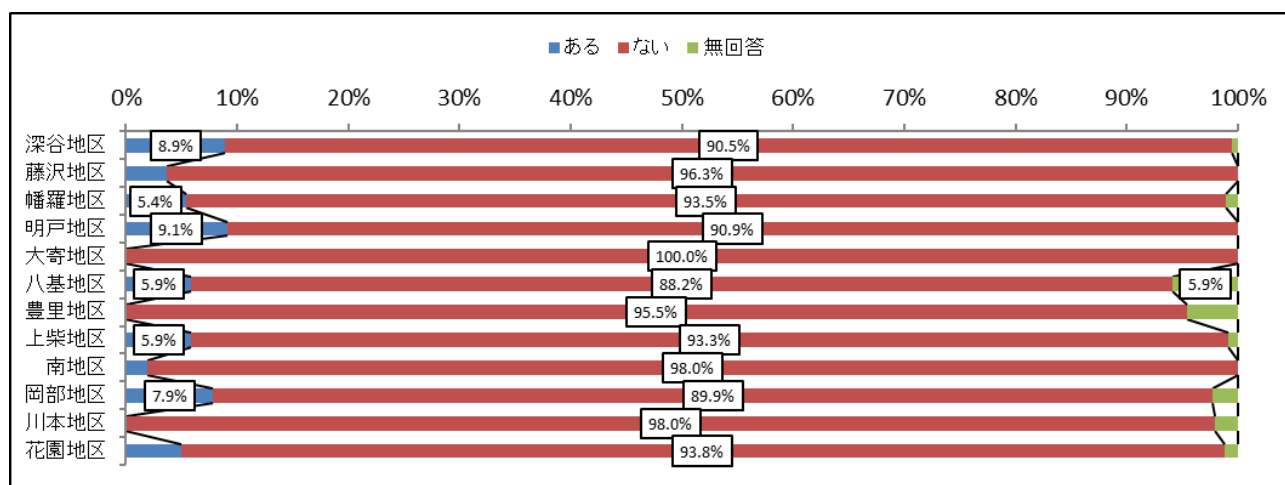
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男性が 5.5%であるのに対して、女性は 6.8%となっています。

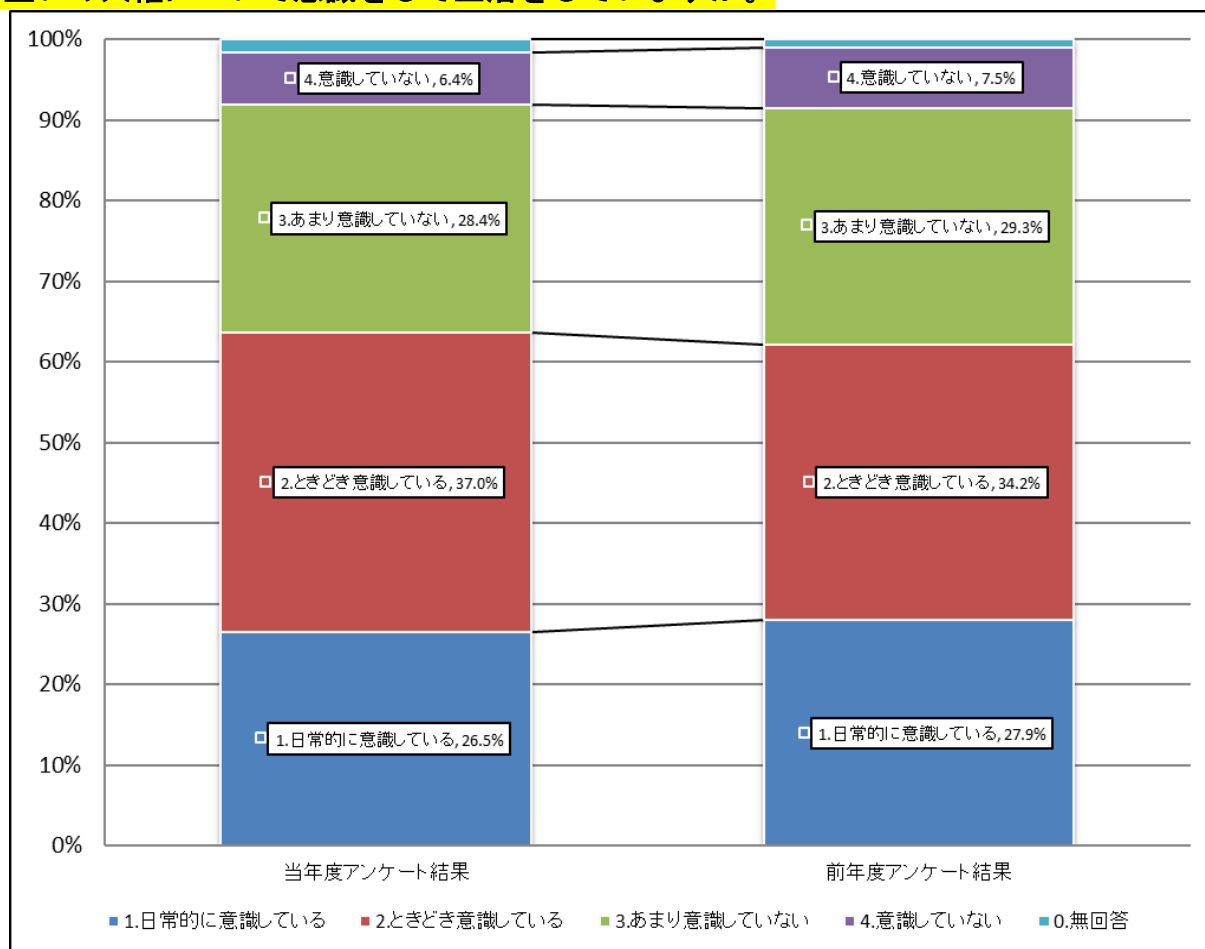
また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 10 歳代 (0.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 40 歳代 (10.4%)、女性 30 歳代 (11.9%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区・豊里地区・川本地区の 3 地区 (0.0%) であり、次いで南地区 (2.0%) となっています。最も多いのは明戸地区 (9.1%) であり、次いで深谷地区 (8.9%) となっています。

お互いの人権について意識をして生活をしていますか。



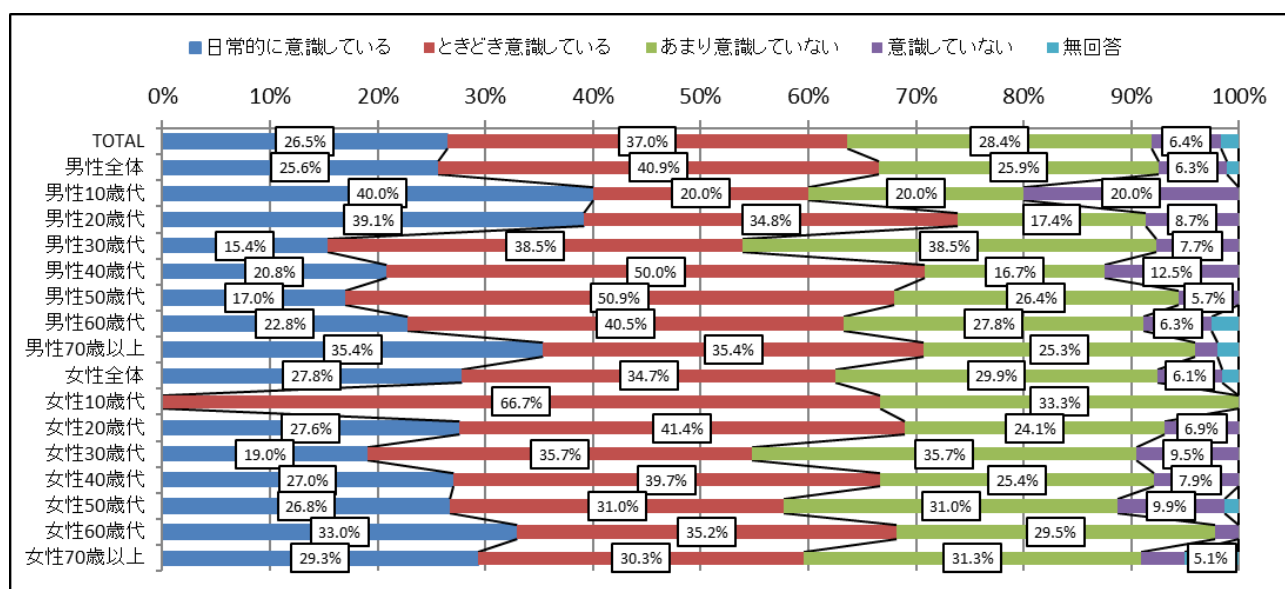
「ときどき意識している」と回答した人の割合が 37.0%と最も多く、次いで「あまり意識していない」と回答した人の割合が 28.4%、「日常的に意識している」と回答した人の割合が 26.5%、「意識していない」と回答した人の割合が最も少なく 6.4%となっています。

「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は 63.5%であり、6 割以上の市民がお互いの人権について意識をして生活をしていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は 62.1%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		日常的に意識している	ときどき意識している	あまり意識していない	意識していない	無回答	合計
TOTAL	818	26.5%	37.0%	28.4%	6.4%	1.7%	100.0%
男性全体	347	25.6%	40.9%	25.9%	6.3%	1.2%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	39.1%	34.8%	17.4%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	15.4%	38.5%	38.5%	7.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	20.8%	50.0%	16.7%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	17.0%	50.9%	26.4%	5.7%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	22.8%	40.5%	27.8%	6.3%	2.5%	100.0%
男性 70 歳以上	99	35.4%	35.4%	25.3%	2.0%	2.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	27.8%	34.7%	29.9%	6.1%	1.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	27.6%	41.4%	24.1%	6.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	19.0%	35.7%	35.7%	9.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	27.0%	39.7%	25.4%	7.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	26.8%	31.0%	31.0%	9.9%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	88	33.0%	35.2%	29.5%	2.3%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	29.3%	30.3%	31.3%	4.0%	5.1%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	29.1%	34.1%	29.1%	7.3%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	20.4%	46.3%	25.9%	7.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	25.8%	37.6%	30.1%	4.3%	2.2%	100.0%
明戸地区	33	33.3%	33.3%	30.3%	3.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	29.4%	29.4%	35.3%	0.0%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	27.3%	36.4%	22.7%	9.1%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	21.0%	39.5%	31.1%	7.6%	0.8%	100.0%
南地区	51	17.6%	31.4%	35.3%	11.8%	3.9%	100.0%
岡部地区	89	29.2%	41.6%	21.3%	5.6%	2.2%	100.0%
川本地区	49	40.8%	30.6%	20.4%	6.1%	2.0%	100.0%
花園地区	81	32.1%	35.8%	29.6%	1.2%	1.2%	100.0%
無回答	22	9.1%	36.4%	27.3%	18.2%	9.1%	100.0%

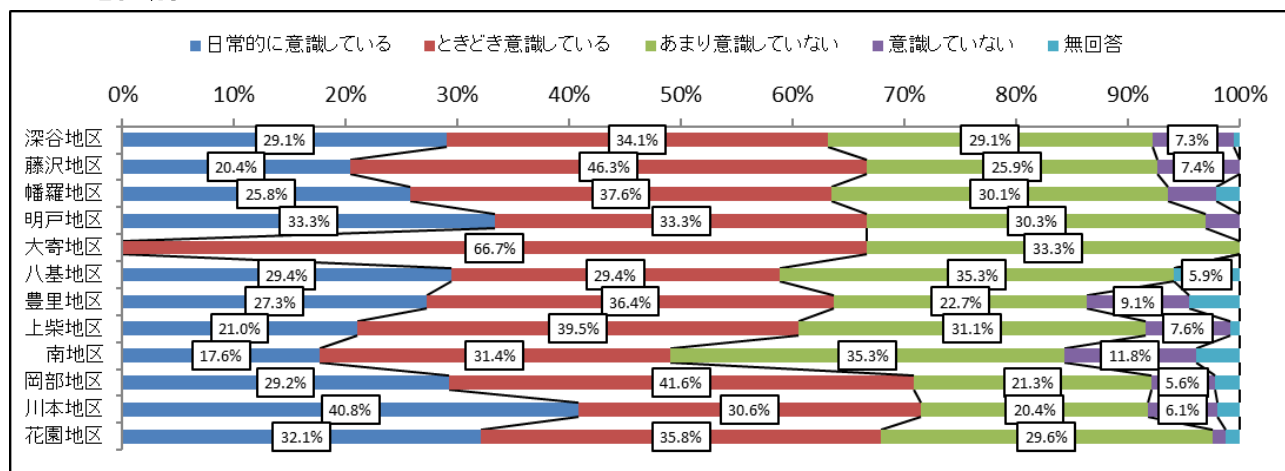
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は、男性が 66.5%であるのに対して、女性は 62.5%となっています。

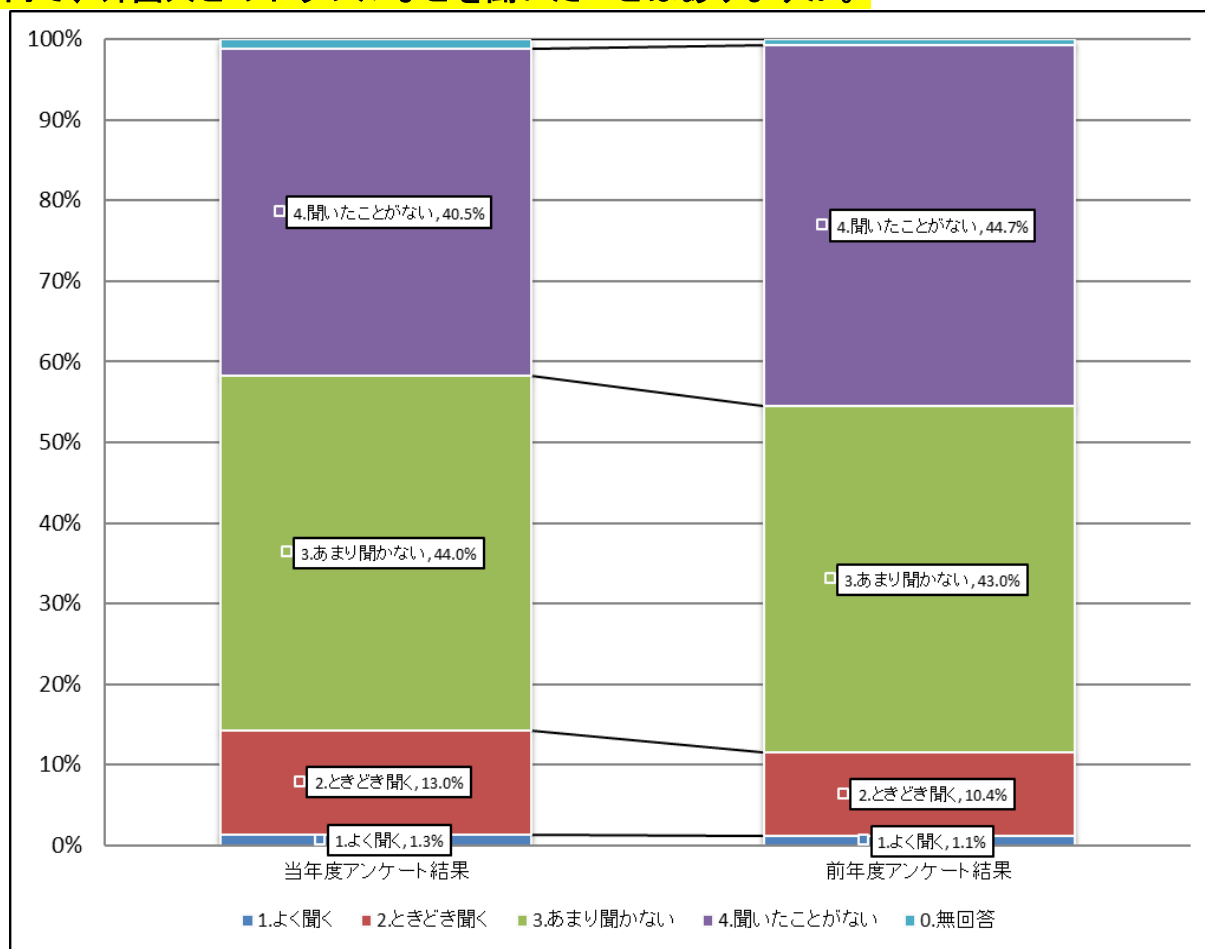
また、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (53.9%)、女性 30 歳代 (54.7%) であり、一方で最も多い世代は、男性 20 歳代 (73.9%)、女性 20 歳代 (69.0%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、南地区 (49.0%) であり、次いで八基地区 (58.8%) となっています。最も多いのは川本地区 (71.4%) であり、次に岡部地区 (70.8%) となっています。

市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。



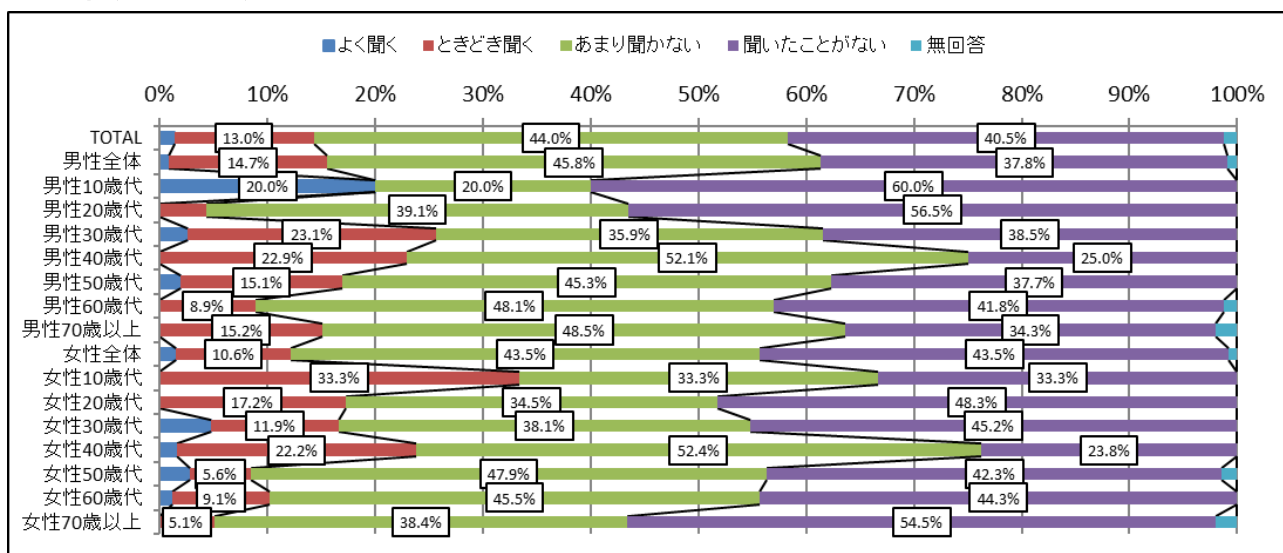
「あまり聞かない」と回答した人の割合が 44.0%と最も多く、次いで「聞いたことがない」と回答した人の割合が 40.5%、「ときどき聞く」と回答した人の割合が 13.0%、「よく聞く」と回答した人の割合が最も少なく 1.3%となっています。

「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は 14.3%であり、市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことがある市民は1割以上いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は 11.5%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		よく聞く	ときどき聞く	あまり聞かない	聞いたことがない	無回答	合計
TOTAL	818	1.3%	13.0%	44.0%	40.5%	1.2%	100.0%
男性全体	347	0.9%	14.7%	45.8%	37.8%	0.9%	100.0%
男性 10 歳代	5	20.0%	0.0%	20.0%	60.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	0.0%	4.3%	39.1%	56.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	2.6%	23.1%	35.9%	38.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	0.0%	22.9%	52.1%	25.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	1.9%	15.1%	45.3%	37.7%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	0.0%	8.9%	48.1%	41.8%	1.3%	100.0%
男性 70 歳以上	99	0.0%	15.2%	48.5%	34.3%	2.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	1.5%	10.6%	43.5%	43.5%	0.8%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	0.0%	17.2%	34.5%	48.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	4.8%	11.9%	38.1%	45.2%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	1.6%	22.2%	52.4%	23.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	2.8%	5.6%	47.9%	42.3%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	88	1.1%	9.1%	45.5%	44.3%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	0.0%	5.1%	38.4%	54.5%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	1.1%	12.3%	42.5%	43.6%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	1.9%	11.1%	40.7%	46.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	1.1%	6.5%	44.1%	47.3%	1.1%	100.0%
明戸地区	33	3.0%	24.2%	39.4%	33.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	22.2%	0.0%	33.3%	44.4%	0.0%	100.0%
八基地区	17	0.0%	17.6%	47.1%	29.4%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	0.0%	22.7%	27.3%	45.5%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	1.7%	11.8%	45.4%	40.3%	0.8%	100.0%
南地区	51	0.0%	19.6%	47.1%	33.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	0.0%	13.5%	48.3%	36.0%	2.2%	100.0%
川本地区	49	0.0%	12.2%	42.9%	44.9%	0.0%	100.0%
花園地区	81	2.5%	13.6%	51.9%	30.9%	1.2%	100.0%
無回答	22	0.0%	13.6%	31.8%	45.5%	9.1%	100.0%

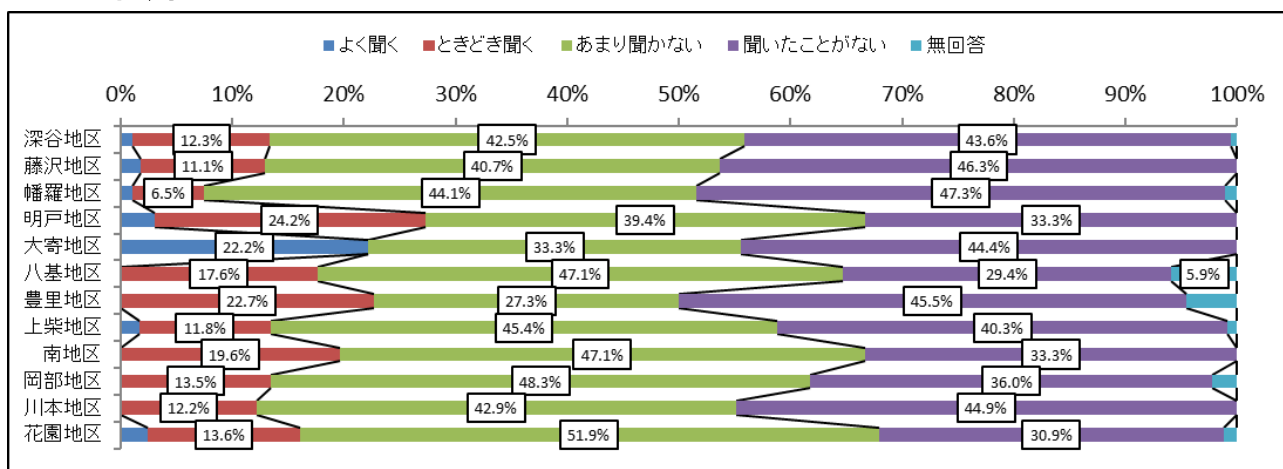
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は、男性が15.6%であるのに対して、女性は12.1%となっています。

また、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性20歳代(4.3%)、女性70歳以上(5.1%)であり、一方で最も多い世代は、男性30歳代(25.7%)、女性10歳代(33.3%)となっています。

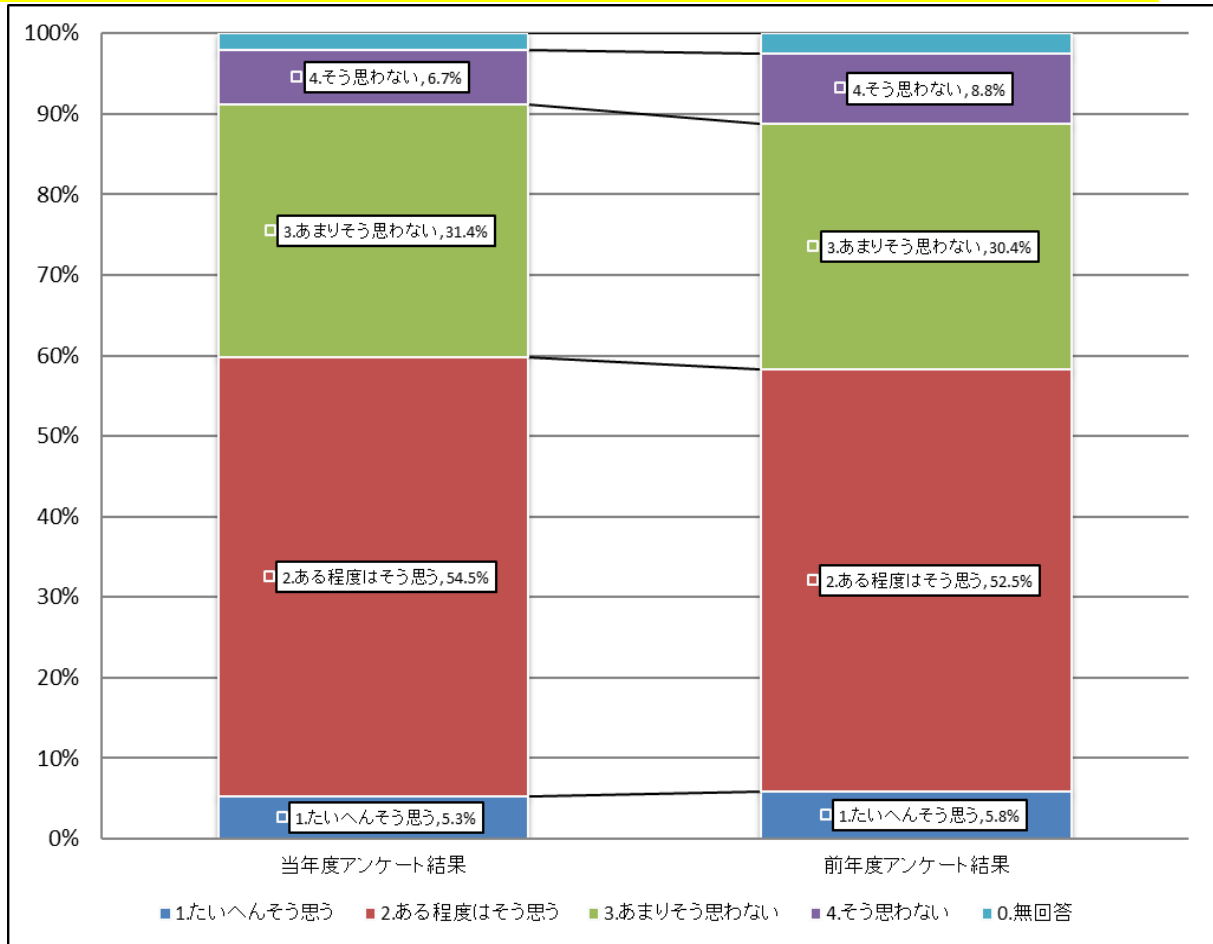
➤ 地区別



地区別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、幡羅地区(7.6%)であり、次いで川本地区(12.2%)となっています。最も多いのは明戸地区(27.2%)であり、次いで豊里地区(22.7%)となっています。

② 男女がともに輝く社会づくり（7. 問5～7）

性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思いますか。



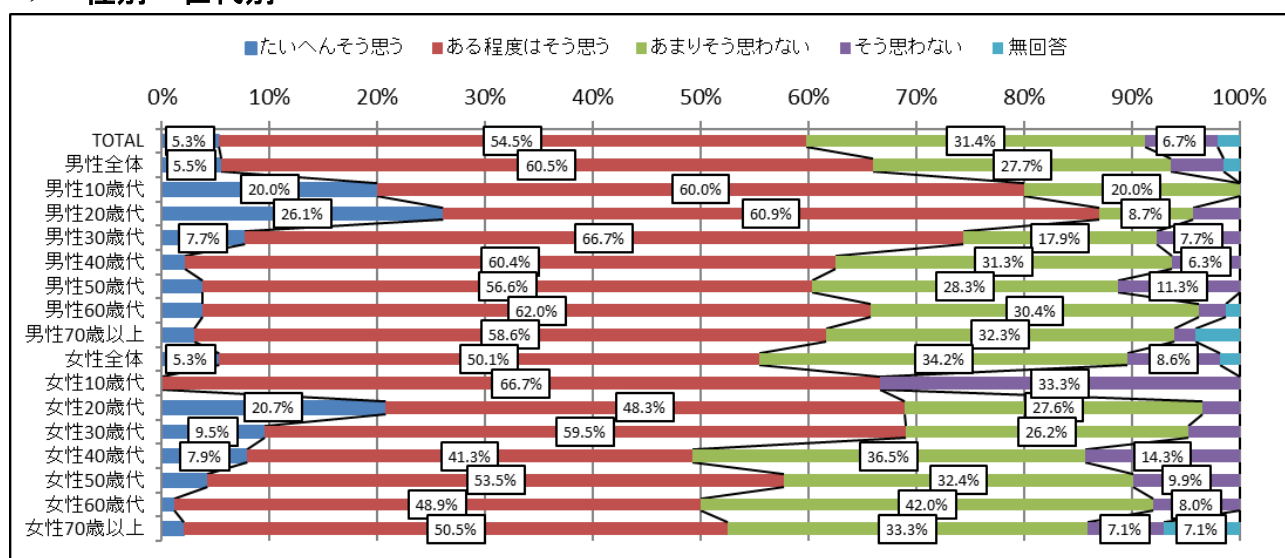
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 54.5%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 31.4%、「そう思わない」と回答した人の割合が 6.7%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 5.3%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 59.8%であり、6 割近くの市民が性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 58.3%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	818	5.3%	54.5%	31.4%	6.7%	2.1%	100.0%
男性全体	347	5.5%	60.5%	27.7%	4.9%	1.4%	100.0%
男性 10 歳代	5	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	26.1%	60.9%	8.7%	4.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	7.7%	66.7%	17.9%	7.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	2.1%	60.4%	31.3%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	3.8%	56.6%	28.3%	11.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	3.8%	62.0%	30.4%	2.5%	1.3%	100.0%
男性 70 歳以上	99	3.0%	58.6%	32.3%	2.0%	4.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	5.3%	50.1%	34.2%	8.6%	1.8%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	20.7%	48.3%	27.6%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	9.5%	59.5%	26.2%	4.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	7.9%	41.3%	36.5%	14.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	4.2%	53.5%	32.4%	9.9%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	1.1%	48.9%	42.0%	8.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	2.0%	50.5%	33.3%	7.1%	7.1%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	6.1%	55.9%	28.5%	7.3%	2.2%	100.0%
藤沢地区	54	0.0%	57.4%	37.0%	3.7%	1.9%	100.0%
幡羅地区	93	4.3%	59.1%	26.9%	8.6%	1.1%	100.0%
明戸地区	33	12.1%	42.4%	42.4%	3.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	0.0%	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	0.0%	47.1%	41.2%	0.0%	11.8%	100.0%
豊里地区	22	4.5%	68.2%	13.6%	9.1%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	4.2%	58.0%	31.9%	5.9%	0.0%	100.0%
南地区	51	5.9%	49.0%	33.3%	11.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	6.7%	56.2%	30.3%	5.6%	1.1%	100.0%
川本地区	49	8.2%	49.0%	34.7%	4.1%	4.1%	100.0%
花園地区	81	6.2%	53.1%	29.6%	8.6%	2.5%	100.0%
無回答	22	0.0%	31.8%	45.5%	9.1%	13.6%	100.0%

➤ 性別・世代別

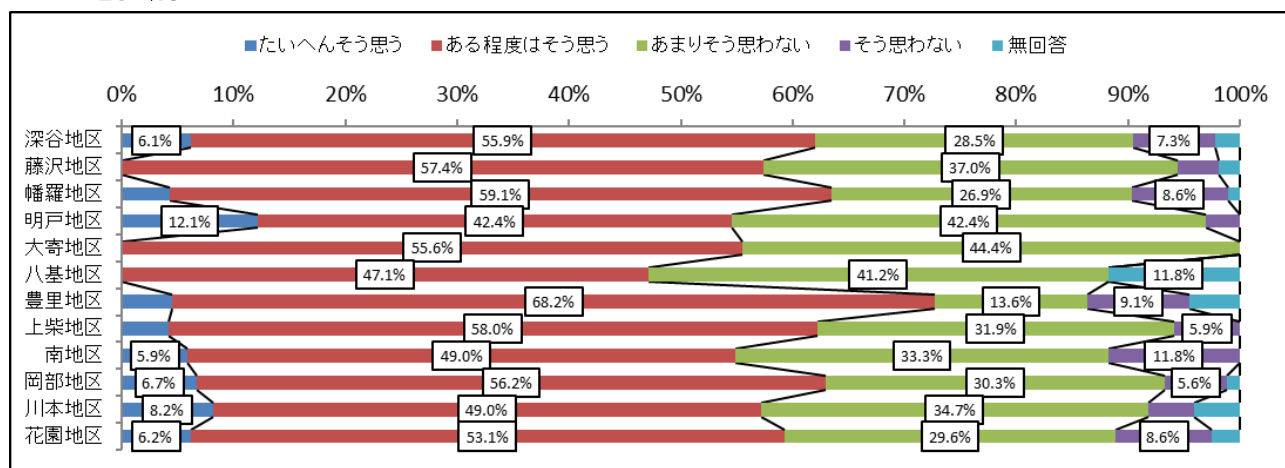


性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性が66.0%であるのに対して、女性は55.4%となっています。

また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 50 歳代 (60.4%)、女性 40 歳代 (49.2%) であり、一方で最も多い世代は、男性 20 歳代 (87.0%)、女性 20 歳代・30 歳代ともに (69.0%) となっています。

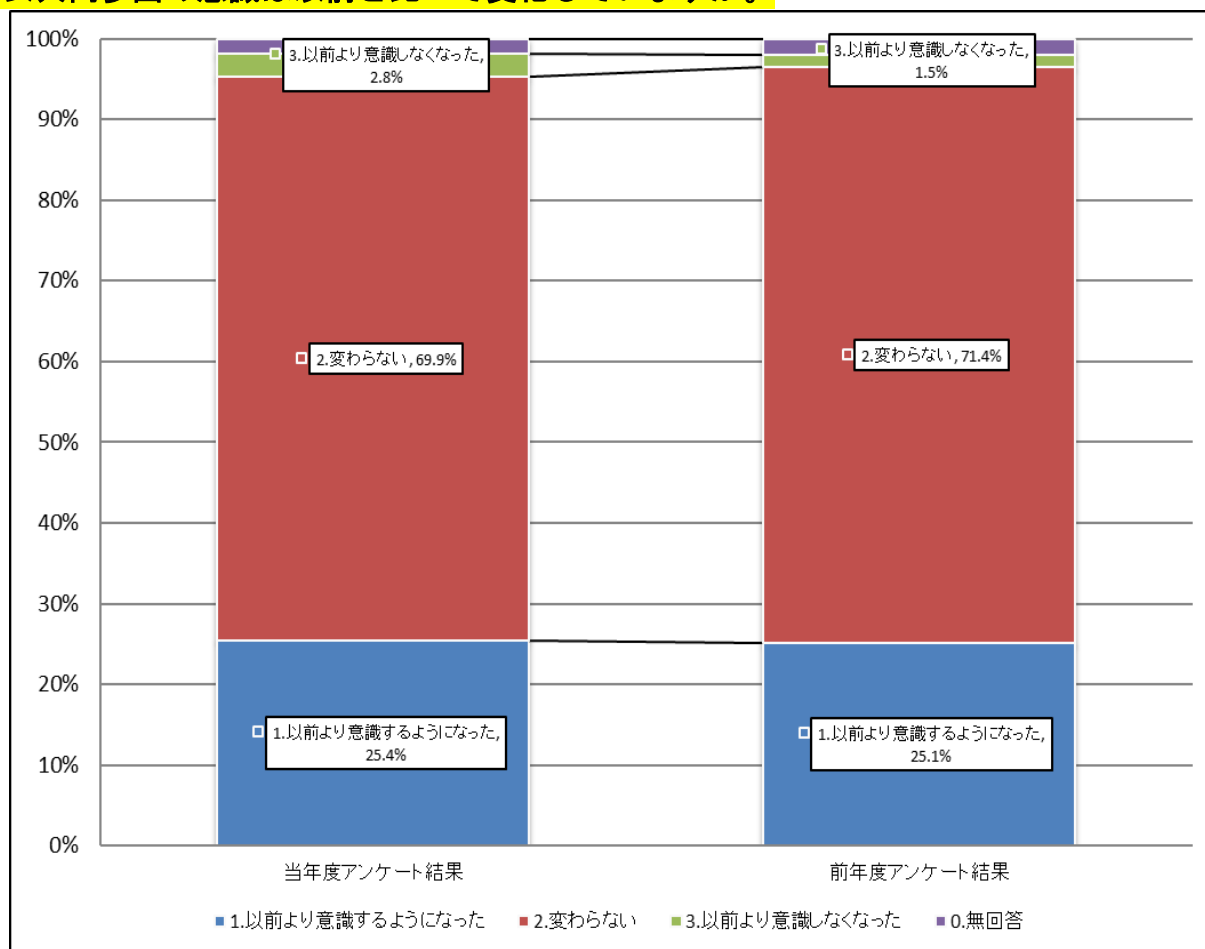
男女によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区 (47.1%) であり、次いで明戸地区 (54.5%) となっています。最も多いのは豊里地区 (72.7%) であり、次いで幡羅地区 (63.4%) となっています。

男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。



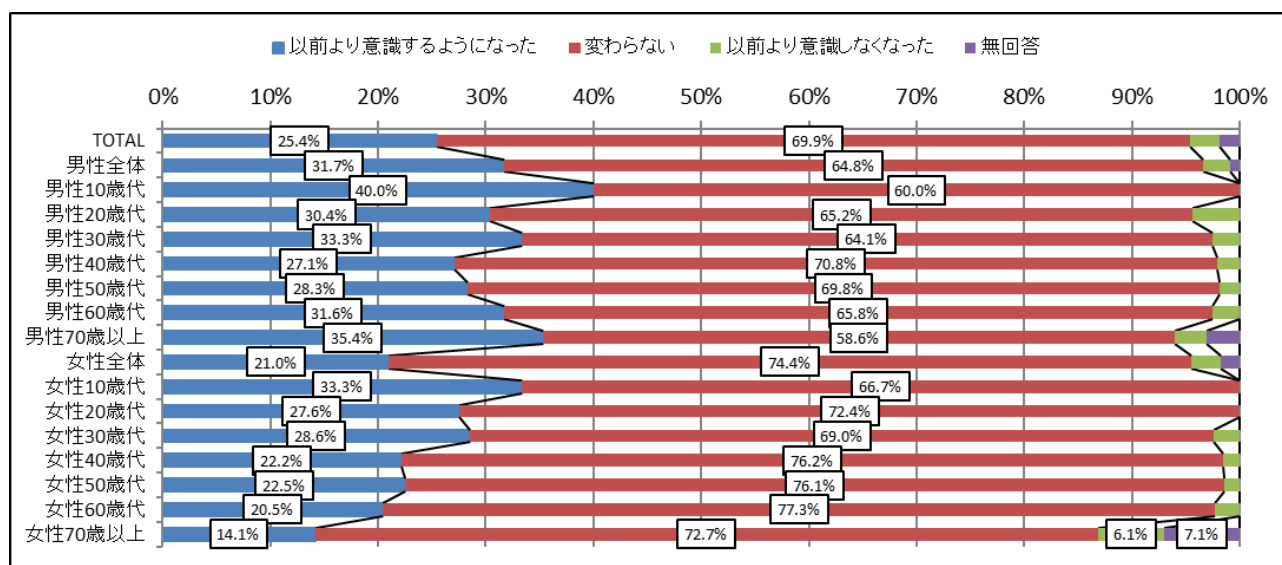
「変わらない」と回答した人の割合が 69.9%と最も多く、次いで「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 25.4%、「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合が最も少なく 2.8%となっています。

男女共同参画を以前より意識するようになった市民は3割未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は 25.1%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		以前より意識するようになった	変わらない	以前より意識しなくなった	無回答	合計
TOTAL	818	25.4%	69.9%	2.8%	1.8%	100.0%
男性全体	347	31.7%	64.8%	2.6%	0.9%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	30.4%	65.2%	4.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	33.3%	64.1%	2.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	27.1%	70.8%	2.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	28.3%	69.8%	1.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	31.6%	65.8%	2.5%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	35.4%	58.6%	3.0%	3.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	21.0%	74.4%	2.8%	1.8%	100.0%
女性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	27.6%	72.4%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	28.6%	69.0%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	22.2%	76.2%	1.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	22.5%	76.1%	1.4%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	20.5%	77.3%	2.3%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	14.1%	72.7%	6.1%	7.1%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—
深谷地区	179	25.1%	69.3%	4.5%	1.1%	100.0%
藤沢地区	54	31.5%	66.7%	0.0%	1.9%	100.0%
幡羅地区	93	22.6%	74.2%	2.2%	1.1%	100.0%
明戸地区	33	36.4%	60.6%	3.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	22.2%	66.7%	11.1%	0.0%	100.0%
八基地区	17	11.8%	82.4%	0.0%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	22.7%	59.1%	13.6%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	25.2%	73.1%	1.7%	0.0%	100.0%
南地区	51	19.6%	78.4%	0.0%	2.0%	100.0%
岡部地区	89	32.6%	62.9%	2.2%	2.2%	100.0%
川本地区	49	24.5%	73.5%	0.0%	2.0%	100.0%
花園地区	81	28.4%	65.4%	4.9%	1.2%	100.0%
無回答	22	0.0%	81.8%	0.0%	18.2%	100.0%

➤ 性別・世代別

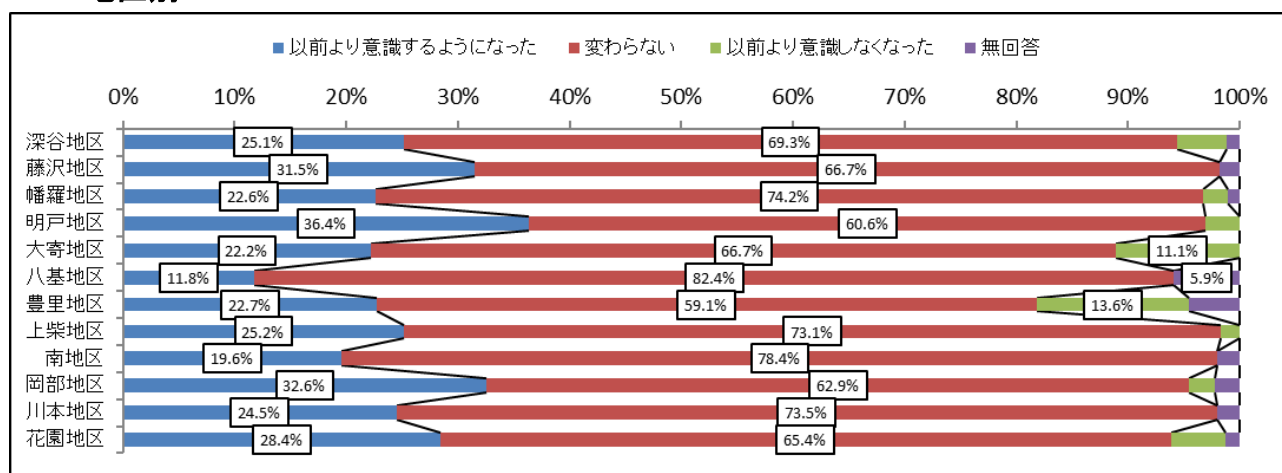


性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は、男性が31.7%であるのに対して、女性は21.0%となっています。

また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性40歳代（27.1%）、女性70歳以上（14.1%）であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代（40.0%）、女性10歳代（33.3%）となっています。

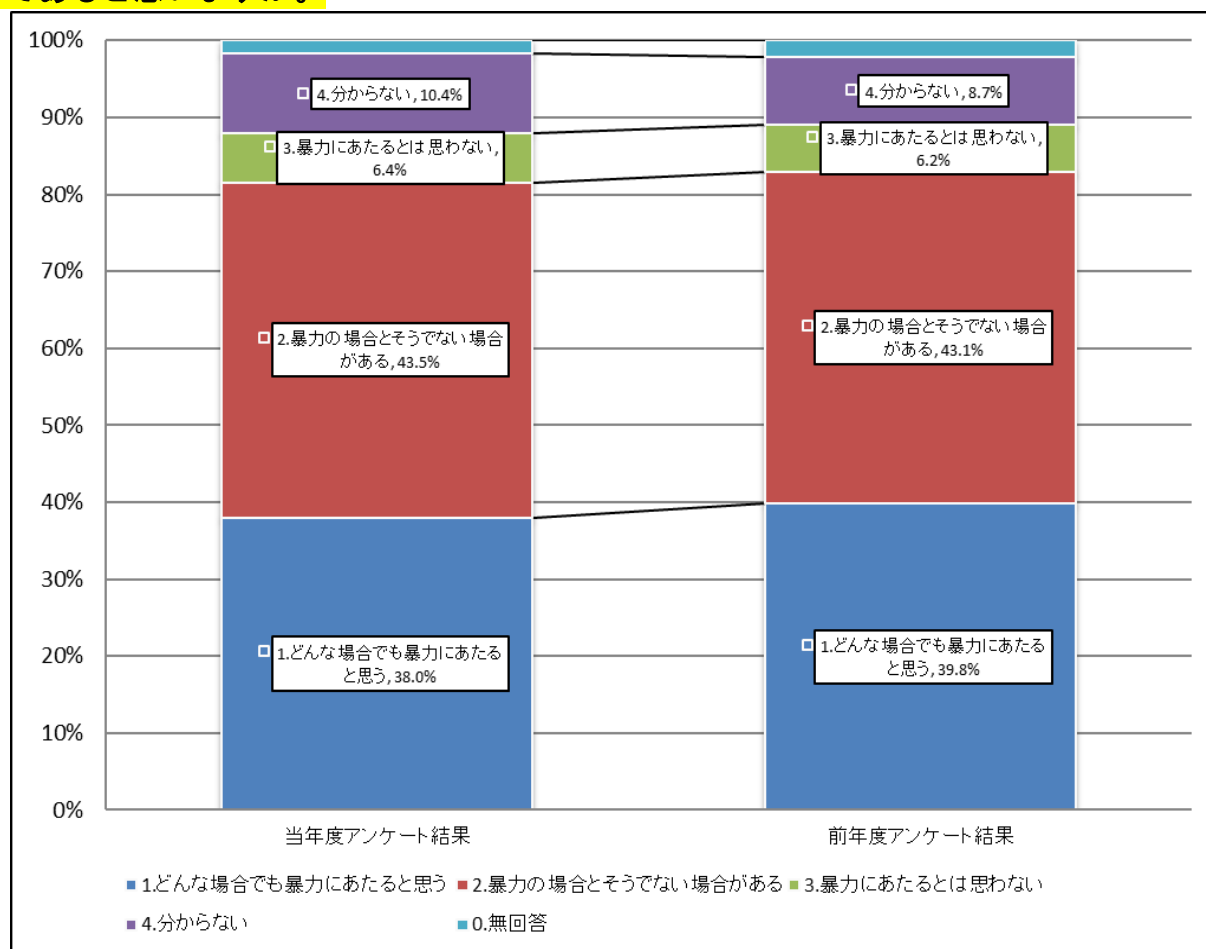
男女によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区（11.8%）であり、次いで南地区（19.6%）となっています。最も多いのは明戸地区（36.4%）であり、次いで岡部地区（32.6%）となっています。

配偶者などによる「電話、メール等の細かい監視」「生活費を渡さない」などの行為が暴力であると思いますか。



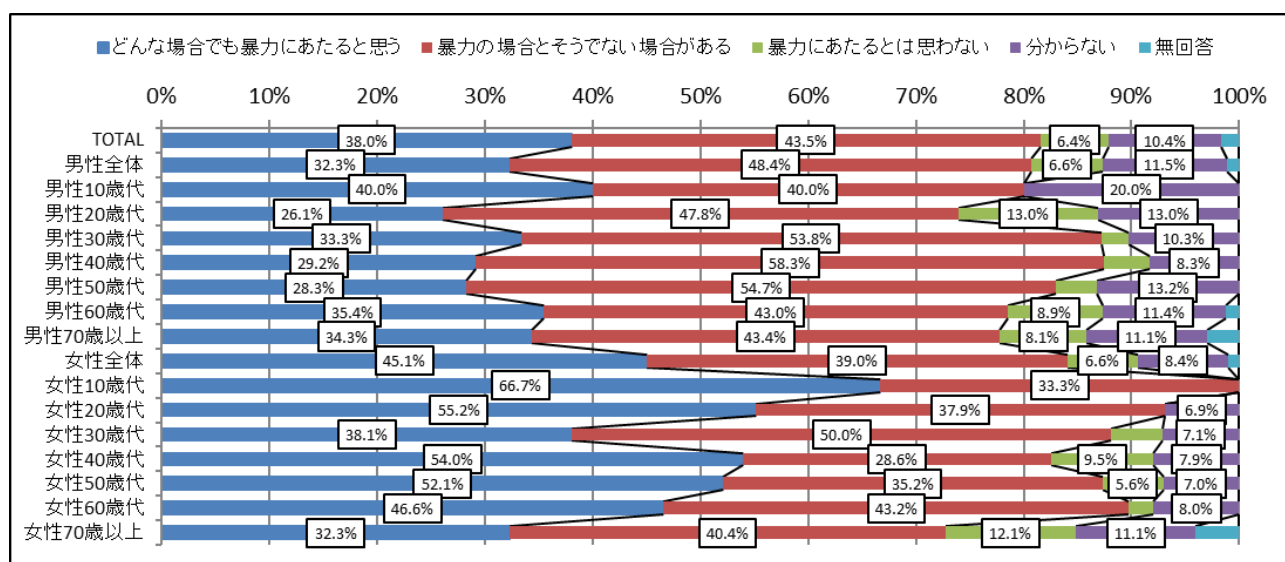
「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合が 43.5%と最も多く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が 38.0%、「分からない」と回答した人の割合が 10.4%、「暴力にあたるとは思わない」と回答した人の割合が最も少なく 6.4%となっています。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計は 81.5%であり、8 割以上の市民が、配偶者などによる「電話、メール等の細かい監視」「生活費を渡さない」などの行為が暴力であると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計は 82.9%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		暴力にあたると思う どんな場合でも	暴力の場合と そうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	分からない	無回答	合計
TOTAL	818	38.0%	43.5%	6.4%	10.4%	1.7%	100.0%
男性全体	347	32.3%	48.4%	6.6%	11.5%	1.2%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	26.1%	47.8%	13.0%	13.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	33.3%	53.8%	2.6%	10.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	29.2%	58.3%	4.2%	8.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	28.3%	54.7%	3.8%	13.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	35.4%	43.0%	8.9%	11.4%	1.3%	100.0%
男性 70 歳以上	99	34.3%	43.4%	8.1%	11.1%	3.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	45.1%	39.0%	6.6%	8.4%	1.0%	100.0%
女性 10 歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	55.2%	37.9%	0.0%	6.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	38.1%	50.0%	4.8%	7.1%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	54.0%	28.6%	9.5%	7.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	52.1%	35.2%	5.6%	7.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	46.6%	43.2%	2.3%	8.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	32.3%	40.4%	12.1%	11.1%	4.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	37.4%	40.8%	8.4%	13.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	33.3%	51.9%	7.4%	7.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	41.9%	44.1%	5.4%	7.5%	1.1%	100.0%
明戸地区	33	33.3%	36.4%	6.1%	24.2%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	33.3%	44.4%	11.1%	11.1%	0.0%	100.0%
八基地区	17	35.3%	35.3%	11.8%	5.9%	11.8%	100.0%
豊里地区	22	27.3%	40.9%	4.5%	22.7%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	45.4%	43.7%	5.0%	5.9%	0.0%	100.0%
南地区	51	39.2%	43.1%	7.8%	9.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	34.8%	43.8%	6.7%	11.2%	3.4%	100.0%
川本地区	49	36.7%	49.0%	2.0%	10.2%	2.0%	100.0%
花園地区	81	42.0%	48.1%	2.5%	4.9%	2.5%	100.0%
無回答	22	18.2%	31.8%	13.6%	18.2%	18.2%	100.0%

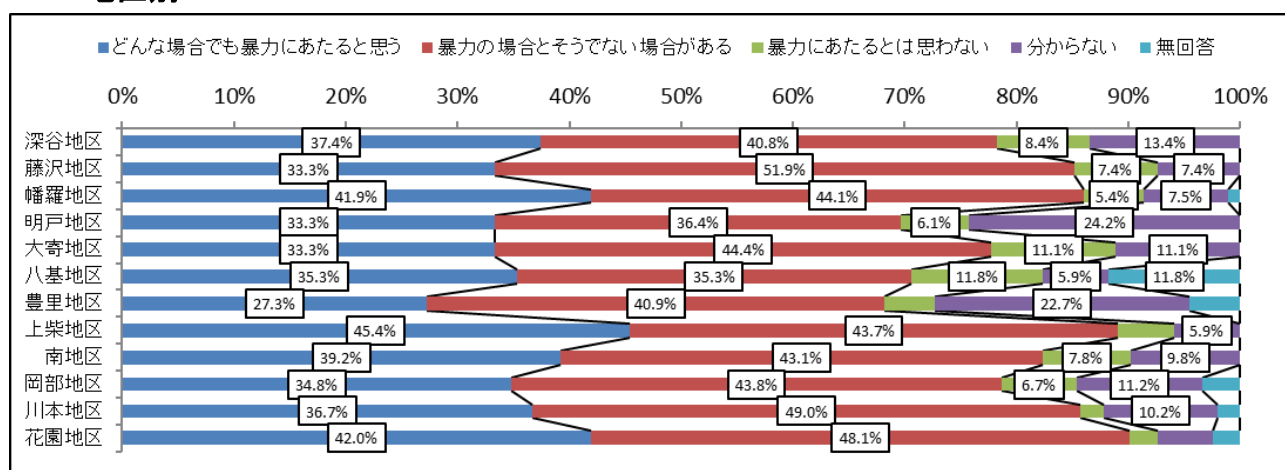
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計は、男性が 80.7%であるのに対して、女性は 84.1%となっています。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性 20 歳代 (73.9%)、女性 70 歳以上 (72.7%) であり、一方で最も多い世代は、男性 40 歳代 (87.5%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

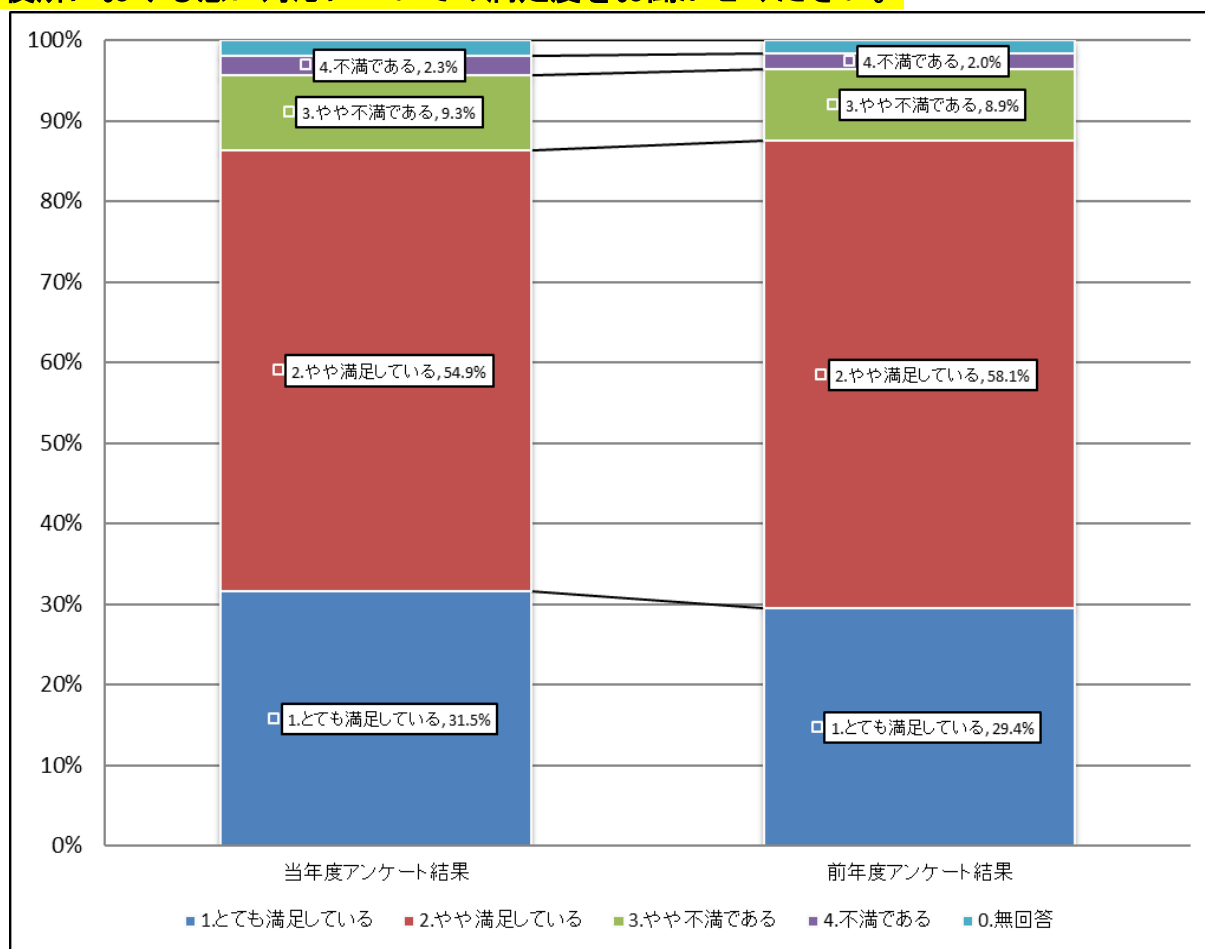
➤ 地区別



地区別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、豊里地区 (68.2%) であり、次いで明戸地区 (69.7%) となっています。最も多いのは花園地区 (90.1%) であり、次いで上柴地区 (89.1%) となっています。

③ 市民と行政との協働のまちづくり（7. 問8～9）

市役所における窓口対応についての満足度をお聞かせください。



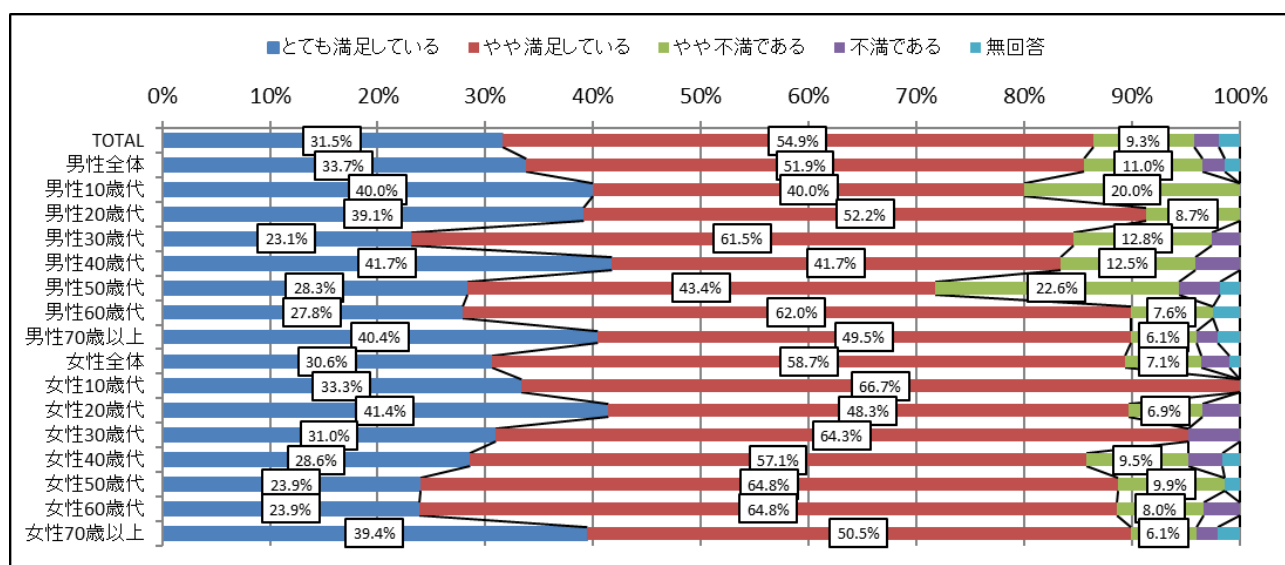
「やや満足している」と回答した人の割合が 54.9%と最も多く、次いで「とても満足している」と回答した人の割合が 31.5%、「やや不満である」と回答した人の割合が 9.3%、「不満である」が最も少なく 2.3%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は 86.4%であり、9 割近くの市民が市役所における窓口の対応について満足していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は 87.5%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		とても満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	無回答	合計
TOTAL	818	31.5%	54.9%	9.3%	2.3%	2.0%	100.0%
男性全体	347	33.7%	51.9%	11.0%	2.0%	1.4%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	39.1%	52.2%	8.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	23.1%	61.5%	12.8%	2.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	41.7%	41.7%	12.5%	4.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	28.3%	43.4%	22.6%	3.8%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	79	27.8%	62.0%	7.6%	0.0%	2.5%	100.0%
男性 70 歳以上	99	40.4%	49.5%	6.1%	2.0%	2.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	30.6%	58.7%	7.1%	2.5%	1.0%	100.0%
女性 10 歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	41.4%	48.3%	6.9%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	31.0%	64.3%	0.0%	4.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	28.6%	57.1%	9.5%	3.2%	1.6%	100.0%
女性 50 歳代	71	23.9%	64.8%	9.9%	0.0%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	88	23.9%	64.8%	8.0%	3.4%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	39.4%	50.5%	6.1%	2.0%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	35.8%	56.4%	3.9%	2.8%	1.1%	100.0%
藤沢地区	54	25.9%	59.3%	13.0%	1.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	26.9%	57.0%	10.8%	4.3%	1.1%	100.0%
明戸地区	33	42.4%	48.5%	9.1%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	22.2%	77.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	29.4%	52.9%	5.9%	5.9%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	31.8%	50.0%	13.6%	0.0%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	32.8%	52.9%	10.9%	3.4%	0.0%	100.0%
南地区	51	37.3%	54.9%	7.8%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	24.7%	57.3%	12.4%	3.4%	2.2%	100.0%
川本地区	49	24.5%	59.2%	10.2%	0.0%	6.1%	100.0%
花園地区	81	34.6%	56.8%	7.4%	1.2%	0.0%	100.0%
無回答	22	31.8%	13.6%	27.3%	0.0%	27.3%	100.0%

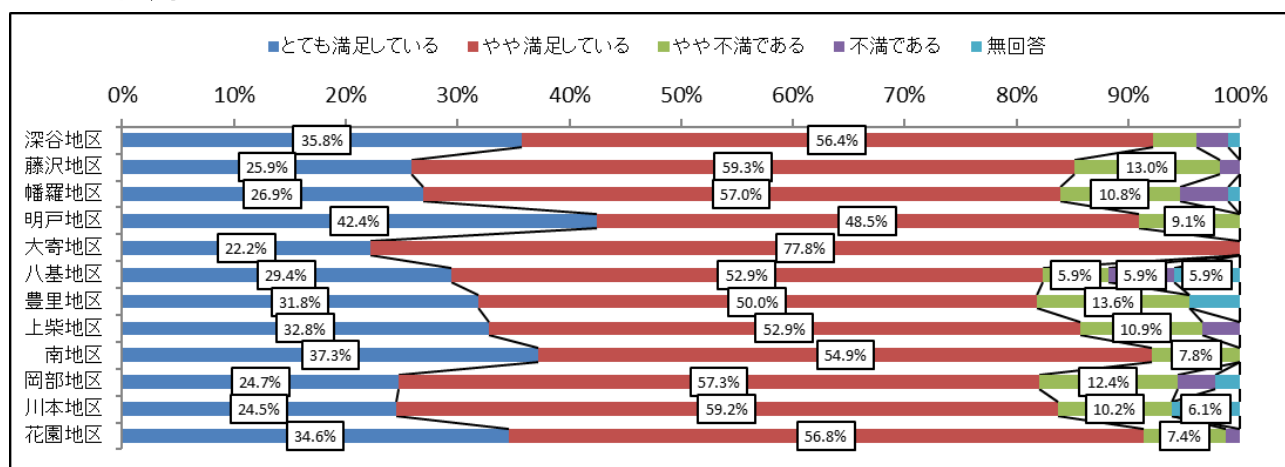
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は、男性が85.6%であるのに対して、女性は89.3%となっています。

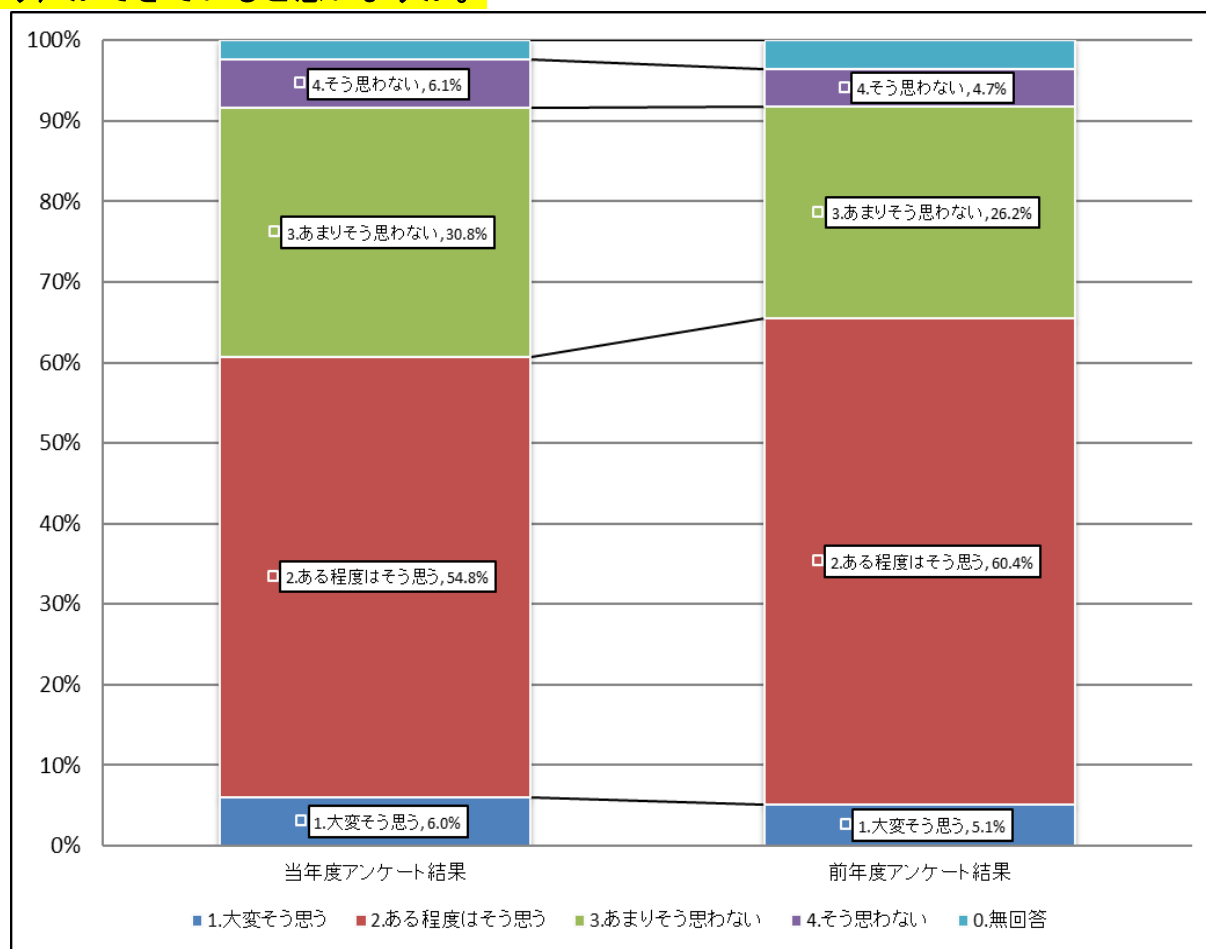
また、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性50歳代（71.7%）、女性40歳代（85.7%）であり、一方で、最も多い世代は、男性20歳代（91.3%）、女性10歳代（100.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、豊里地区（81.8%）であり、次いで岡部地区（82.0%）となっています。最も多いのは大寄地区（100.0%）であり、次いで深谷地区・南地区ともに（92.2%）となっています。

市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思いますか。



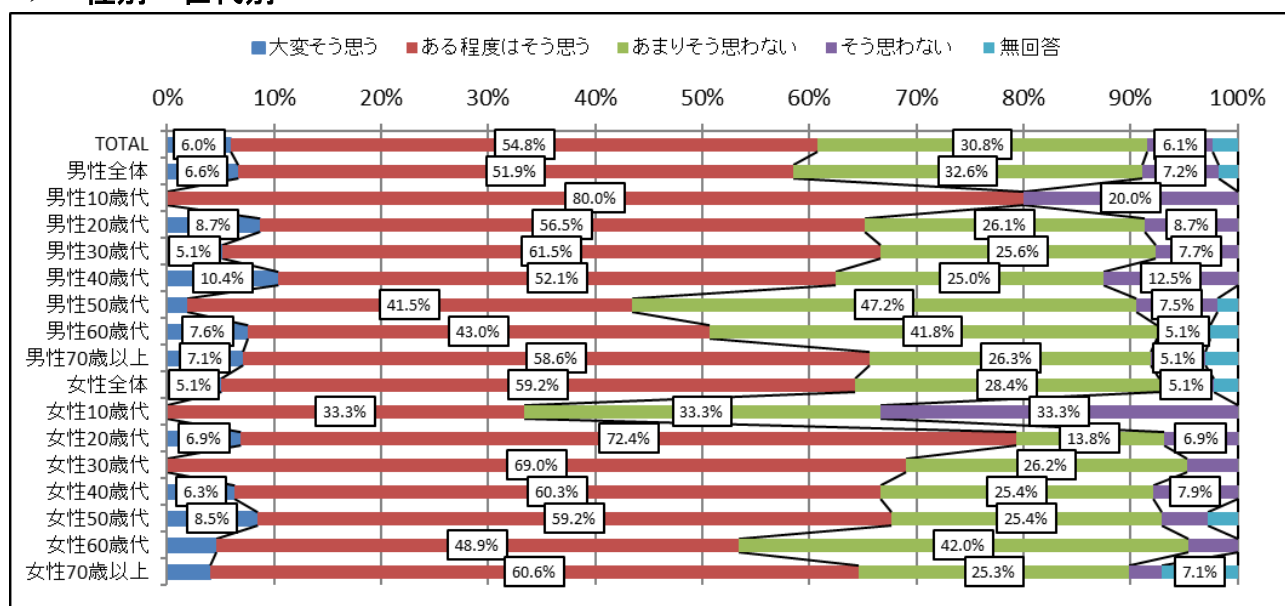
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 54.8%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 30.8%、「そう思わない」と回答した人の割合が 6.1%、「大変そう思う」と回答した人の割合が最も少なく 6.0%となっています。

「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 60.8%であり、6 割の市民が市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決することができていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 65.5%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

母集団		大変そう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	818	6.0%	54.8%	30.8%	6.1%	2.3%	100.0%
男性全体	347	6.6%	51.9%	32.6%	7.2%	1.7%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	8.7%	56.5%	26.1%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	5.1%	61.5%	25.6%	7.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	10.4%	52.1%	25.0%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	1.9%	41.5%	47.2%	7.5%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	79	7.6%	43.0%	41.8%	5.1%	2.5%	100.0%
男性 70 歳以上	99	7.1%	58.6%	26.3%	5.1%	3.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	5.1%	59.2%	28.4%	5.1%	2.3%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	6.9%	72.4%	13.8%	6.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	0.0%	69.0%	26.2%	4.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	6.3%	60.3%	25.4%	7.9%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	8.5%	59.2%	25.4%	4.2%	2.8%	100.0%
女性 60 歳代	88	4.5%	48.9%	42.0%	4.5%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	4.0%	60.6%	25.3%	3.0%	7.1%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—	—
深谷地区	179	7.3%	58.1%	25.7%	8.4%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	3.7%	57.4%	37.0%	1.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	3.2%	53.8%	35.5%	6.5%	1.1%	100.0%
明戸地区	33	12.1%	51.5%	36.4%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	11.1%	66.7%	22.2%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	17	0.0%	41.2%	47.1%	5.9%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	4.5%	68.2%	22.7%	0.0%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	9.2%	53.8%	30.3%	6.7%	0.0%	100.0%
南地区	51	3.9%	54.9%	33.3%	5.9%	2.0%	100.0%
岡部地区	89	5.6%	51.7%	32.6%	6.7%	3.4%	100.0%
川本地区	49	0.0%	63.3%	26.5%	2.0%	8.2%	100.0%
花園地区	81	7.4%	54.3%	29.6%	4.9%	3.7%	100.0%
無回答	22	4.5%	22.7%	31.8%	22.7%	18.2%	100.0%

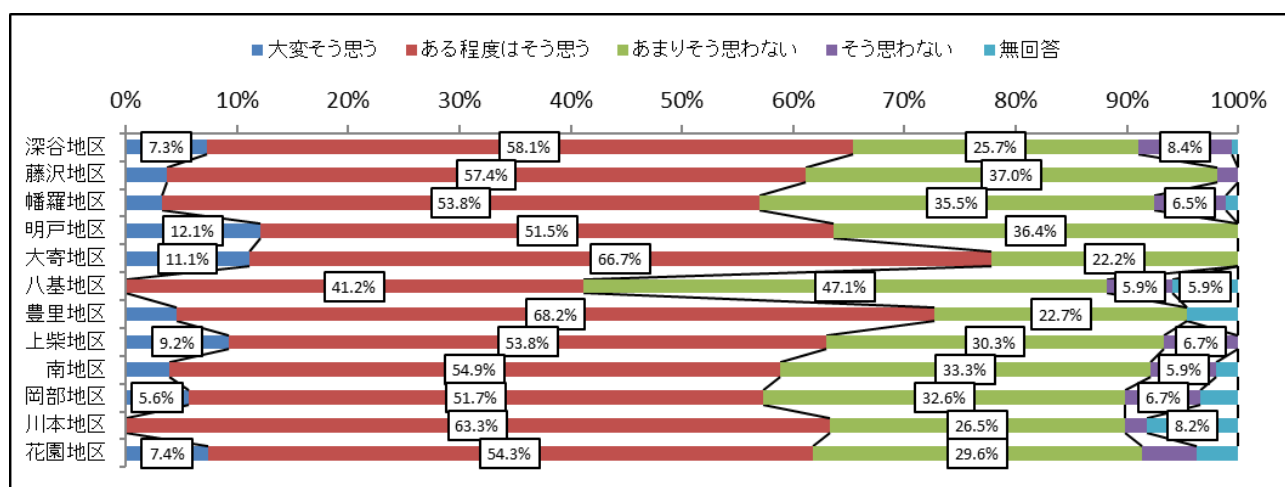
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性が58.5%であるのに対して、女性は64.3%となっています。

また、「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性50歳代（43.4%）、女性10歳代（33.3%）であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代（80.0%）、女性20歳代（79.3%）となっています。

➤ 地区別

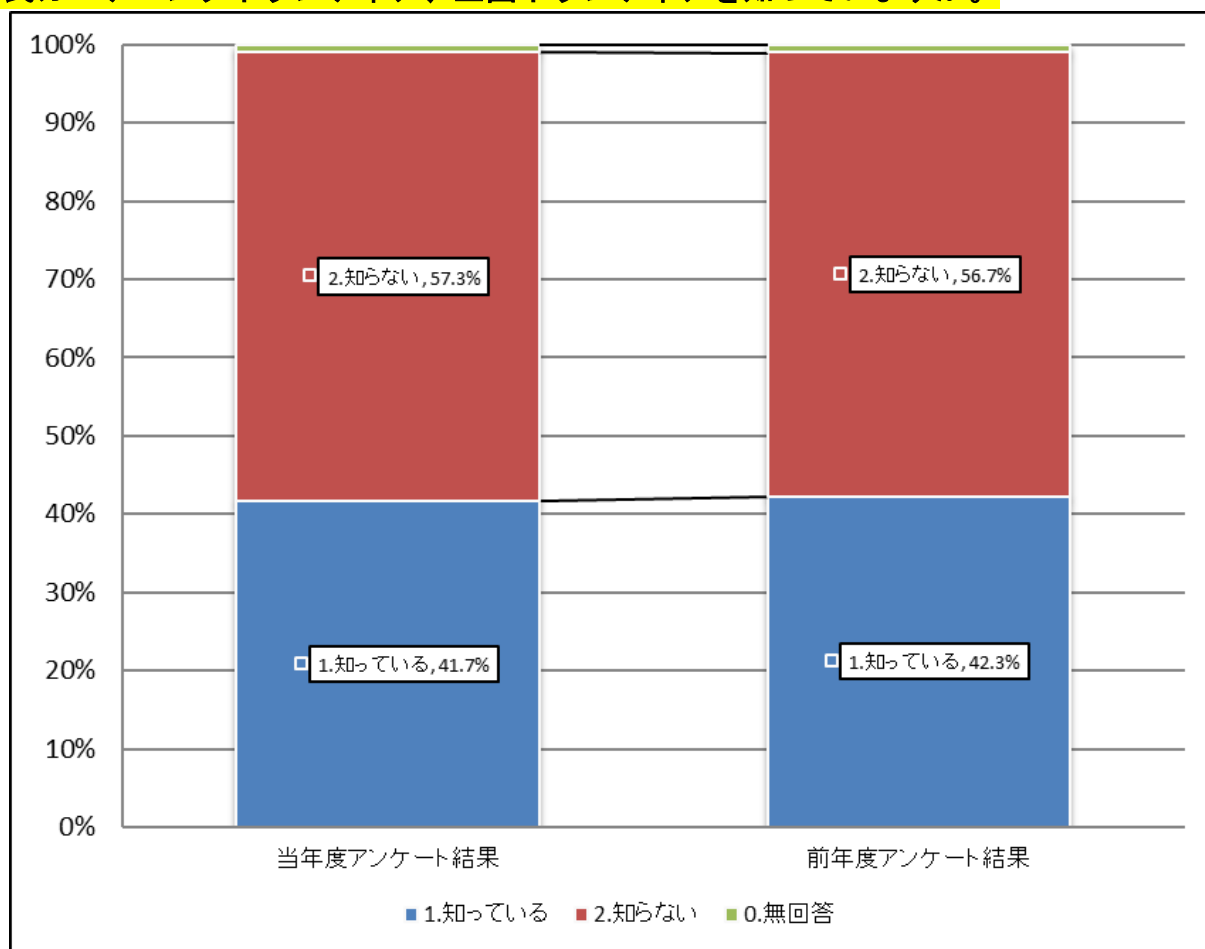


地区別にみると、「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区（41.2%）であり、次いで幡羅地区（57.0%）となっています。最も多いのは大寄地区（77.8%）であり、次いで豊里地区（72.7%）となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

④ 絆でつながるひとづくり（7. 問10～12）

市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。



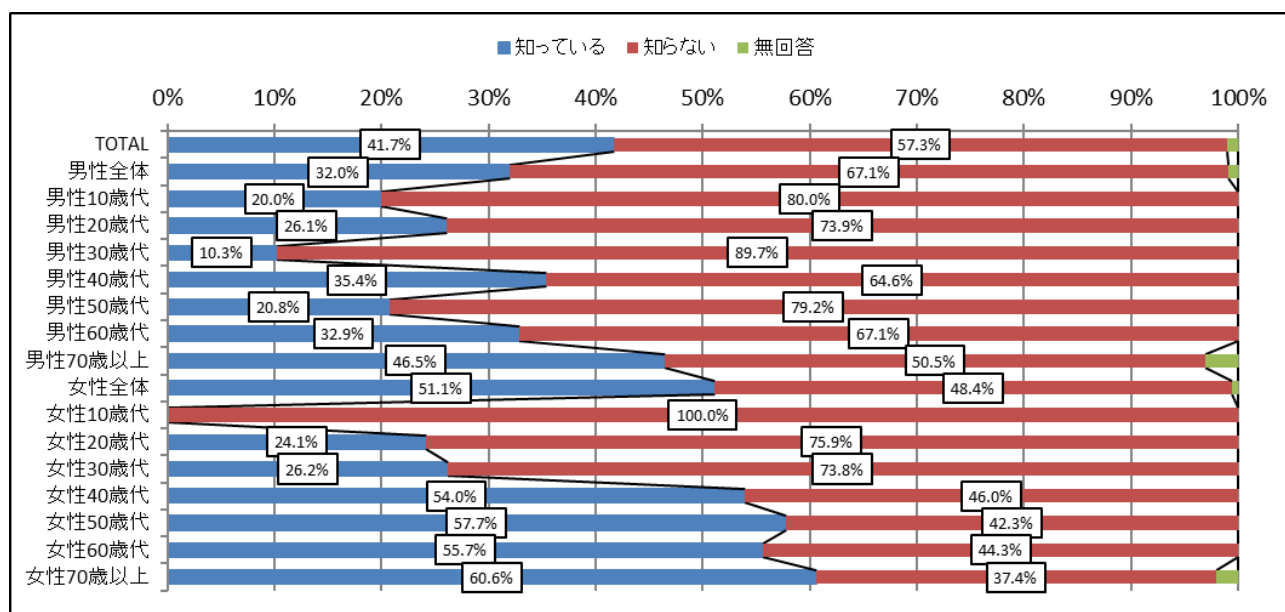
「知っている」と回答した人の割合は41.7%、「知らない」と回答した人の割合は57.3%となっています。

市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っている市民は約4割という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は42.3%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	818	41.7%	57.3%	1.0%	100.0%
男性全体	347	32.0%	67.1%	0.9%	100.0%
男性 10 歳代	5	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	26.1%	73.9%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	10.3%	89.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	35.4%	64.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	20.8%	79.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	32.9%	67.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	46.5%	50.5%	3.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	51.1%	48.4%	0.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	24.1%	75.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	26.2%	73.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	54.0%	46.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	57.7%	42.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	55.7%	44.3%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	60.6%	37.4%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—
深谷地区	179	40.8%	59.2%	0.0%	100.0%
藤沢地区	54	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	35.5%	64.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	51.5%	48.5%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%
八基地区	17	23.5%	70.6%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	27.3%	68.2%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	39.5%	60.5%	0.0%	100.0%
南地区	51	60.8%	39.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	47.2%	51.7%	1.1%	100.0%
川本地区	49	28.6%	67.3%	4.1%	100.0%
花園地区	81	48.1%	50.6%	1.2%	100.0%
無回答	22	31.8%	59.1%	9.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

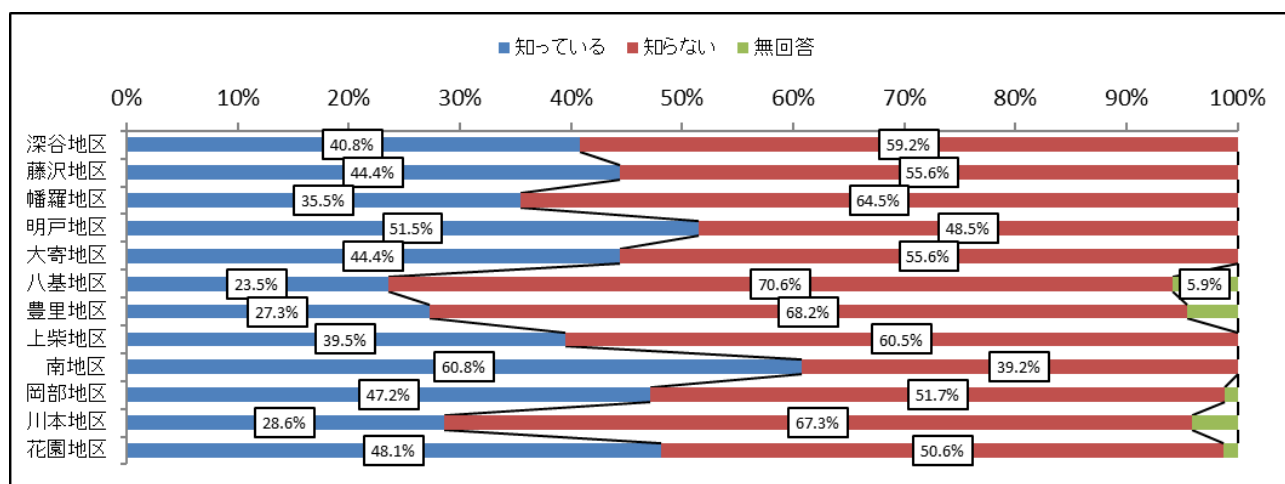


性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は、男性が 32.0%であるのに対して、女性は 51.1%となっています。

また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 30 歳代 (10.3%)、女性 10 歳代 (0.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性 70 歳以上 (46.5%)、女性 70 歳以上 (60.6%) となっています。

男女や、世代によって差があることがうかがえます。

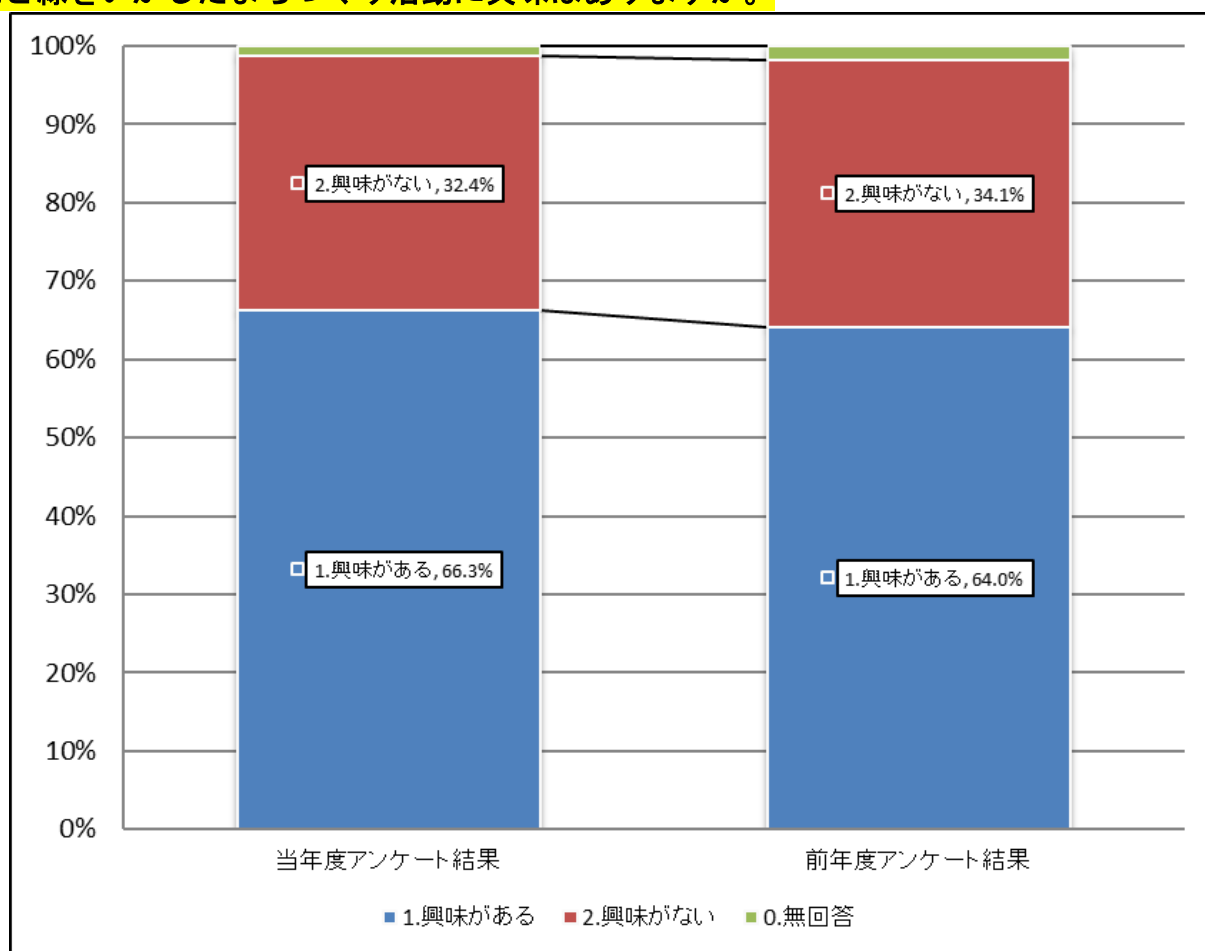
➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区 (23.5%) であり、次いで豊里地区 (27.3%) となっています。最も多いのは南地区 (60.8%) であり、次いで明戸地区 (51.5%) となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。



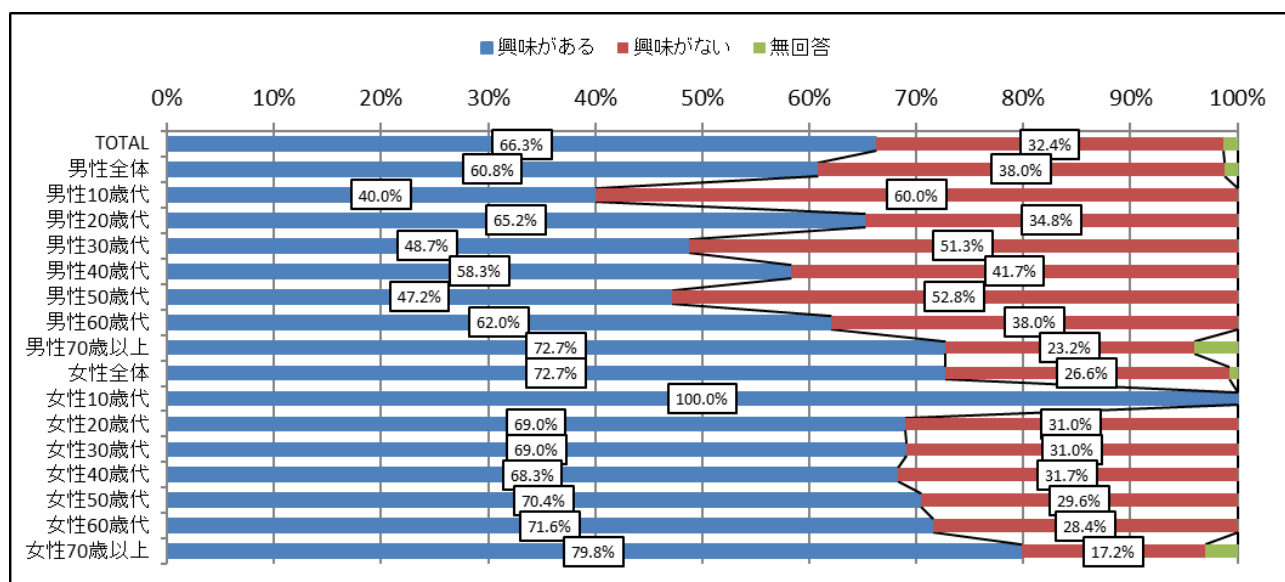
「興味がある」と回答した人の割合は 66.3%、「興味がない」と回答した人の割合は 32.4%となっています。

7割近くの市民が花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「興味がある」と回答した人の割合は 64.0%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		興味がある	興味がない	無回答	合計
TOTAL	818	66.3%	32.4%	1.3%	100.0%
男性全体	347	60.8%	38.0%	1.2%	100.0%
男性 10 歳代	5	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	65.2%	34.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	48.7%	51.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	58.3%	41.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	47.2%	52.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	62.0%	38.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	72.7%	23.2%	4.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	72.7%	26.6%	0.8%	100.0%
女性 10 歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	69.0%	31.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	69.0%	31.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	68.3%	31.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	70.4%	29.6%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	71.6%	28.4%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	79.8%	17.2%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—
深谷地区	179	70.4%	29.1%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	55.6%	42.6%	1.9%	100.0%
幡羅地区	93	63.4%	36.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	69.7%	30.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	77.8%	22.2%	0.0%	100.0%
八基地区	17	41.2%	47.1%	11.8%	100.0%
豊里地区	22	63.6%	31.8%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	73.1%	26.1%	0.8%	100.0%
南地区	51	70.6%	29.4%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	62.9%	36.0%	1.1%	100.0%
川本地区	49	57.1%	38.8%	4.1%	100.0%
花園地区	81	72.8%	27.2%	0.0%	100.0%
無回答	22	45.5%	45.5%	9.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

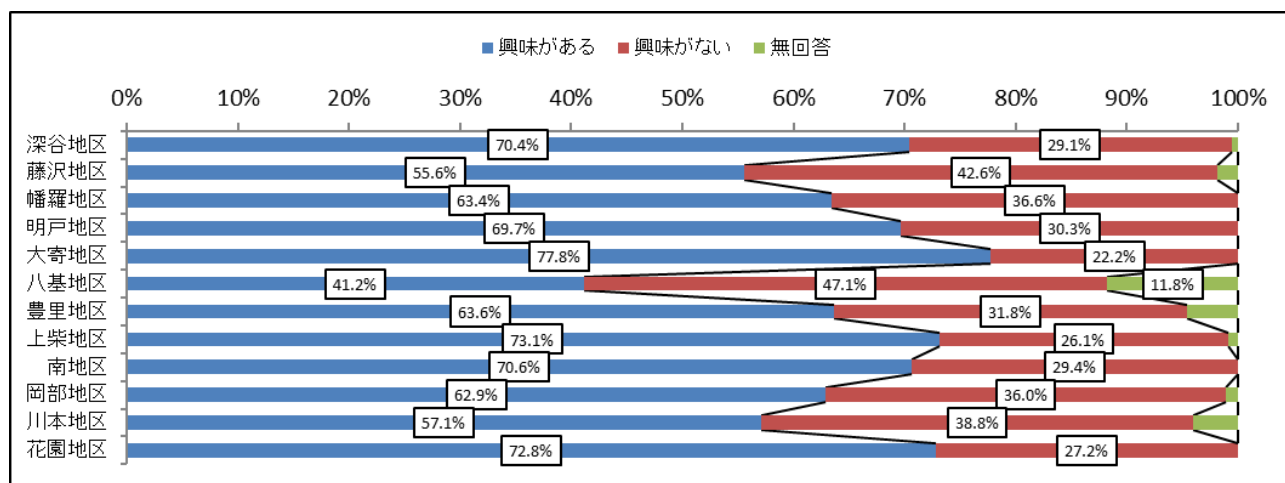


性別・世代別にみると、「興味がある」と回答した人の割合は、男性が 60.8%であるのに対して、女性は 72.7%となっています。

また、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (40.0%)、女性 40 歳代 (68.3%) であり、最も多い世代は、男性 70 歳以上 (72.7%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

男女によって差があることがうかがえます。

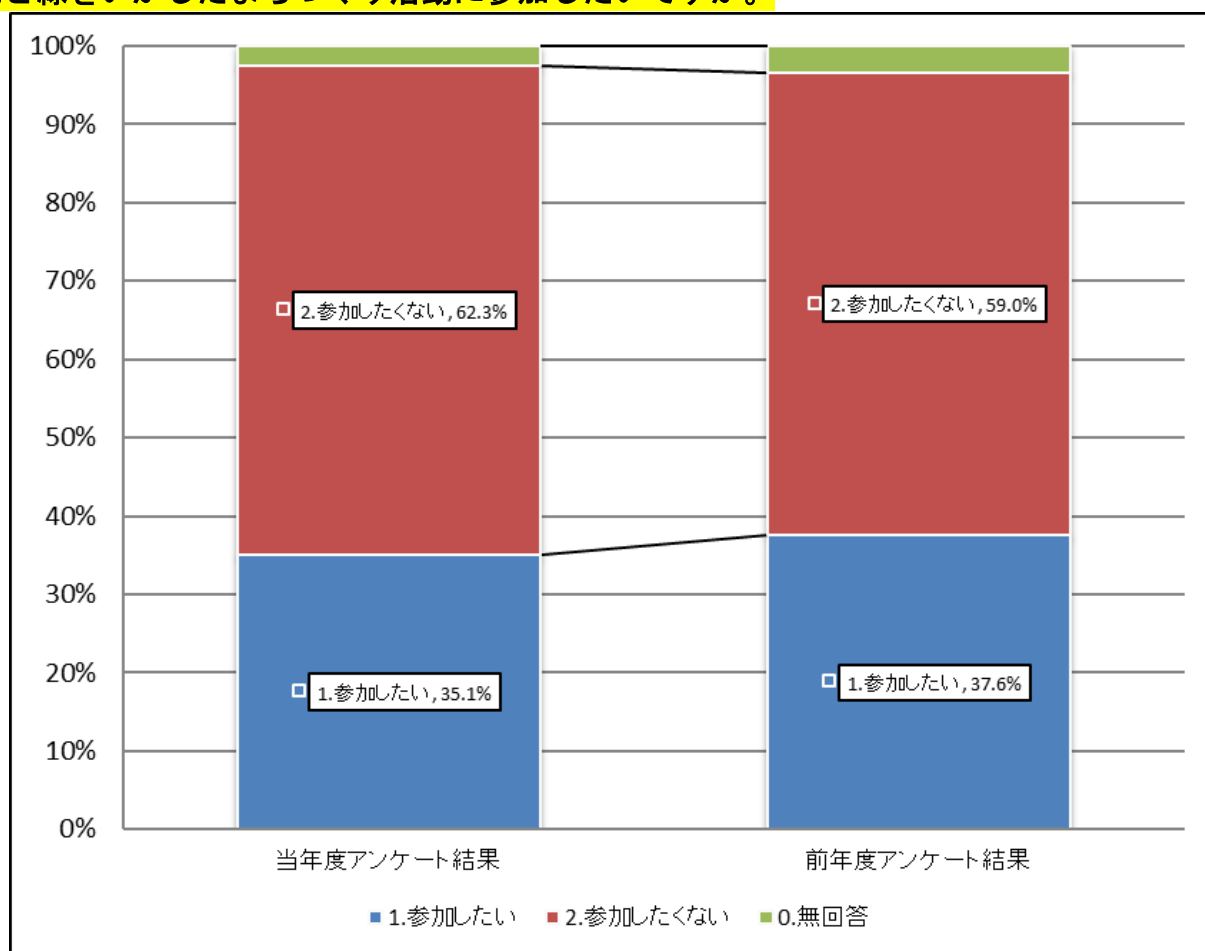
➤ 地区別



地区別にみると、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区 (41.2%) であり、次いで藤沢地区 (55.6%) となっています。最も多いのは大寄地区 (77.8%) であり、次いで上柴地区 (73.1%) となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。



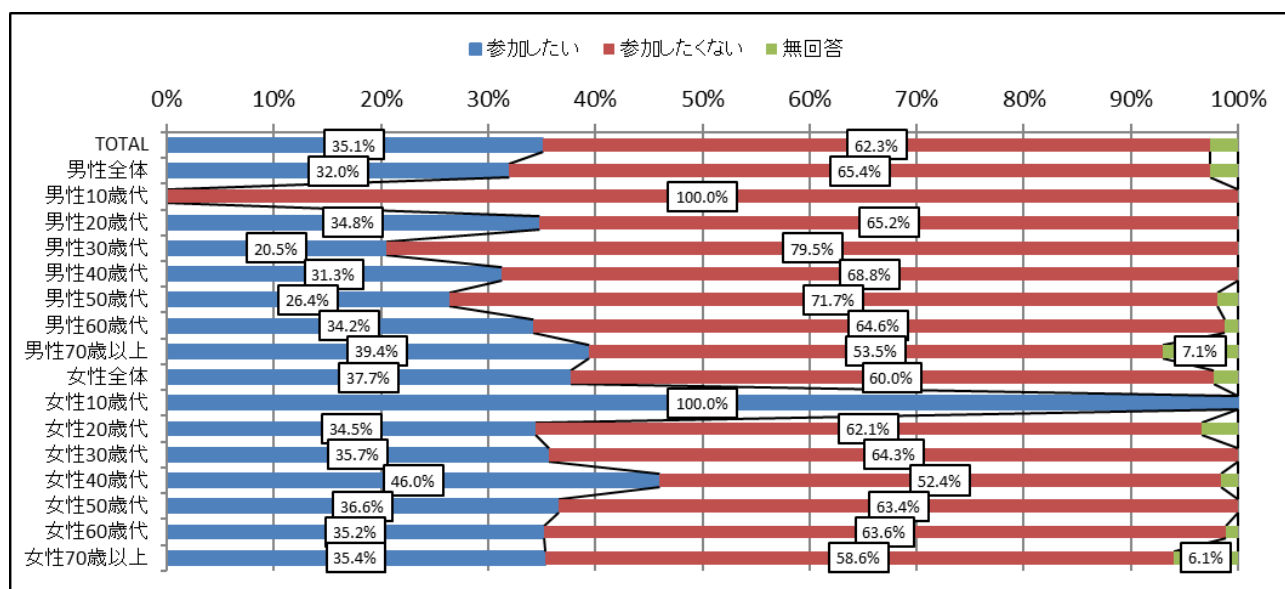
「参加したい」と回答した人の割合は 35.1%であり、「参加したくない」と回答した人の割合は 62.3%となっています。

前問の「花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。」に対して、「興味がある」と回答した人は全体の 7 割近くを占めるものの、実際に活動に参加したい市民は 4 割未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「参加したい」と回答した人の割合は 37.6%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに減少しています。

母集団		参加したい	参加したくない	無回答	合計
TOTAL	818	35.1%	62.3%	2.6%	100.0%
男性全体	347	32.0%	65.4%	2.6%	100.0%
男性 10 歳代	5	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	34.8%	65.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	20.5%	79.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	31.3%	68.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	26.4%	71.7%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	79	34.2%	64.6%	1.3%	100.0%
男性 70 歳以上	99	39.4%	53.5%	7.1%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	37.7%	60.0%	2.3%	100.0%
女性 10 歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	34.5%	62.1%	3.4%	100.0%
女性 30 歳代	42	35.7%	64.3%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	46.0%	52.4%	1.6%	100.0%
女性 50 歳代	71	36.6%	63.4%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	35.2%	63.6%	1.1%	100.0%
女性 70 歳以上	99	35.4%	58.6%	6.1%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—
深谷地区	179	38.0%	60.9%	1.1%	100.0%
藤沢地区	54	27.8%	70.4%	1.9%	100.0%
幡羅地区	93	29.0%	68.8%	2.2%	100.0%
明戸地区	33	51.5%	48.5%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
八基地区	17	11.8%	82.4%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	40.9%	54.5%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	39.5%	58.8%	1.7%	100.0%
南地区	51	21.6%	78.4%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	33.7%	60.7%	5.6%	100.0%
川本地区	49	34.7%	59.2%	6.1%	100.0%
花園地区	81	43.2%	54.3%	2.5%	100.0%
無回答	22	27.3%	63.6%	9.1%	100.0%

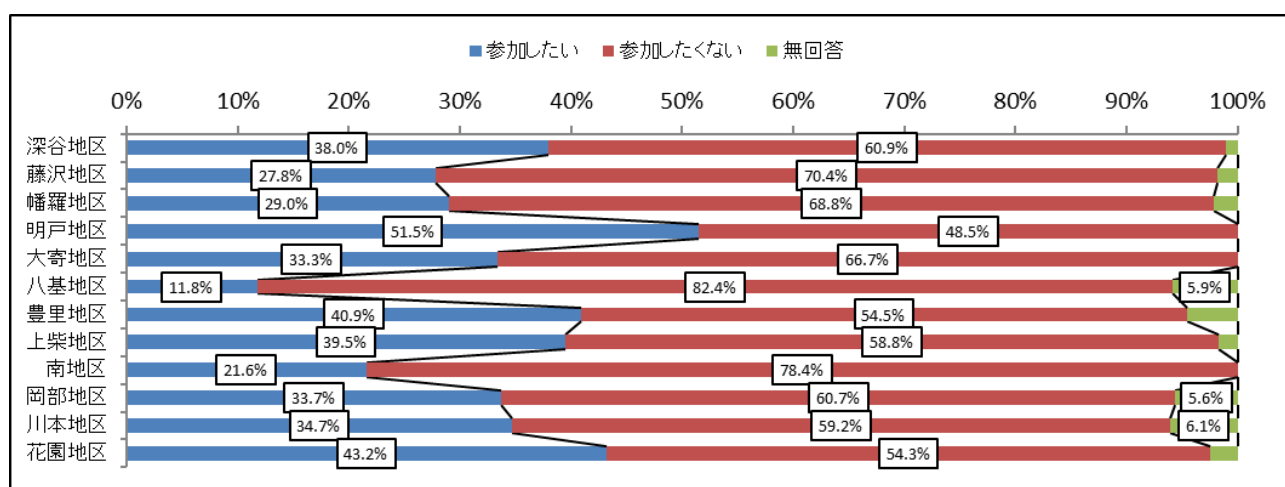
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加したい」と回答した人の割合は、男性が 32.0%であるのに対して、女性は 37.7%となっています。

また、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 20 歳代 (34.5%) であり、最も多い世代は、男性 70 歳以上 (39.4%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

➤ 地区別

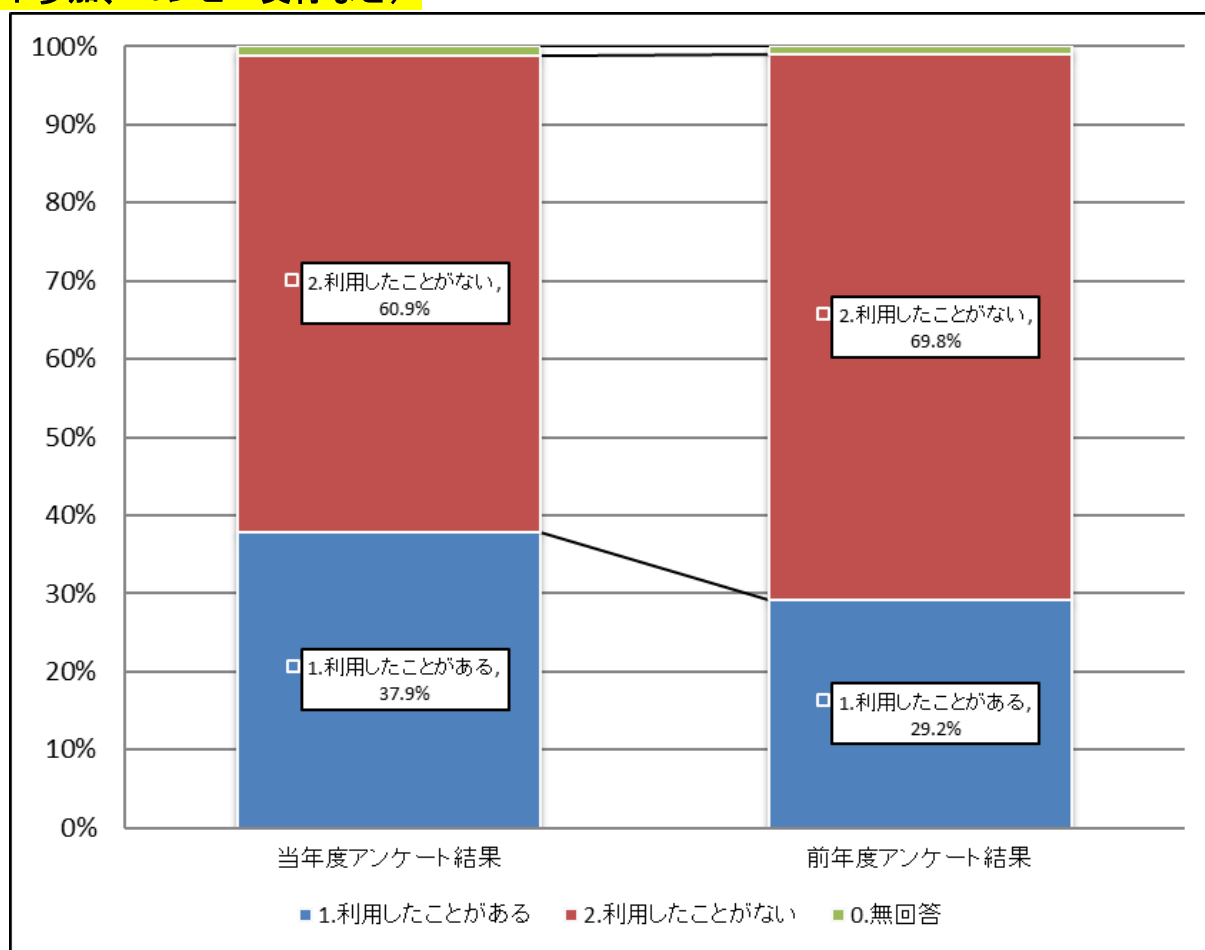


地区別にみると、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区 (11.8%) であり、次いで南地区 (21.6%) となっています。最も多いのは明戸地区 (51.5%) であり、次いで花園地区 (43.2%) となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

⑤ 行財政運営の推進（７．問１３～１４）

市のオンラインサービスを利用したことがありますか。（例：各種申請手続き、相談、イベント参加、コンビニ交付など）



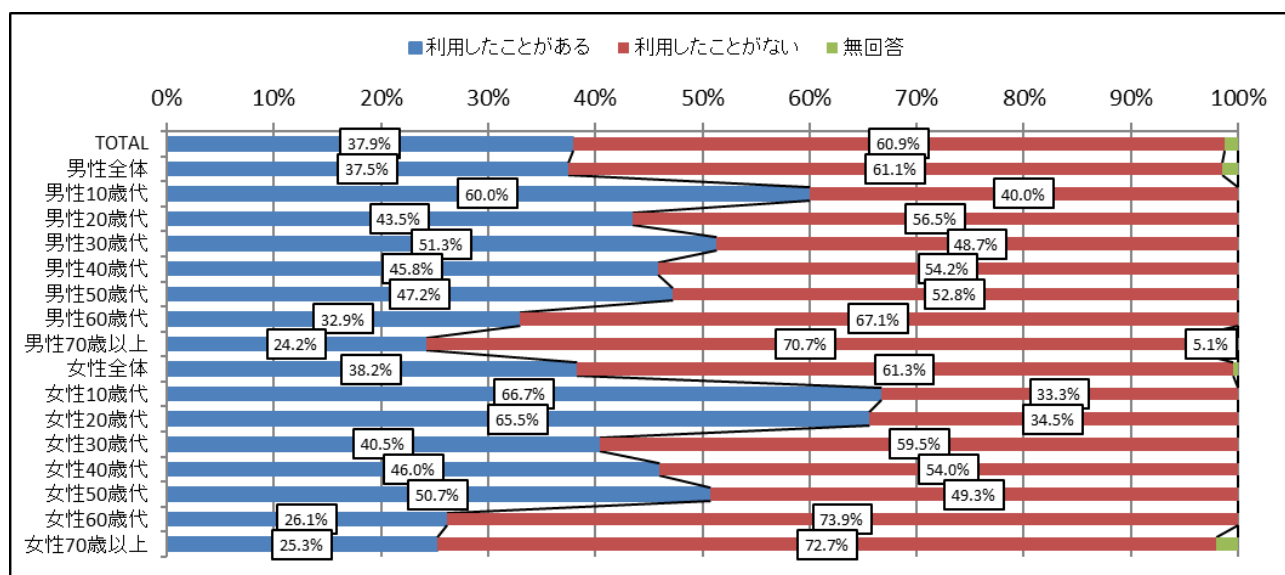
「利用したことがある」と回答した人の割合は 37.9%、「利用したことがない」と回答した人の割合は 60.9%となっています。

市のオンラインサービスを利用したことがある市民は 4 割未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「利用したことがある」と回答した人の割合は 29.2%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

母集団		利用したことがある	利用したことがない	無回答	合計
TOTAL	818	37.9%	60.9%	1.2%	100.0%
男性全体	347	37.5%	61.1%	1.4%	100.0%
男性 10 歳代	5	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	43.5%	56.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	51.3%	48.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	45.8%	54.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	47.2%	52.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	32.9%	67.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	24.2%	70.7%	5.1%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	38.2%	61.3%	0.5%	100.0%
女性 10 歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	65.5%	34.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	40.5%	59.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	46.0%	54.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	50.7%	49.3%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	26.1%	73.9%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	25.3%	72.7%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—
深谷地区	179	40.2%	59.2%	0.6%	100.0%
藤沢地区	54	37.0%	63.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	37.6%	61.3%	1.1%	100.0%
明戸地区	33	27.3%	72.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	55.6%	44.4%	0.0%	100.0%
八基地区	17	29.4%	64.7%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	36.4%	59.1%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	48.7%	51.3%	0.0%	100.0%
南地区	51	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	27.0%	71.9%	1.1%	100.0%
川本地区	49	36.7%	59.2%	4.1%	100.0%
花園地区	81	40.7%	58.0%	1.2%	100.0%
無回答	22	27.3%	63.6%	9.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

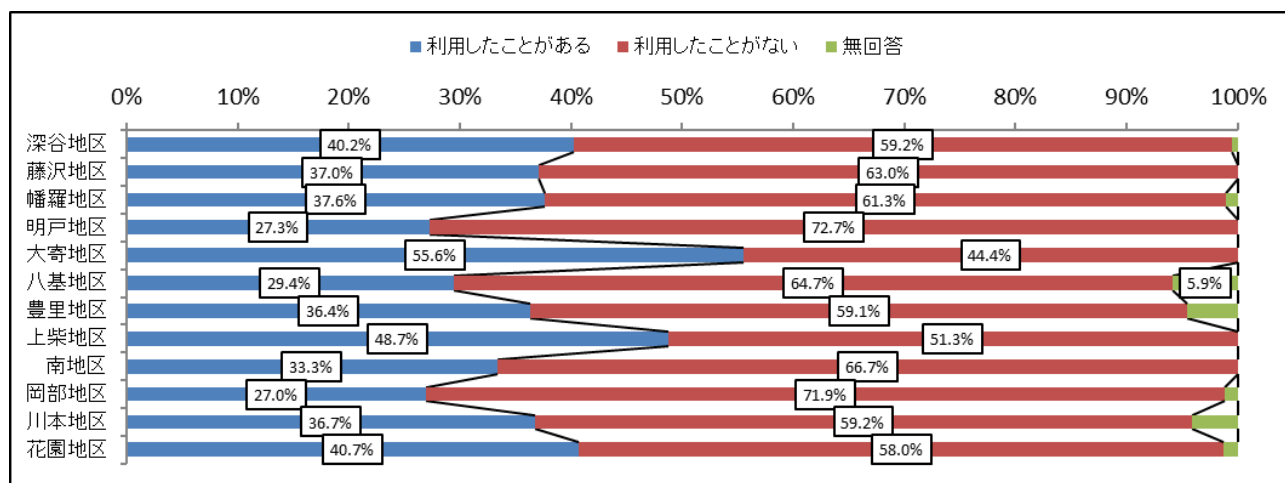


性別・世代別にみると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、男性が 37.5% であるのに対して、女性は 38.2% となっています。

また、「利用したことがある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 70 歳以上 (24.2%) 女性 70 歳以上 (25.3%) であり、一方で最も多い世代は、男性 10 歳代 (60.0%) 女性 10 歳代 (66.7%) となっています。

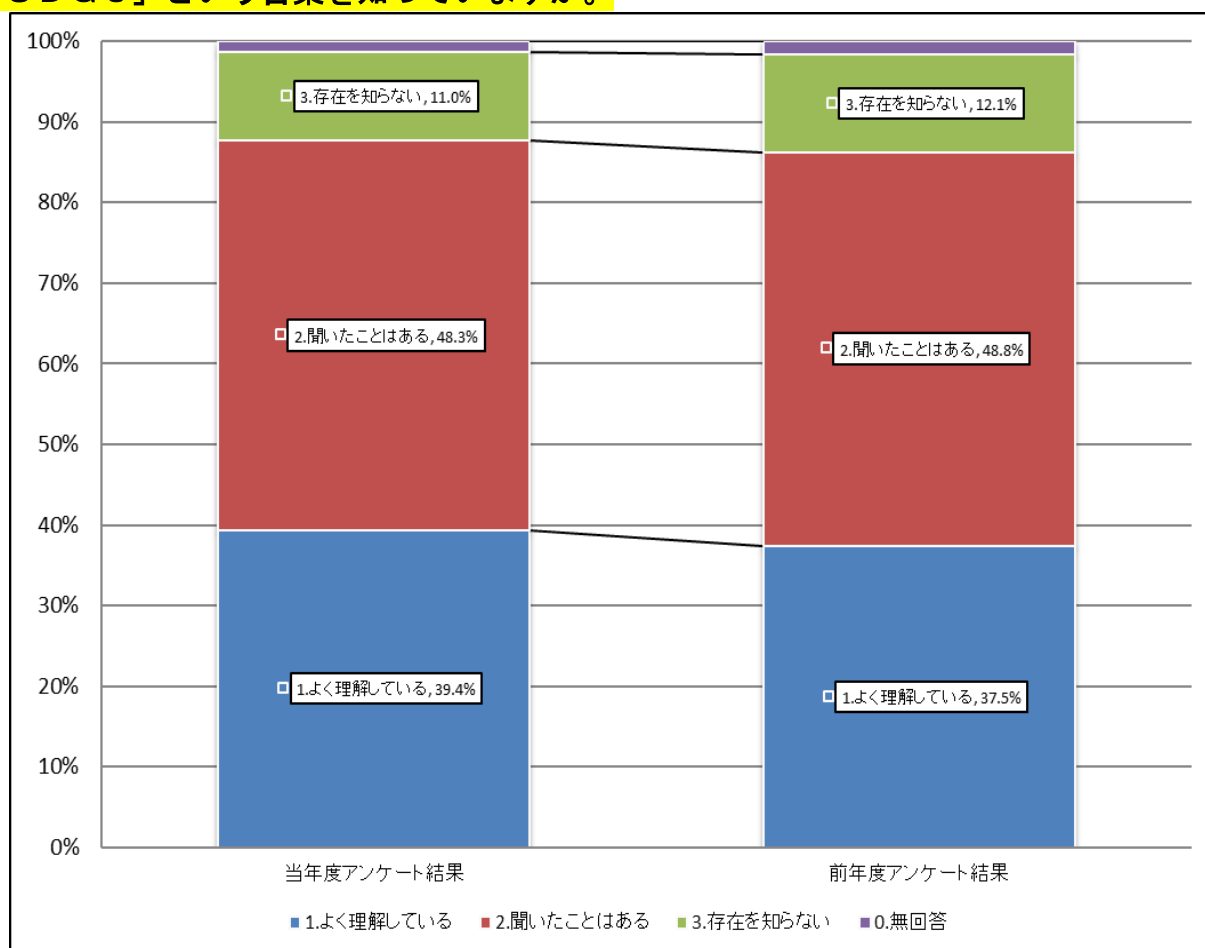
世代によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「利用したことがある」と回答した人の割合が最も少ないのは、岡部地区 (27.0%) であり、次いで明戸地区 (27.3%) となっています。最も多いのは大寄地区 (55.6%) であり、次いで上柴地区 (48.7%) となっています。

「SDGs」という言葉を知っていますか。



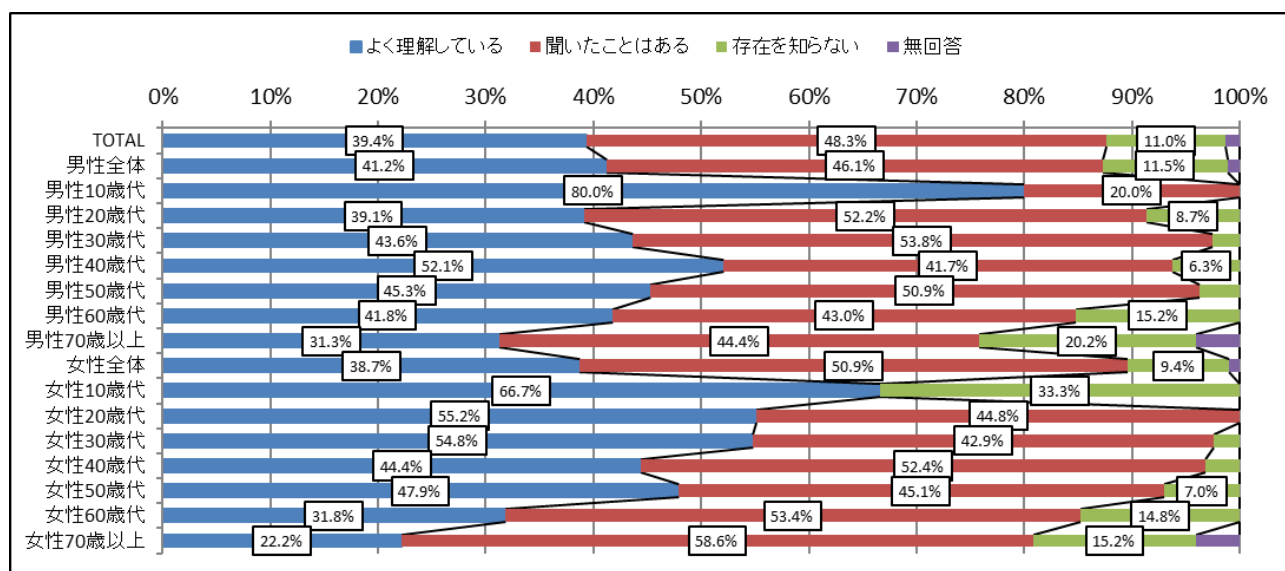
「聞いたことはある」と回答した人の割合が 48.3%と最も多く、次いで「よく理解している」と回答した人の割合が 39.4%、「存在を知らない」と回答した人の割合が最も少なく 11.0%となっています。

「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計は 87.7%であり、9割近くの市民が「SDGs」という言葉を知っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計は 86.3%であり、「前年度アンケート」と比較して僅かに増加しています。

母集団		よく理解している	聞いた事はある	存在を知らない	無回答	合計
TOTAL	818	39.4%	48.3%	11.0%	1.3%	100.0%
男性全体	347	41.2%	46.1%	11.5%	1.2%	100.0%
男性 10 歳代	5	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	23	39.1%	52.2%	8.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	39	43.6%	53.8%	2.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	48	52.1%	41.7%	6.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	53	45.3%	50.9%	3.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	79	41.8%	43.0%	15.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	99	31.3%	44.4%	20.2%	4.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	395	38.7%	50.9%	9.4%	1.0%	100.0%
女性 10 歳代	3	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	29	55.2%	44.8%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	42	54.8%	42.9%	2.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	63	44.4%	52.4%	3.2%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	71	47.9%	45.1%	7.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	88	31.8%	53.4%	14.8%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	22.2%	58.6%	15.2%	4.0%	100.0%
女性年齢不詳	0	—	—	—	—	—
深谷地区	179	41.9%	45.3%	11.2%	1.7%	100.0%
藤沢地区	54	31.5%	59.3%	9.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	93	47.3%	45.2%	7.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	33	30.3%	48.5%	21.2%	0.0%	100.0%
大寄地区	9	55.6%	33.3%	11.1%	0.0%	100.0%
八基地区	17	35.3%	35.3%	23.5%	5.9%	100.0%
豊里地区	22	27.3%	63.6%	4.5%	4.5%	100.0%
上柴地区	119	44.5%	44.5%	10.9%	0.0%	100.0%
南地区	51	51.0%	41.2%	7.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	89	36.0%	49.4%	13.5%	1.1%	100.0%
川本地区	49	30.6%	53.1%	12.2%	4.1%	100.0%
花園地区	81	38.3%	54.3%	6.2%	1.2%	100.0%
無回答	22	9.1%	59.1%	22.7%	9.1%	100.0%

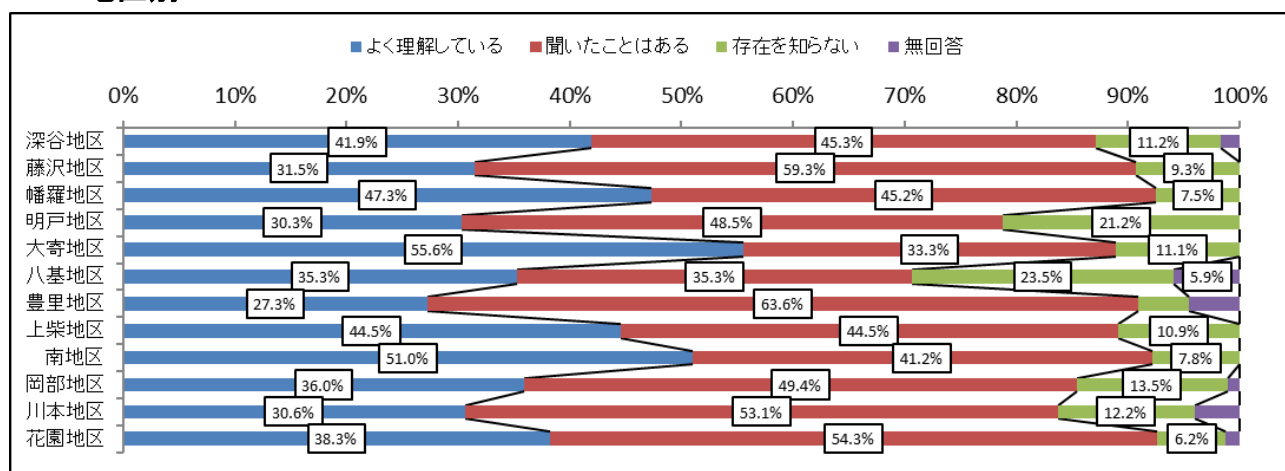
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計は、男性が87.3%であるのに対して、女性は89.6%となっています。

また、「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計が最も少ない世代は、男性70歳以上（75.7%）、女性10歳代（66.7%）であり、一方で最も多い世代は、男性10歳代（100.0%）、女性20歳代（100.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計が最も少ないのは、八基地区（70.6%）であり、次いで明戸地区（78.8%）となっています。最も多いのは花園地区（92.6%）であり、次いで幡羅地区（92.5%）となっています。

3. 深谷市の施策について

深谷市が行っている施策を重要度と満足度を軸とし、i) 重要度・満足度ともに高い施策、ii) 重要度が高く、満足度が低い施策、iii) 重要度が低く、満足度が高い施策、iv) 重要度・満足度ともに低い施策の4つに分類し、施策の優先順位付けのための分析を実施しました。

なお、重要度・満足度の得点の算出方法につきましては、P. 2の1. アンケート調査の実施方法に記載されている注意書きをご参照ください。

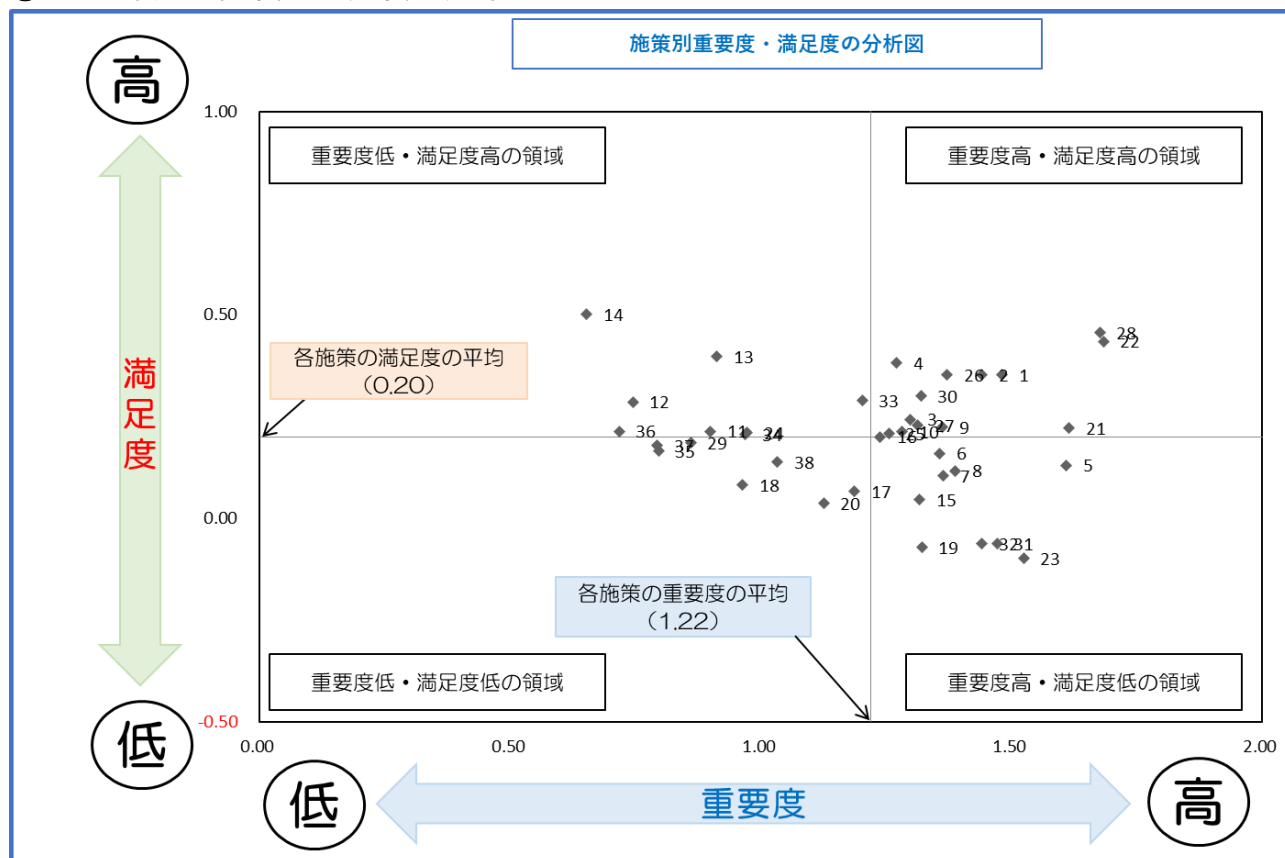
(1) 深谷市全体

① 施策別重要度・満足度一覧

施策			重要度	満足度
1.子育て・保健・福祉	1	子育て支援の充実	1.48	0.35
	2	保育環境の充実	1.44	0.35
	3	青少年の健全育成の推進	1.30	0.24
	4	健康づくりの推進	1.27	0.38
	5	地域医療体制の充実	1.61	0.13
	6	地域福祉の推進	1.36	0.16
	7	高齢者福祉の推進	1.36	0.11
	8	障害者福祉の推進	1.39	0.12
2.教育・文化	9	「生きる力」を育む学校教育の推進	1.36	0.22
	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	1.28	0.21
	11	生涯学習の推進	0.90	0.21
	12	スポーツ・レクリエーションの推進	0.74	0.29
	13	郷土の歴史・文化の継承と活用	0.91	0.40
	14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	0.65	0.50
3.産業振興	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	1.32	0.05
	16	農畜産物の販売流通体制の充実	1.24	0.20
	17	商工業の振興	1.19	0.07
	18	観光資源の整備と活用	0.96	0.08
	19	就労環境の整備	1.32	(0.07)
	20	産業価値の創出	1.13	0.04
4.暮らし・環境	21	災害に強い防災体制の推進	1.61	0.22
	22	消防・救急体制の充実	1.68	0.44
	23	防犯・空き家対策の推進	1.52	(0.10)
	24	地域コミュニティの推進	0.97	0.21
	25	自然・生活環境の保全	1.26	0.21
	26	環境衛生の推進	1.37	0.35
5.都市・生活基礎	27	良好な市街地・住環境形成の推進	1.31	0.23
	28	水の安定供給と下水処理の適正化	1.68	0.46
	29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	0.86	0.19
	30	治水対策の推進	1.32	0.30
	31	道路・交通環境整備の推進	1.47	(0.06)
	32	公共交通の維持確保と交通安全の推進	1.44	(0.06)
6.協働・行政経営	33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	1.20	0.29
	34	男女共同参画の実現	0.97	0.21
	35	移住・定住の推進	0.80	0.17
	36	市民との協働・交流の推進	0.72	0.21
	37	行政デジタル化の推進	0.79	0.18
	38	行財政運営の推進	1.03	0.14
平均値			1.22	0.20

重要度の平均値は 1.22 であり、深谷市の実施している施策について、全体的にみて、重要度が高いと認識している市民が多いことがうかがえます。一方で、満足度の平均値は 0.20 と重要度の平均値に比べて低く、行政サービスと市民の期待との間にギャップがあることがうかがえます。

③ 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
24	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
34	男女共同参画の実現	16	農畜産物の販売流通体制の充実
36	市民との協働・交流の推進	21	災害に強い防災体制の推進
		22	消防・救急体制の充実
		25	自然・生活環境の保全
		26	環境衛生の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
17	商工業の振興	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	6	地域福祉の推進
20	産業価値の創出	7	高齢者福祉の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	8	障害者福祉の推進
35	移住・定住の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
37	行政デジタル化の推進	19	就労環境の整備
38	行財政運営の推進	23	防犯・空き家対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度も高い領域には「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育環境の充実」、「3. 青少年の健全育成の推進」、「4. 健康づくりの推進」、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「10. 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上」、「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「25. 自然・生活環境の保全」、「26. 環境衛生の推進」、「27. 良好な市街地・住環境形成の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「30. 治水対策の推進」の14施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として優先して位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

＜重要度高・満足度低＞

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度が低い領域には、「5. 地域医療体制の充実」、「6. 地域福祉の推進」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「19. 就労環境の整備」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」の9施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

＜重要度低・満足度高＞

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度が高い領域には、「11. 生涯学習の推進」、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「13. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、「24. 地域コミュニティの推進」、「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、「34. 男女共同参画の実現」、「36. 市民との協働・交流の推進」の8施策が該当します。

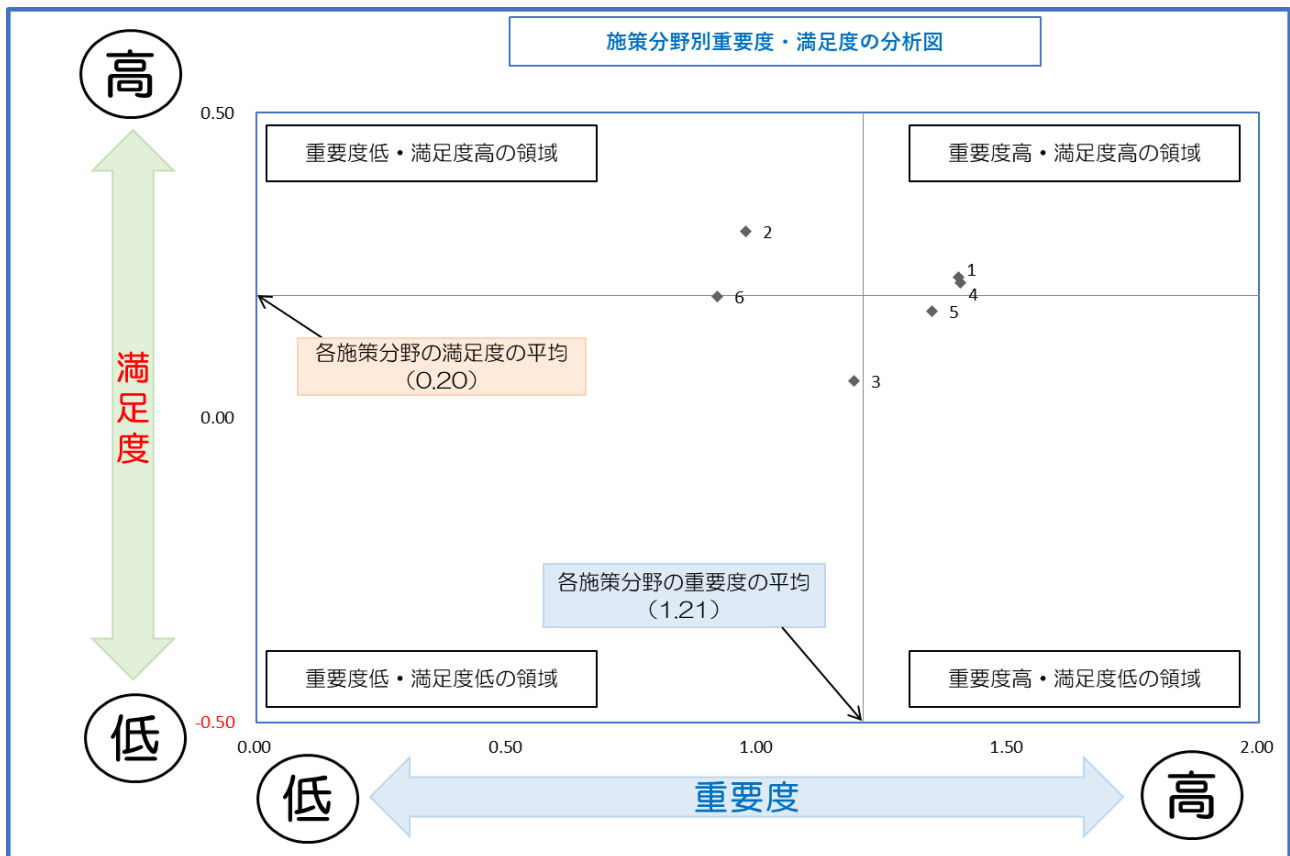
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないかどうか確認する必要があります。

＜重要度低・満足度低＞

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度も低い領域には、「17. 商工業の振興」、「18. 観光資源の整備と活用」、「20. 産業価値の創出」、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」、「38. 行財政運営の推進」の7施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

③ 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

	＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
6	協働・行政経営	4	暮らし・環境
	＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞
3	産業振興	5	都市・生活基礎

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の４つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

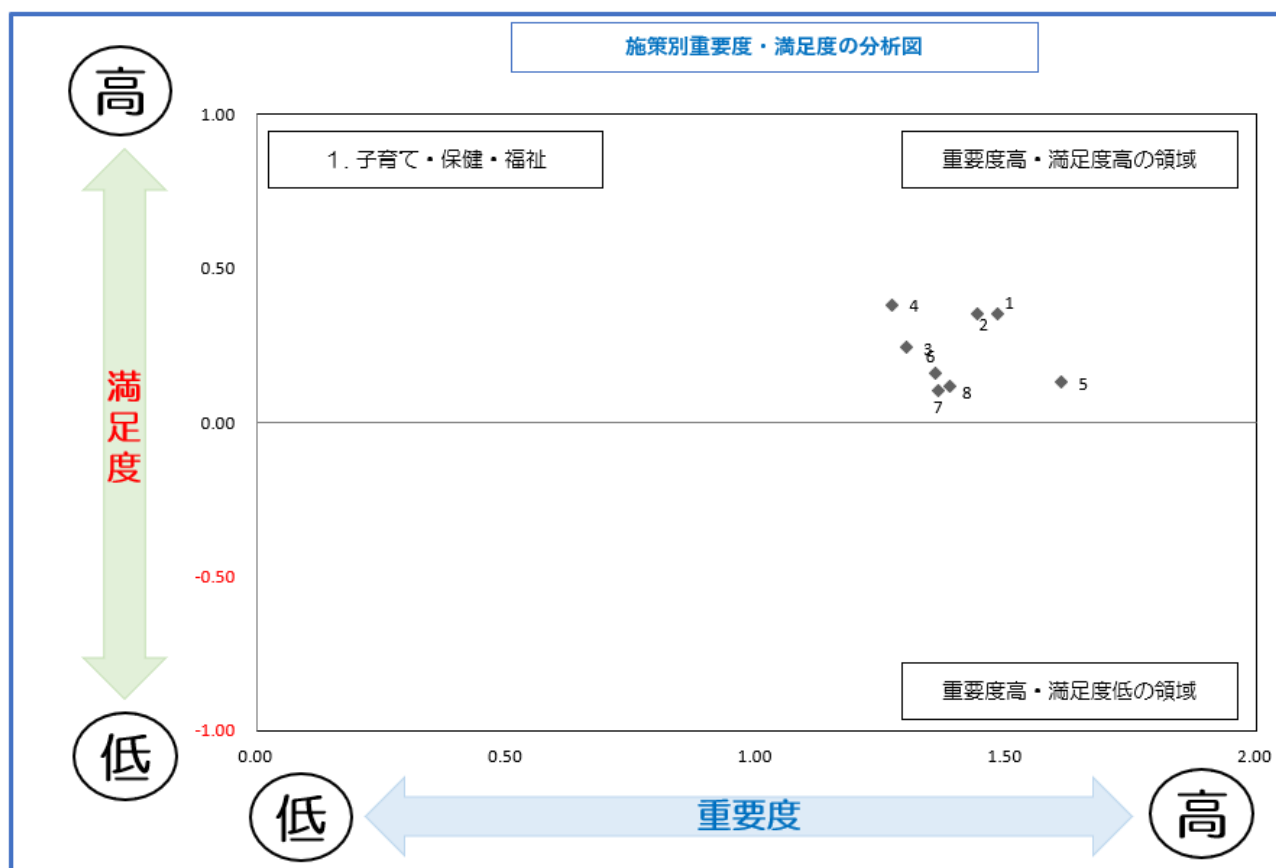
＜重要度高・満足度高＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が高い施策分野であり、「1. 子育て・保健・福祉」、「4. 暮らし・環境」の２分野が該当します。

＜重要度高・満足度低＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、「5. 都市・生活基礎」の１分野が該当します。

＜重要度低・満足度高＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は低いものの、満足度が高い施策分野であり、「2. 教育・文化」、「6. 協働・行政経営」の２分野が該当します。

＜重要度低・満足度低＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が低い施策分野であり、「3. 産業振興」の１分野が該当します。

< 1. 子育て・保健・福祉 >

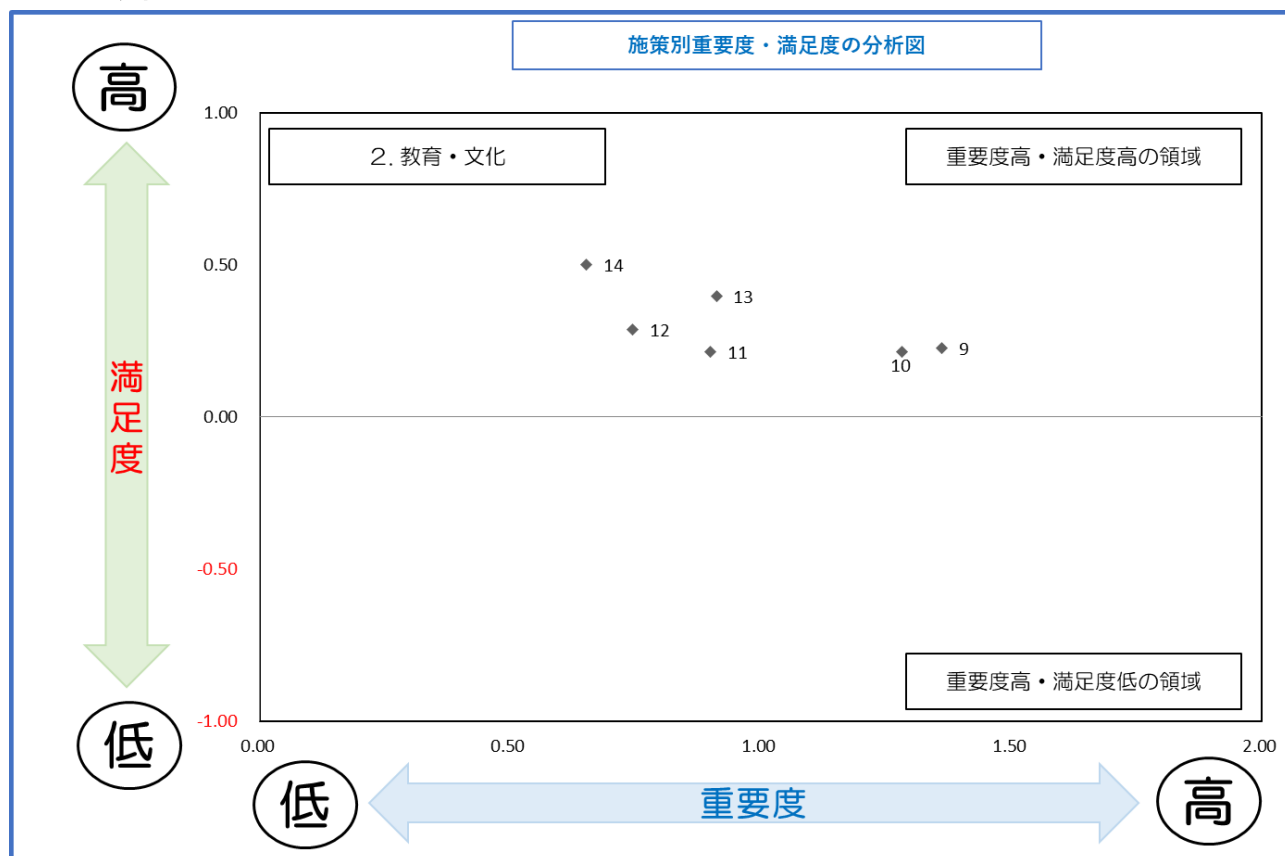


子育て・保健・福祉分野に係る施策は8施策あり、「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育環境の充実」、「3. 青少年の健全育成の推進」、「4. 健康づくりの推進」、「5. 地域医療体制の充実」、「6. 地域福祉の推進」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

子育て・保健・福祉分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「5. 地域医療体制の充実」、最も低かった施策は「4. 健康づくりの推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「4. 健康づくりの推進」、最も低かった施策は「7. 高齢者福祉の推進」となりました。

「4. 健康づくりの推進」は満足度が高い施策であるものの、重要度は低いことがうかがえます。

＜ 2. 教育・文化＞

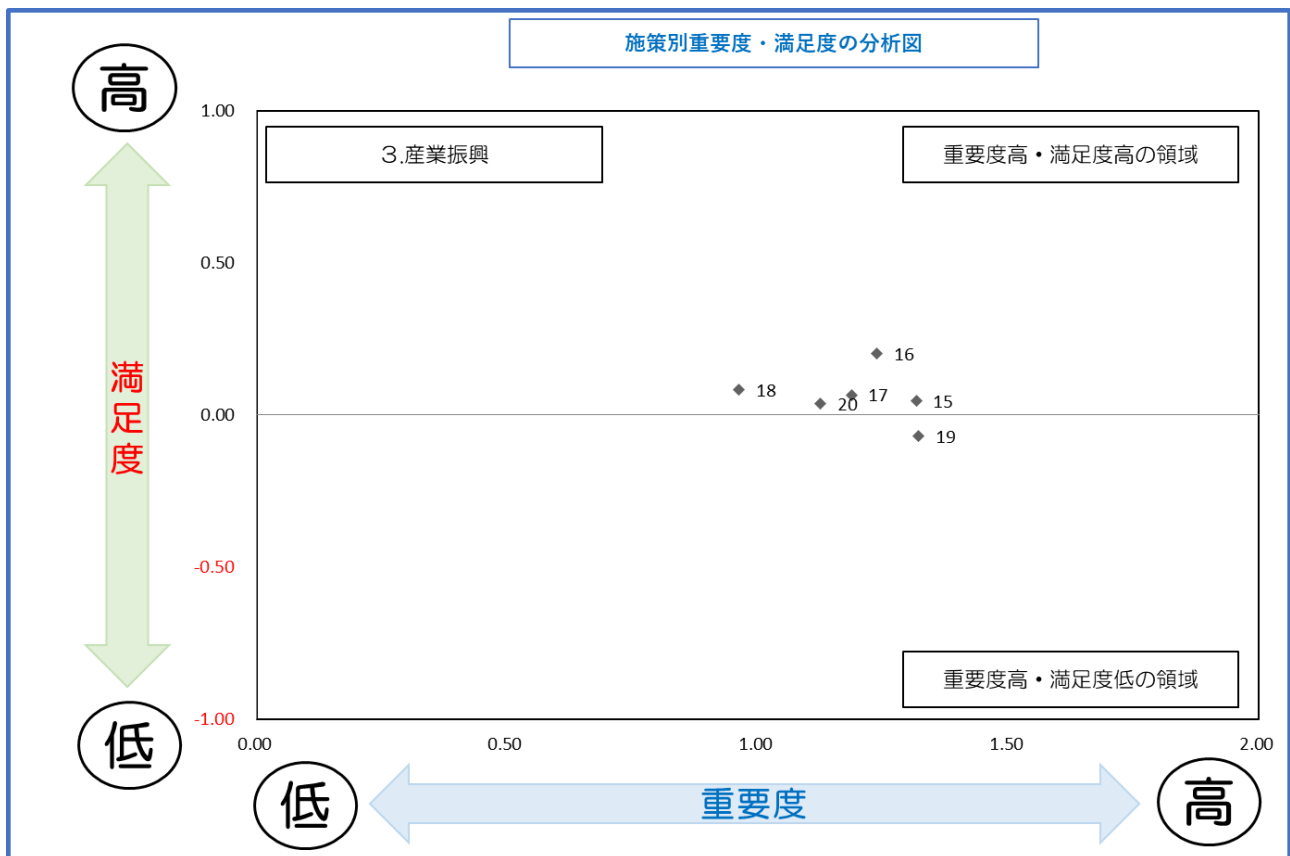


教育・文化分野に係る施策は6施策あり、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「10. 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上」、「11. 生涯学習の推進」、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「13. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

教育・文化分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、最も低かった施策は「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、最も低かった施策は「10. 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上」、「11. 生涯学習の推進」の2施策となりました。

「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」は満足度が高い施策であるものの、重要度は低いことがうかがえます。

< 3. 産業振興 >



産業振興分野に係る施策は6施策あり、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「17. 商工業の振興」、「18. 観光資源の整備と活用」、「20. 産業価値の創出」の5施策が重要度高・満足度高に分類されています。また、「19. 就労環境の整備」の1施策は重要度高・満足度低に分類されています。

産業振興分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「19. 就労環境の整備」の2施策、最も低かった施策は「18. 観光資源の整備と活用」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、最も低かった施策は「19. 就労環境の整備」となりました。

「19. 就労環境の整備」は重要度が高い施策であるものの、満足度は低いことがうかがえます。

< 4. 暮らし・環境 >

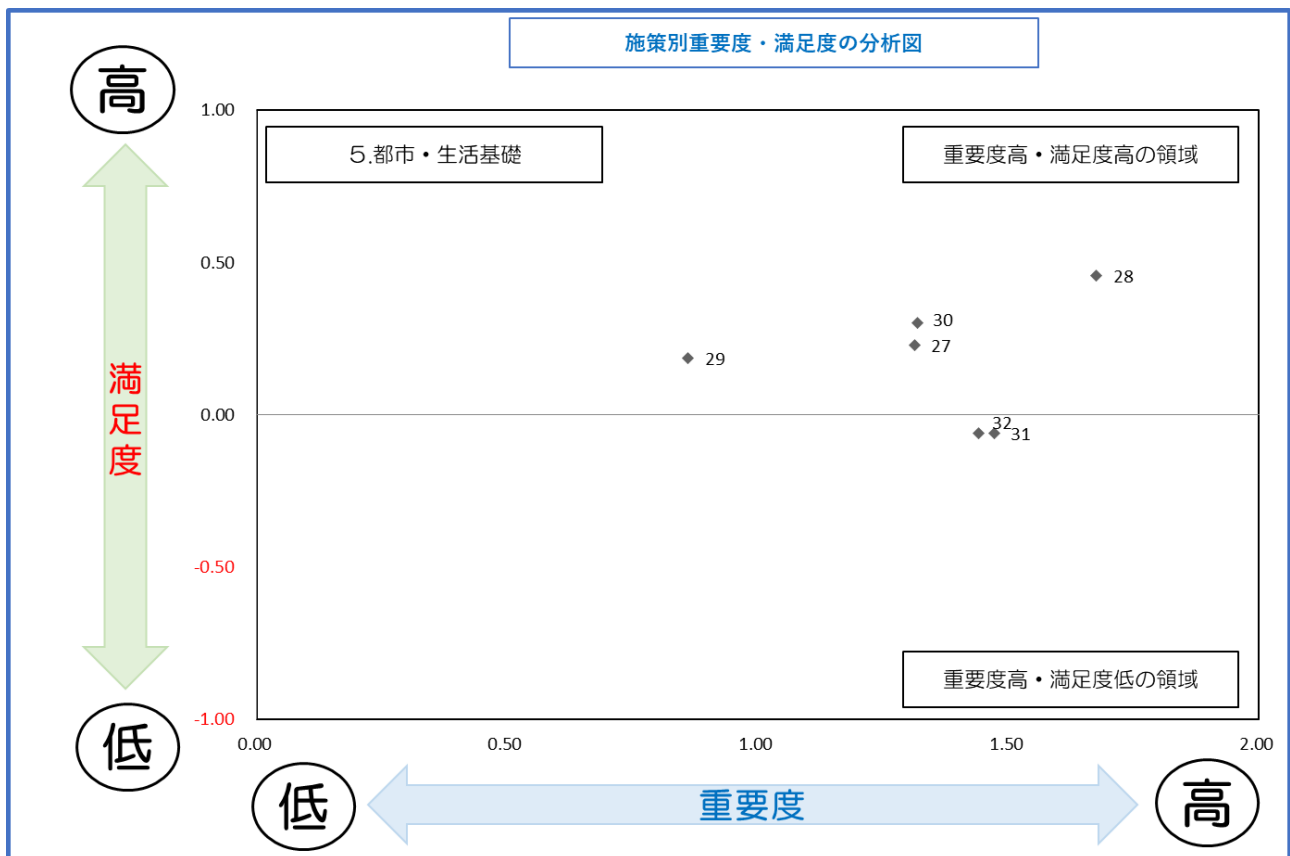


暮らし・環境分野に係る施策は6施策あり、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「24. 地域コミュニティの推進」、「25. 自然・生活環境の保全」、「26. 環境衛生の推進」の5施策が重要度高・満足度高に分類されています。また、「23. 防犯・空き家対策の推進」の1施策は重要度高・満足度低に分類されています。

暮らし・環境分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「22. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「24. 地域コミュニティの推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「22. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「23. 防犯・空き家対策の推進」となりました。

「22. 消防・救急体制の充実」は重要度および満足度の双方が高い施策であることがうかがえます。

< 5. 都市・生活基礎 >

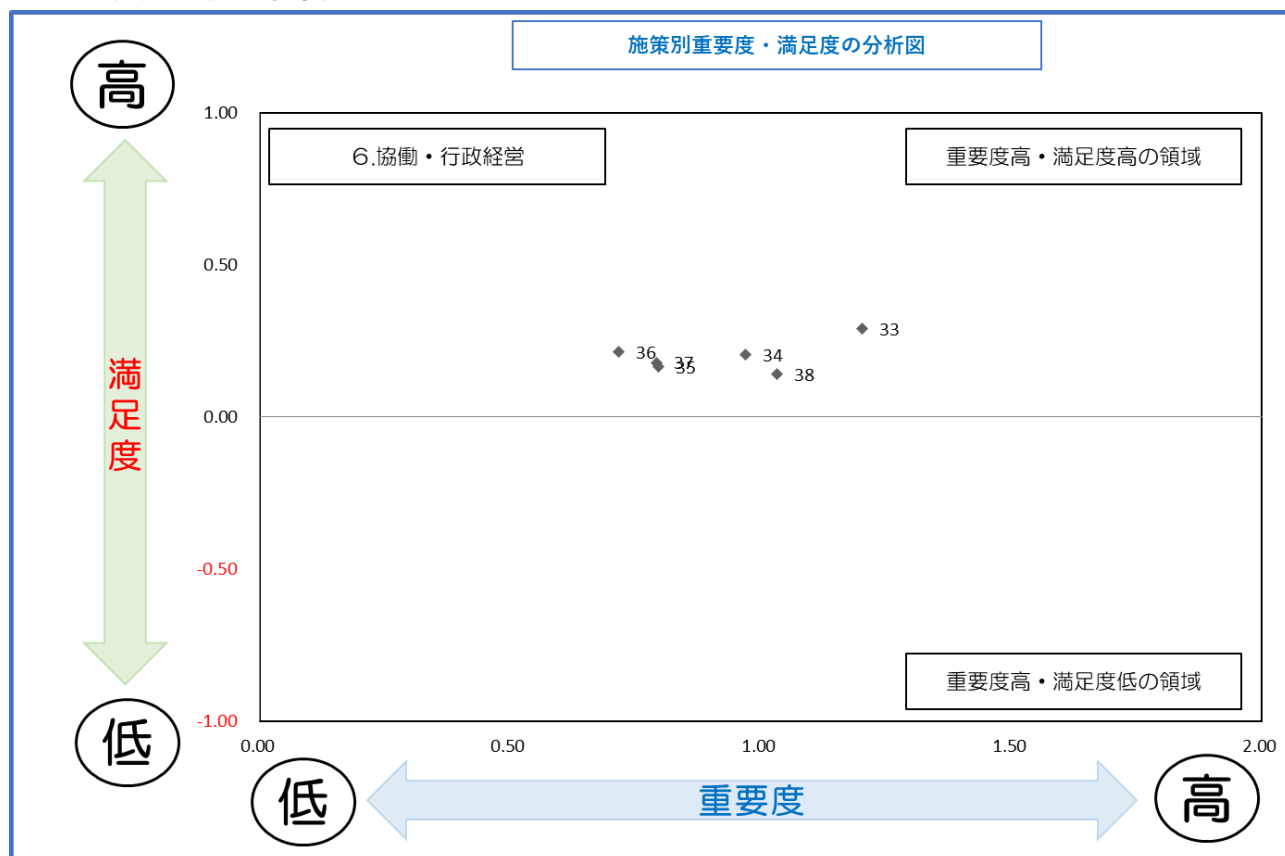


都市・生活基礎分野に係る施策は6施策あり、「27. 良好な市街地・住環境形成の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「30. 治水対策の推進」の4施策が重要度高・満足度高に分類されています。また、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」の2施策は重要度高・満足度低に分類されています。

都市・生活基礎分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」の2施策となりました。

「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」は重要度および満足度の双方が高い施策であることがうかがえます。

< 6. 協働・行政経営 >



協働・行政経営分野に係る施策は6施策あり、「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、「34. 男女共同参画の実現」、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」、「38. 行財政運営の推進」、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

協働・行政経営分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、最も低かった施策は「36. 市民との協働・交流の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、最も低かった施策は「38. 行財政運営の推進」となりました。

「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」は重要度および満足度の双方が高い施策であることがうかがえます。

(2) 地区別

➤ 深谷地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
4	健康づくりの推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
36	市民との協働・交流の推進	21	災害に強い防災体制の推進
37	行政デジタル化の推進	22	消防・救急体制の充実
38	行財政運営の推進	25	自然・生活環境の保全
		26	環境衛生の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	6	地域福祉の推進
20	産業価値の創出	7	高齢者福祉の推進
24	地域コミュニティの推進	8	障害者福祉の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
34	男女共同参画の実現	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
35	移住・定住の推進	16	農畜産物の販売流通体制の充実
		17	商工業の振興
		19	就労環境の整備
		23	防犯・空き家対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

深谷地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「11. 生涯学習の推進」、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「35. 移住・定住の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、深谷地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 藤沢地区

【重要度・満足度マトリックス表】

	＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞
12	スポーツ・レクリエーションの推進	1	子育て支援の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育環境の充実
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	3	青少年の健全育成の推進
18	観光資源の整備と活用	4	健康づくりの推進
25	自然・生活環境の保全	6	地域福祉の推進
		7	高齢者福祉の推進
		8	障害者福祉の推進
		21	災害に強い防災体制の推進
		22	消防・救急体制の充実
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
	＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞
11	生涯学習の推進	5	地域医療体制の充実
17	商工業の振興	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
20	産業価値の創出	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
24	地域コミュニティの推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	16	農畜産物の販売流通体制の充実
34	男女共同参画の実現	19	就労環境の整備
35	移住・定住の推進	23	防犯・空き家対策の推進
36	市民との協働・交流の推進	26	環境衛生の推進
37	行政デジタル化の推進	30	治水対策の推進
38	行財政運営の推進	31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進

藤沢地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「26. 環境衛生の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「26. 環境衛生の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「34. 男女共同参画の実現」、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」が挙げられます。これらの施策については、藤沢地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	21	災害に強い防災体制の推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	22	消防・救急体制の充実
37	行政デジタル化の推進	26	環境衛生の推進
38	行財政運営の推進	27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
17	商工業の振興	3	青少年の健全育成の推進
18	観光資源の整備と活用	5	地域医療体制の充実
20	産業価値の創出	6	地域福祉の推進
24	地域コミュニティの推進	7	高齢者福祉の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	8	障害者福祉の推進
34	男女共同参画の実現	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
35	移住・定住の推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
36	市民との協働・交流の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
		16	農畜産物の販売流通体制の充実
		19	就労環境の整備
		23	防犯・空き家対策の推進
		25	自然・生活環境の保全
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

幡羅地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、幡羅地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 明戸地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	2	保育環境の充実
10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	16	農畜産物の販売流通体制の充実
11	生涯学習の推進	22	消防・救急体制の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	26	環境衛生の推進
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	28	水の安定供給と下水処理の適正化
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	30	治水対策の推進
24	地域コミュニティの推進	33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
25	自然・生活環境の保全		
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成		
36	市民との協働・交流の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
17	商工業の振興	4	健康づくりの推進
18	観光資源の整備と活用	5	地域医療体制の充実
19	就労環境の整備	6	地域福祉の推進
20	産業価値の創出	7	高齢者福祉の推進
27	良好な市街地・住環境形成の推進	8	障害者福祉の推進
34	男女共同参画の実現	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
35	移住・定住の推進	21	災害に強い防災体制の推進
37	行政デジタル化の推進	23	防犯・空き家対策の推進
38	行財政運営の推進	31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

明戸地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「8. 障害者福祉の推進」、「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「22. 消防・救急体制の充実」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「8. 障害者福祉の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「20. 産業価値の創出」、「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、明戸地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 大寄地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
1	子育て支援の充実	4	健康づくりの推進
2	保育環境の充実	5	地域医療体制の充実
3	青少年の健全育成の推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
11	生涯学習の推進	13	郷土の歴史・文化の継承と活用
12	スポーツ・レクリエーションの推進	22	消防・救急体制の充実
14	洪沢栄一の顕彰と精神の継承	26	環境衛生の推進
24	地域コミュニティの推進	27	良好な市街地・住環境形成の推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	28	水の安定供給と下水処理の適正化
34	男女共同参画の実現	29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成
35	移住・定住の推進	30	治水対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
8	障害者福祉の推進	6	地域福祉の推進
15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	7	高齢者福祉の推進
16	農畜産物の販売流通体制の充実	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
17	商工業の振興	19	就労環境の整備
18	観光資源の整備と活用	21	災害に強い防災体制の推進
20	産業価値の創出	23	防犯・空き家対策の推進
36	市民との協働・交流の推進	25	自然・生活環境の保全
37	行政デジタル化の推進	32	公共交通の維持確保と交通安全の推進
38	行財政運営の推進		

大寄地区では、重要度が高い施策として、「6. 地域福祉の推進」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「6. 地域福祉の推進」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「17. 商工業の振興」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、大寄地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 八基地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
18	観光資源の整備と活用	1	子育て支援の充実
24	地域コミュニティの推進	2	保育環境の充実
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	3	青少年の健全育成の推進
35	移住・定住の推進	4	健康づくりの推進
36	市民との協働・交流の推進	6	地域福祉の推進
		7	高齢者福祉の推進
		9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
		26	環境衛生の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
		34	男女共同参画の実現
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	5	地域医療体制の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	8	障害者福祉の推進
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	16	農畜産物の販売流通体制の充実
17	商工業の振興	21	災害に強い防災体制の推進
19	就労環境の整備	22	消防・救急体制の充実
20	産業価値の創出	23	防犯・空き家対策の推進
30	治水対策の推進	25	自然・生活環境の保全
37	行政デジタル化の推進	27	良好な市街地・住環境形成の推進
38	行財政運営の推進	31	道路・交通環境整備の推進

八基地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育環境の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「13. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、「17. 商工業の振興」などの施策が挙げられます。これらの施策については、八基地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 豊里地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	1	子育て支援の充実
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	2	保育環境の充実
17	商工業の振興	4	健康づくりの推進
25	自然・生活環境の保全	7	高齢者福祉の推進
26	環境衛生の推進	8	障害者福祉の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
34	男女共同参画の実現	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
35	移住・定住の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
		16	農畜産物の販売流通体制の充実
		20	産業価値の創出
		22	消防・救急体制の充実
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	3	青少年の健全育成の推進
12	スポーツ・レクリエーションの推進	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	6	地域福祉の推進
24	地域コミュニティの推進	19	就労環境の整備
27	良好な市街地・住環境形成の推進	21	災害に強い防災体制の推進
36	市民との協働・交流の推進	23	防犯・空き家対策の推進
37	行政デジタル化の推進	31	道路・交通環境整備の推進
38	行財政運営の推進	32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

豊里地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、豊里地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 上柴地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
4	健康づくりの推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育環境の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	21	災害に強い防災体制の推進
16	農畜産物の販売流通体制の充実	22	消防・救急体制の充実
24	地域コミュニティの推進	26	環境衛生の推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	27	良好な市街地・住環境形成の推進
34	男女共同参画の実現	28	水の安定供給と下水処理の適正化
36	市民との協働・交流の推進	30	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	5	地域医療体制の充実
17	商工業の振興	6	地域福祉の推進
18	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
20	産業価値の創出	8	障害者福祉の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
35	移住・定住の推進	19	就労環境の整備
37	行政デジタル化の推進	23	防犯・空き家対策の推進
38	行財政運営の推進	25	自然・生活環境の保全
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

上柴地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、上柴地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 南地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
6	地域福祉の推進	1	子育て支援の充実
8	障害者福祉の推進	2	保育環境の充実
10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	3	青少年の健全育成の推進
12	スポーツ・レクリエーションの推進	4	健康づくりの推進
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	5	地域医療体制の充実
14	洪沢栄一の顕彰と精神の継承	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
25	自然・生活環境の保全	21	災害に強い防災体制の推進
34	男女共同参画の実現	22	消防・救急体制の充実
		26	環境衛生の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
7	高齢者福祉の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
11	生涯学習の推進	16	農畜産物の販売流通体制の充実
18	観光資源の整備と活用	17	商工業の振興
20	産業価値の創出	19	就労環境の整備
24	地域コミュニティの推進	23	防犯・空き家対策の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	27	良好な市街地・住環境形成の推進
35	移住・定住の推進	31	道路・交通環境整備の推進
36	市民との協働・交流の推進	32	公共交通の維持確保と交通安全の推進
37	行政デジタル化の推進		
38	行財政運営の推進		

南地区では、重要度が高い施策として、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「11. 生涯学習の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、南地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 岡部地区

【重要度・満足度マトリックス表】

	＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
24	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	21	災害に強い防災体制の推進
30	治水対策の推進	22	消防・救急体制の充実
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	25	自然・生活環境の保全
35	移住・定住の推進	26	環境衛生の推進
37	行政デジタル化の推進	28	水の安定供給と下水処理の適正化
	＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞
16	農畜産物の販売流通体制の充実	5	地域医療体制の充実
17	商工業の振興	6	地域福祉の推進
18	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
20	産業価値の創出	8	障害者福祉の推進
34	男女共同参画の実現	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
36	市民との協働・交流の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
38	行財政運営の推進	19	就労環境の整備
		23	防犯・空き家対策の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

岡部地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「18. 観光資源の整備と活用」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「38. 行財政運営の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、岡部地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 川本地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
16	農畜産物の販売流通体制の充実	5	地域医療体制の充実
24	地域コミュニティの推進	6	地域福祉の推進
27	良好な市街地・住環境形成の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
34	男女共同参画の実現	22	消防・救急体制の充実
36	市民との協働・交流の推進	26	環境衛生の推進
37	行政デジタル化の推進	28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
17	商工業の振興	7	高齢者福祉の推進
18	観光資源の整備と活用	8	障害者福祉の推進
20	産業価値の創出	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	19	就労環境の整備
35	移住・定住の推進	21	災害に強い防災体制の推進
38	行財政運営の推進	23	防犯・空き家対策の推進
		25	自然・生活環境の保全
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

川本地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「21. 災害に強い防災体制の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「18. 観光資源の整備と活用」、「20. 産業価値の創出」、「35. 移住・定住の推進」が挙げられます。これらの施策については、川本地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 花園地区

【重要度・満足度マトリックス表】

	＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞
12	スポーツ・レクリエーションの推進	1	子育て支援の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育環境の充実
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	3	青少年の健全育成の推進
18	観光資源の整備と活用	4	健康づくりの推進
24	地域コミュニティの推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
27	良好な市街地・住環境形成の推進	16	農畜産物の販売流通体制の充実
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	21	災害に強い防災体制の推進
34	男女共同参画の実現	22	消防・救急体制の充実
		25	自然・生活環境の保全
		26	環境衛生の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
	＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞
11	生涯学習の推進	5	地域医療体制の充実
17	商工業の振興	6	地域福祉の推進
20	産業価値の創出	7	高齢者福祉の推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	8	障害者福祉の推進
35	移住・定住の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
36	市民との協働・交流の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
37	行政デジタル化の推進	19	就労環境の整備
38	行財政運営の推進	23	防犯・空き家対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

花園地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「8. 障害者福祉の推進」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「8. 障害者福祉の推進」、「23. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」が挙げられます。これらの施策については、花園地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

4. 自由記入欄（まちづくり全般について） ※原文の通り

自由意見から主要な意見を抽出し、施策分野ごとに分類しました。

（１）＜子育て・保健・福祉＞に関する意見

- ・ もっと家の近くに病院があれば安心です。
- ・ 県北では、病院に関し、群馬県に頼る事が多い。高度な医療の病院を県北にも誘致し、建設をお願いしたい
- ・ 子供の検診や学校でひっかかった時の病院の受診が働き方によってはなかなか行けない。（診療時間に間に合わない） 一般的な働き方じゃない人こそ医療が必要となることがあるのでイレギュラーな対応ができる医療機関を作ってほしい（眼科・歯科）
- ・ 親戚に「深谷に転居して子育てをしたい」と強く希望している 20 代と 30 代の夫婦がいます。共働きの夫婦です。私もパートで旦那が正社員の共働きですが、子育てに関しては充実していると思います。ただ、市内に「病後児保育」しかないのはちょっとマイナスに感じます。隣の熊谷市のように「病児保育」があると、かなり助かるな一と子供がかぜ引いて、仕事を休む時に感じます。（1 週間くらい仕事を休んだ時に感じます） その他の市の取り組みに関しては、私にあまり関心がないせいか よくわからないが正直なところです。アンダーパスの完成が楽しみです。
- ・ PTA と子供会の廃止 特に花園は PTA の入会についての伺いもなく、いつの間にか強制的に入会させられ、会費をとられ、役員も子供 1 人につき 1 回はやらなければならないという（小・中学共に） PTA の入会は任意ですよ？まずそこから間違っていると思いますよ 学校に訴えても聞き入れてもらえないので市で、即時対応して下さい ・ 茨城県境町の様な思い切った政策はできませんか？
- ・ 高齢者に対する福祉事業はとても大切であるが、これからの未来を担う子供たちへの手厚い施策をさらに期待しています。県内初の保育料完全無償化はとても助かっています。私は、県外からの移住者ですが、もっと深谷市を好きになる、もっと住み続けたいと思わせる事業を期待しています。今のところは、深谷市に住んで良かったと思っています。これからもよろしくお願いします。
- ・ 深谷市だけでなく、国全体が、子育て世帯ばかり優遇しているが、高齢化社会となっていることを考えて欲しい。高齢者がもっと住みやすい社会を作って欲しい。
- ・ 後期高齢者（80 才に近い女性） 今は免許証があり車の運転して買物病院等行けませんが、くるりんバスも巡回してますが タクシーなど安く利用出来ればと思います
- ・ 高齢化社会、人生 100 年時代など 70 代夫婦にとって、目まぐるしい世の中の変化に対応してゆくことが迫られていると感じています。人生の先輩として、高齢者でも何か人の役に立ちたいと思っている方も居ると思います。高齢者が子育て世代を応援で

きるようなシステム作りを考えてもらえたら、特に男性の社会参加が少ないように感じています。健康でいる為には生きがいや人のお役にてる喜びも大事だと感じています。

(2) <教育・文化>に関する意見

- ・ 学生がもっと学習できるような環境を（図書館の時間を増やす等）
- ・ 体育館の使用料が少し高いような気がするので、見直して頂けたら嬉しいです。
- ・ 群馬県には、群馬の全体象が学べるカルタがあると、テレビ等で照会されているが、これを参考に、深谷市の子供達にカルタで深谷市を知る為のカルタ作りも良いのではと考へます。
- ・ 肢体不自由な子を持つ親です。そういう子でも安心して楽しめるインクルーシブ遊具がある公園とかあるといいなと思います。新たにつくられるこども館に期待しています。 ・ わんぱくランドがなくなるそうで、残念です。おもしろ自転車はテラスパーク行きですか？あれ子が大好きなので、またどこかで気軽に乗れる施設あるとうれしいです。
- ・ 子育て支援、ショートスティサポート事業に深谷市も参加して欲しいです。ファミリーサポート事業では、難しい家庭もあるように思っています。ご検討をお願いしたいと思っています。 ・ 深谷市のハーフマラソンについてです。参加者の小・中・高生への補助があり、参加しやすいと思っています。この補助を大学生等、学生の参加者へも広げていただけるといいなあとと思っています。
- ・ 少子高齢化の現代、地域コミュニティ・自治会の活動存在が難しくなって来ている。退出者の増加、新規加入の減少。空家の増加、農耕放棄地の増加。地域内で参画して楽しく、仲良くなって行こうとする環境がない。しかし、令和6年度は、渋沢栄一翁の新一万円札発行に伴うイベント、王将戦の実地などで「深谷市」が盛り上がりました。7年度は合併20周年でイベントもありますが、全体として継続して盛り上げられて行けたらいいですね。
- ・ 私の住んでいる所は小前田駅近くなのでほぼ寄居です。深谷駅からも車で30分程と遠いので「深谷市に住んでいる」感覚がありません。イベント等も近くでは何もないので 深谷市民だと自覚できる様な市全体のイベントを企画してほしいです。いつも遠くで何か楽しそうな事をやってるな～という感想です。
- ・ 仕事中心の生活なので、地域行事に参加できません。今後はできるところから参加してみたいです。

(3) <産業振興>に関する意見

- ・ ふっかちゃん、これからも応援してます。ふっかちゃんグッズ、渋沢栄一さんグッズさらに広げていただけると嬉しいです。おいしい野菜（ねぎ、いちご、ブロッコリー、とうもろこしなど）ありがとうございます。さらに全国へ広がっていったらいいなと思います。
- ・ 暮らしやすい町づくりが進められる中でも、深谷市にある自然や、農産物など、残していけるといいなと思います。「たまるんピック」の企画は、母と共に楽しく参加させていただきました。様々な企画を計画、呼びかけしていただきありがとうございます。これからも大すきな深谷市に住みつづけたいと思っています。
- ・ 現在の行政は商工業の振興に力を入れているが 深谷市は土地が低いので治水対策や災害対策に力を入れてほしい ・ 現在、農業の高齢化が進すみ、農家が減少しています。農地の保全や活力のある農業経営の支援をぜひお願い申し上げます。
- ・ 他市の方々や他県の方々に、お勧めしたい、個性のある店、おいしい店などあるのに、観光などで来られた方に、情報発進が不十分であると思います。折角、渋沢栄一翁の一万円札で盛り上がるのかと思いましたが、もう一つ生かされていないように思います。もっと地元の努力している古きよき商店、新たにできた商店をアピールしてはどうでしょうか。その工夫が必要ではないでしょうか。また、高校生を中心に、多くの方々が利用している深谷駅周辺を魅力のある場所として整備することを考えて欲しいと思います。まだまだ魅力的な深谷市になると思います。深谷の魅力は深谷駅から始まるのではないのでしょうか。ご検討をお願いします。
- ・ アウトレットに、若者に人気のあるアニメショップや、ポケモンセンターなどを入れてほしいです。 ・ 東芝の跡地に、イオンなどの大型ショッピングモールを作ってもらいたいです。 ・ 映画館もできれば、もっと人が来てくれると思います。ドンキホーテもできてほしいです。 ・ ネットニュースでも、深谷アウトレットが空いていて人混みが苦手でもちょうどいいと書かれてました。 ・ 人気のあるお菓子のお店などが入れば、もっと人が来たくなると思います。深谷なのに見たい店もなく、行きたいと思えません。
- ・ 地域通貨ネギーを活用した取組は、深谷地域での消費推進につながり 地域の活性化にもつながっていると思います。取組次第で、普段足を運ばないような地域や店舗にも行く機会が増え、深谷の新しい魅力の発見に気付くことができるようになると思うので、ネギーの20%ポイントバックも嬉しいのですが、その地域や店舗に行くことのメリットがあれば、キャンペーン等の期間に関係なく行くようにもなると思うし、持続可能な消費にもつながるのではないかと思います。深谷といえば…最近だとアウトレット等をイメージする人も増えていると思いますが、渋沢栄一さんやネギ、煮ぼうとうを連想する人も根強いと思います。起業家として有名だった渋沢さんにちなんで、起業家甲子園コンテストでアイデアを募集して1位の個人・団体に起業機会を提供したり、煮ぼうとうやネギのオリジナルメニューやレシピを募って、商品化につなげたりするのもよいかもかもしれません。

(4) <暮らし・環境>に関する意見

- ・ 防犯、空き家対策として、街灯等に防犯カメラの設置を見当してほしい
- ・ 空き家、空き店舗など、生活実態のない建物の整理は地域の安全の上で重要です。もっと行動を起こしてもらいたいです。 ・ 公園の安全設備をして頂けるとうれしいです。
- ・ 防火無線の各地区での感度チェック ・ 交通インフラの整備（バスの本数、見えにくくなっている標識等） ・ 安全性の確保（歩道、照明の整備、防犯カメラ設置）
- ・ 深谷市はとても住みやすいまちだと思います。ゴミの回収等、祝日でも働いてくださっている方に感謝しなければならんと改めて感じました 今後もより良いまちになるよう発展を心から願います。
- ・ 所有者はいるが全く手入れがされていない空き家、雑草等を放置している空き家への注意喚起をお願いしたい。また、公園の周り等、子供の登下校や住民の横断がある道路には、「スピード注意」「減速」など目立つ看板を設置してほしい。市内各地のごみ捨て場で、カラスよけのネットやふた付きのゴミステーション整備を推進、補助をしてほしい。地区によってはカラスがごみを荒らし道路に散乱している。各地区のごみ捨て場に、「ごみを捨てたら必ずネットをかける」「ふたを閉めてください」等のマナーを守るための注意書きを設置してほしい。（または設置のための補助・各自治会への呼びかけを行ってほしい）
- ・ 野焼きや家庭ゴミを燃やしている方が多くいます。たまに、無人になっていることがあり、小学生の通学路や人通りのある所で煙が充満していることがあります。実際火事も発生しています。市の方から、対応を厳しくお願いしたいです。 ・ ゴミ出しについてですが、通行人のなげ捨てる方が多くいます。ゴミ当番の時に整理することが大変になってきており、何か対策をお願いしたいです。 ・ 自治会で行う排水路掃除ですが、高齢者（80才以上）が多く体力的にも事故につながる可能性があります。使用していない方が（使っていない排水路）危険な作業をすることが必要でしょうか？市の方で清掃をお願いしたいです。 ・ 公道に、はみ出ている木や花や草などが通行の妨げになっています。市の方で指導をお願いします。
- ・ 地域や自治会のルールを一住民として遵守することで住みやすい深谷市となるだろうとの思いで実行している。 ・ 自治会の仕組はなかなか新しくなっていくことが出来ないのは残念に思います。高令化であることも要員かとは思っていますが。

(5) <都市・生活基盤>に関する意見

- ・環境・生活インフラについて 埼玉県内でも下水道管が老朽化により壊れ道路が陥没する事故が起きています。深谷市内における生活インフラ（上下水道・橋など）についての老朽化対策・整備について今後もっと注力していく必要があると思っています。予算確保や技術的な問題等課題クリアはありますが、よい町づくりのためにもお願いします
- ・道路の舗装が剥がれていたり、凸凹が多くなっている箇所の修復をこれからも随時進めて行って欲しい。（特に道の左端に舗装の破損箇所が多い気がします。バイクに乗っていて、破損箇所を踏んでしまい 転びそうになることが偶にあるので、破損箇所の修復は是非行っていただきたいです。）
- ・街灯を増やしてほしい。子供が夜道を歩く際、暗い道が多い←冬、日没が早い時期は特に思う。
- ・防犯・安全にも街灯をキレイにして欲しいです。歩いていても年配の方やお年寄り、子供が危険だと思うコトが度々ある。日々の生活が過ごしやすく、安全であって欲しい。
- ・市町村合併後、旧市街だけ設備が進んで整い、他の旧町村の整備が行き届かないのは、いかななものかと思いますが…
- ・私は時々コミュニティバス「くるりん」南部シャトル便を利用していますが、アリオ深谷や日赤を通らないので、買い物や通院に使うことができません。生活の基盤であるスーパーや病院へ行けないのは「市民の足」としてどうなのでしょう？ 高齢者が免許返納後に使うこともあるので、昼間の便だけでも検討していただきたいです。
- ・高齢化にともない、免許返納の動きが加速する中、自動車がなければ生活が成り立たないという地域がまだまだ多い印象があります。 地域巡回バスなど予約をしないと来ない、となると買い物すらまともに行えないので免許返納をしない、という声を聞いたことがあります。それによる高齢者の事故があれば マイナス方向にしか動かないと考えます。くるリンバスに期待しています。
- ・私の住んでいる地区ではスーパーもなく食料品等を購入する時は車が必要です。燃料代が高くなり 車の運転できない高齢者は家族に頼ったりしていますが、歩いて行ける距離にスーパーがあれば 家族の負担も減少するかと思います。 又、インターネット等で購入する方法もあるとは思いますが 配達区域外になっており、どうしてこちらの地区は入れていただけないのか不思議で仕方ありません。（スーパーのネット宅配） もう少し私達の地区の事を考えていただけたらと思います。
- ・数年前 広報ふかやで岡部駅 橋上駅化の記事を見ました。早く実現してほしいです。 ・岡部駅南側（公民館周辺に）商業施設や病院など誘致してもらいたいです。

(6) <協働・行政経営>に関する意見

- ・ ふっかちゃんをもっと活かしてほしい
- ・ 平日の市役所の営業時間 PM7:00 の日をもう 1 日（週で）増やすか 土日の営業日を月 1 日でもやってはどうか
- ・ マイナンバーの暗証番号が不明なときの手続きや転居届けの手続きを花園支所でもできるようにしてほしいです。
- ・ 深谷市はとても住みやすい町だと思います。若い方にもどんどん転入してきていただきたいです。今、高齢のおひとり暮らしの方がまわりにもとても増えていて、とても先の不安を口にしています。いろいろ、サービスがあるというのを、直接わかりやすくお伝えしてもらいたいです。ホームページなどみれない方多いです。ネギーもネギ買うカードだと思っています。
- ・ 地域のイベントや、企業、お店の開業の情報がわかる SNS があったらうれしいなと思います。今はさいつうで情報集収を行っておりますが、どうしても拾いきれない物もあるので、興味のあるイベント等を逃すとかやしいです。
- ・ わんぱくランド廃止の条例案が 6 月議会で提出されるとのことだが、地域住民への説明が不足していると思う。今回に限ったことではないが、市の財政的理由かもしれないが、納得できる説明をしてほしい。
- ・ 子ども館の建設など市民のためにお金を使って頂けるのはありがたいですが、市の財政も心配なので財政バランスを考えつつ進めて頂けるといいと思います。
- ・ こども館を 23 億かけて建設する必要が本当にあったのでしょうか？ このこども館があるから深谷に住みたい、子供をつくろうとは絶対にならないのに、23 億かける意味がわからない。しかも管理費だってバカにならないのに。だったら、子育て（高齢者）にかかる費用の負担を軽減する事に税金を使ってほしい。景観とかいってる場合ではない。のんきすぎる。見栄張りすぎ。アウトレットも土、日なのに閑散としていて本当に税金の無駄使いが多い。無駄使いするほど税金に余裕あるならまずは深谷に住む市民が深谷に住んでいて良かった、子育てもしやすく最高だと思えるようにしてもらいたい。老後の安心も。医療体制も最悪。（←関係者の方へアンケートとるといいですね 実態を知らなすぎです。）この辺だと深谷は本当にひどいと医療従事者が言うくらいです。市民が困っている事を改善する事をなによりも優先してもらいたいです。駅周辺や役所ばかりが立派で中身ゼロです。金と時間のある方達は必死に働いても生きて行くのが大変な庶民の気持ちを考えられないのかなと思う事が本当に多いです。深谷に住むメリットが少なすぎる。

- ・ 思う所を記入させていただきます。 身近な所で、ゴミ収集車が、ふっかちゃんのペイントがされているのはいいと思うのですが、最初にペイントされた後に、次はねぎぼーずや、渋沢栄一もいるデザインに塗り替えられていたようですが、税金の無駄遣いではないのかな、と思います。一度目の塗装が劣化してからでも良かったのでは。(私の勘違いでしたらすみません) あと、福岡のように、夜間のゴミ収集は合理的で良いと思います。朝の忙しい時間に道が塞がってしまったりするし、短時間で作業が済むようで、作業員にとってもメリットがあるようですよ。 それから、何事にも、無償化というのは、良くないと思います。かつて高齢者の医療費が無償化の時は、大して具合も悪くなくても、医院に高齢者が集まっていました。今は、子供の医療費、保育園、みんな無償化になっていますが、そうすると、軽い症状でも通院し、家に薬が残ってても更に薬をもらい、保育園に行かなくても済んでも入れてしまうという事が起きています。血税は必要な部分に投入し、無駄使いにはならないようにして欲しい。低額でもいいので利用料を支払うことで無駄がなくなるのではと思います。 ただ一つ、給食だけは、無償化にして欲しい。給食費が払えないお家の子も肩身の狭い思いをせずに堂々と食べて育てて欲しいと思います。
- ・ 広聴力を更に強めてほしい
- ・ 一部の個人や団体の声の大きな意見を聞くだけでなく、大多数の声を出すことの少ない市民にむけたこのようなアンケートを行うことは、良いことだと思う。 ・小島市政も、安定しているが、潜在的なニーズの掘り起こしも必要だと思う。
- ・ 着々とまちづくりが進んでいること日々感じております。深谷市が、安心・安全で住みやすい町であり続けられるよう願っております。
- ・ 深谷市に住めて良かった、住みたいと思えるまちづくりを進めていって欲しいと思います。深谷市に住んでいることで他市よりメリットのある政策をこれからもよろしくお願い致します。

3. Ⅲ. アンケート調査結果の単純集計結果

1. 深谷市のまちづくりについて

深谷市の現状を把握し、今後のまちづくりの参考とします。該当する番号に○をつけてください。

1. 深谷市のまち全体の印象について

問1. これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. ずっと住み続けたい | 66.7% |
| 2. 当分の間は住みたい | 27.5% |
| 3. できれば転居したい | 4.2% |
| 4. すぐにでも転居したい | 0.6% |

2. 子育て・保健・福祉について

問1. 地域で子どもを育む活動に参加していますか。(例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など)

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 参加している | 12.0% |
| 2. ときどき参加している | 7.2% |
| 3. あまり参加していない | 9.5% |
| 4. 参加していない | 69.7% |

問2. 小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。仕事と子育てを両立できていると思いますか。

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 両立できていると思う | 21.0% |
| 2. ある程度は両立できていると思う | 52.4% |
| 3. あまり両立できていないと思う | 16.1% |
| 4. 両立できていないと思う | 10.5% |

問3. 中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 19.2% |
| 2. ある程度はそう思う | 63.5% |
| 3. あまりそう思わない | 13.5% |
| 4. そう思わない | 3.8% |

問4. 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に取り組んでいる | 29.5% |
| 2. ときどき取り組んでいる | 32.6% |
| 3. あまり取り組んでいない | 26.3% |
| 4. 取り組んでいない | 10.8% |

問5. 定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。

- | | |
|-----------|-------|
| 1. 受けている | 79.6% |
| 2. 受けていない | 19.7% |

問6. かかりつけのお医者さんはいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 77.8% |
| 2. いない | 21.3% |

問7. 健康的な食生活に気をつけていますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に気をつけている | 43.3% |
| 2. ときどき気をつけている | 40.0% |
| 3. あまり気をつけていない | 14.8% |
| 4. 気をつけていない | 1.3% |

問8. 悩みごとを相談できる人（家族や友人など）はいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 88.3% |
| 2. いない | 10.6% |

問9. 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 48.3% |
| 2. いない | 49.5% |

3. 教育・文化について

問1. 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に実践している | 14.7% |
| 2. ときどき実践している | 21.3% |
| 3. あまり実践していない | 30.2% |
| 4. 実践していない | 32.6% |

問2. この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. たいへんあった | 6.7% |
| 2. ある程度はあった | 26.8% |
| 3. あまりなかった | 30.2% |
| 4. なかった | 35.5% |

問3. スポーツやレクリエーション活動をどの程度行っていますか。
※スポーツ・レクリエーション活動は、以下のよう
な活動も含みます。
散歩・ウォーキング、ジョギング・ランニング、
軽い体操、筋力トレーニング、ヨガ、ゲートボー
ル、フォークダンス、民謡踊りなど

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 25.8% |
| 2. ときどき行っている | 31.2% |
| 3. あまり行っていない | 17.7% |
| 4. 行っていない | 24.7% |

4. 産業振興について

問1. 市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. よく目にする | 18.7% |
| 2. たまに目にする | 41.4% |
| 3. あまり目にしない | 29.3% |
| 4. 目にしない | 9.3% |

問2. 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. いつも心掛けています | 18.6% |
| 2. たまに心掛けています | 42.9% |
| 3. あまり心掛けていない | 28.4% |
| 4. 心掛けていない | 9.4% |

問3. ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか(休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか)。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. とてもバランスが取れている | 20.7% |
| 2. ややバランスが取れている | 53.5% |
| 3. あまりバランスが取れていない | 18.6% |
| 4. バランスが取れていない | 5.3% |

5. 暮らし・環境について

問1. ハザードマップで自宅等の災害の危険性(自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど)について確認しましたか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 確認した | 67.1% |
| 2. 確認していない | 32.0% |

問2. ご自宅に災害に対する備え(備蓄品など)はありますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 十分ある | 3.8% |
| 2. ある程度はある | 43.2% |
| 3. あまりない | 42.2% |
| 4. ない | 10.3% |

問3. この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 3.8% |
| 2. ない | 95.6% |

問4. 日ごろ、防犯対策を行っていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 十分行っている | 6.8% |
| 2. ある程度は行っている | 52.6% |
| 3. あまり行っていない | 33.7% |
| 4. 行っていない | 6.2% |

問5. 地域活動(自治会での活動など)への程度参加していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に参加している | 15.4% |
| 2. ときどき参加している | 27.3% |
| 3. あまり参加していない | 28.2% |
| 4. 参加していない | 28.6% |

問6. 環境に配慮した取組(省エネ(節電を含みます)、自然や川の保全活動など)を行っていますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 20.3% |
| 2. ときどき行っている | 41.0% |
| 3. あまり行っていない | 25.8% |
| 4. 行っていない | 12.5% |

問7. 環境問題(地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など)を以前より意識するようになりましたか。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 52.6% |
| 2. 変わらない | 45.6% |
| 3. 以前より意識しなくなった | 1.2% |

問 8. 普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. いつも心がけている | 30.3% |
| 2. ある程度は心がけている | 54.3% |
| 3. あまり心がけていない | 12.6% |
| 4. 心がけていない | 2.1% |

6. 都市・生活基盤について

問 1. 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. たいへんとれている | 3.9% |
| 2. ある程度はとれている | 53.5% |
| 3. あまりとれていない | 32.5% |
| 4. とれていない | 7.6% |

問 2. お住まい周辺の住環境に満足していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. とても満足している | 16.9% |
| 2. やや満足している | 54.5% |
| 3. あまり満足していない | 21.5% |
| 4. 満足していない | 6.1% |

問 3. あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. たいへんある | 22.9% |
| 2. ある程度はある | 56.2% |
| 3. あまりない | 20.2% |

問 4. 市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. たいへんある | 6.5% |
| 2. ある程度はある | 47.2% |
| 3. あまりない | 37.8% |
| 4. ない | 7.5% |

問 5. 水害に対して安心した生活を送ることができていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. たいへんできている | 20.2% |
| 2. ある程度はできている | 54.9% |
| 3. あまりできていない | 19.6% |
| 4. できていない | 4.6% |

問 6. 市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 感じない | 12.3% |
| 2. あまり感じない | 34.6% |
| 3. ときどき感じる | 43.0% |
| 4. いつも感じる | 8.3% |

問 7. 市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 感じない | 15.5% |
| 2. あまり感じない | 33.7% |
| 3. ときどき感じる | 29.6% |
| 4. いつも感じる | 19.1% |

7. 協働・行政経営について

問 1. 深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 5.6% |
| 2. ある程度はそう思う | 59.0% |
| 3. あまりそう思わない | 29.3% |
| 4. そう思わない | 3.4% |

問 2. この 1 年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 6.2% |
| 2. ない | 92.3% |

問 3. お互いの人権について意識をして生活をしていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に意識している | 26.5% |
| 2. ときどき意識している | 37.0% |
| 3. あまり意識していない | 28.4% |
| 4. 意識していない | 6.4% |

問 4. 市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. よく聞く | 1.3% |
| 2. ときどき聞く | 13.0% |
| 3. あまり聞かない | 44.0% |
| 4. 聞いたことがない | 40.5% |

問５．性別に関係なく、家庭、地域、職場で
対等な役割分担がされていると思いますか。

- | | |
|-------------|-------|
| １．たいへんそう思う | ５.３% |
| ２．ある程度はそう思う | ５４.５% |
| ３．あまりそう思わない | ３１.４% |
| ４．そう思わない | ６.７% |

問６．男女共同参画の意識は以前と比べて変
化していますか。

- | | |
|------------------|-------|
| １．以前より意識するようになった | ２５.４% |
| ２．変わらない | ６９.９% |
| ３．以前より意識しなくなった | ２.８% |

問７．配偶者などによる「電話、メール等の
細かい監視」「生活費を渡さない」などの行
為が暴力であると思いますか。

- | | |
|--------------------|-------|
| １．どんな場合でも暴力にあたると思う | ３８.０% |
| ２．暴力の場合とそうでない場合がある | ４３.５% |
| ３．暴力にあたるとは思わない | ６.４% |
| ４．分からない | １０.４% |

問８．市役所における窓口対応についての満
足度をお聞かせください。

- | | |
|------------|-------|
| １．とても満足である | ３１.５% |
| ２．やや満足している | ５４.９% |
| ３．やや不満である | ９.３% |
| ４．不満である | ２.３% |

問９．市内において、市民と行政が互いに力
を出し合い地域課題を解決すること（協働の
まちづくり）ができていると思いますか。

- | | |
|-------------|-------|
| １．大変そう思う | ６.０% |
| ２．ある程度はそう思う | ５４.８% |
| ３．あまりそう思わない | ３０.８% |
| ４．そう思わない | ６.１% |

問１０．市民ガーデニングボランティア、王
国ボランティアを知っていますか。

- | | |
|---------|-------|
| １．知っている | ４１.７% |
| ２．知らない | ５７.３% |

問１１．花と緑をいかしたまちづくり活動に
興味はありますか。

- | | |
|---------|-------|
| １．興味がある | ６６.３% |
| ２．興味がない | ３２.４% |

問１２．花と緑をいかしたまちづくり活動に
参加したいですか。

- | | |
|-----------|-------|
| １．参加したい | ３５.１% |
| ２．参加したくない | ６２.３% |

問１３．市のオンラインサービスを利用した
ことがありますか。（例：各種申請手続き、
相談、イベント参加、コンビニ交付など）

- | | |
|-------------|-------|
| １．利用したことがある | ３７.９% |
| ２．利用したことがない | ６０.９% |

問１４．「SDG s」という言葉を知ってい
ますか。

- | | |
|------------|-------|
| １．よく理解している | ３９.４% |
| ２．聞いたことはある | ４８.３% |
| ３．存在を知らない | １１.０% |

※SDG s (Sustainable Development Goals) は、２０３０
年を期限とする国際社会全体の開発目標であり、「誰一人取
り残さない」社会の実現を目指すための目標として、１７の
ゴール（目標）が設定されています。

2. 深谷市の施策について

あなたは、深谷市の次の各分野別の行政施策について、どのくらい重要だと思いますか？また、現在の深谷市の取り組みについて、どのくらい満足していますか？
それぞれあてはまるものを1つずつ選び、○をつけてください。

●重要度に関する回答

	重要度（％）					無回答（％）	重要度（点数）
	重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆＜子育て・保健・福祉＞に関すること

子育て支援の充実	65.6	20.3	2.6	0.5	7.8	3.2	1.48
保育環境の充実	62.1	22.9	2.8	0.1	8.9	3.2	1.44
青少年の健全育成の推進	52.7	30.2	4.3	0.7	8.9	3.2	1.30
健康づくりの推進	51.2	33.5	6.7	1.1	4.5	2.9	1.27
地域医療体制の充実	73.3	17.6	2.2	0.6	3.1	3.2	1.61
地域福祉の推進	55.7	30.8	4.9	0.9	4.5	3.2	1.36
高齢者福祉の推進	57.8	29.0	5.0	1.6	4.3	2.3	1.36
障害者福祉の推進	57.3	29.7	3.9	0.9	5.3	2.9	1.39

◆＜教育・文化＞に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	55.4	28.9	3.3	0.1	7.7	4.5	1.36
家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	49.8	34.6	5.1	0.4	6.6	3.5	1.28
生涯学習の推進	31.5	42.7	13.6	1.1	7.2	3.9	0.90
スポーツ・レクリエーションの推進	26.4	44.0	18.0	2.2	5.7	3.7	0.74
郷土の歴史・文化の継承と活用	30.8	45.8	13.1	1.6	5.0	3.7	0.91
渋沢栄一の顕彰と精神の継承	26.4	40.2	19.7	4.0	5.9	3.8	0.65

◆＜産業振興＞に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	52.6	30.9	2.9	0.7	8.9	3.9	1.32
農畜産物の販売流通体制の充実	46.3	35.9	3.8	0.5	9.8	3.7	1.24
商工業の振興	41.1	41.2	3.9	0.4	9.5	3.9	1.19
観光資源の整備と活用	33.6	42.2	11.9	0.6	7.8	3.9	0.96
就労環境の整備	51.0	34.1	3.7	0.1	7.0	4.2	1.32
産業価値の創出	39.9	39.0	5.4	0.4	11.2	4.2	1.13

重要度（％）					無回答（％）	重要度（点数）
重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		

◆＜暮らし・環境＞に関すること

災害に強い防災体制の推進	71.9	20.3	2.1	0.2	2.1	3.4	1.61
消防・救急体制の充実	75.7	18.3	1.1	0.1	1.6	3.2	1.68
防犯・空き家対策の推進	65.3	25.8	3.4	0.2	2.0	3.3	1.52
地域コミュニティの推進	33.9	44.4	12.1	1.3	4.6	3.7	0.97
自然・生活環境の保全	45.2	41.3	6.2	0.0	3.5	3.7	1.26
環境衛生の推進	51.1	38.9	3.9	0.0	2.8	3.3	1.37

◆＜都市・生活基盤＞に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	50.7	35.2	4.9	0.2	5.1	3.8	1.31
水の安定供給と下水処理の適正化	75.2	18.7	1.0	0.2	1.7	3.2	1.68
地域の特色を生かした魅力ある景観形成	33.1	39.1	16.6	1.3	6.0	3.8	0.86
治水対策の推進	51.5	33.4	4.4	0.0	7.1	3.7	1.32
道路・交通環境整備の推進	59.0	32.5	2.9	0.2	2.1	3.2	1.47
公共交通の維持確保と交通安全の推進	57.9	32.3	3.8	0.1	2.4	3.4	1.44

◆＜協働・行政経営＞に関すること

人権・個性が尊重される社会づくりの推進	45.1	37.8	6.7	0.5	6.2	3.7	1.20
男女共同参画の実現	36.7	39.1	12.3	1.6	6.6	3.7	0.97
移住・定住の推進	29.7	40.2	17.1	1.5	7.6	3.9	0.80
市民との協働・交流の推進	25.4	42.7	18.1	1.8	7.7	4.3	0.72
行政デジタル化の推進	29.3	41.1	15.8	2.3	7.7	3.8	0.79
行財政運営の推進	36.4	40.6	8.4	0.9	10.3	3.4	1.03

●満足度に関する回答

	満足度 (%)					無回答 (%)	満足度(点数)
	満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆＜子育て・保健・福祉＞に関すること

子育て支援の充実	7.9	38.0	11.5	3.5	33.3	5.7	0.35
保育環境の充実	8.8	35.5	11.0	3.4	35.2	6.1	0.35
青少年の健全育成の推進	4.4	33.4	12.2	2.8	40.8	6.4	0.24
健康づくりの推進	6.6	43.6	13.4	2.6	27.9	5.9	0.38
地域医療体制の充実	6.4	41.1	20.7	10.0	16.3	5.6	0.13
地域福祉の推進	3.2	36.7	18.7	4.2	31.3	6.0	0.16
高齢者福祉の推進	3.7	34.4	18.7	6.2	32.0	5.0	0.11
障害者福祉の推進	3.8	30.6	14.4	6.0	39.9	5.4	0.12

◆＜教育・文化＞に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	2.6	33.4	11.4	2.3	41.9	8.4	0.22
家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	3.3	34.2	12.2	3.7	39.2	7.3	0.21
生涯学習の推進	2.8	35.1	13.7	2.8	38.3	7.3	0.21
スポーツ・レクリエーションの推進	4.5	37.7	12.5	2.8	34.7	7.8	0.29
郷土の歴史・文化の継承と活用	6.7	42.3	10.6	2.7	30.4	7.2	0.40
渋沢栄一の顕彰と精神の継承	11.1	42.3	7.8	3.3	28.4	7.1	0.50

◆＜産業振興＞に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	3.1	26.9	15.4	6.5	41.7	6.5	0.05
農畜産物の販売流通体制の充実	2.7	36.1	11.9	4.8	37.7	7.0	0.20
商工業の振興	2.0	29.3	15.9	5.4	40.1	7.3	0.07
観光資源の整備と活用	3.5	30.7	16.7	6.4	35.5	7.2	0.08
就労環境の整備	1.8	24.8	18.7	8.4	39.0	7.2	-0.07
産業価値の創出	2.0	25.9	15.6	5.3	44.3	7.0	0.04

満足度 (%)					無回答 (%)	満足度(点数)
満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		

◆＜暮らし・環境＞に関すること

災害に強い防災体制の推進	4.0	39.2	15.6	4.8	29.5	6.8	0.22
消防・救急体制の充実	9.4	44.9	12.1	4.0	23.1	6.5	0.44
防犯・空き家対策の推進	3.3	27.0	21.8	10.9	30.7	6.4	-0.10
地域コミュニティの推進	3.5	36.6	15.3	3.7	34.5	6.5	0.21
自然・生活環境の保全	3.5	38.4	14.4	5.1	32.2	6.4	0.21
環境衛生の推進	7.1	40.7	11.7	3.9	30.1	6.5	0.35

◆＜都市・生活基盤＞に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	5.0	41.1	18.2	5.0	22.6	8.1	0.23
水の安定供給と下水処理の適正化	12.1	45.7	12.6	5.9	17.1	6.6	0.46
地域の特色を生かした魅力ある景観形成	3.9	36.7	16.4	4.8	31.1	7.2	0.19
治水対策の推進	5.0	38.1	11.7	3.2	34.5	7.5	0.30
道路・交通環境整備の推進	5.0	34.2	26.8	11.9	15.3	6.8	-0.06
公共交通の維持確保と交通安全の推進	4.4	32.8	23.8	12.0	20.4	6.6	-0.06

◆＜協働・行政経営＞に関すること

人権・個性が尊重される社会づくりの推進	4.5	35.2	10.6	2.3	40.1	7.2	0.29
男女共同参画の実現	3.5	33.0	11.5	4.0	40.8	7.1	0.21
移住・定住の推進	3.8	30.0	12.0	4.5	42.8	7.0	0.17
市民との協働・交流の推進	2.7	33.1	11.0	3.1	43.2	7.0	0.21
行政デジタル化の推進	5.3	34.2	15.2	5.9	32.6	6.8	0.18
行財政運営の推進	3.1	30.0	12.3	4.9	42.9	6.8	0.14

3. 自由記入欄（まちづくり全般について）

これからの深谷市のまちづくりについて、ご意見などがありましたら自由にお書き下さい。

4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。

次のア～ウについて、あてはまる番号に○をつけてください。

ア. 性別	1	男性	42.4%	2	女性	48.3%	3	回答しない	9.3%
イ. 年齢 (無回答 1.8%)	1	10 歳代	1.1%	2	20 歳代	6.6%	3	30 歳代	10.8%
	4	40 歳代	15.0%	5	50 歳代	16.4%	6	60 歳代	21.4%
	7	70 歳以上	26.9%						
ウ. お住まいの地区 (公民館の区域) (無回答 2.7%)	1	深谷地区	21.9%	2	藤沢地区	6.6%	3	幡羅地区	11.4%
	4	明戸地区	4.0%	5	大寄地区	1.1%	6	八基地区	2.1%
	7	豊里地区	2.7%	8	上柴地区	14.5%	9	南地区	6.2%
	10	岡部地区	10.9%	11	川本地区	6.0%	12	花園地区	9.9%